

年報 (令和3年度)

年報

令和3年度



第四十号

群馬県立小児医療センター



第40号



◇ 基本理念

小児の専門病院として、
未来あるこどもたちの^{いのち}生命をまもり、
すこやかな成長発達を支援します。

◎ 基本方針

- 1 小児の専門病院として、高度で安全かつ先進的な周産期・小児医療を提供し、地域の中核病院の役割を果たします。
 - 2 子どもの権利の尊重とチーム医療により、安心して信頼できる医療を提供します。
 - 3 地域の関係機関と連携して、診療・研究及び研修を行い、周産期及び小児の医療・保健レベルの向上に努め、子どもの望ましい成長・発達を支えます。
 - 4 適正な情報公開と診療情報の共有により、健全で透明性の高い病院経営に努めます。
-

☆子ども憲章

- 1 子どもは、安心できる環境の中で、良質でおもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 子どもとその家族は、医療について年齢や理解度に応じた十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
そして、不必要な医療処置や検査から守られ、家族が治療に参加できるように配慮されます。
- 3 子どもとその家族は、医療について自由に意見を述べ自ら医療を選択しあるいは拒否する権利があります。
- 4 子どもとその家族は担当医以外の医師の考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 5 子どもは年齢や症状に応じた養育を受ける権利があります。
- 6 子どもとその家族は、自己の診療録の開示を求める権利があります。
- 7 子どもとその家族は、いつでもプライバシーが守られ、個人情報の保護を受ける権利があります。
- 8 子どもの権利条約を守ります。

★職員倫理要綱

- 1 職員は、病める子どもたちの治療はもとより、子どもの成長発達を家族とともに支えるよう、医療を受ける者とその家族の人格を尊重し奉仕しなければならない。
- 2 職員は、医療を受ける者に優しい心で接し、医療の内容をよく説明し、理解と信頼を得るよう努めなければならない。
- 3 職員は、医療を受ける者の知る権利と自己決定の権利を尊重し擁護しなければならない。
- 4 職員は、守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めなければならない。
- 5 職員は、国籍、人種、民族、宗教、信条、性別及び年齢にかかわらず、すべてに平等に、優しい心で接しなければならない。
- 6 職員は、常に自らも研鑽に努め、安心して信頼される最善の医療が提供できるように心がけなければならない。
- 7 職員は、互いに尊敬し協力して医療に尽くさなければならない。
- 8 職員は、医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くさなければならない。
- 9 職員は、国が定める医療に関する倫理指針を遵守しなければならない。
- 10 職員は、群馬県職員としての自覚を持ち、お互いに協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

～令和3年度の出来事から～



アンギオ購入

A screenshot of the website for the Gunma Children's Medical Center. The top navigation bar includes the center's name in Japanese and English, a phone number (0279-52-3551), and a search bar. Below the navigation bar are several icons representing different services. The main banner features a collage of images: a smiling baby, the exterior of the hospital building, and medical staff in a lab. A red box in the center of the banner contains text about COVID-19. Below the banner are four service categories: '患者・ご家族の皆様へ' (For patients and families), '医療関係者の方へ' (For medical staff), '外来診療予定表' (Outpatient treatment schedule), and 'フロアマップ' (Floor map).

ホームページ更新



第1変電室トランス更新外電気設備工事



小児新型コロナワクチン接種スタート



七夕飾り

巻頭言

院長 外松 学

一言でいうと 2021 年度は新型コロナウイルス感染症への対応に忙殺された一年でした。2020 年 3 月に群馬県で 1 例目が発生した後、群馬県の医療は新型コロナウイルス感染に振り回されてきた感があります。

そのような状況下ではありましたが、新型コロナウイルス感染症に対する有効な治療法がない中で、ワクチンによる感染予防が有効な手段であることが広く認識され、国民へのワクチン接種が国の大きな政策となりました。それに従い、2021 年 3 月からは医療従事者へのワクチン接種が開始され、当センターでもほとんどの職員が接種を受けました。2021 年度になってからは一般市民へのワクチン接種も徐々に開始されました。群馬県では 6 月に県営の大規模ワクチン接種センターが開設され、1 万人/日以上接種が可能となりました。当センターからも医師、看護師等を派遣することになり、コロナ病棟の運営以外にも職員を確保する必要が生じ、外来受診患者の制限、不急の検査入院や手術の制限等を実施しました。そのために本来の病院運営に大きな支障をきたしました。

2022 年 1 月からの第 6 波では小児の新型コロナ患者が急増し、当センターにも多くの小児患者が入院しました。小児の新型コロナ患者増に伴い重症例も発生し、当センターに入院した小児多系統炎症性症候群 (MIS-C) の患者さんは心機能低下が著しく、PICU入室も検討する事態となりました。幸いにも初期治療に反応し、PICU入室にはなりませんでしたが、小児においても重症化する症例が存在することを身をもって経験しました。これまで成人に対する新型コロナ診療体制は徐々に充実してきていましたが、小児に対しては症例が少ないこともあって十分な診療体制が構築されて来なかったという大きな盲点が発覚することとなりました。また、周産期医療に関しても、新型コロナ陽性の妊産婦や出生直後の新生児の管理をどこの施設で実施するのかなどさまざまな問題が浮き彫りになりました。一方、小児に対するワクチン接種も加速させる必要があるとの認識から、当センターにおいても 5-11 歳に対するワクチン接種を 2022 年 3 月から開始いたしました。

最後になりましたが、2020 年 10 月に第 1 回目の「県立病院の未来を考える有識者会議」が開催され、今後の県立病院についての議論が重ねられました。2021 年 10 月には最終回である第 6 回目が開催され、それまでの議論を踏まえて最終結論が発表される運びとなりました。当センターにおける施設/設備の老朽化の問題、群馬県の周産期医療の充実についても何らかの方向性が示されるものと期待しております。

2022 年 6 月

目 次

業務編

1. 第一病棟	3
(1) 総合診療科	6
(2) 腎臓内科	7
(3) 神経内科	7
(4) アレルギー・リウマチ科／感染症科	7
(5) 遺伝科	8
2. 第二病棟	9
(1) 小児外科	9
(2) 形成外科	10
(3) 整形外科	12
3. 第三病棟	15
(1) 循環器科	15
(2) 心臓血管外科	16
(3) 血液腫瘍科	16
4. 小児集中治療部	17
5. 新生児未熟児病棟	20
6. 産科病棟	25
7. 麻酔科	27
8. 放射線科	28
9. 歯科・障害児歯科	29
10. 放射線課	31
11. 検体検査課・生理検査課	33
12. リハビリテーション課	35
13. 栄養調理課	39
14. 臨床工学課	40
15. 薬剤部	42
16. 看護部	45
(1) 第一病棟	48
(2) 第二病棟	49
(3) 第三病棟	50
(4) NICU 病棟	50
(5) GCU 病棟	51
(6) 産科病棟	52
(7) 小児集中治療部	53
(8) 手術室	54
(9) 外 来	55

(10) サービス向上委員会	56
17. 母子保健室	67
18. 地域医療連携室	70
19. 医療安全管理室	71
20. 感染対策室	75

研究研修編

1. 学会報告	81
◆小児内科	
<神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー・リウマチ科/感染症科><遺伝科>	
◆小児外科	
<一般外科><形成外科><整形外科>	
◆産科	
◆歯科	
◆検体検査課・生理検査課	
◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
◆看護部	
2. 誌上発表	85
◆小児内科	
<神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー・リウマチ科/感染症科>	
<血液腫瘍科><遺伝科>	
◆小児外科	
<一般外科><形成外科>	
◆歯科	
3. 単行本・その他	87
◆小児内科	
<神経内科><新生児科><アレルギー・リウマチ科/感染症科>	
◆臨床工学課	
4. 班会議等報告書	87
5. 講演	88
◆小児内科	
<循環器科><アレルギー・リウマチ科/感染症科><遺伝科>	
◆歯科	
◆検体検査課・生理検査課	
◆リハビリテーション課	
6. 講習会・研修会	88
◆小児内科	
<神経内科><新生児科><遺伝科>	
◆歯科	

◆放射線課	
◆リハビリテーション課	
◆薬剤部	
◆看護部	
7. 学会長・座長・その他	90
◆小児内科	
＜循環器科＞＜新生児科＞＜アレルギー・リウマチ科／感染症科＞	
◆産科	
◆検体検査課・生理検査課	
◆リハビリテーション課	
◆看護部	
8. 学生講義	91
◆小児内科	
＜神経内科＞＜循環器科＞＜新生児科＞＜アレルギー・リウマチ科／感染症科＞	
◆歯科	
◆リハビリテーション課	
◆臨床工学課	
◆看護部	
◆母子保健室	
9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス	93
10. 講話会	94
11. クルズ	94
12. CPC	94
13. その他	95
(1) 研究会・セミナー等	95
14. 公的資金による研究	96
1 院内研究費による研究	96
15. 受賞歴	98

統計編

1. 管理業務	102
(1) 会計	102
①経営分析	
②収益的収入及び支出	
③月別医業収益内訳	
2. 診療業務	108
(1) 総括表	108
(2) 月別・科別外来患者受診の状況	110
◆1日平均外来患者の状況	
(3) 月別入退院患者数	113

◆ 1日平均入院患者の状況	
(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数	115
◆ 地域別新規登録患者数	
◆ 地域別入院患者の状況	
◆ 地域別利用状況	
(5) 年齢階層別状況(新規登録患者)	120
◆ 年齢階層別状況	
(6) 救急医療	121
② 救急医療の状況	
② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況	
(7) 予防接種実施状況	123
① 月別実施状況	
② 市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況	
③ 推 移	
(8) 疾病分類別入院患者数	124
① 第一病棟	
② 第二病棟	
形成外科	
整形外科	
③ 第三病棟	
④ 新生児未熟児病棟	
(9) 麻 酔	129
① 月別麻酔件数	
② 年齢階層別状況	
(10) 放射線	130
① 依頼科別件数	
② 月別件数	
③ 検査種別件数	
ア CT	
イ MRI	
ウ RI	
エ X-TV	
オ US	
カ 心臓カテーテル	
キ 一般撮影	
ク ポータブル撮影	
ケ 画像データコピー	
(11) 臨床検査	134
① 検査の状況	
② 血液製剤取り扱い状況	
③ 分割取り扱い状況	

④幹細胞保存	
(12) 薬 剤	136
①調剤等の状況	
ア 処方箋の枚数等	
イ 調剤件数内訳	
②注射剤の状況	
ア 注射箋等の枚数等	
イ 抗がん薬調製数	
③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況	
④薬剤情報件数等	
⑤製剤等の状況 (種類別、製剤件数及び量)	
⑥薬効別薬品購入額	
(13) リハビリテーション	141
①診療点数	
②延べ治療件数	
③延べ単位数	
④年齢別患者実数	
⑤リハビリテーション算定区分別実績	
(14) 栄 養	144
①一般食の種類と食数	
②離乳食の種類と食数	
③特別食の種類と食数	
④調乳の種類及び人数・本数	
⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数	
(15) 臨床工学課	147
①臨床業務症例数	
ア 体重別体外循環症例数	
イ 疾患別内視鏡手術症例数	
②月別始業点検件数	
③月別人工呼吸器使用中点検件数	
④月別人工呼吸器回路交換件数	
⑤月別定期点検件数	
⑥月別院内修理件数	
(16) 母子保健室	151
①精密健康診査	
ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況	
イ 科別・年齢別受診状況	
ウ 3歳児健康診査・精密検診実施状況	
エ 1歳6か月児健康診査・精密検診実施状況	
オ 科別受診状況及びその結果	
②子どものこころの発達相談	

ア	来院経路及び年齢別実施状況	
イ	相談件数及び相談後の対応状況	
③	新生児・未熟児病棟および他病棟入院患児の退院連絡	
ア	退院連絡後の状況	
イ	体重別退院連絡実施状況	
④	関係機関との連携状況	
①	①から③の事業以外の相談・問合せの数	
⑤	関係機関との連携会議	
⑥	子ども虐待防止対策事業	
⑦	心理判定・心理カウンセリング	
<	心理判定>	
ア	心理判定	
イ	アの年齢別被検査者数	
ウ	依頼科	
<	心理カウンセリング>	
ア	心理カウンセリング	
イ	初回心理カウンセリング実施時受診科	
<	精神科コンサルト>	
⑧	研修会等	
⑨	学会・研修会参加状況	
⑩	群馬県先天性代謝異常等検査事業	
⑪	親の会への支援	
(17)	地域医療連携室	159
①	医療相談件数	
ア	相談内容及び件数(地域医療連携室)	
イ	公費負担医療費申請等事務取扱件数	
ウ	身体障害者手帳	
②	子ども虐待防止対策事業	
ア	院内 CAPS 開催状況	
イ	要支援事例検討会状況	

総括編

1.	沿革	163
◆	開院後の歩み	164
2.	施設	
(1)	敷地・建物の面積	178
(2)	病棟構成並びに建物配置図	178
(3)	施設・設備の設置状況	179
(4)	付属設備 主なる付属設備一覧	186
(5)	重要物品 主なる医療機器一覧	189

3. 組 織	
(1) 機 構	193
(2) 人 事	194
① 役職者名簿	
② 職種別・部門別職員配置状況	
4. 運 営	
(1) 診療制度	197
(2) 院内会議の状況	201
令和3年度のあゆみ	202
職員名簿、職員異動状況	203
編集後記	206

業 務 編

1. 第一病棟

令和3年度の第一病棟は神経内科6名(年度途中で変更有り)、アレルギー・リウマチ科/感染症科3名の医師で主な診療を行った。入院患者は1,051名であり昨年度の953名より増加した(入院患者詳細は別表1-4参照)。

多種多様な疾患・患者を受け入れ、県内唯一のこども病院として求められる医療水準を維持する事は決して容易なことではなく、医師・看護師・他スタッフの献身的努力はもちろん、患者や患者家族の理解や協力に支えられて居ます。県内外あるいは院内からの要求に応えられないこともあると思いますが、他医療機関とも連携しながら、自分たちの役割を果たし続ける所存です。今後ともご理解・ご支援よろしく申し上げます。

(椎原 隆)

表 1 第一病棟主診断別入院患者

疾患名	人	疾患名	人
食物アレルギー	253	アナフィラキシー	8
COVID-19	165	脳症	8
低ガンマグロブリン血症	54	痙攣	7
う蝕	53	脱水症	7
肺炎	48	川崎病	6
てんかん	47	尿路感染症	5
麻痺	40	全前脳胞症	5
胃腸炎	40	関節型若年性特発性関節炎	4
気管支炎	30	トリソミー	4
RSウイルス	28	敗血症	4
呼吸不全	28	蜂巣炎	4
糖原病 2 型	26	薬物過敏症	3
ミオパチー	15	胃食道逆流症	3
脊髄性筋萎縮症	14	先天性声門下狭窄症	3
麻痺性イレウス	13	低血糖症	3
気管支喘息	12	その他	102
筋ジストロフィー	9	合 計	1,051

表 2 第一病棟入院患者年齢構成

新生児	10 人	1.0%
1ヶ月～1歳	103 人	9.8%
1歳	135 人	12.8%
2歳	90 人	8.6%
3歳	70 人	6.7%
4歳	80 人	7.6%
5歳	73 人	6.9%
6歳	67 人	6.4%
7歳	53 人	5.0%
8歳	57 人	5.4%
9歳	32 人	3.0%
10歳	37 人	3.5%
11歳	19 人	1.8%
12歳	42 人	4.0%
13歳	26 人	2.5%
14歳	12 人	1.1%
15歳	12 人	1.1%
16歳	15 人	1.4%
17歳	12 人	1.1%
18歳	7 人	0.7%
19歳	5 人	0.5%
20歳以上	94 人	8.9%
合計	1,051 人	100.0%

表 3 第一病棟科別入院患者数

アレルギー・リウマチ科／感染症科	636 人	60.5%
神経内科	288 人	27.4%
歯科	55 人	5.2%
循環器科	41 人	3.9%
一般内科（小児科）	14 人	1.3%
外科（小児外科）	13 人	1.2%
整形外科	3 人	0.3%
血液腫瘍科	1 人	0.1%
合 計	1,051 人	100.0%

表 4 第一病棟入院死亡症例及び剖検

	年齢	性別	死亡日		病名	剖検
1	5 歳 4 ヶ月 3 日	男	2021/10/29	死亡	重症新生児仮死、新生児特発性呼吸窮迫症候群、新生児低酸素性虚血性脳症、低出生体重児、てんかん、新生児痙攣、新生児感染症、喉頭麻痺	(-)
2	4 歳 6 ヶ月 7 日	男	2022/01/30	死亡	右肺形成不全症、急性呼吸不全、喘息性気管支炎、肺高血圧症、嚥下障害、難聴、高位鎖肛、部分肺静脈還流異常、先天性外耳道閉鎖症、小顎症、先天性気管狭窄症、気管支喘息重積発作、気管支肺炎、兔眼性角膜炎、持続性心室頻拍、MRSA 感染症、頸椎不安定症、ビタミン B2 欠乏症	(-)
3	20 歳 9 ヶ月 21 日	男	2022/03/11	死亡	劇症肝炎、CHARGE 症候群、慢性呼吸不全、嚥下障害、急性気管支炎、慢性呼吸不全急性増悪、心タンポナーデ、胸水貯留、MRSA 敗血症	(-)

(1) 総合診療科

令和 3 年度は総合診療科元年であった。総合診療科ではチーム医療を重視している。

総合診療科外来は神経内科（椎原、渡辺、道和、森田、清水、鈴木）、血液・腫瘍科（大和、鈴木、石北）、遺伝科（山口）、アレルギー・リウマチ科（野村、清水）、感染症科（清水）そして後期研修（江原）、非常勤（西山）の医師から構成される。常に 2 人が診療に当たり、チーム医療を行う。日勤帯であればいつでも急患を受け付けており、1 次および 2 次医療機関からのご紹介を受け付けている。週 2 回のカンファレンスを行っており、複数の診療科の医師が初診患者様の鑑別と診療について意見を出し合い診療を進めている。

リハビリテーション前、心理カウンセリング前の診察、院内の対象患者様にシナジス投与も行っている。予防接種は他の医療機関での接種が困難な方を中心に主として感染症外来で実施している。総合診療科を受診し、入院する場合は多くが第一病棟への入院となるので、入院患者数、およびその疾患については第一病棟の業務編をご参照いただきたい。なお入院診療も含め紹介の依頼があった場合には原則的に全てお引き受けする方針であるが、常勤医師がいない等の理由で診療が困難な疾患については他の医療機関に受け入れていただいている。さらには他の医療機関から医師を派遣していただき、より多様な疾患や病態に対応するようにしている。入院が必要と予測される場

合や基礎疾患等から特別な対応を要する場合などは地域医療連携室および外来診療部門があらかじめご相談を受け円滑な受け入れを心がけている。

(野村 滋)

(2) 腎臓内科

腎臓内科は令和3年度も常勤医が不在のままであり、外来診療のみ継続した。腎臓外来は、(火)の1,3,5週を丸山、(木)の1,3,5週を群馬大学小児科の池内助教、(金)の2,4週を鎌が担当した。前年度と同様に初診患者は(木)のみの受け入れとさせていただいたが、令和3年度の延べ受診患者数は604名であり、前年度(751名)より大幅に減少する結果となった。常勤専門医不在のため、急性・慢性ともに腎臓疾患の入院管理はできなかった。常勤医の復活が待たれるところである。

(丸山健一)

(3) 神経内科

令和3年度神経内科外来担当は以下の通り(年度途中変更有り)で、外来患者数は新患112(昨年度126)名、再来3,480(昨年度3,828)名と若干減少しました。

月曜午前 椎原 隆/道和百合

月曜午後 渡辺美緒

火曜終日 森田孝次

水曜終日 渡辺美緒

木曜終日 道和百合

金曜終日 椎原 隆

県内で高い専門性を持って神経疾患に対応できる医療機関は限られており、少子化とは言っても、当院当科に対する重症・稀少あるいは慢性疾患などの要請はむしろ増えて来てます。しかしながら当センターは医療機関としては規模が小さく、医療スタッフ全体の数は多くないため、特に夜間や休日の対応は十分でない事もあります。紹介や転院のタイミングの調整をお願いすることもあると思いますが、自分たちが機能不全に陥ること無くより長く県内外の医療に貢献することが重要な課題と認識しています。皆様のご理解とご協力に感謝します。

(椎原 隆)

(4) アレルギー・リウマチ科/感染症科

アレルギー・リウマチ科ではアレルギー性疾患、リウマチ疾患、免疫不全症、呼吸器疾患を、感染症科では感染症の診療を行っている。

最近では好酸球性消化管疾患、消化管アレルギーおよびその関連疾患の診療が当科の特色の1つとなっている。また近年は感染症診療および感染管理業務を強化し、リウマチ疾患、自己免疫、自己炎症性疾患の診療にも力を入れており、多種多様な免疫異常による疾患に対して専門性の高い診療が可能になり、総合診療を担当する科としても診療の幅が広がった。

また多くの初期研修医を受け入れた。院外活動では日本小児アレルギー学会による食物アレルギーおよび小児気管支喘息の診療ガイドライン作成に取り組み、感染症やアレルギーに関する講演を積極的に行った。当科で経験した症例、および感染症、好酸球性消化管疾患、消化管アレルギー、細胞分離法、フローサイトメトリーを用いた新しい検査についての研究を行っている。

当科の外来診療は月曜から金曜まで毎日、午後に行っている。経口食物負荷試験は入院での施行

が多い。また感染症コンサルトについては院内外ともに随時受けている。当科では他科が担当している様々な基礎疾患のある方の診療、つまり境界分野の診療にあたることが多い。また患者様とご家族の家庭や集団での生活に対する支援にも力を入れている。総合内科としての役割と専門医療を診療の両輪として取り組んだ。

(野村 滋)

(5) 遺 伝 科

遺伝科は平成 19 年 4 月に常勤化されて以降、令和 3 年度に 15 年目を迎え、前年度に引き続き、常勤医 1 名での体制で山口 有が担当しました。

診療内容は先天性疾患・遺伝性疾患についての診断や情報提供、遺伝相談(遺伝カウンセリング)、健康管理のための他科紹介などで、外来診療に加えて入院患者のコンサルテーションを行いました。専門外来は金曜午前・午後、月曜午前とともに他科受診に合わせて他の曜日にも受診できるよう調整を行っています。

外来患者数は、院外紹介の新規患者が 19 人(前年度 33 人)、院内紹介の新規患者が 78 人(前年度 80 人)、再紹介患者が 19 人(前年度 14 人)、再診 1,131 人(前年度 820 人)でした。院外からの新規患者は、前橋赤十字病院、群馬大学医学部附属病院、自治医科大学付属病院、群馬県立がんセンター、群馬中央病院、公立富岡総合病院、公立藤岡総合病院、竹田総合病院、深谷赤十字病院、横田マタニティホスピタル、両毛整肢療護園よりご紹介をいただきました。院内紹介の依頼元は、新生児科 29 人、神経内科 15 人、循環器科 14 人、血液腫瘍科 6 人、形成外科 4 人、アレルギー感染免疫科 3 人、歯科・整形外科・総合内科 各 2 人、外科・産科 各 1 人でした。

診断のための遺伝学的検査を行えるよう、保険診療内での検査以外にも、他施設との共同研究による研究的遺伝子解析の実施体制を更に整えました。研究的遺伝子解析については、未診断疾患イニシアチブ(IRUD)に高度協力病院として参加し、県内の未診断稀少疾患の患者さんの診断に寄与できるよう努めています。

平成 21 年度より続いている 13 トリソミー・18 トリソミーの家族会「スマイル」については、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、今年度も開催ができませんでしたが、Down 症候群に対する集団診療「あさがおの会」についてはインターネット会議方式で実施しました。

(山口 有)

2. 第二病棟

第二病棟は外科系病棟であり、外科、形成外科、整形外科が計 27 床にて運用している。また同じ棟内にあるDAY病棟は外科、形成外科、歯科が 2 床にて運用している。

令和 3 年度の入院患者数は 770 人であり、前年度の 793 人より減少した。

第二病棟在院日数は 8.1 日であり、前年度の 8.3 日より短縮した。

第二病棟延べ患者数は 7,110 人であり、前年度の 6,678 人より増加している。

第二病棟一日平均患者数は 19.5 人であり、前年度の 18.3 人より増加した。

第二病棟病床利用率は 72.1%であり、前年度の 67.8%より増加した。

DAY病棟病床利用率は 52.7%であり、前年度の 55.3%より減少した。

(西 明)

(1) 小児外科

2021 年度の診療体制は、高澤慎也先生と菊地健太先生が大学の医局人事で異動となり、かわりに獨協埼玉医療センターから五十嵐昭宏先生が、東邦大学医療センター大森病院から小塚地洋先生が加わって、西、五十嵐、則内、小塚、小山の 5 人体制で診療しました。人出不足解消のために、無理をいって五十嵐先生に来ていただきました。本当に助かりました、ありがとうございました。

入院数 585 例 (昨年度 593 例)、うち手術数 443 例 (昨年度 493 例)、新生児手術例は 25 例 (昨年度 36 例)、腹腔鏡手術 114 件 (去年度 104 件) でした。

今年度の新しい試みとしては、腕頭動脈離断を始めました。循環器外科の先生のご助言を頂いて無事に行うことができました。また泌尿器疾患の手術をさらに積み重ねることもできました。小腸カプセルも順調に増加していて非常に手馴れました。

僕の中で去年一番記憶に残ったのは、処置しようとしたら、「髪の毛の長い女の人じゃないといや」といった男の子です。将来性を感じました。残念ながら野郎ばかりの外科軍団だったので、出し物の長髪かつらをかぶって処置しようと提案したのですが、外科のみんなに受け入れられませんでした。

病院の 1 階の女子トイレの水道管爆発も印象に残っています。ロビーを通りかかると廊下からじゃんじゃん水が流れ出てきていて、テンションが上がりました。ズボンをたくし上げて、猛烈に水がでてくる女子トイレに放射線科の清水君と飛び込んでいったときのことは忘れられません。

私事ではありますが、うちで飼っている黒猫のカプくんが膀胱結石となり、血尿が出たり、尿閉になったりしたときは病棟そっちのけで心配しました。獣医さんにかかってもよくならなくて、トイレに座ってもおしっこが出せずに困ったような感じでぐったりしていたのをみて、意を決して僕が家で導尿しました。もともと導尿にはかなり自信があり院内一を自負しているのですが、猫の導尿はかなり難敵でした。尿道が相当せまくて 3Fr アトムでもびちびちでしたが、何とか入って尿道内の石を吹き飛ばしたら尿が出るようになり元気になりました。導尿に関してまた一皮むけた気がしました。

そんなわけでいろいろありましたが、おしりとかちんちんとかの話ばかりで、ちいさな男の子のおはなしみたいで申し訳ありません。しかし 1 年なんとか過ごすことができました。各方面のみな

さんの協力に感謝しています。ありがとうございました。

(西 明)

手術症例 R3 年度（重複含む）

正中頸嚢胞,側頸瘻手術	1	小腸切除	3
気管切開	7	腸重積観血的整復	0
喉頭気管分離術	2	ヒルシュスプルング病根治手術	2
気胸手術 (胸腔鏡)	0	直腸肛門奇形手術 (低位)	9
肺葉切除 (開胸)	0	直腸肛門奇形手術 (中間位・高位)	2
肺葉切除 (胸腔鏡)	0	肛門疾患	0
肺分画症手術 (胸腔鏡)	0	胆道閉鎖症手術	1
A型食道閉鎖症手術	0	胆道拡張症手術 (開腹)	0
C型食道閉鎖症手術	0	胆道拡張症手術 (腹腔鏡)	0
食道バンディング	0	脾臓摘出術 (開腹)	0
食道アカラシア手術 (腹腔鏡)	0	水腎症手術	2
胃・食道逆流防止手術	0	膀胱尿管逆流症手術	0
胃・食道逆流防止手術 (腹腔鏡)	7	悪性腫瘍手術	3
横隔膜ヘルニア手術 (開腹)	1	良性腫瘍手術	10
横隔膜ヘルニア手術 (胸腔鏡)	1	腫瘍生検	2
先天性腹壁異常手術	0	中心静脈カテーテル挿入	28
胃手術 (胃瘻含む)	9	鼠径ヘルニア (精巣水腫含む) 手術	49
肥厚性幽門狭窄症手術	4	鼠径ヘルニア (精巣水腫含む) 手術 (腹腔鏡)	60
腸閉鎖・狭窄症手術	4	精巣固定術	23
腸回転異常症手術	0	気管支鏡	1
虫垂炎手術 (開腹)	0	上部消化管内視鏡 (治療含む)	36
虫垂炎手術 (腹腔鏡)	16	下部消化管内視鏡 (治療含む)	20
人工肛門造設	10	小腸カプセル内視鏡	5
人工肛門閉鎖	8	その他手術	16
イレウス手術	4	合 計	346

(2) 形成外科

令和3年度は4月に斉藤景医師が常勤医として赴任し、浜島とレジデント・江崎聖美医師の3人体制で診療を行った。また、専門医である荒木夏枝医師には前年度と同様に非常勤として水曜日に勤務していただいたが、12月で都合により勤務終了となった。江崎医師は12月に聖マリア病院(福岡県久留米市)に赴任となり、浜島と斉藤医師の2人体制となった

令和4年1月に、佐々木淑恵医師が産休から時短勤務の常勤医として復帰し、浜島、斉藤医師、佐々木医師の3人体制となった。

<外来診療>

外来診療は月曜日・木曜日の午後に行い、新患患者は月曜日・木曜日の午前中の予約診察として行った。また、月曜日の午前中に外来で血管腫に対するレーザー治療を行った。

令和3年度の新患者数は513人、再診患者数は3,931人、総数4,444人であった。前年度は新型コロナウイルスへの対応として外来制限を行っていたため前年比112%と増加した(令和2年度の新患者数は453人、再診患者数は3,530人で、総数3,983人)。

<手術>

手術は、水曜日・金曜日に入院全身麻酔手術及び日帰り全身麻酔手術を行った。また金曜日午後には、手術枠の空きが有る場合に外来局所麻酔手術を行った。

令和3年度の形成外科の手術件数は1,173件で、全身麻酔215件(入院161件、日帰り全身麻酔下手術54件)、局所麻酔958件であった。前年度と比較すると総件数は若干の増加であり、全麻手術が前年比114%と増加した(令和2年度の形成外科の手術件数は1,158件で、全身麻酔189件(入院151件、日帰り全身麻酔下手術38件)、局所麻酔953件)。

手術症例を手術内容区分に従って分類し、その術式とともに以下に示す。

(1) 新鮮熱傷	0件	
(2) 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷	0件	
(3) 唇裂・口蓋裂	28件	
口唇鼻形成術	8件	
口唇鼻修正術	3件	
口蓋形成術	12件	(耳鼻科で鼓膜切開もしくは鼓膜チューブ留置術を同時施行6例)
顎裂部骨移植術	3件	
口蓋瘻孔閉鎖術	2件	
(4) 手、足の先天異常、外傷	26件	
多指症手術	13件	
合指症手術	3件	
合趾症手術	2件	
多合趾症手術	7件	
欠指症手術	1件	
(5) その他の先天異常	96件	
副耳切除術	16件	
耳瘻孔切除術	5件	
頬部瘻孔切除術	1件	
睫毛内反症手術	16件	
舌小帯形成術	10件	
漏斗胸手術(Nuss法)	6件	(うち開心術と同時1例)
漏斗胸手術(Nuss法術後バー抜去)	13件	
漏斗胸手術(Nuss法術後バー修正)	1件	
臍ヘルニア形成術	25件	
白線ヘルニア形成術	1件	
腋臭症手術	2件	
(6) 母斑、血管腫、良性腫瘍	74件	
母斑切除術	23件	
良性腫瘍切除術	43件	

血管腫切除術	6 件
静脈奇形硬化療法	2 件
(7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建	0 件
(8) 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド	4 件
瘢痕拘縮形成術	4 件
(9) 褥創、難治性潰瘍	0 件
(10) 美容外科	0 件
(11) その他	945 件
レーザー治療 945 件 (うち全身麻酔下 6 例)	

今年度は新型コロナによる外来・手術制限が無くなったため、昨年度よりも外来、全身麻酔手術が増加した。

疾患別で見ると、口唇口蓋裂においては、例年と同様の手術数であった。

漏斗胸は、新型コロナの影響で Nuss 法手術を希望される方が少なかったが、バー抜去、修正は例年よりも多かった。また、心臓外科と合同で開心術と同時に Nuss 法手術を行い、良好な結果を得た。

乳児血管腫に対するレーザー治療は、月曜日午前中に毎回 20～30 人に行っている。早期治療の有用性が認知され早期に紹介していただくことが多くなった。また、乳児血管腫に対するプロプラノロール内服治療は血液腫瘍科に依頼しているが、内服治療目的で紹介される症例も増加している。血管腫の初診予約はできるだけ月曜日の午前中に入れるようにして、初診当日にレーザー治療を行えるように配慮しているが、紹介していただく患者さんの数が多く、予約を入れるのが大変な状況になっている。

(浜島昭人)

(3) 整形外科

1. スタッフ

部長: 浅井伸治

資格: 日本整形外科学会専門医、義肢装具等適合判定医、身体障害者福祉法第 15 条指定医

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会幹事、日本小児股関節研究会

非常勤医師: 富沢仙一

資格: 日本整形外科学会専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター、運動器リハビリテーション認定医

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会、日本リハビリテーション学会、日本足の外科学会、日本創外固定学会、日本二分脊椎研究会、脳性麻痺の外科研究会、日本関節鏡学会、関東整形災害外科学会

2. 総括

令和 2 年 4 月 1 日から富沢仙一先生は非常勤医師として月曜から木曜まで外来診療、手術に参加され診療体制を維持しております。

群馬大学整形外科から品川智司先生が手術に参加されています。

当科の特色は、脳性麻痺や二分脊椎に対する包括的治療の試みと、さらに、変形治癒骨折や低身長に対し骨延長術、創外固定術、小児股関節の手術治療である。

整形外科外来は、21 診察室、22 診察室は診察を主体の部屋とし、23 診察室は処置室とし、ギプス処置、装具作製等を行っています。

骨長補正術は、以前は短肢側の骨延長術のみであったが、8-プレートによる成長抑制術が差の小さい場合には有用であり、片側肥大症例(或いは片側低形成症例)に行われている。

小児股関節疾患について、自己血貯血、股関節造影の後、2 期的に大腿骨骨切りを行う治療対象は4 例(内反骨切り3 人、外反骨切り1 人)であった。

本年の特徴として新型コロナウイルスによる手術延期、再診患者数の減少があった。

	月	火	水	木	金
午前	再来	手術	再来	小手術、BTX	再来
午後	新患	手術	新患	書類ほか	リハビリ

整形外科研修医の後期研修医の研修受け入れはなかった。

3. 外 来

総受診者数 2,870 人、新患 376 人、再来 2,494 人であった。総受診者数は 349 人減少し、新患は 34 人増加し、再来者は 383 人の減少であった。当科における新患数は入院、外来で他科からの予定外の紹介や過去の通院患者の新規受診なども含まれており、診察日の実際の総受診者の記録が電子カルテに反映されないために、実際の受診者数との乖離がある。

外来日には、主に、午前中を再来に、午後を新患にあてた。予定ギプス等の処置は再来終了時刻を目安にギプス処置枠を置いて、行なった。小児整形外科的ギプスは患者数 13 人に対し約 150 回行った。現在、外来を能率的に進めるために、前日までの予約患者リストにてレントゲン検査者や装具作成者をピックアップし滞りのない流れを作っている。それでも外来の待ち時間が長くなりつつある。

4. 病棟入院患者数

延べ入院患者数は 65 人であった。創外固定装着症例は 2 人であった。

予定外の入院が 11 人あり内訳は骨折による手術治療が 3 人、環軸椎回旋位固定による牽引治療が 2 人、大腿骨骨折の保存的治療 1 人、下腿両骨骨折の保存的治療 1 人、股関節炎が 4 人(牽引治療 3 人)であった。

下肢の手術が多いため、免荷や骨延長に長期間を要し在院日数は長くなる傾向がある。比較的年長児、学童期にある患者が治療対象となることが多く、赤城特別支援学校が併設されていたことは有用であった。

5. 手術件数

手術は 88 件、うち麻酔下の検査を 27 人(関節造影 26 人、瘻孔造影 1 人)、自己血貯血 4 人に行なった(別表 1 参照)。

予定外の手術として、緊急手術 0 件、骨折などによる臨時手術が 3 件あった。

なお、手術に関する施設基準について、区分 2 に分類される手術:「靭帯断裂形成手術等」につい

では、手術なし、区分3に分類される手術:「内反足手術等」については、3例の手術を実施した。脚長補正術に関しては、骨延長術 (Ilizarov Frame 使用) 2例、骨端軟骨発育抑制術9例 (8プレート使用) 行った。

脳性麻痺児に対するボトックス®施注を10人に対し16回行った。

(浅井伸治)

別表1【手術件数】88件

手術	件数	手術	件数
骨内挿入物除去術 (大腿)	8	骨端軟骨発育抑制術 [大腿骨]	9
骨内挿入物除去術 (下腿)	14	骨端軟骨発育抑制術 [脛骨]	7
骨内挿入物除去術 (足)	5	非観血的整復術 (右大腿骨)	1
骨盤内異物除去術	1	偽関節手術 (下腿)	1
筋性斜頸手術	5	偽関節手術 (足)	1
先天性股関節脱臼観血的整復術	2	骨折観血的手術 (大腿) <内固定を行なう>	2
腱鞘切開術 (指)	4	関節内骨折観血的手術 (足) <内固定を行なう[足]>	1
自己血貯血	4	断端形成術 (骨形成を要する) (その他)	1
内反骨切り [大腿骨]	3	骨延長術 [大腿骨]	2
外反骨切り [大腿骨]	1	骨延長術 [脛骨および腓骨]	2
寛骨臼移動術	1	Evans 手術	2
骨切り (右下腿)	1	計 造影検査 (42 件) を除く	88
観血的関節授動 (膝)	1		
観血的関節授動 (足) <足関節>	6		
内反足 (アキレス腱切腱) 手術	3		

3. 第三病棟

第三病棟(血液腫瘍・循環器)の延べ入院患者数は7,651人、1日平均入院患者数は20.7人、年間病床利用率は69.0%であり、入院患者数は令和2年度より増加したものの、病床使用率は70%をわずかに下回った。これはCOVID-19流行により病床の使用が一時期制限されたことによるものと思われる。

第三病棟の病室の不足や比較的医療的ケアが多い重症患者をPICUから受け入れなければならない状況があり、安全管理上の問題にも努力をし、PICUから循環器・心臓血管外科患者の退室や受け入れが比較的スムーズに行われるようにしている。例年は病室の不足時には予定入院患者の一部や比較的循環が安定した患者を他病棟に移動させるなど、病院全体として対応していたが、他病棟におけるCOVID-19患者の受け入れのため、それも難しい状況であった。循環器疾患と血液腫瘍疾患という重症疾患を扱う病棟であり、それぞれ高度の専門知識と看護力を必要とする分野である。小児がんの化学療法を行う一方で、重症心疾患の術前管理や心不全管理を行うなど、疾患概念が全く違う患者の看護を同時に行う看護師の負担は大きい。医療安全を考慮しながら、患者家族を中心に考えられる業務環境を整えていきたい。

(河崎裕英)

(1) 循環器科

昨年度をもって30年近く群馬県の小児循環器を支えてこられた小林富男先生が定年での退任となりました。今までの小林先生の功績に深く感謝申し上げます。

令和3年度は、小林富男、下山伸哉、池田健太郎、中島公子、浅見雄司、新井修平の6名体制で診療を行った。また、江原研修医と群馬大学の後期研修医2名をそれぞれ4週間ずつ受け入れ、小児循環器診療についての研修を行った。

年間総入院患者数は561名であった。外来断層心エコーは6,019件であった。心臓カテーテル検査は179件であった。Catheter interventionは、バルーン拡張術27件、血管内コイル塞栓3件、経皮的ASD閉鎖術8件、Amplatzer PDA閉鎖栓1件、Vascular plug1件、PDAコイル塞栓5件、カテーテルアブレーション9件、BAS7件の計67件であった。循環器科関連の死亡は7件であった(表1)。新型コロナウイルスの影響はあったものの通常通りの対応がおおむね可能であった。

また、学術面では中島公子がVisual liver assessment using Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging of patients in the early post-Fontan period.の論文で2021年小児循環器学会Young Investigator's Award(英文の部)を受賞した。

循環器科では重症患者を多く扱っており、毎日循環器科・心臓外科でチームカンファレンスを行い治療方針の検討を行っている。またPICUが円滑に運営できるようベッドコントロール会議を毎日行い緊急患者に対応できるよう努めている。

令和4年度も新体制のもと群馬県内唯一の小児循環器科として質の高い医療を提供できるよう努めていきたい。

(池田健太郎)

表 1 循環器科関連の死亡患者

No	年 齢	性 別	死 亡 日	診 断	解 剖	Ai
1	5m	F	2021.5.5	HLHS、腸管不全関連肝機能障害	なし	あり
2	11m	F	2021.7.1	HLHS variant、染色体異常、気管狭窄、消化管穿孔	なし	なし
3	19y	F	2021.11.26	TOF、CHF、CRF	なし	なし
4	1m	M	2021.12.10	HLHS、化膿性腹膜炎	あり	あり
5	6m	F	2021.12.20	VSD、ASD、多発嚢胞腎、間質性肺炎、染色体異常	なし	あり
6	5m	F	2022.2.11	肺出血	あり	あり
7	7y	F	2022.3.24	虚血性腸炎、気管軟化症、cAVSD、21 trisomy	なし	あり

(2) 心臓血管外科

令和3年度は、メンバーが一新され岡村 達、松永慶廉、井上崇道、畑岡 努医師の延べ4名が心臓血管外科チームとして診療にあたりました。年間を通して良好な手術成績を残すことができました。重症な心疾患を多く扱っているにも関わらず手術死亡症例なしという良好な成績(人工心肺症例: 68例、非人工心肺症例: 20例、その他: 15例の合計103例)を残すことができたのも、ひとえに小児循環器科を含めた循環器チーム、その他の診療科、診療部門との連携、協力があったからこそと感謝しております。今後ともこの成績を維持し、症例数増加を目指し努力していきたいと思えます。

(岡村 達)

(3) 血液腫瘍科

令和3年度の血液腫瘍科総入院数(再入院を含む)は2,734人と例年と同様であった。

新規診断患者数は22例と、これも例年と変わらなかった。疾患の内訳は、白血病・リンパ腫が半数以上を占め、非腫瘍性血液疾患、固形腫瘍、脈管系奇形、その他と続いており、これも例年同様である。

昨年度から引き続き血管腫に対するプロプラノロール投与のクリニカルパス入院が増加している。数年前から、入院中および退院後の小児がん患児やその家族を支援する目的に、当院に関わりがあったご家族を中心に様々な支援活動をしていただく試みを開始している。今後、発展させていく予定である。

(河崎裕英)

4. 小児集中治療部

令和3年(2021年)度は小児集中治療部(以下 PICU)の専任医師を固定配置する方針として6年目となった。前年度同様、心臓血管外科および循環器科が中心となりオープン ICU 形態で運営した。下山と心臓外科医師、および循環器科医師(新井、浅見、中島)が前年度同様4ヶ月交代の専任体制で各科入室者の担当医との協力のもと業務を行った。

令和元年(2019年)度後半から新型コロナウイルス感染症による感染が拡大し、当部門では県内の他の ICU 部門間との情報交換や患者の連携の模索を開始したところで令和2年度に突入した。令和2年度は未知のウイルスに翻弄された混乱の中で経過した1年であり、令和3年度からみると後方視的には患者受入の際も対策が過剰になり、混乱する傾向が否めなかった。一方、令和3年度は幸いにも入院適応の小児のコロナウイルス重症感染者が急増しなかったこともあり、成人領域での新たな知見をもとに診療体制についても過度に恐れるのではなく感染対策をスリム化し、当院の使命とすべき県内の重症疾患患者の通常の治療を行いつつ、コロナウイルス感染症患者の対応を迫られる状況となった。具体的にはコロナウイルス感染症患者入院に備えて縮小化した6床運営を通常の8床運営に戻し、重症疾患の受け入れを通常化しつつ、コロナウイルス感染重症患者受け入れ対応を並行して行うための看護体制を、看護部と協力し変更し備えた。成人のコロナウイルス感染者が増加し緊急事態宣言も発令されたものの、幸いにも小児の重症患者の入室者はなかった。

令和3(2021)年度に PICU で治療・管理を行った患者数はのべ232名であった。満床のため PICU への入室制限を行った日数は令和元年度の100日、2年度の130日から、令和3年度は年間85日(%)と減少に転じた。8床の運用で1日平均入院患者数は6.1名(前年6.6名)、平均入室日数は7.5日(前年7.6日)で、入室期間は同様の傾向を示した(表1)。全入室患者のうちわけは、例年同様約7割は手術後の管理のための入室で、その他は一般病棟入院中の患者状態悪化で入室になったケース20件(前年41件)、外来からの直接入院10件(前年5件)、当院産科での重症先天性心疾患児の出生後の入院(胎児診断後)17件(前年9件)であった。また、他院からの重症者の転院は24件(前年16件)であり、いずれのケースも緊急入室であった(表2)。新型コロナウイルス感染症の流行の影響で例年見られるRSウイルス感染を始めとするウイルス感染症の感染者の減少傾向が昨年同様認められた。また、新生児・乳児への緊急開胸 ECMO 装着など PICU 内での手術を含めた緊急処置は7件(前年42件)と著明な減少を認めた。これらの背景として、感染予防を念頭に非緊急時や状態の安定している患者の処置を可能な限り手術室で対応する方針に変更したことがある。通常の呼吸循環管理等以外の特種な治療としては、ECMO 1件(前年3件)、CHDF 2件(前年14件)、血漿交換0件(前年4件)、NO 吸入治療21件(前年33件)、N2 吸入治療10件(前年4件)であった。その他、脳低温療法0件、腹膜透析5件、PMX 0件と特種治療の件数は減少していた。

科別在室日数では循環器科・心臓血管外科患者が86%(前年83%)(図1)、診療科別入院患者数も図2のごとく循環器科・心臓血管外科が61%(前年58%)、外科が24%(前年27%)を占め、従来と同様に術後患者の管理が中心であった。また、PICU 入室者を年齢構成別にみると、新生児(1ヶ月未満)と1歳未満の乳児(1ヶ月~1歳未満)が27%と多くをしめた(図3)。また、PICU における死亡患者は5名(前年2名)(約2.1%)であり、3名は左心低形成症候群および類縁疾患の心臓手術術後症例や感染等の合併症に伴う死亡であった。また、1例は原因不明の心肺停止蘇生後症例であった。

(下山伸哉)

表 1 平均在室日数

診 療 科	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
全診療科	7.5	7.6	7.5
循環器科・心臓外科	9.7	10.0	9.7
アレルギー・呼吸器・感染 免疫科	17.9	11.0	9.3
神経内科	4.1	3.7	4.7
血液腫瘍科	7.6	1.5	9.4
整形外科	1.0	4.0	0
外科	1.5	2.0	2.3
形成外科	0.9	0.9	1.0
その他内科系診療科	0	0	0

表 2 他院からの転院患者疾患名

疾 患	症 例 数
脳炎・脳症	2 (0)
痙攣重積等	1 (2)
先天性心疾患	9 (4)
心筋疾患等	1 (2)
後天性心疾患	1 (2)
呼吸器感染等	4 (2)
急性腹症等	1 (2)
尿路感染症	0 (0)
不慮の事故／外傷	4 (0)
その他	1 (2)
合 計	24 (16)

図1 診療科別在室日数

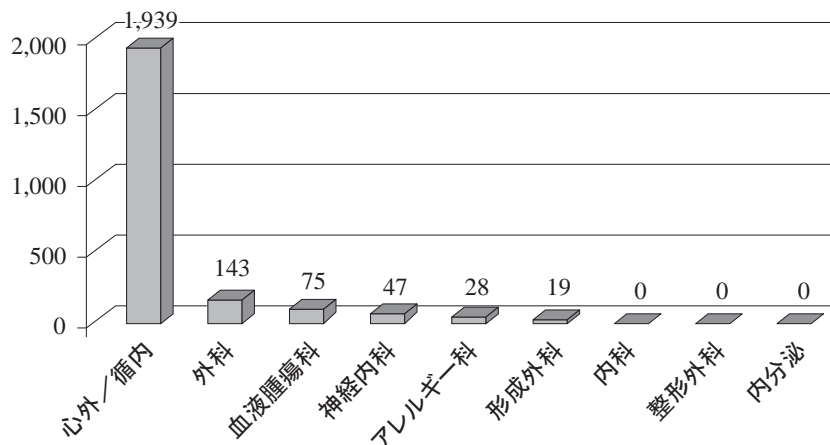


図2 診療科別入院患者割合

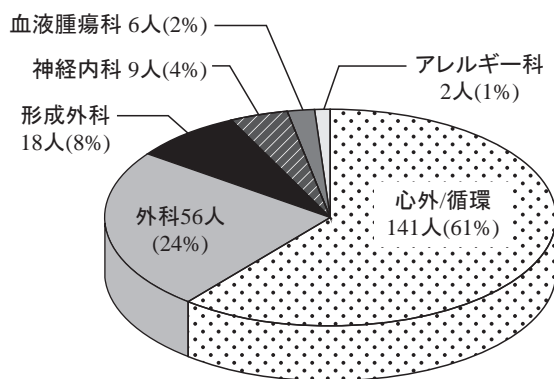
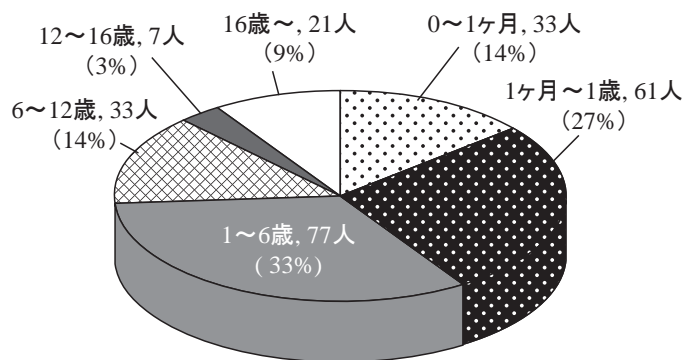


図3 PICU入院患者年齢分布



5. 新生児未熟児病棟

今年度の入院患者数は245名で、昨年度と大きな変化はなかった。しかし、出生数の減少は続いており、地域の周産期センターでの軽症例の受けて入れが増えていることなどから、入院患者の減少傾向はこれからも続く可能性がある。極低出生体重児の入院は54名、超早産児の入院は27名でハイリスク新生児の入院はここ数年、同水準で推移しているが、出生数の減少に伴い、今後減少することも予想される。入院患者数が減少することはいろいろな面において問題と考えなくてはならないが、これを機に、今まで十分に手が回らなかった母乳育児推進、ファミリーセンタードケアをはじめ、研究的活動や社会的、教育的活動、医療の質を高める活動をもっと積極的に行うようにしてもよいのではないかとと思われる。

今年度は新生児科の常勤医が1名増え、6名となったため、当直制から2019年度に行っていた変則的な夜勤体制に戻した。しかし、2024年からの働き方改革では、NICUは本格的に夜勤体制をとることが迫られおり、当科も医師の増員が必要である。NICUの夜勤体制については全国的に問題となっており、他県の総合周産期母子医療センターのNICUの動向などを参考に体制強化につとめていきたい。

新型コロナウイルス感染症については新生児科では入院はなく、臨床面ではっきりした影響は受けなかった。しかし、2021年度に当院で開催予定だった新生児蘇生法講習会のうち、Aコース1回、Pコース1回、Sコース2回は開催できず、Aコース1回、Bコース1回、Pコース1回、Sコース3回と消防学校での2日間のPコースのみとなってしまった。また、2022年1月にGメッセで開催の第30回全国救急隊員シンポジウムのスキルセッションにおいて新生児蘇生法のプレゼンテーションを行う予定だったが、オンラインのみの開催となってしまった。毎年行っていたオープンカンファレンスも昨年度に引き続き開催することができなかった。2年間、種々の活動が制約される状態が続いてきたが、社会全体ではコロナ禍前の状態に戻りつつあり、今後はできるだけ従来通り研修会を開催していきたいと考えている。

(丸山憲一)

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総数
500g未満	2	0	2
500～999g	20	7	27
1000～1499g	19	6	25
1500～1999g	23	5	28
2000～2499g	31	17	48
2500g以上	39	76	115
計	134	111	245

◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	1	0	1
23 週	3	0	3
24 週	2	2	4
25 週	5	4	9
26 週	4	1	5
27 週	5	0	5
28 週	4	2	6
29 週	4	3	7
30 週	4	0	4
31 週	0	1	1
32 週	7	1	8
33 週	10	3	13
34 週	13	2	15
35 週	8	4	12
36 週	10	9	19
37 週	17	16	33
38 週	16	26	42
39 週	12	16	28
40 週	6	15	21
41 週	3	6	9
42 週	0	0	0
計	134	111	245

◆疾患の分布

呼吸窮迫症候群	39	一過性上気道狭窄・上気道狭窄	1
胎便吸引症候群	2	喉頭浮腫	1
新生児一過性多呼吸	43	呼吸不全	1
肺浮腫・出血性肺浮腫	2	喉頭気管軟化症	1
肺出血	2	乳び胸の疑い	1
気胸・気縦隔	10	胸水・腹水・縦隔水腫	1
無呼吸発作・反復性無呼吸	34	先天性肺嚢胞性疾患	1
喉頭軟化症	2	新生児仮死	38
肺低形成・肺低形成の疑い	1	新生児重症仮死	34
先天性胸水・腹水	1	新生児けいれん・けいれんの疑い・新生児発作	6
新生児持続性肺高血圧症	2	ALTE	1
慢性肺疾患	26	頭蓋内出血・頭蓋内出血の疑い	12
CCAM	1	出血後水頭症	1
声帯麻痺・両側声門開大不全	1	脳室周囲白質軟化症	2
横隔膜挙上症・横隔神経麻痺	2	低酸素性虚血性脳症	2
誤嚥性肺炎・誤嚥性肺炎の疑い・誤嚥の疑い	1	全前脳胞症	2
先天性横隔膜ヘルニア	3	脳静脈血栓症・脳動静脈血栓症・脳静脈血栓症の疑い	1
肺高血圧症	7	脳室上衣下嚢胞	1

◆疾患の分布

頭蓋骨骨折・頭蓋骨陥没骨折	1	急性胃粘膜病変	2
脳梁欠損・脳梁低形成・脳梁欠損の疑い・脳梁低形成の疑い	1	小腸閉鎖	3
墜落産児	3	ミルクアレルギー・ミルクアレルギーの疑い・好酸球性胃腸炎	9
脳室拡大	1	鼠径ヘルニア	4
低体温・新生児低体温症	1	ヒルシユスプルング病・ヒルシユスプルング病の疑い・ヒルシユスプルング病類縁疾患の疑い	3
てんかん・てんかんの疑い	1	胎便性腹膜炎	1
腕神経叢麻痺	1	哺乳不良・哺乳障害	3
脳室上衣下石灰化	1	胆石症	1
脳実質石灰化	1	肝血管腫・肝血管腫の疑い	5
単脳回の疑い	1	回腸穿孔性腹膜炎・穿孔性腹膜炎	1
頭蓋内嚢胞	1	メッケル憩室	2
高インスリン血性低血糖症(一過性・持続性)	1	臍ヘルニア	8
晩期循環不全	1	肝被膜下出血・肝出血・肝損傷	2
新生児高ビリルビン血症	158	腸重積	1
新生児重症黄疸	2	小腸狭窄	1
未熟児くる病	40	胆道感染症	1
汎下垂体機能不全・下垂体機能不全の疑い	2	臍腸管遺残	1
新生児低血糖症	8	亜鉛欠乏症	16
高血糖	5	腹膜炎	1
甲状腺機能低下症・先天性甲状腺機能低下症	2	壊死性腸炎・壊死性腸炎の疑い	4
ミトコンドリア病・ミトコンドリア病の疑い	2	胆管拡張・総胆管拡張	1
尿崩症・尿崩症の疑い	2	臍尿管合流異常・臍尿管合流異常の疑い	1
副腎嚢胞	1	腸管不全関連肝障害	1
下垂体低形成	1	対称肝	1
副腎不全	1	門脈臍部欠損	1
カルニチン欠乏症	1	腹部コンパートメント症候群	1
敗血症・菌血症・敗血症性ショック	10	胆管炎	1
新生児 TSS 様発疹症・新生児 TSS 様発疹症の疑い	2	右側腹部ヘルニア	1
先天性サイトメガロウイルス感染症	1	直腸尿道瘻	2
感染症 (focus 不明)・感染症の疑い	1	縫合不全	1
伝染性膿痂疹	1	VSD	15
先天性トキソプラズマ感染症・先天性トキソプラズマ感染症の疑い	1	DORV	2
蜂窩織炎・蜂窩織炎の疑い	2	肺動脈狭窄	1
尿路感染症	3	ASD	6
先天梅毒・先天梅毒の疑い	1	ECD・房室中隔欠損症	3
新生児特発性嘔吐症	1	TAPVR・TAPVR の疑い	3
腸回転異常症・中腸軸捻転・腸回転異常症の疑い	2	大動脈縮窄症・大動脈縮窄の疑い	3
腸穿孔	4	TGA	1
胃食道逆流症・胃食道逆流症の疑い	7	左心低形成	1
先天性十二指腸閉鎖	1	症候性動脈管開存症・動脈管開存症	26
胎便関連性腸閉鎖症・胎便関連性腸閉鎖症の疑い	2	発作性上室性頻拍	1
小腸捻転・結腸小腸捻転	1	左上大静脈遺残	5
先天性食道閉鎖	1	単心室・機能性単心室	1
鎖肛・鎖肛の疑い	11	右側大動脈弓	3

◆疾患の分布

右室低形成	1	多血症	1
大動脈2尖弁・大動脈2尖弁の疑い	1	DIC	2
左室低形成	1	TAM・TAMの疑い・silent TAM	2
末梢性肺動脈狭窄	1	胎児母体間輸血症候群	2
二次性高血圧	1	神経芽細胞腫・神経芽細胞腫の疑い	1
心房中隔瘤	2	帽状腱膜下出血	1
左鎖骨下動脈起始異常	2	双胎間輸血症候群受血児	2
Eustachian valve 過形成	1	双胎間輸血症候群供血児	2
僧帽弁閉鎖	2	若年性骨髄単球性白血病・若年性骨髄単球性白血病の疑い	1
大動脈閉鎖	1	ABO 不適合	7
癒痕的左室	1	TAPS	2
共通房室弁	1	副腎腫瘍・副腎腫瘍の疑い	2
肺静脈狭窄	1	多発性血管腫	1
卵円孔開存	1	デルモイドシスト	1
VATER 連合・VATER 連合の疑い	1	Noonan 症候群関連骨髄増殖性疾患の疑い	1
胎児水腫	1	後腹膜多房性嚢腫	1
Noonan 症候群・Noonan 症候群の疑い	1	水腎症・水腎症の疑い	1
内蔵逆位	1	高 K 血症	2
Joubert 症候群・Joubert 症候群の疑い	1	急性腎不全・腎不全・急性腎障害	2
Klippel-Trenaunay-Weber 症候群	1	尿道下裂	1
VACTERL 連合・VACTERL 連合の疑い	1	馬蹄腎・癒合腎	4
オスラー病	1	腎嚢胞	1
Simpson-Golabi-Behmel 症候群の疑い	1	停留精巣・停留精巣の疑い	1
Kabuki make-up 症候群の疑い	1	腎低形成・腎無形成	3
無脾症候群・無脾症候群の疑い	2	多嚢胞腎	1
口唇裂・口蓋裂	6	嚢胞性異形成腎・多嚢胞性異形成腎	1
小顎症	1	処女膜閉鎖	1
萌出嚢胞・萌出嚢胞の疑い	1	卵巣嚢腫・嚢胞	1
下口唇小帯頬小帯	1	重複腎盂尿管・重複腎盂の疑い	1
21 トリソミー・21 トリソミーの疑い	9	二分陰嚢	1
18 トリソミー	1	小陰茎	1
13 トリソミー	1	膣閉鎖	1
9 番染色体重複モザイクの疑い	1	卵巣腫瘍の疑い	1
15q 部分モノソミー	1	副腎癒合	1
難聴・難聴の疑い	18	水尿管	1
副耳	2	尿管瘤	1
未熟児網膜症	13	片腎	1
家族性滲出性硝子体網膜症	1	多指症	3
黄斑低形成	1	先天性内反足	4
デルモイド	1	欠指症	1
耳瘻孔	1	合指症	4
未熟児貧血	60	脊椎奇形	3
貧血・重症貧血・鉄欠乏性貧血・乳児貧血	10	羊膜索症候群	1
血管腫・莓状血管腫・乳児血管腫・血管腫の疑い	8	過剰肋骨	1

◆疾患の分布

踵足	1	仙骨形成異常	1
屈指症・屈指	1	副乳頭	2
先天性下腿彎曲症	1	乳頭 skin tag	1
肋骨変形	1	単純性血管腫	1
股関節開排制限	1	乳児寄生性紅斑	1
前腕低形成	1	頬部切創	1
下腿欠損	1	双胎	49
手指足趾低形成	1	品胎	6

◆新生児未熟児病棟死亡症例及び剖検

	年齢	性別	死亡日	病名	剖検	Ai
1	1歳	女	2021.4.25	超低出生体重児(在胎24週3日、出生体重701g)、呼吸窮迫症候群、高血糖、新生児壊死性腸炎、敗血症、短腸症候群、腸管不全関連肝障害、慢性肺疾患、新生児重症仮死、未熟児網膜症、未熟児貧血、高ビリルビン血症	あり	あり
2	0歳	男	2021.6.6	極低出生体重児(在胎33週4日、出生体重1258g)、18トリソミー、DD双胎第1子、新生児重症仮死、心室中隔欠損症、動脈管開存症、新生児発作、高ビリルビン血症、頭蓋内出血、未熟児貧血、新生児壊死性腸炎	なし	なし
3	0歳	男	2021.11.2	新生児壊死性腸炎、敗血症性ショック、DIC、極低出生体重児(在胎28週4日、出生体重1.381g)、腸閉塞(ヒルシュスプルング病類縁疾患の疑い、新生児乳児消化管アレルギーの疑い)、新生児仮死、高ビリルビン血症、無呼吸発作、未熟児貧血、腹部コンパートメント症候群、肝被膜下血腫	なし	あり
4	0歳	女	2021.11.16	超低出生体重児(在胎25週2日、出生体重741g)、呼吸窮迫症候群、未熟児無呼吸発作、動脈管開存症、新生児壊死性腸炎、高カリウム血症、腹膜炎、敗血症、高ビリルビン血症、新生児重症仮死、慢性肺疾患、急性腎不全、高血糖	なし	なし
5	0歳	男	2022.1.25	超低出生体重児(在胎28週6日、出生体重407g)、DD双胎第2子、呼吸窮迫症候群、慢性肺疾患、動脈管開存症、高ビリルビン血症、腸管不全関連肝障害、敗血症、未熟児貧血、新生児重症仮死	なし	あり
6	0歳	男	2022.3.12	胎児水腫、肺低形成、肝被膜下血腫、新生児重症仮死、Meckel憩室、air leak	あり	あり

6. 産科病棟

令和3年度開始当初は常勤医5名でスタートしたが、5月以降にうち2名が産休となったため、年度のほとんどを常勤医3名で乗り切ることとなった。群馬大学産科婦人科から当直要員として派遣されるパート医も2名と昨年度からの増員はなく、利根中央病院の医師に月1～2回の当直業務をご協力いただいたものの、相変わらず人員不足に悩まされ続けた1年であった。

臨床成績概要を表1に示す。令和3年度の新規外来患者数487名は、前年度459名より増加した。入院患者数354名は、前年度360名より微減となった。分娩数237件は、前年度257件より減少したが、多胎症例34件は前年度27件より増加した。母体搬送については、依頼総数115件が、前年度104件よりも増加した反面、受入数73件(受入率63.5%)は、前年度85件(受入率81.7%)より減少し、特に受入率は5年ぶりに70%を下回った。受入不可の理由は、NICU満床8件は前年度7件と大差なかったが、産科医対応困難4件と地域性考慮などによる他医療機関で対応15件は過去5年間で最多であった。当院からの母体搬出数18件も前年度9件から倍増し、そのうちNICU満床によるものが10件と半数以上を占めていた。これら母体搬送受入率低下と母体搬出数増加には、重症例によるNICU回転率低下と産科人員不足が影響したと思われる。

表2に令和3年度の主な胎児先天異常症例を示す。

(京谷琢治)

表1 産科臨床成績概要(令和3年度)

新規外来患者数	487名	出生体重別出生数		
入院患者数	354名	< 1000g	23名	8.6%
		1000-1499g	19名	7.1%
分娩数合計	237件	1500-1999g	23名	8.6%
単胎分娩	203件	2000-2499g	53名	19.9%
双胎分娩	32件	2500-3999g	146名	54.9%
品胎分娩	2件	4000g \leq	2名	0.8%
多胎分娩率	14.3%	合計	266名	
帝王切開数	81件	34.2%	死産児数	7名
単胎	58件	28.6%	児入院先	
双胎	21件	65.6%	新生児科	133名
品胎	2件	100.0%	循環器科	17名
母体搬送依頼連絡数	115件			
母体搬送受入数	73件			
受入不可数	42件			
受入率	63.5%			
母体搬送搬出数	18件			
新生児科満床	10件			
地域性考慮	4件			
COVID-19関連	2件			
母体合併症	1件			
児対応困難	1件			

表 2 主な胎児先天異常症例

<p>●外科疾患</p> <p>食道閉鎖</p> <p>十二指腸閉鎖</p> <p>多発小腸閉鎖</p> <p>回腸閉鎖／穿孔</p> <p>胎便性腹膜炎</p> <p>腸回転異常</p> <p>Meckel 憩室</p> <p>鎖肛</p> <p>横隔膜ヘルニア／挙上症</p> <p>肺嚢胞性腺腫様形成異常</p> <p>食道裂孔ヘルニア</p> <p>肝多発血管腫</p> <p>胆道閉鎖</p> <p>副腎神経芽腫</p> <p>多嚢胞腎／腎嚢胞</p> <p>卵巣嚢腫</p> <p>臍腸管遺残</p> <p>●循環器疾患</p> <p>心室中隔欠損</p> <p>心房中隔欠損</p> <p>房室中隔欠損</p> <p>大動脈縮窄複合</p> <p>完全大血管転位</p> <p>修正大血管転位</p> <p>ファロー四徴症／肺動脈欠損</p> <p>両大血管右室起始</p> <p>心房内臓錯位症候群</p> <p>左心低形成症候群</p> <p>肺動脈狭窄</p> <p>卵円孔早期閉鎖</p> <p>上室性期外収縮</p> <p>頻脈性不整脈</p> <p>心臓横紋筋腫</p> <p>拡張型心筋症</p> <p>孤立性右室低形成</p>	<p>●染色体異常</p> <p>trisomy 21</p> <p>trisomy 18</p> <p>trisomy 13</p> <p>trisomy 9 mosaic</p> <p>●整形外科・形成外科疾患</p> <p>唇裂／唇顎裂／唇顎口蓋裂</p> <p>thanatophoric dysplasia I</p> <p>軟骨無発生症 I b</p> <p>脊椎骨端骨幹端異形成</p> <p>点状軟骨異形成</p> <p>多指／合指</p> <p>手指形成異常</p> <p>Klippel-Trenaunay-Weber 症候群</p> <p>●中枢神経系疾患</p> <p>脳室拡大／水頭症</p> <p>全前脳胞症</p> <p>くも膜嚢胞</p> <p>上衣下嚢胞</p> <p>無脳症</p> <p>●その他</p> <p>双胎間輸血症候群</p> <p>双胎貧血多血症</p> <p>非免疫性胎児水腫</p> <p>乳び胸水</p> <p>腹水</p> <p>Cystic hygroma</p> <p>小顎</p> <p>眼窩低形成</p> <p>VATER 連合</p> <p>一過性骨髄異常増殖症</p> <p>門脈体循環シャント</p> <p>羊膜索症候群</p> <p>胎盤絨毛血管腫</p>
--	---

7. 麻 醉 科

今年度も、昨年度同様に COVID-19 感染対策に留意しながらの手術室運営となった。緊急手術で COVID-19 陽性患者の麻酔管理を行うことはなかったが、術前 PCR 検査等を行った上で、さらに対策を講じながら慎重に対応した。

手術室としては、前年度に更新していただいた経食道心エコーを先天性心疾患患者に対する心臓外科手術中の管理において積極的に活用し、評価の質と循環管理を向上させることが出来た。また、麻酔器はここ数年で更新を進めていただき、各手術室内において、特に全身麻酔中の呼吸管理を精密に行うことが可能となった。これらの機器を活用し、今後も麻酔管理の向上を図っていきたい。

人事については、今年度もレジデント枠を維持していただくことができ、昨年度と同様の 5 人体制となった。指導にあたる麻酔科専門医・指導医も、レジデントの教育を通して自らも学ぶこともでき、互いに向上し合える診療体制が構築できている。

今年度の麻酔科管理手術件数は 882 件であり、昨年度より 12 件減少した。一日入院手術 (日帰り手術) は COVID-19 の影響で前年度に減少した後もあまり増加しなかった。産科の帝王切開は 79 件で昨年度より若干減少したが、他院の NICU の診療体制の変化や、県内における COVID-19 妊婦の管理体制が影響したと考えられる。心臓外科手術は 93 件であり前年度よりやや減少した。

次年度は COVID-19 対策を継続しながら、安全な周術期管理と手術室運営に努めていきたい。

(松本直樹)

8. 放射線科

医師 1 名、技師 11 名で例年通りの業務を行った。

画像検査所見を記載した総人数は、前医で行われた紹介患者を含めて、X線検査; 17,091 名 (昨年度 17,914 名)、超音波検査; 1,237 名 (1,246 名)、MRI; 735 名 (795 名)、CT; 433 名 (400 名)、RI; 59 名 (63 名)、死後画像診断 (Ai); 22 名 (4 名)、であった。

この他に、セカンドオピニオンも含む院外症例の画像コンサルテーションにも随時対応した。

(畠山信逸)

9. 歯科・障害児歯科

(新型コロナウイルスによる歯科外来運営への影響と対応)

今年度も新型コロナウイルス(以下 COVID-19)は、当科の診療体制に大きな影響を与えたが、これまで同様感染対策を強化した上で「群馬県における障害児歯科の最後の砦として」必要な診療は継続する方針とした。

(スタッフ)

今年度の診療体制は、歯科医師の異動はなく常勤3名体制を維持し、歯科衛生士も前年度同様に常勤4名、非常勤職員1名の体制で診療を行った。

(診療実績)

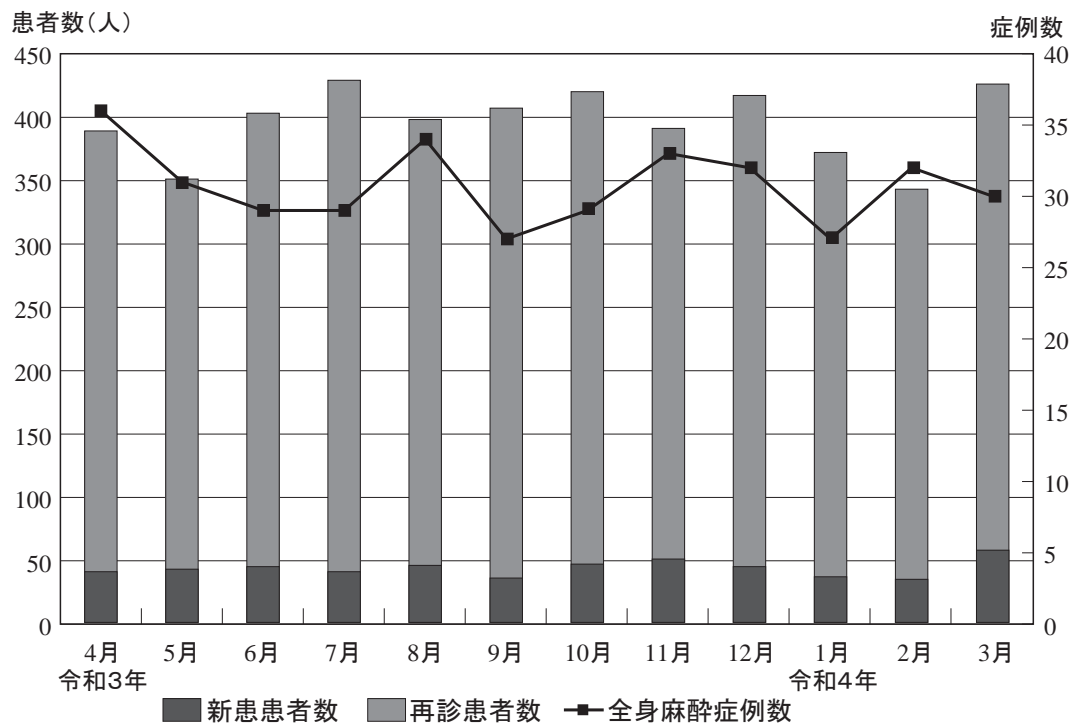
診療実績は、新規患者数が508名(前年度比102%)、延べ受診者数は4,734名(前年度比103%)で前年度とほぼ同様であった。全身麻酔下歯科治療は365症例(前年度比92%)と若干減少となったが、COVID-19による病棟の受け入れ制限の影響を受けたことも影響したが、概ね月平均30症例全身麻酔を安全に実施することができた。

(受診患者と診療内容)

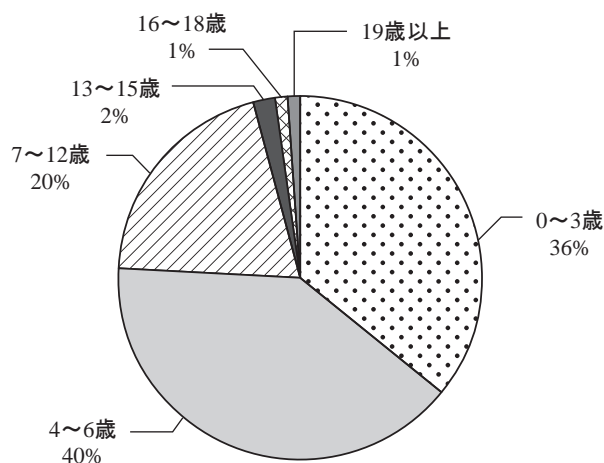
前年度同様、COVID-19による医療機関への受診控えにより、齲蝕が急性増悪化した症例が紹介されるケースが多く、群馬県唯一の小児・障害児三次歯科医療機関である当科のニーズは依然高いことが示唆された。新規患者における院外紹介率は約70%(前年度60%)とこれまでで最も高い割合となった。

院内紹介では各科より乳児期の哺乳や摂食嚥下障害を主訴に紹介されるケースが更に増加し、「もぐもぐ外来」は、今年度も群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課石田圭吾歯科部長にご指導いただきながら相談中心の診察を継続した。

院外紹介による新規受診患者の年齢分布の傾向も例年同様で、精神遅滞や発達障害児の多数齲蝕(うしょく=虫歯)の全身麻酔下歯科治療依頼や口腔外科症例(過剰埋伏歯、舌小帯異常、粘液嚢胞)に加え、昨今の抑制下治療に対する保護者の考え方の変化もあり、低年齢定型発達児の多数齲蝕の治療依頼の紹介数が多かった。



Graph 1: 令和3年度月別歯科運営状況



Graph 2: 新規患者の年齢分布

(病院歯科として)

今年度も第一、第二、第三、PICU 各病棟への歯科衛生士による週一回の病棟ラウンドを継続したが、感染状況に配慮しながらの活動であった。引き続き感染対策に配慮しながら周術期口腔衛生管理症例だけでなく、病棟内全患者を対象とした関りを今後も継続していきたいと考えている。

(まとめ)

今年度も COVID-19 の状況が落ち着かない中での運営で、先行きの見通せない状況は暫く継続すると思われるが、引き続き「群馬県における障害児歯科の最後の砦として」診療体制を安定的に維持していきたいと考えている。

最後に、令和3年度第43回母子保健奨励賞に木下が選ばれ、同時に毎日新聞社賞も受賞した。私個人の受賞ではあるが、当科における母子保健に関するこれまでの取り組みを、由緒ある母子保健功労顕彰会に高く評価していただいたと考えており、支えてくれた当科スタッフをはじめ、群馬県病院局、当院事務局、その他病院スタッフにこの場を借りて御礼を申し上げたい。

(木下 樹)

10. 放射線課

【人 事】

令和3年度木暮主任が、がんセンターへ転出、がんセンターから木村主任が転入となった。両氏ともこれまでの経験を活かしそれぞれの職場での活躍を確信している。また木暮主幹専門員が再任用期間を終え会計年度職員として勤務していただけることになった。

【業務・設備】

正規職員6名、レジデント2名、会計年度職員3名と受付事務担当職員1名の体制で業務を遂行した。10数年来の業務量の増加、内容の変化に安全に安定した業務体制として対応していくためにも長年切望しているレジデントの定数化による正規職員数の増員を切に望む。

新型コロナウイルスの対応については2年目となり感染患者のポータブルX線撮影は適切な感染対策や手順を各職員が習得することができ、順調に運用している。今年度は今まで想定していなかった手術室やPICUでの感染患者の対応について多職種でのシミュレーションに参加し今後の対応に備えた。また一般外来での突発的な感染患者対応などの事象も経験し、今後は様々な状況を想定し想定外を極力なくし対応しなければならないと実感している。そのため多数職員の出勤停止時の業務対応についても検討した。感染状況が刻々と変化するなかスタッフ全員で協力し変化に対応した。未だ完全収束には至らない現状では今後数年は柔軟に適切に対応していく必要があると考える。

診療用放射線に係わる安全管理体制の運用も2年目となり線量管理、医療放射線研修等も滞りなく実施できた。今後は立入り検査等のチェック、ご指導を受けながら必要な改善を実施し安全な放射線利用を継続していきたい。

学会については今年度も現地参加が困難でありweb開催を活用して積極的に参加、発表した。資格取得については新たに医療情報技師1名、放射線管理士1名取得することができた。来年度以降も職員の資質向上、検査技術向上のためにも認定資格取得を推進していきたい。

また実習については学生を現場に向かい入れることはできなかったがオンラインでの講義を実施した。

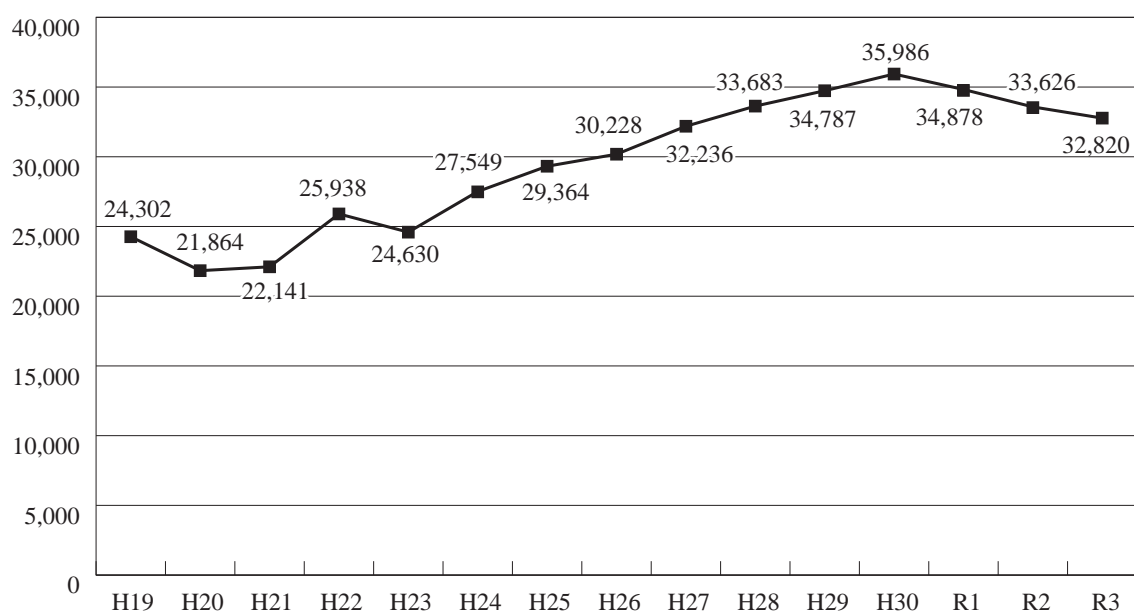
設備については大型機器である血管撮影装置が更新された。コロナ禍の装置更新で様々な困難に直面したが関係部署と連携し、多大なる協力を得て予定どおり更新することができた。新装置導入により被ばく線量低減と共にリアルタイムに最大入射皮膚線量を患者モデルに表示可能となり、術中に放射線皮膚障害のリスクを下げる判断が可能となった。今後も10年を超え更新時期を迎える装置が控えており関係部署と協議しながら適正な更新計画を進めていきたい。

新型コロナウイルスの影響で様変わりする世の中で課として様々な経験を積むことができた一年であった。常に課員一丸となり協力し合い、奮闘し全力で業務に取り組んでくれたことに深く感謝する。

【検 査】

各検査の前年度件数比は、CT検査106%、MRI検査93.6%、RI検査102.3%、X線透視検査111.8%、超音波検査90.8%、カテーテル検査102.3%、一般撮影検査100.1%、ポータブル撮影91.6%、画像コピー107.8%で全体として97.6%であった。令和元年の新型コロナウイルス発生以降緩やかに減少傾向となっている。平成19年度からの全件数の経緯を以下に示す(令和3年度詳細は統計編)。

総件数



【学会・研修等】

本年度の学会・研修会等の参加は以下のとおりである。

件名	期日	場所
第77回日本放射線技術学会総会学術大会	4/28～6/3	web開催
第44回日本小児放射線技術研究会	4/17	web開催
第32回日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構主催セミナー	5/29	web開催
第9回MRI循環器撮影研究会	6/11	web開催
第22回MRI入門講座	6/12	web開催
第69回群馬核医学研究会	6/19	web開催
第32回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	6/30	web開催
第14回群馬 Gyro Users Meeting	7/8	web開催
第43回MRI基礎講座	7/24,31	web開催
第44回IVR被ばく低減セミナー	8/28	web開催
2021年度X線CT認定技師更新講習	9/1	web開催
第49回日本放射線技術学会秋季学術大会	10/15-11/7	web開催
第37回日本診療放射線技師学術大会	11/12-12/15	web開催
第72回医療放射線安全管理講習会	11/13	web開催
第7回胎児MRI研究会学術集会	11/13	web開催
第15回群馬 Gyro Users Meeting	1/18	web開催
日本オートプシーイメージング技術研究会2021年度学術大会	1/20	web開催
第33回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	2/16	web開催

(佐々木 保)

11. 検体検査課・生理検査課

【人 事】

令和3年度の検査課は、育児休業中の正規職員3名のうち1名が令和2年度末をもって退職したため、正規職員8名(うち1名は産育休代替職員)、レジデント6名でスタートした。育児休業中の正規職員1名が復帰したが、1月から正規職員1名が育児休業を取得したため、実際的人数変化はなく14名で24時間体制を維持した。

【業 務】

生化学・免疫部門では、TP、ALBについて、より試薬の安定性が高く、安価な試薬を検討し、良好な結果が得られたため採用となった。また、昨年度LDH、ALPをIFCC準拠試薬へ切り替えた際、新値と旧値の併記を実施していたが、院内への周知が完了したことからこれを終了した。

細菌部門では、等温核酸増幅法(NEAR法)による新型コロナウイルス核酸検査装置ID NOW(アボット社)を導入し、検査を開始した。これにより発熱外来受診者と緊急入院時の新型コロナウイルスに係る遺伝子検査は、6月から当検査法へ移行した。10月にはID NOWが追加購入され、2台体制で検査依頼に対応した。

病理部門では、CPCを2回開催し、2例を検討した。

【臨床検査委員会】

2回開催した。内部精度管理報告を行い、検査に使用している機器が適正に管理されていることが承認された。生化学検査試薬の性能の向上や安定性を目的に検討した新試薬へ変更すること、一般検査の試験紙をより項目の多いものに変更することが承認された。また、アレルギー検査項目の見直しを行い、依頼数の少ない項目については外注化を提案し承認された。さらに、臨床から要望のあったCDトキシン検査を院内検査として導入することが承認された。新型コロナウイルス感染対策の観点から呼吸機能検査とトレッドミル検査を行う生理検査室の換気状況を確認し、検査室の連続使用を避けるため予約時間枠の変更を提案し、承認された。

【輸血療法委員会】

6回開催した。月別の血液製剤使用率や廃棄率を報告し、適正使用の協力を呼びかけた。また、院内輸血マニュアル第15版の改訂を行った。輸血勉強会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止された。

【感染対策委員会】

定期12回、臨時1回の13回開催した。定例の委員会ではウイルス迅速検査の陽性数、耐性菌の検出状況、抗菌薬の使用状況、血流感染サーベイ等について報告、検討した。臨時委員会は6月に開催し、新型コロナウイルスの感染対策として、全入院患者へのスクリーニング検査の実施を決定した。

【設 備】

細菌検査部門では、全自動微生物検査システムを更新し、等温核酸増幅装置1台が新規購入され、さらに1台が追加購入された。生化学部門では、冷蔵ショーケースが故障のため更新となった。アレルギー科で蛍光免疫分析装置を更新し、検査課に設置された。

【検査件数】

総検査件数は、446,055件で、対前年度比98.1%であった。以下、対前年度比として%を()内に示す。増加した部門は、細菌検査15,885(107.4)、生理検査12,634(102.2)であった。一方、減少した部門は、病理検査1,791(84.3)、一般検査11,942(90.2)、免疫血清29,400(94.0)、輸血検査3,430

(95.2)であった。

【学会・研修会等】

参加状況を表1に示した。また、日本医療検査科学会で2題、群馬県医学検査学会で1題、群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会で1題の口演発表を行った。

学会及び研修会参加状況は、以下のとおりである。

表1 学会・研修会などへの参加状況

研 修 ・ 学 会 等	日 時	開 催 地
第70回日本医学検査学会	5月15日～6月14日	福岡 (Web)
全国自治体病院協議会臨床検査部会研修会オンラインセミナー	6月28日～9月30日	Web
令和3年度認定病理検査技師制度資格更新指定講習会	9月1日～30日	Web
日本医療検査科学会 第53回大会	10月8日～9日	横浜 (Web)
第1回日本不整脈心電図学会 中国・四国支部地方会	10月9日	Web
自動分析装置講習会	11月10日～12日	東京
第38回小児臨床検査研究会	11月20日	Web
第66回群馬県医学検査学会	11月28日	前橋 (Web)
第23回首都圏支部・関甲信支部輸血検査研修会	12月11日～12月26日	Web
日本心エコー図学会第26回冬期講習会	1月22日～23日	Web
令和3年度群馬県臨床検査精度管理調査報告会	3月1日	Web

(神山晴美、丸山裕子)

12. リハビリテーション課

【人 事】

令和3年度は、新規入職のレジデント2名を加え、理学療法士5名(正規4名、レジデント1名)、作業療法士3名(正規1名・レジデント2名)、言語聴覚士2名(正規1名、レジデント1名)の常勤技術職10名で開始した。コロナ禍のなか、さいわい課員の長期休暇や退職等もなく、入院・外来患者のリハビリテーションに取り組めた1年であった。4名のレジデント療法士も、正規職員の指導のもと、徐々に対応可能な業務・症例の拡大に取り組んでいる。効率性と安全性を確保しながら小児医療で求められるリハビリテーション体制を維持するためには、人材の計画的な育成が必須と感じている。

【新型コロナウイルスの感染対策の影響】

1. 当院の感染予防策に沿いながら、入院・外来のリハビリテーションを休止することなく継続した。
2. 当院のリハ対象患者には、見慣れない療法士ではリハに取り組めない患児も多く、患者ごとに担当療法士を決めている。急な休暇の可能性も考慮し、複数担当を増やし急な担当者変更に対応できるように情報共有を図った。
3. リハビリテーション室及びリハビリテーション待合いの混雑を避け、リハビリテーション室の同時使用を4患児と付き添い家族1名と制限し、外来予約枠の調整を行った。入院リハは基本的に各病棟内での実施とした。
4. 外部業者である車椅子など福祉機器作成業者や義肢装具士の入室は充分配慮しながら継続した。リハビリテーション室の入室人数が増える場合には、整形外科ギブス採型室を借りるなどの対策を取った。
5. リハ対象患児が通う療育機関・保育園・特別支援学校などの関連機関より、当院での個別リハビリテーションの見学希望が多くあったが、今年度も基本的にはリハ見学中止とし、個人情報に配慮した上で、文書・電話・ご家族経由での動画等による情報交換での対応を継続した。
6. 研修会開催・参加、学会発表、大学講義などの多くはオンライン形式で対応した。
7. 今年度の受け入れを予定していた学生の臨床実習のうち、警戒度が下がった時期の臨床実習のみ受け入れができ、その他はオンライン形式での対応となった。

【業務業績】

今年度の新規患者数は、年間で入院343人(前年度343人)、外来387人(前年度382人)、合計730人(前年度725人)であった。リハの新規患者件数は昨年度とほぼ同数であるが、リハ実施による診療報酬等の収益は年間で約3,811万円(前年度3,937万円)と減少している。コロナ禍による予定手術の延期、外来リハ受診控え、リハ室内の入室人数制限に伴い予約枠を制限したことなどが要因と考えられた。心大血管リハ438,325点、運動器リハ373,760点、呼吸器リハ148,295点、脳血管リハ138,220点、がんリハ32,595点、外来で主となる障害児リハは6才未満で1,759,275点、6才以上819,765点であった。

唯一、入院期の脳血管リハが前年度より増加した。その内訳は小児の後天性の急性脳症・急性脊髄炎、てんかん性脳症などの症例が救急病院や大学病院から回復期のリハを目的に転院され、理学・作業・言語聴覚療法の3職種がチームで対応することが出来たことによる。成人期の後天性障

害に対し高頻度の回復期リハを実施する回復期リハビリテーション病棟は県内にも複数あるが、小児期・学童期の後天性障害に対し、リハベットを有しチームで回復期リハに取り組む医療機関は県内にはない。コロナ禍の不安により都心の専門医療機関への通院を渋り、県内でのリハ目的入院を希望する家族が増えた印象もある。

- ・入院急性期からのリハビリテーションの流れが定着し、早期・初期リハ加算は、入院リハ件数の5割で算定対象となっている。令和4年4月よりPICUにおいて早期離床・リハビリテーション加算をとる準備を医事課・病棟看護・医師と協力して進めている。これまでの当院の早期リハビリテーションの実績・経験を踏まえ、患者評価シート・プログラム作成などに取り組んだ。
- ・退院後の在宅療養に向け、医師及び看護と協力し、患児や家族への退院時リハビリテーション指導に積極的に取り組み、算定件数は169件(入院リハ患者の約5割)であった。

【部門別の状況】

・理学療法部門

正規の理学療法士4名が、心リハ・運動器リハ・障害児リハ・呼吸器リハなどの各領域を専門に担当しつつ、多忙時や急な休みの際にはフォローするように取り組んだ。3年目のレジデント1名は出来る限り多くの領域の患者担当を経験できるように配慮し、日本小児理学療法学会での症例発表(オンライン形式)も経験できた。

・作業療法部門

4月より新規レジデント作業療法士1名を迎え、常勤職員3名(正規職員1名、レジデント作業療法士2名)の体制で業務にあたった。入職した作業療法士は小児リハビリテーション経験者であり、外来担当など速やかに業務分担を行う事ができた。また作業療法開始時の評価、聞き取り事項を統一化するために聞き取りシートを作成した。

昨年に引き続き多指症術後や先天性奇形に対する手装具作成について取り組んだ。また、学会発表ではSMA症例のヌシネルセン投与後の機能改善についての経過報告を行った。

・言語聴覚部門

正規職員1名、新卒1年目のレジデント言語聴覚士1名の常勤2名体制で業務にあたった。レジデント言語聴覚士は、新人研修・技術研修などを受けながら、外来患者を中心に対応できる症例を増やすことができた。正規職員1名が、がんのリハビリテーション研修に参加し、言語聴覚士もがんリハビリテーションの算定が可能となった。また昨年度に引き続き、気管切開症例のスピーチバルブ装用下での発声指導に、医師と連携して取り組むことができた。

【課の取り組み】

1. 新規入職の2名を含め、レジデント4名の教育・指導に取り組んだ。
2. リハビリテーションカルテ(記録)の記載方法の統一化を図り、定期的にカルテチェックを行うことで、不備のないように努めた
3. 消防点検の指摘にしたがい、作業療法室のマットレスを転倒防止に配慮しつつ、防火基準のものに変更した。
4. リハ課のヒヤリハット事象が7件あった。転倒転落等のヒヤリハット事象を課内全員で振り返り、対策を検討確認に取り組んだ。
5. リハ3職種での症例検討の時間を定期的に取り、情報共有及びリハプログラムの見直しを図り、レジデント教育と合わせて、リハ内容の標準化と質の向上に努めた。

6. 医療的ケア児の在宅療養の移行に向け、車椅子の準備、移乗練習・乗車練習・在宅での介助方法などの検討・指導に、主治医・看護・SW とともに連携を図り取り組んだ。コロナ禍で退院に向けての家族の来院指導の制限、退院後の受診の不安、主介護者の感染の不安、在宅移行後のショートステイの確保、施設によっては家族面会の制限があるなど、例年より在宅療養移行への障壁が高まっていることを感じている。関係機関と速やかに連携を図り一緒に取り組んで行く必要がある。
7. がんのリハビリテーション研修に参加: がんリハビリテーション算定要件に必要な研修であるため、医師・看護師・作業療法士・言語聴覚士のチームで受講した。今年度はeラーニング個別学習とZoomでの病院ごとグループワーク形式での開催に取り組んだ。
- 期間 ①個別学習期間(eラーニング): 令和3年6月1日(火)~7月31日(土)
 ②集合学習(Zoomでのグループワーク): 令和3年9月4日(土)
- 受講者: 松下郁江(言語聴覚士 主任) 林香織(レジデント作業療法士)
 鏑木多映子(血液腫瘍科 医長) 若林大介(第三病棟看護師 技師)
8. 各診療科の治療支援:
- ①脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー症の薬物治療と併せた機能評価
 - ②ボトックス治療(整形外科)に併せた機能評価とポジショニング対応
 - ③身体障害者手帳・各種手当・障害者年金書類作成に関わる身体計測・評価の支援
 - ④退院に向けての医療職や学校との支援会議
- 個別リハ業務以外の患者対応業務は増えてきている。対象患者の治療及び生活支援もリハ業務の一部と考え、主治医と協力して対応したいと考えている。

【人材育成】

1. 外部機関・関連職種の見学研修: 依頼・問い合わせは数件頂いたが、原則禁止とし、文書・電話等・メールで対応させて頂いた。
2. 学会・研修会等の参加: 関連学会の多くはオンラインやハイブリット開催となり、院内や自宅での参加・発表となった。対面で情報収集が行えない点は残念であった。しかしオンデマンド研修は時間的に受講しやすく、基礎的な講義においては反復学習も可能であり、利点もあると考えられた。

【センター機能としての役割】

1. 理学療法学科・作業療法学科学生の臨床実習

今年度受け入れを予定していた学生実習関連のうち、実施予定時期の院内感染予防対策の基準に従い、院内実習受け入れられたものが2件、オンライン対応が3件であった。

①群馬大学医学部保健学科理学療法専攻 4年生

臨床実習令和3年8月17日~10月8日 オンライン38日間 指導者: 代美穂

②群馬大学医学部保健学科理学療法専攻 4年 臨床実習

令和3年10月25日~12月17日 院内38日間 指導者: 鳥越和哉

③群馬大学医学部保健学科理学療法専攻3年生 基本的臨床技能実習Ⅱ

令和3年12月14・15・17日 院内3日間 担当者: 秋山友香(レジデント)

④群馬パース大学保健学科理学療法学科2年生2名 見学実習

令和5年2月13日(月)~令和5年2月17日(金) 受け入れ停止

⑤群馬大学医学部保健学科理学療法専攻 3年生 臨床実習

令和4年2月14日～3月18日 オンライン18日間 指導者: 臼田由美子

⑥群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻2年3名 基礎評価実習

令和4年3月2・7・10日 オンライン3日間 指導者: 六本木温子

2. 群馬県臨床実習指導者講習会

臨床実習指導者資格取得のため受講した。

- ・理学療法士 臼田由美子 受講日: 2021年9月11日(土)・12日(日)
- ・レジデント作業療法士 林香織 受講日: 2021年12月4日(土)・5日(日)

3. 各職能団体に関連する活動

各職員の経験と専門性を生かし地域連携に役立つ活動と考え取り組んでいる。今年度の活動の多くは、オンラインでの取り組みとなった。

- 1) 日本小児呼吸器学会将来構想委員会委員: 臼田由美子
- 2) 群馬県呼吸リハビリテーション研究会世話人: 臼田由美子・熊丸めぐみ
- 3) 群馬県重症心身障害研究会世話人: 臼田由美子
- 4) 日本心臓リハビリテーション学会評議員: 熊丸めぐみ
- 5) 全国自治体病院協議会リハビリテーション部会幹事: 熊丸めぐみ
- 6) 群馬県理学療法士協会地域局小児リハ部員: 鳥越和哉
- 7) 群馬県作業療法士会発達支援推進グループ長: 六本木温子 部員: 窪田莉那
- 8) 群馬県言語聴覚士会言語聴覚療法発達・聴覚グループ部員: 松下郁江

(臼田由美子)

13. 栄養調理課

【人 事】

令和3年度は、人事異動で管理栄養士1名と調理師1名が転出、管理栄養士1名が転入し、正規職員6名(管理栄養士3名、調理師3名)と委託会社職員15名で業務を始動した。1月から管理栄養士1名が産休となった。

【業 務】

1. 食数は、一般食延べ38,344食(前年度比109.8%)、離乳食延べ6,309食(同105.7%)、特別食延べ1,850食(同118.1%)で、前年度と比較すると全て増加した。調乳数は、ミルクの人数延べ11,888人(同101.7%)、本数82,843本(同98.7%)、濃厚流動食・成分栄養剤等の人数延べ10,395人(同89.5%)、本数42,265本(同84.1%)であった。
2. 栄養指導は、全体で358件(前年度411件)、そのうち入院栄養指導が317件(同352件)、外来栄養指導が41件(同59件)であった。
3. 非常時(特に食中毒発生時)のミルク及び濃厚流動食・成分栄養剤の対応を決定した。
4. 食物アレルギー患者への対応として、1日入院の食物負荷試験(3日/週、3名/日)の負荷食材の提供と食生活全般や加工食品の表示の見方などの指導を行った。
5. 栄養委員会は、令和3年9月、12月、令和4年3月の3回開催し、新型コロナウイルス(COVID-19)陽性者の食事提供、ハラルミルクの対応、非常時のミルク対応等について協議した。なお、3月については、書面で開催した。
6. あさがおの会において、離乳食の講話を行った。

【学会・研修会等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、以下のとおりである。

件 名	期 日	場 所
全国自治体病院協議会群馬県支部栄養部会(書面)	12月	群 馬 県
第22回食物アレルギー研究会	2/4~3/6	オン ラ イ ン
第41回食事療法学会	3/4~3/13	オン ラ イ ン

(島田純子)

14. 臨床工学課

【人 事】

今年度は、正規職員 4 名で業務を行った。

【設 備】

医療機器購入は、シリンジポンプ (TE-381) 24 台、輸液ポンプ (TE-281A) 21 台、開放型保育器 (インファウォーマー アイ 蘇生装置・レサシフロー付) 2 台、新生児用人工呼吸器 (SERVO n) 1 台、血液凝固計 (ヘモクロンシグニチャー エリート) 2 台、低圧持続吸引器 (MS-009T) 2 台、空気-酸素ブレンダ (OA2015FV) 3 台、血液ガス分析装置 (フォックスウルトラ) 1 台を更新した。また、新型コロナウイルス対策補助金の申請を行い、人工呼吸器 (VN800) 2 台、ネーザルハイフロー装置 (ブレンダータイプ: 2 台、プレシジョンフロー: 1 台) を購入した。

【業 務】

今年度の体外循環症例は 75 症例で、昨年度比 104% (昨年度 72 症例) となった。最低体重は 2.2kg で総肺静脈還流異常症 (TAPVC)、最高体重は 61.3kg で肺静脈狭窄 (PVO)、平均 13.1 ± 11.9kg であった。無輸血手術は 27 症例 (36.0%)、手術室抜管は 21 症例 (28.0%) であった。術式別の症例数は、VSD closure 37 症例 (49.3%) が最も多く、次に ASD closure 11 症例 (14.7%)、大動脈スイッチ手術 4 症例 (5.3%)、PA plasty 3 症例 (4.0%) であった。また、緊急手術は 3 症例で、総肺静脈還流異常症が 2 症例、ECMO 管理中の左右冠動脈パッチ形成術が 1 症例であった。

心臓カテーテル検査は 170 症例で、その内バルーン拡張術 29 症例 (17.1%)、心房中隔欠損カテーテル治療 9 症例 (5.3%)、経皮的心房中隔裂開術 8 症例 (4.7%)、動脈管開存症カテーテル治療 8 症例 (4.7%)、心筋焼灼術 6 症例 (3.5%)、心臓電気生理学的検査 5 症例 (2.9%) であった。また、緊急心臓カテーテル検査は 5 症例 (2.9%) で、経皮的心房中隔裂開術が 4 症例で、ECMO 管理中の診断確定検査が 1 症例であった。

内視鏡手術は 120 症例で、緊急手術となった 12 症例 (12.0%) の内 11 症例が腹腔鏡下虫垂切除術で、1 症例が先天性横隔膜ヘルニア横隔膜縫合術であった。

血液浄化療法は 3 症例で、新生児消化管穿孔に対して DHP (直接血液吸着療法)・CHDF (持続血液透析濾過療法) 併用療法と、ECMO 管理中の CHDF 症例であった。

補助循環 (ECMO) 業務の 1 症例は、TGA 術後急性左心不全に対し ECMO を導入した症例で、3 日目 ECMO 管理下に心臓カテーテル検査を行い、冠動脈狭窄と診断された。翌日 (ECMO 導入 4 日目) に緊急手術 (左右冠動脈パッチ形成術) を行い、ECMO 導入 10 日目に無事 ECMO から離脱し、軽快退院となった症例である。

一酸化窒素吸入療法は 16 症例で、心臓周術期が 13 症例、新生児領域での 3 症例は、新生児遷延性肺高血圧症 (PPHN)、消化管穿孔による敗血症ショック、胎児水腫による呼吸不全であった。

今年度の低酸素吸入療法は 9 症例で、昨年度 (4 症例) と比較して倍以上増加した。また、窒素ブレンダの購入により、低酸素濃度の調整が簡便かつ安全に管理することが可能となった。

その他、植込み型ペースメーカーおよび ICD フォローアップが 76 症例と脳低温療法が 2 症例 (新生児重症仮死) であった。

ME 機器管理業務では、人工呼吸器、保育器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、麻酔器、人工心肺装置、血液浄化装置、補助循環装置、体外式ペースメーカー、除細動器、分娩監視装置など計 651 台

の定期点検をした。除細動器については、年1回のメーカー定期点検の他、3か月毎にスタッフによる除細動器安全点検や消耗品チェック等を行っている。また、PICU・NICU・手術室に設置している血液ガス分析装置においても1か月毎にスタッフによる定期点検を実施している。

人工呼吸器の使用 midpoint 検は、毎日機器の設定や動作確認、呼吸器回路の不具合等のチェックを行い、安全性の確保に努めている。今年度は6,050台の使用 midpoint 検を行った。発見したトラブルとしては、NPPV使用中の温度プローブ接続部キャップ外れ、加湿器の電源入れ忘れ、呼気側回路へのネブライザ接続などがあった。また、定期的(1ヶ月毎)に人工呼吸器の回路交換も行っている。回路交換件数は、120件であった。

ME機器の使用前に行う日常点検としては、人工呼吸器や麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプをはじめ、除細動器や保育器、人工心肺装置、補助循環装置、血液浄化装置、低圧持続吸引器など累積6,390台行った。麻酔器始業点検においては、日毎に担当者1名が8時30分までに全手術室(5台)の点検を行い、安全性の確保に努めている。また、心臓カテーテル検査室の麻酔器においては、全身麻酔症例毎に始業点検を行っている。今年度は合計で1,201台の麻酔器始業点検を行った。

今年度の新規購入機器の説明会は、人工呼吸器のトリロジー EVO に22名、SERVO-n に26名、VN800 に19名と窒素用ブレンダーに12名、低圧持続吸引器に10名参加いただき、取扱方法や特徴、トラブル時の対処法などについてのレクチャーを行った。

2022年2月から3月にかけて、群馬県立心臓血管センターの臨床工学技士1名が、成人先天性心疾患の知識向上のため、心臓外科手術と心臓カテーテル検査を中心に研修を行った。

その他、教育業務として看護部、各病棟に対するME機器説明会やトラブル対応等の勉強会の開催をはじめ、在宅へ移行する患者様や御家族の方へ機器の説明や臨床工学技士養成校への外部講師も行った。

【学会・研修等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、下記の通りである。

件名	期日	場所
第31回日本臨床工学会	5/22～5/23	熊本県(web)
全国自治体病院協議会臨床工学部会オンラインセミナー	8/31～11/30	オンライン
第46回日本体外循環技術医学会大会	10/25～11/24	東京(web)
第1回関東甲信越臨床工学会	10/31	群馬県(web)
第96回日本医療機器学会学術大会	12/13～1/12	オンライン

(関 明彦)

15. 薬 剤 部

【人 事】

令和3年度は正規職員が8名、嘱託職員1名、調剤助手3名と昨年度より臨時職員が1名減で業務を行った。

【業 務】

チーム医療の推進に関しては、薬剤師が ICT ラウンド・コアチームのメンバーとして参加し、感染防止対策加算1の取得に貢献した。また、ASTのメンバーとして抗菌薬適正使用支援加算の取得にも貢献した。TDMについては、医師から依頼を受けて各種検査値に基づき、最適な投与計画を提案し、抗菌薬の適正使用に貢献した。また、特定抗菌薬使用届の提出を徹底し、耐性菌の発生予防に寄与した。PICUで平日行われているカンファレンスに薬剤師1名が参加し、抗菌薬を含めた医師の処方設計を支援した。

<新型コロナウイルス感染症関連業務>

コロナウイルスワクチンの大規模接種センターを5月末から県が開設したため、当薬剤部からも6日/4週の割り当てで薬剤師を派遣し、ワクチン分取作業に従事した。10月末で一時派遣終了したが、ブースター接種のため1月中旬より派遣を再開した。小児コロナウイルスワクチン接種が当院で開始されるため、県営大規模接種センターへの薬剤師派遣は1月末で終了した。

昨年度3月より渋川地区分配分のコロナウイルスワクチン(コミナティ)の-80℃の超低温冷凍庫で保管管理を開始。当院での接種分154V(約770接種分)の溶解・希釈を実施し、6月上旬で終了した。また、昨年度に引き続き北関東循環器病院等10施設への厳格な温度管理を伴うワクチン供給を開始し、6月上旬に終了した。ワクチン接種に用いるシリンジ・ロットシール等の資材管理・供給についても同様に行った。

12月14日より職員に対するブースター接種が開始され、84V(約420接種分)の溶解・希釈を実施し、1月28日に終了した。

3月13日より渋川地区小児へのコロナウイルスワクチン接種が開始され、当院での接種分15V(150接種分)の希釈を実施した。

外来患者に対して、新型コロナウイルス対応における処方・電話再診で院外処方せんが発行された場合の流れを整えた。実際に院外処方せんが発行され、外来及び医事課と連携し、患者が安心して処方薬を受け取れるように調剤薬局へ連絡調整を68件実施した。

レムデシビルやアビガン等、入手経路が特殊なCOVID-19治療薬に関する情報入手・共有を実施した。

以上のICT・AST関連業務を行い院内感染対策に寄与した。

<薬剤管理指導業務>

薬剤管理指導業務は、昨年度3月中旬より新生児科の患者の保険算定を開始し、産科病棟の帝王切開及び切迫早産の患者及び第3病棟循環器科及び血液腫瘍科の一部患者に対し年間414件(昨年度より199件増加)の薬剤管理指導業務を行った。

<調剤業務>

入院処方箋枚数はほぼ横ばいで、院外処方箋の発行率は90.6%だった。

なお、医師業務負担軽減の一環として、院外処方箋に関する調剤薬局からの疑義照会受付の窓口としての薬剤部の対応は、748件であった。対応の結果処方変更となった場合、医師の業務負担軽減のため電子カルテへの薬剤部での代行入力は278件であった。院内処方箋、注射箋に関する医師への問い合わせは1,201件であった。また、医師に代わり薬剤師が1,031件(院内処方箋、注射箋)の代行修正を行った。入院時の持参薬の鑑別報告は73件191剤数となった。

<無菌調製業務>

抗悪性腫瘍薬の調製及びTPNの無菌調製を実施した。

抗悪性腫瘍薬の注射剤は調製者の被爆が問題となることから、平日だけではなく休祭日も薬剤師が安全キャビネットでの調製を行った。特に揮発性の高い薬剤は、調製者保護のため抗がん剤曝露閉鎖システムによって調製している。

退院後も在宅でTPNを継続して使用している患者については、TPNを無菌調製できる調剤薬局との連携、退院時には調剤薬局での対応可能日までの輸液の調製・交付を行うなど、個々のケースに応じてきめ細かい対応を行った。

<製剤業務>

医師の要望により市販されていない小規格の坐剤、麻薬を含むMK注腸液、医薬品以外の物を原料とするカラヤ軟膏、安息香酸Na注射液の注射剤等の調製を行った。また、昨年度薬事委員会にて院内製剤の取り扱いについて(一社)日本病院薬剤師会「院内製剤の調製及び使用に関する指針Version1.0」を遵守することが承認され、令和3年度より運用を開始した。

<DI業務>

「薬剤部インフォメーション」として、医薬品の適正使用に関する情報や薬事委員会で採用となった医薬品に関する情報提供を行った。厚生労働省からの「医薬品・医療機器等安全性情報」は情報が迅速に伝わるようメールによる直接配信を行った。また、各部署からの照会に随時応じ、情報提供件数は299件であった。

<退院時服薬指導業務>

第3病棟・産科病棟の一部の患者に対し退院時薬剤情報管理指導を行った。また、退院時薬剤情報管理指導料を算定していない患者に対しても、主に退院時の処方について薬効説明と注意点、飲み方の確認等を行い、薬剤情報提供書及びお薬手帳用シールを交付し、お薬手帳を所持していない方には手帳もあわせて交付した。また、当院の薬剤を常時在庫している保険薬局は少ないため、外来時に支障なく院外処方に対応できるよう院外処方の説明を行い、初回時には在庫の有無を電話確認するなど円滑に外来に移行できるよう対応した(退院時服薬指導144件)。

在宅療法支援担当看護師長と連携し、無菌調製製剤を必要とする外来患者と無菌調剤を応需できる保険薬局の間を調整し、院外処方せん応需と在宅患者訪問薬剤管理指導を実施できた。

<医薬品の適正管理>

在庫管理システムを使用し経営課と協力、入出庫管理を行った。また、各病棟に定数配置されて

いる医薬品については、定数を見直し院内在庫の適正化に努め、期限切れ薬品等、病棟配置薬の定期点検を実施した。

【薬事委員会】

令和3年5月13日、9月9日、12月16日、令和4年3月3日(書面会議)、計4回開催した。新規採用医薬品46品目(うち院外専用16品目)、購入中止医薬品47品目(うち製造中止品14品目)について承認された。特定の患児のみに使用し、それ以外は在庫を置かない一時採用品は97件だった。また、事務局提案による後発医薬品への切り替えは2品目であった。

今年度は出荷調整となった医薬品が多く、入荷困難な後発医薬品に関しては先発品に変更したり(3件)、他ブランドへ切り替え(10件)を行った。

(佐藤真理子)

16. 看護部

【看護要員】

- ・定数 211名 現員数 219名
(正規 203名、再任用 2名、会計年任用職員 14名)

*令和3年4月1日現在

- ・採用 1名 転入 6名、会計年度任用職員 1名
- ・退職 18名 正規 13名、会計年度任用職員 5名

【組織】

今年度は、キャリアアップ・チャレンジ制度において、看護管理コースの1名は3か月間自部署研修をし、その後3病院に出向し研修を行った。令和3年度看護部は、看護部長1名、副看護部長1名、各部署看護師長8名、教育担当師長1名(外来と兼務)、在宅療養支援担当師長1名、GRM 1名、感染管理認定看護師1名を配置し、連携を取りながら充実を図った。

令和3年度は、小児専門病院であり、総合周産期医療センターとして、安全で質の高い看護を提供するために、安全の強化・人材育成・病院経営への参画を課題として取り組んだ。新型コロナウイルス感染症対応2年目においても、軽症者宿泊療養施設、県営ワクチン接種センター(東毛、県央)、当院のCOVID-19入院患者対応、3月からは近隣地区の小児(5~11歳)新型コロナウイルスワクチン接種対応を、看護部全員で取り組んだ。

【看護活動】

看護部の理念

あたたかな心で患者と家族を支えます。

【令和3年度の目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) 教育の見直しを図る
 - (1) 教育方法を習得し指導に活かせる
(コーチング・ティーチング・ファシリテーション)
 - (2) フィジカルアセスメントを強化する
 - (3) JNA版クリニカルラダーを導入し定着を図る
 - (4) e-ラーニングを導入し活用する
 - 2) PNSの体制を強化する
 - (1) 教えあい、認め合い、協力し合う環境をつくる
 - (2) 看護職員個々が持っている暗黙知を共有することでスキルアップを図る
2. 安全への取組を強化する
 - 1) 医療安全
 - (1) 転倒によるヒヤリハットをなくし、手術中止を減らす
 - (2) 患者誤認を昨年度の50%削減する
 - 2) 感染対策
 - (1) COVID-19の院内感染を起こさない
 - (2) 個人防護具着脱の他者評価を100%実施する

(3) 全員が感染対策に対応できる体制をとる

3. 病院経営に積極的に参画をする

- 1) 病院の役割を認識し、病院全体としての病床を有効活用する
- 2) 業務改善に取り組む

【評 価】

1. 教育の見直しについては、JNA 版クリニカルラダーを導入し、4～6 月にかけて説明を行い、看護実践評価については、実践のプロフェッショナルである副看護師長が評価を行った。初年度であったため、各レベルが何を求められているかを理解してもらう機会となった。特にアセスメントができていないスタッフが散見された。

新人教育については、今年度の配属はなかったため、コロナ禍に対応できる教育を構築した。病棟指導者に看護部全体で新人看護職を育てることを周知するため、スライド作成や、病棟スタッフにミニ研修を開催してもらい準備を進めた。また、振り返りシートの見直しも行った。

教育においてはコロナ禍が続いているため、e-ラーニングを導入し、教育を中断させないようにした。1人あたり視聴済講義数は3.447でアクセス数は63.7% (3月9日現在)であった。コロナ禍で視聴をする職員もいたが、院内外の新型コロナウイルス感染症対応に追われて、視聴が進まなかった現状があった。

PNS の体制については、副看護師長会 PNSWG 継続し各部著の課題を抽出した。あるべき姿を再確認し具体的に取組の監査を行った。情報収集、患者ラウンド、対等な関係で意見が言い合え、自分の持っている知識や考え方も伝えることができていた (9 割)。患者の観察、記録内容の確認は病棟の看護師は、ICU 病棟以外は改善できた。リシャッフルが必要な業務調整が発生しなかったとの評価だった。

フィジカルアセスメント強化のため、BLS とフィジカルアセスメントとシミュレーションをセットにし、30名修了した。

2. 1) 転倒・転落については、全体で 50 件発生しており、そのうち手術中止 3 件であった。改善を図るため、アセスメントシートの分析、発生頻度が多い病棟の事象分析 (患者個別要因の抽出、危険環境の改善、家族との取組、医師の関わり (説明、注意喚起)) を実施し改善傾向である。
 - 2) 患者誤認 12 件発生しており、昨年度比 52.2%であった。幸いにも患者に大きな不利益になることはなかった。
 - 3) 繰り返しているヒヤリハットがあり、その一つとして NG チューブの事故抜去が全体 44 件 (昨年度 45 件) である。そのため、Ω 貼りの習得～正しい貼り方の周知 (技術)、RM 委員による意識づけの活動 (声かけ、指さし呼称、KYT) 抑制等アセスメントし、発達に合わせて使用状態の改善を行い、下期 13 件と改善傾向になった。
 - 4) COVID-19 の患者を今年度 183 名 (うち小児 104 名) の患者を受け入れ、二次感染を起こすことなくできた。これは個人防護具着脱の他者評価を 100%実施したことや全員が感染対策に対応できるようにしたことや、状況に応じてブラッシュアップしながら体制を取ることができた。
3. 病院経営については、円滑なベッドコントロールを行い、病床利用率は 73.4%となった。目標が 74.6%であったため、目標には届かなかった。MCH においては、1,400 万円弱の削減になった。入退院支援加算 3 は 165 名となり 200 万円弱の収益となった。業務改善については、重症度、医療・看護必要度については PICU 以外の病棟は中止した。各病棟では、病棟案内や安全などの

動画作成やクリニカルパスの作成を行った。看護職員の日勤のオリジナルユニフォームを変更して、勤務時間外の削減に取り組もうとしたが、ユニフォーム作成に時間がかかり、来年度の取組とする。

【次年度の課題】

第五次改革プランに合わせて目標決定する

1. 質の高い看護を提供する
2. 人材育成・人材確保を行う
3. 病院経営に積極的に参画をする
4. デジタル技術を活用した患者サービスを提供する
5. COVID-19の院内感染をおこさない

(清水奈保)

令和2年度院外研修(学術集会・研修会・セミナー・救護など)

主催	研修・学会名	日 程	場 所	氏 名	人数
長期	認定看護管理者セカンドレベル	6月1日～11月30日	前橋 群馬看護教育センター	浅野 香	1
	HPS養成講座	6/21～6/25、6/28～7/2	オンライン	狩野美紀	1
	医療安全基礎講座 2021	7月7日～9日	オンライン	小林志のぶ	1
	認定看護管理者ファーストレベル	9月1日～1月19日	前橋 群馬看護教育センター	藤井 美香	1
	新人看護職員実地指導者研修	10月4日～26日 5日間	前橋 群馬看護教育センター	宮嶋 佑紀	1
学会・研修会等集	2021年度小児在宅移行支援指導者育成研修	9月8日～9日	日本看護協会神戸研修センター(オンライン)	浅野 香	1
	群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会	3月2日	群馬県健康づくり財団(オンライン)	黒田 佐織 藤 織恵	2
	ALSOプロバイダーコース	3月19日、3月20日	群馬大学医学部保健学科	高橋 洋子 渡 敦美	2
群馬県看護協会	看護研究の基礎～これさえマスターすれば大丈夫～	6月29日	群馬県看護協会研修センター		1
	医療安全に役立つ看護記録	8月20日	群馬県看護協会研修センター		3
	看護研究の効果的なプレゼンテーションスキルの向上	8月31日	群馬県看護協会研修センター		1
	性暴力被害者支援の基礎～看護の力で被害者を守り支えるために～	9月11日	群馬県看護協会研修センター		1
	特性のあるスタッフに対する理解と接し方	9月17日	群馬県看護協会研修センター		2
	体内リズムと目覚め～よい眠りでよい人生を～	10月23日	群馬県看護協会研修センター		1
	国際助産師の日「LGBTQの基礎的知識と課題への理解」	11月6日	群馬県看護協会研修センター		1
	認定看護管理者研修(フォローアップ研修)	11月11日	群馬県看護協会研修センター		2
	災害支援ナースフォローアップ研修	12月16日	群馬県看護協会研修センター		2
県市町村職員合同研修	ティーチング&コーチング	8月24日	群馬県自治研修センター(オンライン)	小林志のぶ	1
	論理的な話し方	10月12日	群馬県自治研修センター(オンライン)	小池 智美	1
	マニュアル作成術～分かりやすい文書鎖表現と運用管理～	11月15日・11月17日・11月30日	群馬県自治研修センター(オンライン)	本多みさ子(15日) 萩原 梨絵(17日) 横尾美知代(30日)	3
	タイムマネジメント	12月14日	群馬県自治研修センター(オンライン)	和田 千穂	1

(1) 第一病棟

令和3年度は、看護師29名（うち院内異動3名）、看護助手3名、保育士2名でスタートした。看護師は7月に1名産休、12月に2名の退職、2月に院内異動で2名の看護師が他部署へ異動となり、同時に当部署へ2名が配属となったため最終26名となった。保育士は5月より新採用1名配属となったが、9月で1名が退職となった。

【令和3年度第一病棟目標】

1. 質の高い看護を提供する

1) 患者に合った看護が提供できる

(1) 患者満足度調査の評価が昨年度より改善する

(2) PNSを再構築する

①PNS監査を実施し、できていない部分を強化する

②パートナーが相互に承認し合い、自己目標が達成できる

③患者目標の達成に向けて考えながらペアで看護する

・カンファレンスを毎日実施する

・患者に合った看護計画を基に看護ケアを提供し評価できる

2. 安全への取り組み

1) COVID-19の院内感染を発生させない

(1) スタッフ全員がCOVID-19患者の看護を実践できる

(2) COVID-19看護に関する手順や書類を整備する

2) 患者誤認2レベル以上を0にする

3. 病院経営に参画する

1) 院内のベッドコントロールに協力する

2) クリニカルパスの新規運用を目指す

【結果・評価】

目標1について

患者満足度の評価が低かった項目について見直しを行い取り組んだことで、患者家族とのコミュニケーション向上に繋がっている。日々ペアでのカンファレンスによる看護計画の評価・修正はできているが、患者に合った看護計画の立案にまで至っていないケースも見られているため、今後の継続課題である。

目標2について

異動者も全員COVID-19患者の担当ができるようになり、マニュアルの整備もできた。COVID-19の院内感染は発生しなかったが、患者誤認に関しては下期で1件発生してしまった。

目標3について

COVID-19感染者増加に伴い、退院後すぐに清掃を実施して新規患者の受け入れを行う等ベッドコントロールを実践している。歯科1泊2日入院の新規クリニカルパスを作成し、運用を開始することができた。

(小林志のぶ)

(2) 第二病棟

令和3年度は、看護師24名(うち非常勤1名)、保育士2名、看護助手2名、クレーク1名で始動した。

外科・形成外科・整形外科・歯科 DAY とともに、子どもたちや家族の支援について、看護師だけでなく医師、臨床工学士、理学療法士・言語療法士・作業療法士、歯科医師・歯科衛生士、保育士、ソーシャルワーカーや在宅支援看護師、地域の保健師や訪問看護師と協力して取り組んだ。

【令和3年度第二病棟看護目標】

1. 自部署の看護の質について考察し、質向上のための改善策を実施する
 - 1) 看護の質向上のための取り組み3件
 - 2) 新教育体制・PNS体制の醸成により、個々がスキルアップする指標: (1) 新ラダーシステムでの自己研鑽目標を達成する(全員)
(2) PNS 監査票のワースト項目の向上
2. リスク感性を高め、アセスメント能力を向上させて、安全行動を強化する
 - 1) 患者誤認を昨年の50%に削減する
 - 2) COVID-19の院内感染を起こさない
3. 病院経営に関する知識を得て、業務改善に活かすことができる
 - 1) 経営に係る業務改善3件以上実施

【結果・評価】

目標1について

- 1) 昨年度の顧客満足度調査やご意見箱、日常のご家族の意見から、課題を見出し、3件以上の改善取り組みを完結した。また、各グループ活動や委員会活動で課題を解決することができ、入院説明の向上のためのツール作成、歯科 DAY 入院の転倒転落防止 DVD 作成、形成外科漏斗胸パスの改定、外科系パスの新規作成等が完成した。
- 2) 新ラダー評価システムでの目標達成については、副看護師長の各グループへの働きかけの成果もあり、90%到達することができた。PNS 監査によるワースト項目の向上も目標を達成することができたが、監査から見出された課題もあり、PNS 醸成に向けて次年度の取り組み課題としたい。

目標2について

- 1) 患者誤認については、RM や KYT の取り組みなどの成果もあり、年間を通じて0件にすることができ、前年度の50%減の目標を達成することができた。
- 2) 病棟内のRS感染増加やCOVID-19に関する病院全体の取り組みや病棟独自の環境衛生・手指衛生に関するリンクナースによる取り組みの成果で、院内感染を起こすことなく目標を達成することができた。

目標3について

- 1) 経営に係る取り組みとして、既存パスの修正や新規パスの作成を実施するとともに、パス対象患者に限り日曜日の入院枠を広げることにより、前年度の4倍の患者(日曜祝日入院)を受け入れることができた。そして、それらの取り組みが手術件数の前年度比40%増を達成する一因となったと考える。また、効率的な業務配分と時間管理を目指し、手術の進行状況をモニタで確認できるカメラシステムの更新を実施し、時間外勤務の削減を達成する一助とすることができた。

(石坂泰子)

(3) 第三病棟

令和3年度は、4月に看護師長が院内異動で配属となり、看護師28名(会計年度任用1名)、保育士2名、看護助手3名、クラーク1名で始動した。8月に看護師1名、12月に看護助手1名の退職があった。2月に院内異動で3名の看護師が他部署へ異動、同時に当部署へ3名が配属となった。

【令和3年度第三病棟看護目標】

1. PNSの体制を強化し、質の高い看護を提供する
 - 1) ティーチング・コーチング・承認行動を習得し、指導に活かす。
 - 2) フィジカルアセスメントを強化し、クリニカルラダー看護実践の「できている」という評価が60%以上となる。
 - 3) PNSのグループ・パートナー間、日々のペア間で情報共有し、看護計画に反映させ、看護実践する。コミュニケーション不足が要因のヒヤリハットが前年度比50%未満(前年度23件)となる。
2. 安全への取り組みを強化する
 - 1) 転倒や転落によるカテーテル検査・治療、手術中止を0にする。
 - 2) 患者確認を厳守し、患者誤認を0にする。
3. 病院経営に積極的に参画する
 - 1) 経営改善につながる業務改善を一つ以上実施し、成果を提示する。

【結果・評価】

目標1に関して

リーダークラススタッフの、承認行動やティーチング・コーチング技術の習得が少なく、指導に活かすまでには至らなかった。指導的役割を担うものが、率先して見本となる行動を実践することが課題である。クリニカルラダー看護実践の「できている」評価は60%以上得られた。PNSペア間での情報共有の実践の結果、カンファレンスの内容が看護計画に反映されていることが増え、コミュニケーション不足によるインシデント発生件数が6件と前年度比26%となり、結果として表れてきている。

目標2に関して

転倒・衝突による手術中止・延期は4件あった。転倒転落アセスメント評価を、患者家族目線で具体的に考えることができ始めてきている。患者誤認は2件見られた。基準を遵守しないことが要因であった。

目標3に関して

病棟案内について、写真の取り込みやDVDを作成している。それにより誰もが同様の説明を提供できること、説明時の時間短縮、患者・家族にとってわかりやすく繰り返し確認できる患者サービスに繋げていきたい。

(角田愉香理)

(4) NICU 病棟

令和3年度は、看護師35名でスタートした。5月病気休暇1人(11月復帰)1月病気休暇1人となった。8月と9月に看護師1名ずつ産休に入り、8月に看護師1名が育児休暇明けで配属となった。1月と3月に院内異動で看護師2名が異動した。3月末の時点で31名であった。

【令和3年度 NICU 病棟目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) 教育の見直しを図る
 - (1) 看護ケア評価表を導入し、異動者教育の達成率が 80%となる
(バックアップ体制強化・認定看護師の活用)
 - (2) JNA 版クリニカルラダーを意識して、ラダー評価表を活用できる
 - 2) PNS の体制を強化する
 - (1) ペアで認め合い、PNS マインドを醸成する
 - (2) PNS 体制を見直し、パートナーの経験を共有しスキルアップを図る
2. 安全の取り組みを強化する
 - 1) 医療安全
 - (1) レベル 3a 以上のインシデントを昨年度より 10%削減する
 - 2) 感染対策
 - (1) 医療者が媒介となる、感染症の拡大防止対策がとれる
3. 病院経営に積極的に参画する
 - 1) 患者の安全を念頭に医師や GCU と協働し、入院管理料を意識したベッドコントロールを行う
 - 2) 業務改善を実践し働きやすい職場環境を整備する

【結果・評価】

目標 1 について

看護ケア評価表は導入できたが、異動者の未経験項目があり 80%達成はできなかった。
認定看護師を活用し基本的知識や個別性を考慮したケア方法の習得につながった。
PNS で、情報の共有・経験や知識の共有ができるようになり、教育の向上につながった。

目標 2 について

3a3b インシデント 11 件が発生した。10%削減には至らなかった。
感染監査を実施し手指消毒の徹底を強化したが、新規 MRSA が検出された。

目標 3 について

入院管理料の勉強会を実施し、新たなベッドコントロールを開始することができた。
業務改善を行った結果、協力し合える体制を整えることができた。

(福島富美子)

(5) GCU 病棟

令和3年度は、看護師 22 名(うち会計年度 1 名)、看護助手 4 名でスタートした。5 月と 9 月に育児休暇明けの看護師が 1 名ずつ配属となり、10 月に 1 名が産前休暇に入った。3 月に院内異動で看護師 3 名が異動、2 名が配属、3 月末時点で看護師 22 名体制であった。

【令和3年度 GCU 病棟目標】

1. 看護師の役割・段階に応じた学習を行い、レベルの向上を目指す
 - 1) PNS 体制の強化
 - (1) PNS 実践監査を実施し上期より下期評価が 30%上昇する

- 2) フィジカルアセスメントの強化
 - (1) 患者ストレスサイン削減に向けた行動がとれる
- 2. 安全への知識を学び、予防のための体制づくりを目指す
 - 1) 感染対策
 - (1) 個人防護具着脱他者評価を2回実施し、2回目の評価が上がる
 - (2) 新規 MRSA 発生を0にする
 - 2) 患者誤認
 - (1) ミルク間違いを0にする
- 3. 病院経営に積極的に参画する
 - 1) 産後ケアマニュアルとチェックリストを活用し、産後ケア利用者を増やす
 - 2) 問題解決シートを使用し、業務改善に取り組む

【結果・評価】

目標1について

PNS 運用方法を見直し監査を実施した。結果が低い項目に重点的に取り組み、監査結果は86%から95%に向上した。またフィジカルアセスメントでは騒音調査を実施し、結果から手洗い場の水の量の調節、ごみ箱の蓋の開閉音を改善した。なだめのケアの学びを深め、アセスメントと関連付け看護ケアに反映させた。ストレスサイン削減への行動がとれた。

目標2について

個人防護具着脱他者評価を実施し、すべての項目で1回目より2回目は評価が上昇した。新規感染 MRSA は2件の発生があり、目標達成には至らなかった。ミルク間違いは0件を更新した。

目標3について

産後ケアについて勉強会で理解を深め、チェックリストの見直しを行い、記入率は30%から87%に上昇した。ベッドの稼働率が高く産後ケアは(6件から)4件に減少し達成できなかった。問題解決シートを使用できたのは一部のスタッフのみであったが、各グループが業務改善に係ることができた。

(黒田佐織)

(6) 産科病棟

令和3年度は、看護師6名、助産師16名(うち会計年度1名)、看護助手1名体制で開始。7月より助産師1名キャリアアップ・チャレンジ研修のため病院間異動となり、1名育休より復帰し、最終22名体制であった。

【令和3年度産科病棟看護目標】

- 1. 質の高い看護を提供する
 - 1) 助産・看護力の向上
 - (1) 助産師クリニカルラダーを完成させる
 - (2) 産科急変シミュレーションの実施により、フィジカルアセスメントを強化する
 - (3) 妊娠中から退院後まで継続看護の充実を図る
- 2. 安全への取り組みを強化する
 - 1) 医療安全: 検査と書類に係るインシデントを50%削減する

- 2) 感染対策: COVID-19 患者対応を全員ができるようにする (コロナ病棟・産科)
3. 病院経営に積極的に参画をする
 - 1) 周産期患者を積極的に受け入れ、病床を有効活用する
 - 2) 助産師外来の充実を図り、患者支援に反映する
 - 3) 患者サービスの見直しにより、患者満足度の向上を図る

【結果・評価】

目標 1 について

産科看護実践クリニカルラダーとし、助産に関わる看護師も評価対象として院内ラダーに置き換えて実施できるよう修正した。看護部の了承も得られたため次年度より実施予定。「産後出血」「肺塞栓」シミュレーションを実施 (参加率 100%)。妊娠中から産褥まで外来と病棟での継続看護のシステムを構築した。患者看護の充実と他職種 (母子室・地域連携室) との連携強化につながった。

目標 2 について

確認の場面のルール化と可視化を実施した。検査関連ヒヤリ・ハット件数は計 6 件 (昨年度比 45.5%削減) 目標には足りなかったが、患者確認の徹底とエラー削減につながった。

緊急が多い産科として COVID-19 の発生に備えた準備と Grade-A 時のシミュレーションを実施。他職種、他部署の協力を得て緊急時に備えることができた。

目標 3 について

母乳外来で COVID-19 のスクリーニングを感染対策室の協力により実施できた。乳腺炎での発熱患者にタイムリーに対応できたこと、患者目線でのパンフレットの見直しや作成を行ったことで患者サービスへつなげることができた。

(福田 円)

(7) 小児集中治療部

令和 3 年度は、看護師 28 名、看護助手 1 名、病棟クラーク 1 名、ドクタークラーク 1 名で始動した。6 月に看護助手が 1 名配属になり 2 名体制になった。10 月と 3 月に看護師 1 名が産休に入り、3 月の院内異動で看護師 1 名が他部署へ異動、3 名が配属となった。3 月に 1 名退職し、3 月末時点で 27 名であった。

【令和 3 年度 PICU 病棟目標】

1. 質の高い看護を提供する
 - 1) e-ラーニング等の研修を全員が 2 回以上受講する
 - 2) 全員が PICU ラダーの年間目標を達成する
2. 安全への取り組みを強化する
 - 1) チューブ・ドレーン関連のインシデントを 20%削減する (30 件以内)
 - 2) 感染対策行動の他者評価で全項目の遵守率が 80%以上になる
3. 病院経営に積極的に参画する
 - 1) 業務改善に取り組む

【結果・評価】

目標 1 について

コロナ禍であったが各自が e-ラーニング等の研修受講を計画し、全員が 2 回以上受講できた。PICU ラダーは、対象症例がないことで課題達成が一部進まない職員がいたが、それ以外は各自が事前学習と受け入れ準備を進め、指導担当者が受け持ち調整と指導を行い、協力して目標の 80% 以上を達成した。

目標 2 について

KYT での危険予知強化を PNS での実践につなげ、リスクアセスメントと観察を強化した結果、チューブ・ドレーン関連のインシデントは 29 件と目標達成した。しかし、挿管チューブの事故抜管など 3a 事象も含まれるため、今後は 3a の前段階で予防できるように取り組みを継続する。感染に関しては、5S 活動での環境整備と感染予防行動の強化により、下期は意識と行動の変化につながり、監査項目遵守率が 77% から 83% に上昇し目標達成した。

目標 3 について

下期は新たな加算として「早期離床・リハビリテーション加算」の取得準備を進め、プロトコールと手順・記録の整備、院内調整が完了し、取得申請を行った。5S 活動では機材室等の物品管理に取り組み、必要物品の見直し・整理と使用改善が行えた。その他、母乳管理業務の変更と夜間 PNS の導入など業務補完の整備により、記録と処置による時間外が下期は上期より 12% (月 70 分) 減少した。

(齊藤織恵)

(8) 手術室

令和 3 年度は、看護師 11 名 (うち院内異動 1 名)、看護助手 2 名でスタートした。9 月に看護助手 1 名が退職、看護師は 3 月に院内異動で 1 名異動、1 名配属となった。

今年度は看護部の目標に沿って、以下の手術室目標を挙げて取り組んだ。

【令和 3 年度手術室目標】

1. PNS 体制を強化して、手術を受ける患者・家族に寄り添ったより良い看護を行う
 - 1) フィジカルアセスメントに基づいた看護計画の充実を図る
 - 2) 術前・術後訪問を増やして看護展開に活用し、質向上に向けた手術室訪問を再構築する
 - 3) 事例検討会・倫理カンファレンスで倫理的問題や課題を検討できる
 - 4) PNS 体制・マインドについて再認識して相手の立場を考えて行動できる
 - 5) 拘束・補完について見直し、リシャッフルを行うことで時間外業務の偏りをなくす
 - 6) グループ活動を通してリーダー・サブリーダーの育成に繋げる
2. ハイリスク事例の情報共有を行い、ルールに沿った行動を「手術室ワンチーム」で取り組む
 - 1) 術中・回復室での転落事故を昨年度より 0% に削減する
 - 2) ヒヤリハット事例の情報共有を行い、再発防止に向けて「手術室ワンチーム」で取り組む
 - 3) ルールに沿った確認行動を行い、患者誤認を昨年度より 0% に削減する
 - 4) KYT を実施して医療安全への意識を高め、臨床場面で活用できる
 - 5) COVID-19 陽性患者のシミュレーションを行い、実践に活かせるマニュアルの整備を行う
 - 6) PPE の着脱方法を他者評価で 100% 行い、正しい方法で実施できる
3. 病院経営に積極的に参画をする
 - 1) 病院の役割を認識し、他部署との応援体制に協力する

- 2) 医師・SPD と連携して滅菌期限切れによる不良在庫を減らす
- 3) 業務ペアが責任をもって各手術室の整備を行い、他職種との連携を調整する

【結果・評価】

目標 1 について

記録委員が勉強会を行い、診断ラベルを抽出して看護計画を見直した。術前訪問を看護計画に反映させ、問題発生時には術後訪問して経過を確認した。倫理カンファレンス結果を手術室会議で発表し、スタッフの考えを知る機会となった。PNS 体制の見直しを行い、ペアで情報共有して看護計画を評価・記載した。ホワイトボードを活用して業務調整を行い、ペアやグループで補完しあいながら実施した。時間外業務のスタッフ間の偏りは 10 時間以内にする事ができた。

目標 2 について

転落事例 4 件あり。再発防止策として術中 30 分毎の転落確認を継続し、手術室会議で振り返った。e ラーニングで KYT を学習し、共通認識して事例検討を行い、安全リーダー業務を見直した。COVID-19 対応の産科シミュレーションを実施して手順を作成し、外科についても手順・シミュレーションを検討している。PPE 着脱の他者評価を実施し、課題をフィードバックした。

目標 3 について

滅菌期限の管理をカラーシールで見える化したことで確認しやすくなった。診療材料やセット化を見直して、スタッフ間で情報共有する器材管理を業務ペアで行うこととした。

(村上容子)

(9) 外 来

令和3年度の外来は、看護師 15 名(常勤5名、再任用1名、会計年度9名)、看護助手1名でスタートした。6月に看護助手1名が配属となり、11月に育休明けの看護師(会計年度)1名が復帰した。3月末時点では、看護師 16 名、看護助手 2 名であった。

【令和3年度外来目標】

1. 質の高い看護を提供する

- 1) e-ラーニングを効果的に活用し、自己研鑽に努める
(一人2つ以上視聴し、外来看護実践に繋げる)
- 2) 接遇を強化し、外来患者満足度を向上させる
(前年度よりも患者満足度がアップする)
- 3) 病棟・地域連携室など他部門と連携しながら、継続看護ができる

2. 安全への取り組みを強化する

- 1) 同じようなヒヤリ・ハットを繰り返さないように事象を共有し、全員が対策立案に関わる
- 2) 承認行動を継続する
- 3) 「指差し・声出し確認」を 100%実施できる
- 4) 個人防護具着脱をマニュアル通りに全員が行い、院内感染を起こさない

3. 病院経営に積極的に参画する

- 1) 経営改善につながる業務改善を 2 つ以上取り組む
- 2) 在宅療養指導管理料の算定漏れを防ぐ取り組みができる

【結果・評価】

目標 1 について

患者満足度については、前年度と比較し大きな変化はなかったためアップするという目標達成はできなかった。継続看護については、下期になり退院前訪問に病棟へ行くことができ、その情報をカンファレンスで共有し外来での継続看護に繋げることができた。

目標 2 について

「指さし・声出し確認」については、100%実施できるようになり目標達成できた。個人防護具着脱はマニュアル通りにでき、発熱外来や陽性者外来対応も確実に対応できた。同じようなヒヤリ・ハットが続いた時には、KYT チームが中心となり対策を検討し、外来看護師が同じ行動を取れる対策を実施し、その後はゼロになり対策の効果が現れた。

目標 3 について

業務改善は、電話相談や対応の方法を電話交換手と外来看護師で意見交換し、電話対応時間の削減ができた。また、形成外科外来について形成外科医師と話し合い、時間枠をつくり患者の待ち時間の短縮と待合室の混雑の軽減ができた。

(宮川祐子)

(10) サービス向上委員会

委員長: 都丸八重子 (看護副部長) 副委員長: 田村英昭 (総務課長)

委員: 今井正浩 (事務局長) 榎山兼大 (医事課) 小山亮太 (Dr) 清水真理子 (Dr) 内山陽介 (Dr)

堀川菜里 (生理検査課) 萩原祐輔 (放射線課) 六本木温子 (リハビリ) 河野美咲 (栄養)

新井咲紀 (薬剤) 若井美佳 (歯科衛生士) 瀬下明日香 (地域連携室) 石坂泰子 (第三病棟師長)

平田裕香 (第一病棟) 吉田知紗 (第二病棟) 井田智巳 (第三病棟) 高田やよい (NICU)

勝山ゆかり→牧山穂香 (GCU) 田中絢子 (産科病棟) 荒木七生 (PICU) 高橋健一 (手術室)

高野朝乃 (外来)

開催日: 定例開催日 4 回/年 第 3 火曜日 16:45～

【目 的】

1. 職員一人ひとりの接遇の向上を図る。
2. 患者・家族の権利を尊重し、思いやりのある医療サービスを提供する。

【活動報告】

令和 2 年度実施した患者経験値調査 (PX) を基に各部署の取り組みに重点を置いて活動した。

1) 患者経験値調査結果 (PX)

NHA (日本ホスピタルアライアンス) で行っている患者経験値調査 (PX) を行った。この調査は医療の質指標 (Quality Indicator: QI) の一つで、患者満足度調査 (Patient Satisfaction=PS) が主観的な「満足」を評価するのにに対し具体的で客観的な「経験」を尋ねるのが特徴で、医療の質改善に向けて具体的な課題が抽出しやすいとされている。PX を向上させることで患者の健康アウトカムの向上や医療資源利用の効率性向上、医療過誤の減少などに影響することが証明されている調査である。入院患者・家族を対象に有効回答数 113 名、外来患者・家族 143 名の回答を得た。昨年と比較しレベル・スコアとも向上し全国平均に近い結果であった。看護職員とのコミュニケーションでは、スコアは向上したが最優先課題の結果であった。医師とのコミュニ

ケーション、薬剤に関するコミュニケーションは優先度が下がった結果であった。退院時の情報提供、病院職員の対応、病院の環境は優先度低領域の結果であった。外来は待ち時間調査ができなかった。職員の対応、環境等改善が見られた。例年指摘されている設備に対しては患者家族の経験にさほどの影響がないことが理解できたが、選ばれる病院になるためには老朽化も課題と考える。この結果を真摯に受け止めサービス基本である接遇、優しい心をもって対応することを次年度の課題として取り組んでいきたい。

2) ご意見箱

入院中の看護職員個人への意見は、各所属との対応を行った。設備に関する意見はなかった。

3) 接遇への取り組み

挨拶への取り組みは前年度より引き続き院内にポスターを掲示し取り組みの明示を継続した。

4) ボランティア

コロナ感染症に伴いすべてのボランティアが中止となり意見交換会もできなかった。再開に向け定期的に連絡し要望等を確認したが長期にわたる中止により辞退されたボランティアもあった。早期の活動再開をボランティア共々強く望む。クリニックラウンは、オンラインを活用し子どもたちへ一時の楽しみを齎す結果となった。

5) 院内美化活動として持ち主不明の傘の撤去を行った。

令和3年度も各部署の委員を中心に全職員協力して、患者・家族へのサービス向上と職員の接遇に向けて活動を行った。

(都丸八重子)

令和3年度患者アンケート調査

I 目的

NHA患者アンケート調査を行い患者が医療サービスを受ける中での経験を「患者経験価値 (Patient Experience=PX) 調査」で、患者が病院で経験する一連のプロセスに着目し、患者サービスのプロセス改善により患者満足度の改善を目指す。また入院患者アンケート調査でNHA加盟病院との比較により当院の現状を知る。

II 調査期間

病棟: 令和3年10月

外来: 令和3年11月

III 調査対象

調査期間内に当センターに入院または外来受診した患者と家族

病棟: 第一病棟・第二病棟・第三病棟・産科病棟・PICU・NICU・GCU

外来: 総合内科・循環器科・神経内科・アレルギー科・新生児科・腎臓内科・呼吸器科・形成外科・外科・心臓血管外科・整形外科・血液腫瘍科・耳鼻科・脳神経外科・麻酔科・内分泌代謝科・産科

IV 調査結果

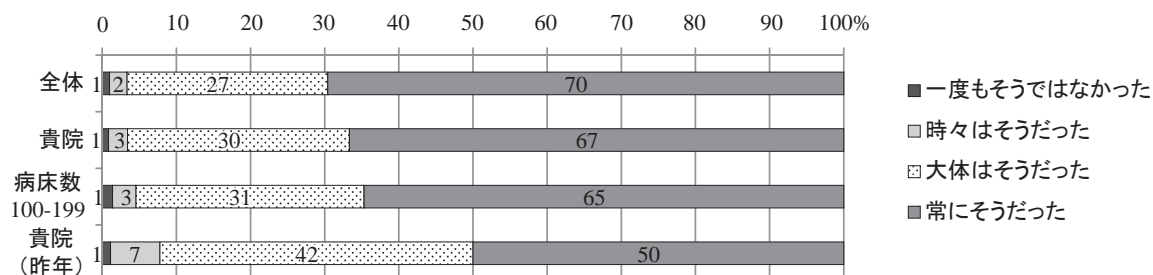
NHA規定の調査用紙にて以下の内容に関して調査分析を行った。

1) 調査内容

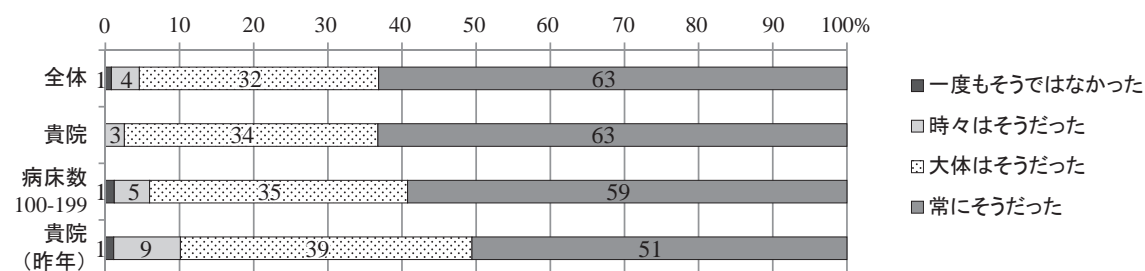
看護師とのコミュニケーション、医師とのコミュニケーション、病院職員の対応、病院の環境薬剤に関するコミュニケーション、退院時の情報提供、外来時の対応

2) 入院患者 113 名から回収 (有効回答名)

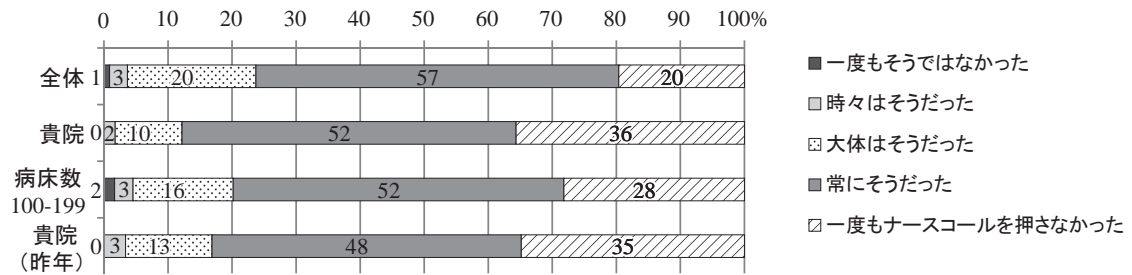
①この入院中、看護師は礼儀と誠意をもって接しましたか。



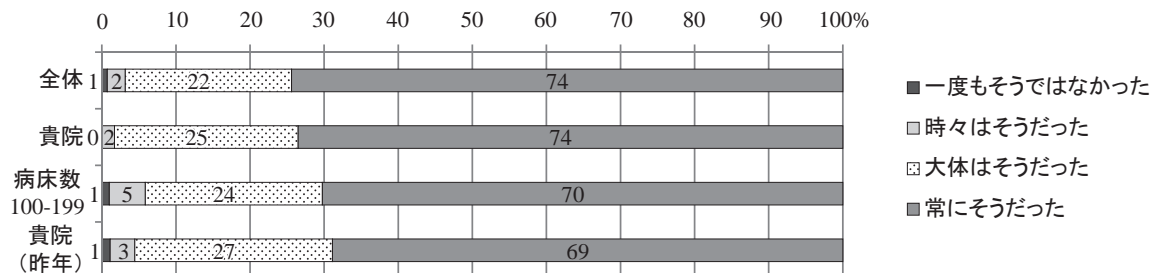
②この入院中、看護師はわかりやすく説明しましたか。



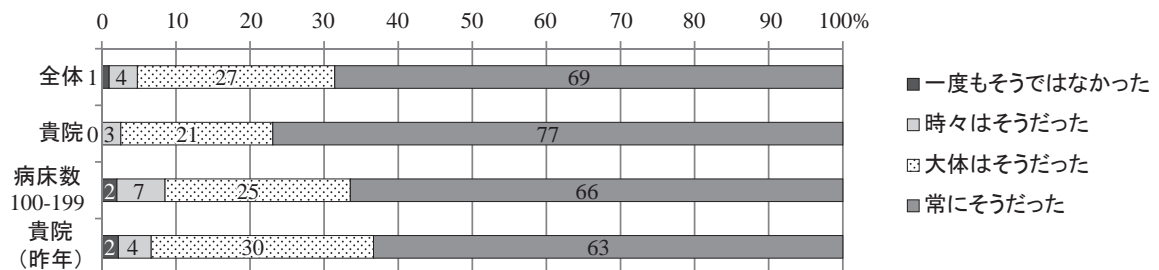
③この入院中、ナースコールを押した後、すぐに援助が受けられましたか。



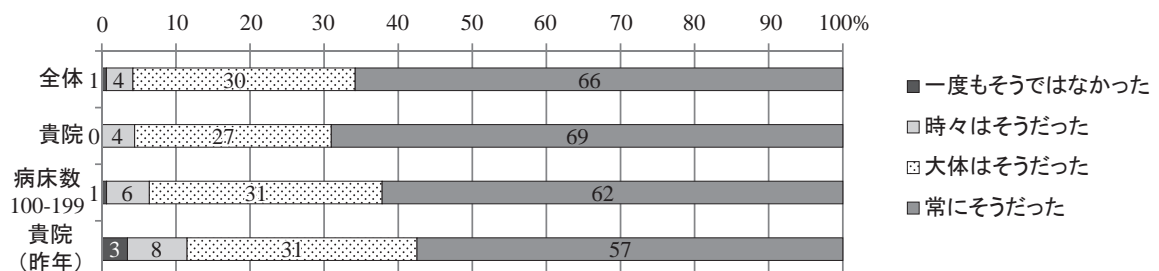
④この入院中、医師は、礼儀と敬意をもって接しましたか。



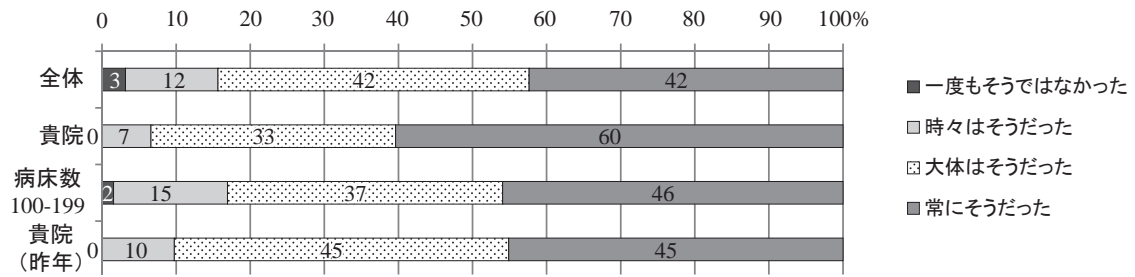
⑤この入院中、医師は、わかりやすく説明をしましたか



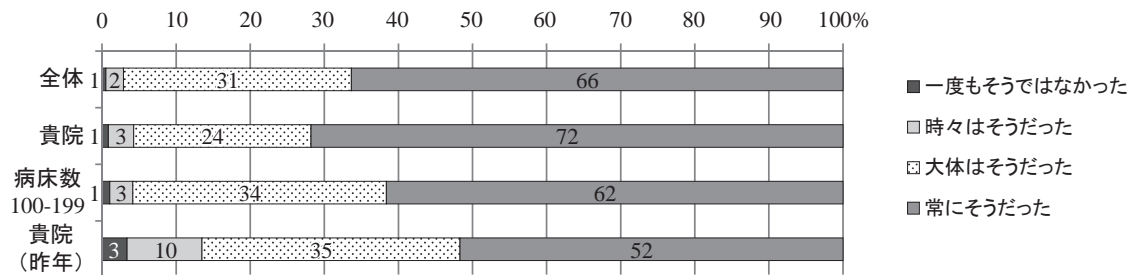
⑥この入院中、病室とトイレは、清潔に保たれていましたか。



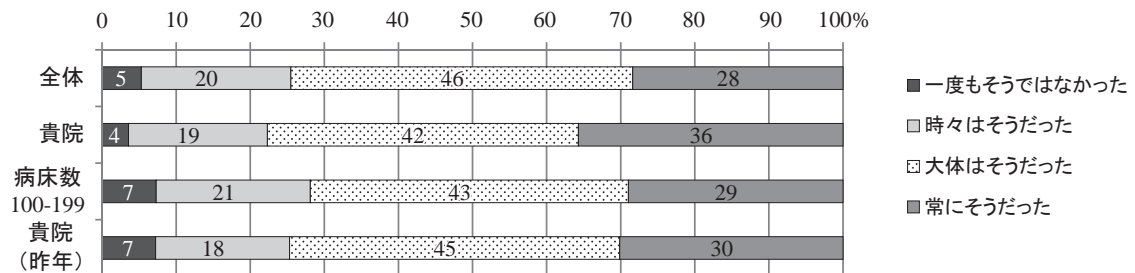
⑦病室の周囲は夜間静かでしたか。



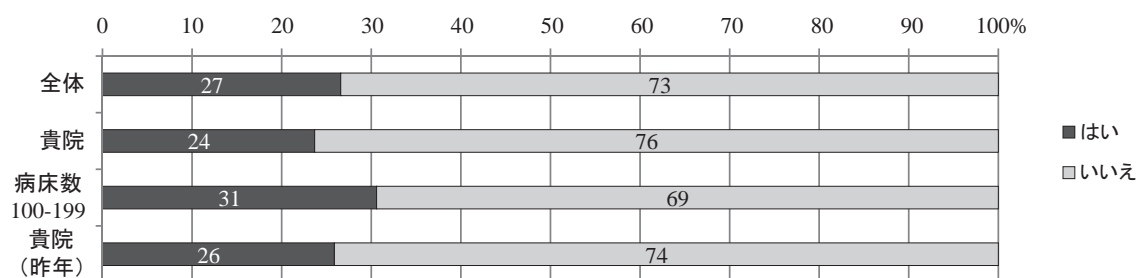
⑧安全に医療サービスが行われていると感じましたか。



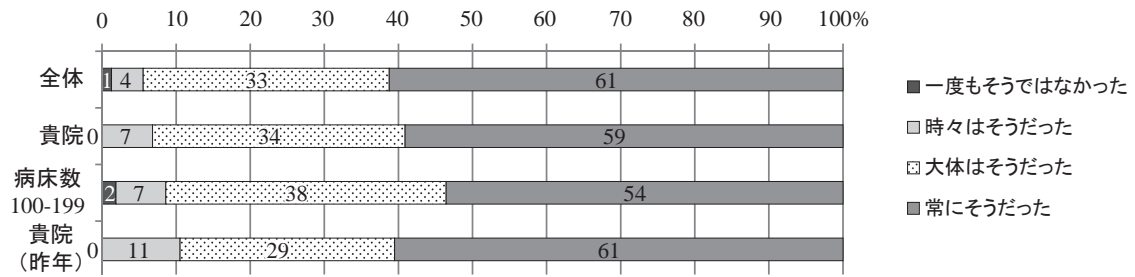
⑨食事内容として満足のいくものでしたか。



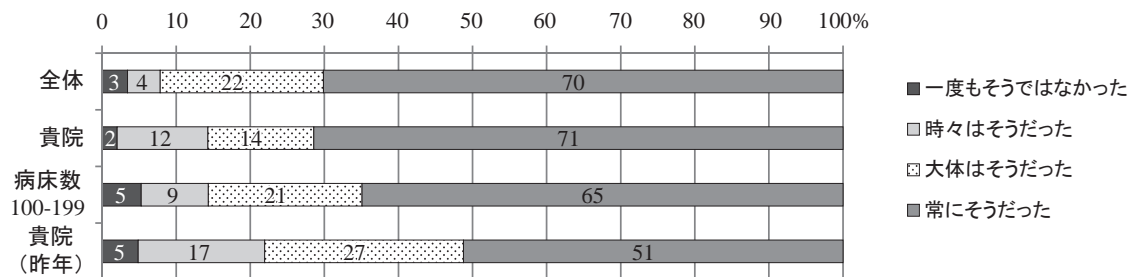
⑩トイレや尿器・便器を使用する際に、すぐに介助を受けられましたか。



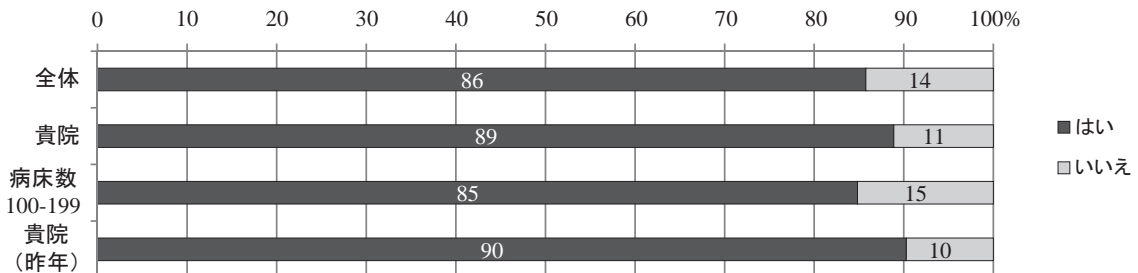
⑪ 病院のスタッフは痛みを減らすため、できるすべてのことをしてくれましたか。



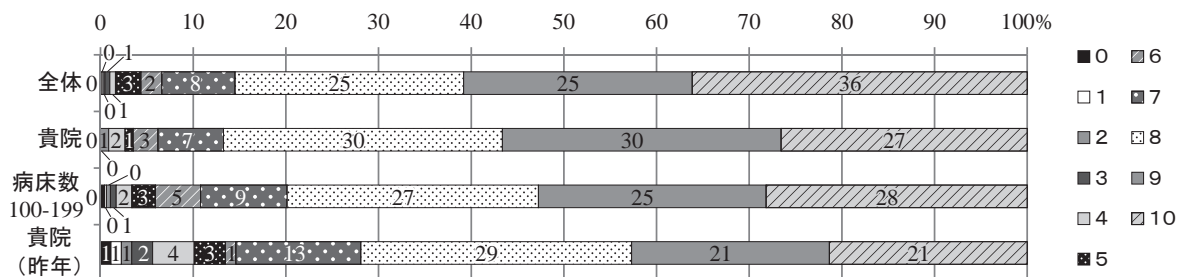
⑫ 新しい薬を渡される前に、病院スタッフは、それが何のための薬であることを説明しましたか。



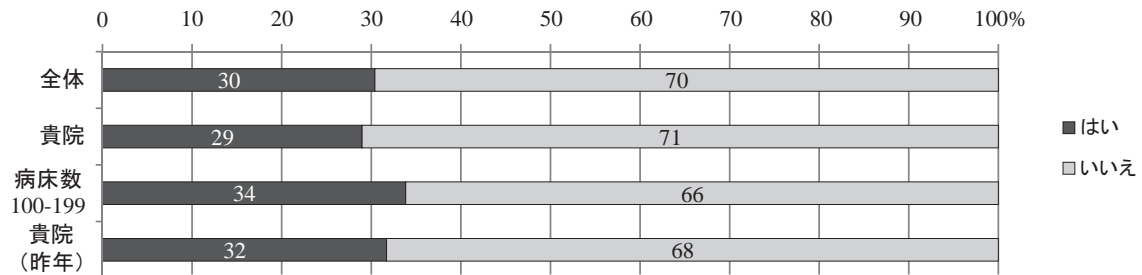
⑬ 医師や看護師、または他の病院スタッフは、退院後の必要な援助について話をしましたか。



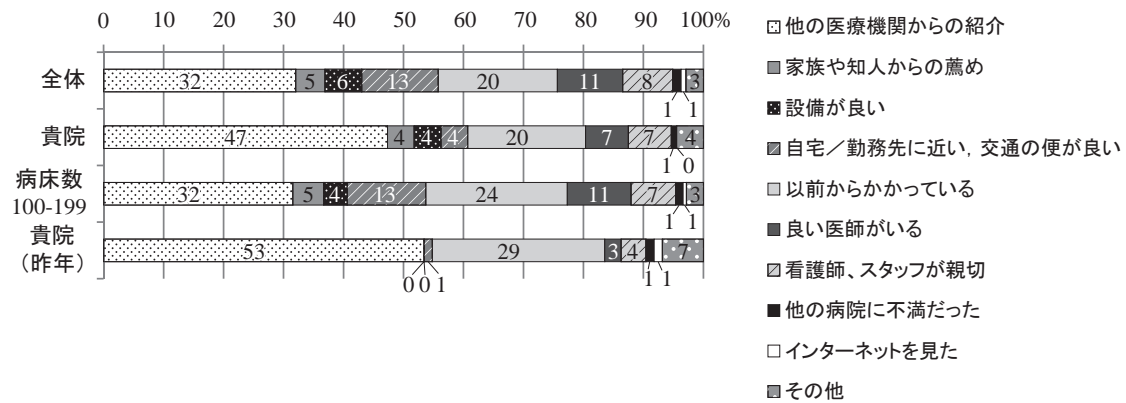
⑭ 入院中のこの病院を 0 から 10 点で評価してください (最も悪い場合を 0 点、最も良い場合を 10 点とします)。



⑮この病院に緊急(救急)患者として入院されましたか。

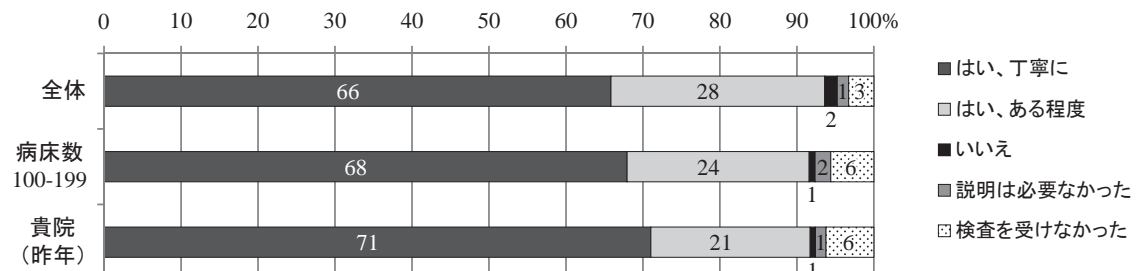


⑯この病院を選択した理由をお選びください(複数選択可)。

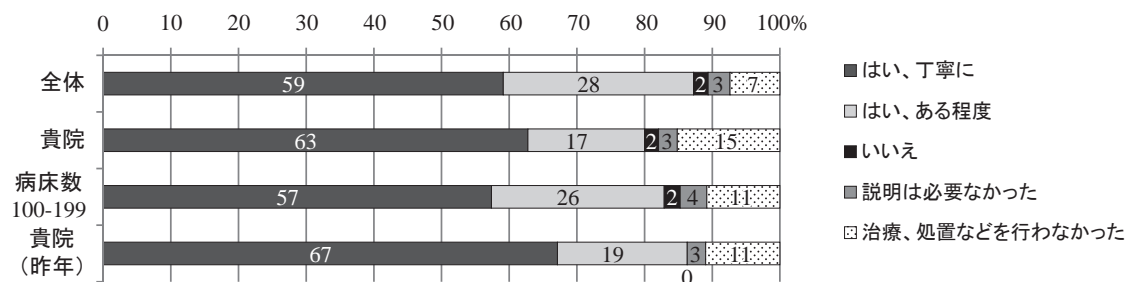


3) 外来患者名より 142 名回収

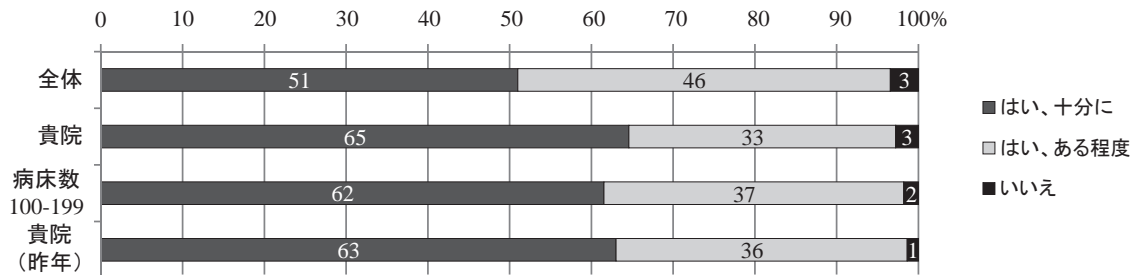
①医師はあなたが理解できる方法で、治療や処置の理由を説明しましたか。



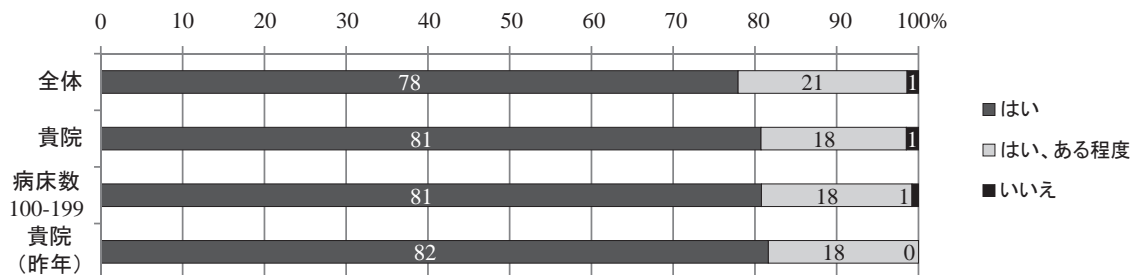
②治療前に医師は、治療内容の説明をしましたか。



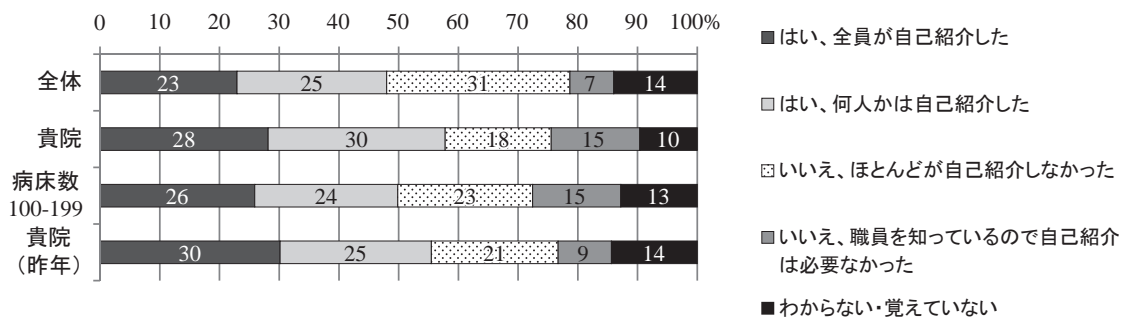
③あなたは、話しかかったことを医師に十分に伝えられましたか。



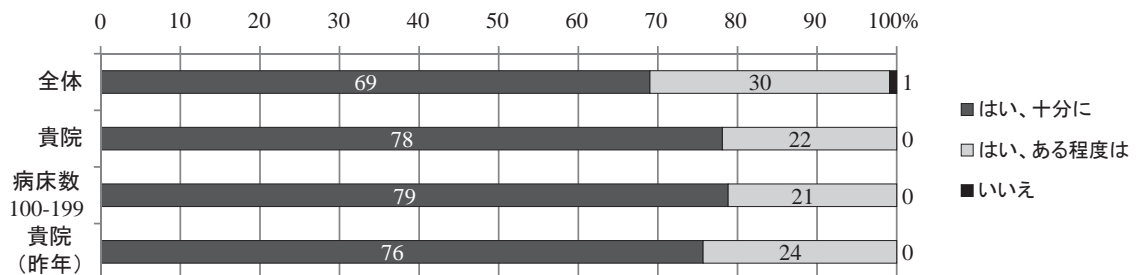
④医師はあなたが理解できる方法で、治療や処置の理由を説明しましたか。



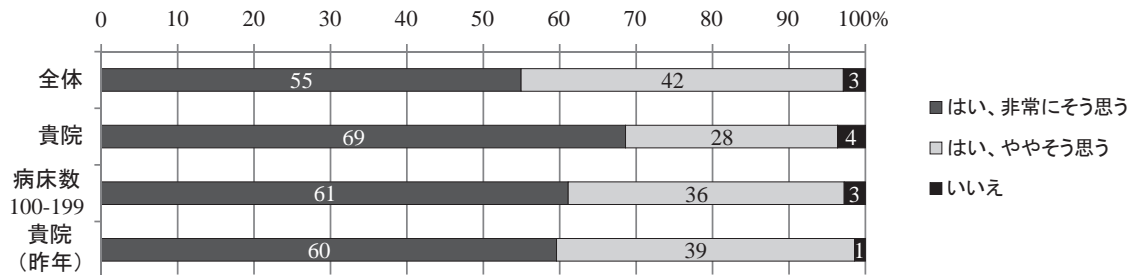
⑤診療に関わる職員は自己紹介しましたか。



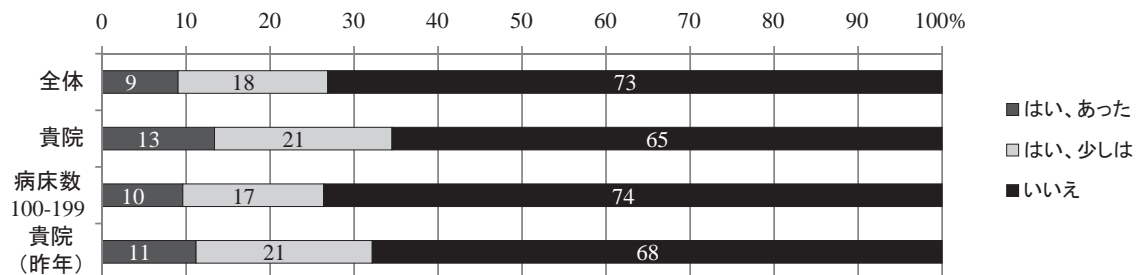
⑥職員はあなたに誠実に対応しましたか。



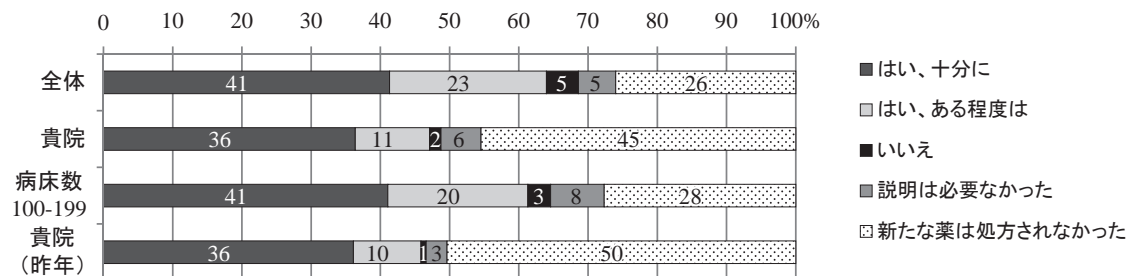
⑦あなたの意思が治療方針に十分反映されたと感じましたか。



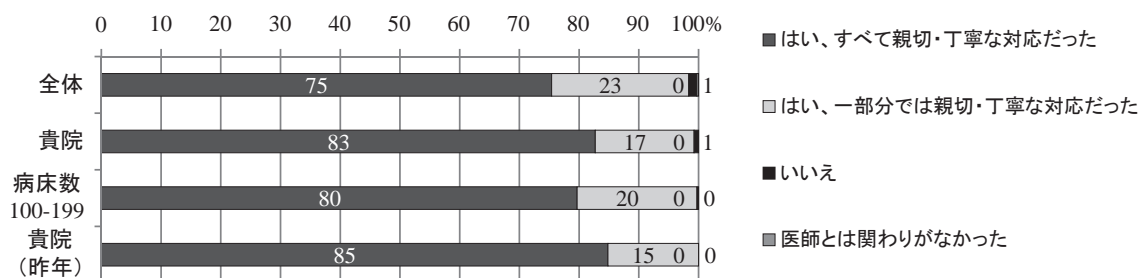
⑧あなたは、伝えられる情報が職員によって異なっているという経験がありましたか。



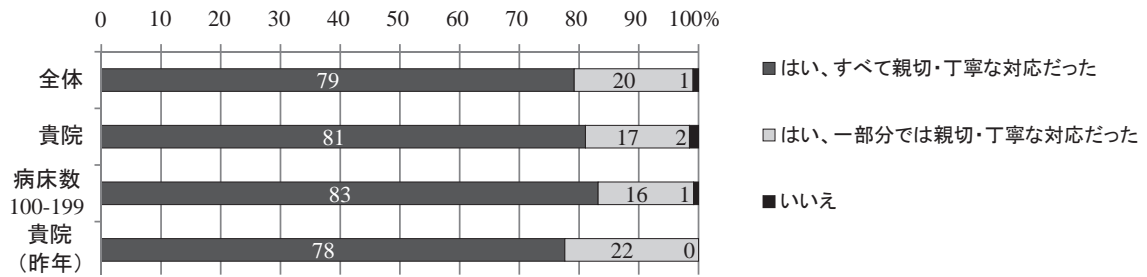
⑨医師や職員は新たな薬が処方された時その薬を服用する方法を説明しましたか。



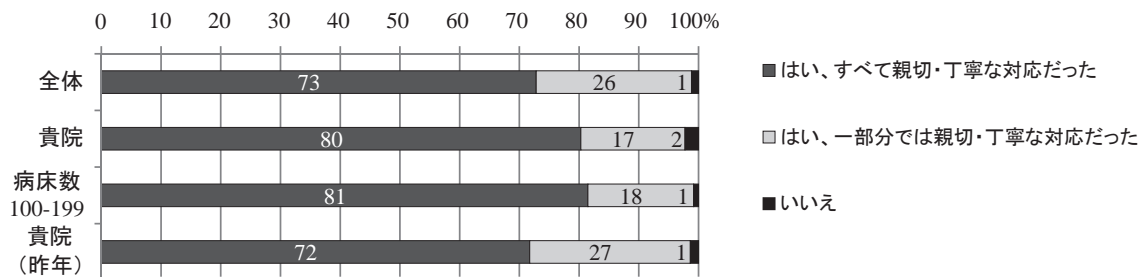
⑩医師の対応は親切・丁寧な対応でしたか。



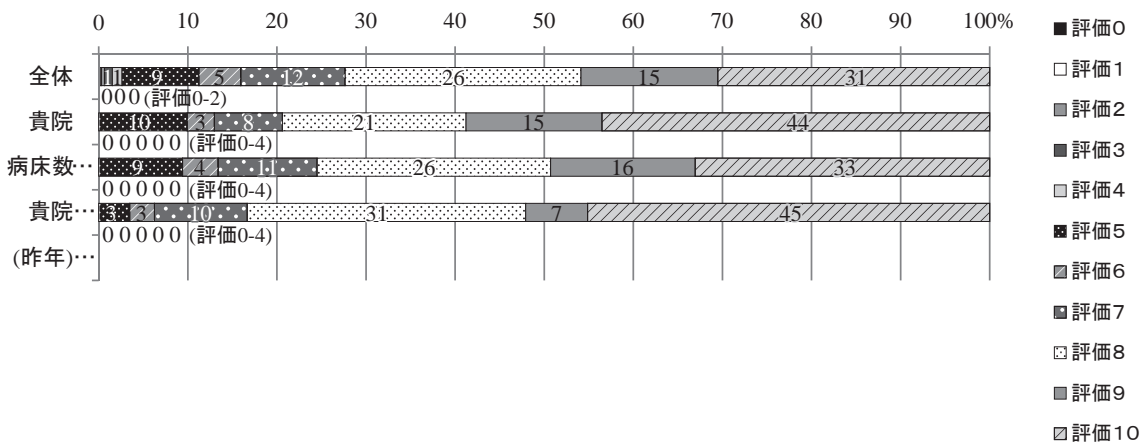
⑪ 看護師の対応は親切・丁寧な対応でしたか。



⑫ 医師・看護師以外の職員の対応は親切・丁寧な対応でしたか。



⑬ 当院の外来経験はあなたにとって価値のあるものでしたか。



4) 結果

NHA調査分析から入院患者については以下の報告があった。

- ・他病院との比較では改善が望まれる
- ・最優先課題は看護師とのコミュニケーションである
- ・PXレベルがDレベル、PXスコア 56.64 と上昇した。病院の環境、職員の対応の優先課題は低かった。

外来調査について

- ・医師・看護師それ以外の職員の対応は概ね丁寧な対応ができた。
- ・全体評価でもおよそ半数の患者・家族が価値のあると思っている。

V まとめ

前年度同様当院の特徴から紹介患者が多かった。PXレベルがDからCへPXスコアは42.7から56.64と改善を示したが平均スコア59.06と平均には及ばなかった。病院環境、病院職員の対応は平均以上、昨年指摘のあった薬剤に関するコミュニケーションに対しては、医師とのコミュニケーションにより病棟薬剤師の配置ができなかったが改善できた。昨年同様看護師とのコミュニケーションについては、最優先課題として引き続き取り組んでいきたい。選ばれる病院になるため、スタッフ一同またサービス向上委員会を中心にサービスの基本である接遇と職員の行動変容に努めていきたい。

(サービス向上委員会)

17. 母子保健室

(1) はじめに

当室は、昭和 57 年のセンター開院時から『高度医療を背景として、保健所や市町村の母子保健に対する専門的保健指導を担う部門』として設置され、現在、子どもたちの健やかな成長と発達を支援することを理念とし、入通院児をもつ家族支援に対応するため、多様な相談を受けつつ関係機関との連絡調整機能を担っている。

令和 3 年度の母子保健室の室員は、室長 (院長が兼務)、保健師 3 名 (駐在 1 名・駐在会計年度職員 1 名・会計年度職員 1 名)、臨床心理士 1 名 (会計年度職員) の 4 名体制で、地域医療連携室の MSW や在宅療養支援師長と連携しながら相談業務に従事している。

近年、社会情勢の変化や家族背景が変化している中、虐待予防も見据えて院内外関係者の多くの協力をいただきながら関係機関との連絡調整や支援会議を開催するなど、緊急性と継続支援の必要性が高い案件がますます多くなっている。このため、院内各部門及び地域の保健・福祉・教育関係者等と適時に協議しながら連携を深め家族支援を行っている。

(2) 令和 3 年度実績

①精密健康診査

市町村の乳幼児健康診査の結果、精密検査該当で受診した児について、必要に応じて市町村保健師と連携を図り、受診同席を行いながら受診結果の把握及びその後の支援を行っている。

令和 3 年度の受診者は 90 人、受診結果は要観察 51 人 (56.7%)、要治療 21 人 (23.3%) で、要観察児は当センター外来又は市町村でフォローアップされている。

②子どものこころの発達相談

子どもの心理的な発達を支援するため、月 1 回の神経内科医による相談と臨床心理士及び保健師による相談を随時実施し、相談終了後には主治医を含めたカンファレンスを行っている。

相談者は、主に院内各診療科からの紹介で、他に前年度の継続事例や通院中の保護者からの相談となっている。実人数 23 人、延べ人数 29 人であった。相談内容は、コミュニケーションや行動などの発達や発達特性に関する内容が多く見られた。

③新生児・未熟児病棟入院児の退院連絡

退院後の養育状況の把握と育児支援を目的として、市町村保健師に家庭訪問を依頼している。継続支援には地域との連携が不可欠であり、令和 3 年度の訪問依頼件数は 196 件であった。

訪問依頼への返信数は 178 件。新型コロナウイルス感染症の蔓延のため訪問できないケースが見られた。

情報提供書として退院後 2 週間以内に市町村に連絡することを目標に各病棟や医事課スタッフと連携して早期に連絡できるよう努力している。

④育児相談及び関係機関との連携状況

育児に関わる一般的な相談をはじめ、療育や受診に関わる相談と支援に伴う関係機関との調整を行っている。内訳をみると、家族からの相談が 747 件、市町村との連携が 575 件、院内関係部署との連絡調整が 426 件であった。支援や事業に伴う関係機関との連絡総数は件で、連絡方法別にみる

と、電話が 1,111 件、面接が 899 件であった。

⑤関係機関連携会議

環境等の調整が必要な家庭の支援のため、地域機関(市町村、児童相談所、学校、保育所等)との間で連携会議を開催しており、令和3年度は34回開催した。

⑥子ども虐待防止対策事業(母子保健室・地域連携室)

地域医療連携室と協働で事務局を担っている。院内虐待防止委員会のもと緊急対応や虐待防止に向けての研修会などを開催した。

詳細については、地域医療連携室の事業内容を参照していただきたい。

⑥臨床心理士による発達検査及び心理カウンセリング

当院は総合周産期母子医療センターの機能をもつことから、極低出生体重児全員の成長発達確認(1歳6か月・3歳・6歳時点の発達検査等)及びその他主治医が必要とした児の心理検査やカウンセリングを行い、必要に応じて地域との連携を行っている。

令和3年度における心理検査は、対象188名で延べ250検査、新生児科からの依頼が79%、続いて神経内科から14%であった。心理カウンセリングは、対象78家族で延べ516回、神経内科からの依頼が30%、続いて新生児科から26%であった。神経内科からの依頼が増加している。

⑧産後ケア事業

令和元年度から産後ケア事業を受け入れ産科病棟で開始された。実施主体は市町村であるため、利用する場合の市町村等への連絡調整を行った。

⑨研修会等

看護大学学生への実習中の講義等を適時行っている。

院内では看護部の新規採用職員研修、院外では群馬大学保健学科ではゲスト講師、医療的ケア児等コーディネーター養成研修での講師なども勤めた。

⑩先天性代謝異常等マス・スクリーニング事業

本事業の事務局として、患者情報の管理(精密検査対象児及び継続治療児等のフォローアップ)を行っている。平成25年10月からタンデムマス法検査の導入がされ、現在、発見可能な疾患が20疾患となった。保護者の不安等への対応については、地域機関である保健所・保健福祉事務所と連携して不安の軽減と解消に努めている。

また、毎年度、先天性代謝異常等対策検査検討会を開催している。

(3) まとめ

母子保健室はセンター開院時から病院と地域との橋渡し役として、多くの保護者から相談を受け、相談内容に応じて関係機関との連絡調整の役割を担ってきた。

特に、ここ数年は婚姻外出産、育児経験不足(養育力低下)、家庭環境不全、育児支援者の不在、経済的困窮等の要支援家庭の増加や、障害受容が困難な家族、虐待事例等、児童相談所等の関係機関との調整や家族支援に時間を要するハイリスク事例がますます増加している。

産科病棟等協力し、産後ケア事業もスタートした。当院で出産した産婦さん方の必要なフォローのため市町村等の連絡調整に努めている。

今後も疾患を抱えながら成長していく子どもたちと見守るご家族が安全かつ安心して日常生活が過ごせるようひとり一人の相談に真摯に向き合い、主治医と相談しながら母子保健室ならではの多職種のチームとして得意分野を最大限発揮した相談体制に努め、関係セクションとの協働を継続し、地域の関係機関との連携を強化していきたい。

(吉野日茄乃)

18. 地域医療連携室

地域医療連携室は2階のリハビリテーション室隣に新設後4年目を迎えた。地域医療連携室(相談窓口)にはメディカルソーシャルワーカー(MSW)2名、在宅療養支援担当の看護師長1名が常時、勤務している。在宅療養・退院に向けた支援、福祉制度の案内、心配事やお困り事の相談などを受けている。患者様をご紹介いただく窓口(予約・受付窓口)は受付の地域医療連携担当が受けて地域医療連携室長および当該科医師と相談して対応している。退院時共同指導料2、介護等連携指導加算、患者サポート体制充実加算の3つの加算を取得し、毎週、金曜日午前には定例の患者サポートカンファレンスを行っている。医療連携のより一層の充実に向けて取り組みをすすめている。

(野村 滋)

19. 医療安全管理室

1. 令和3年度医療安全管理体制

医療安全管理室長 院長補佐兼医療局長 浜島昭人

専任安全管理推進者(ゼネラルリスクマネージャー:GRM) 看護師長 大平典子

非常勤職員 1名

委員会等	開催日	構成員	令和3年開催実績
医療安全管理委員会 ＜医療安全管理体制の方針決定機関＞ 委員長: 浜島院長補佐 副委員長: 小林副院長 大平 GRM	原則毎月 第2火曜日	28名	定例12回
診療関連死原因検討委員会 委員長: 浜島院長補佐 副委員長: 小林副院長	原則月1回 開催日随時決定	24名	11回開催
リスクマネジメント委員会 ＜医療安全対策の実行機関＞ 委員長: 大平 GRM 副委員長: 小林師長	原則毎月 第3水曜日	30名	定例12回
看護部リスクマネジメント委員会 ＜看護部内の医療安全対策検討＞ 委員長: 大平 GRM 副委員長: 小林師長	原則毎月 第3水曜日	11名	定例12回
患者相談窓口	責任者: 地域医療連携室長		相談件数4件

2. 令和3年度医療安全講演会・研修開催状況

対象	開催日	参加人数	参加率	テーマ・内容	講師
全職員対象	R3.6.8～8.31	394	100%	医療における説明義務、カルテ記載の意義	水沼直樹 病院局法律相談弁護士
	R3.10.1～10.29 R3.11.1 締切	449	100%	患者確認自己評価	
	R4.1.18～1か月	441	100%	チームで患者安全を実施する	国保旭中央病院 鈴木 真 医療安全室顧問
	R3.4.21/4.30	124	統一救急カート勉強会	下山伸哉 部長 木島久仁子 副主幹 茂木歩美 技師 諏佐和也 主任	
	R3.12.1～12.20	406	虐待を見逃さないポイント	前橋赤十字病院 溝口史剛 小児科医	
	R4.3.1～3.14		臨床工学課インシデントレポートまとめ	臨床工学課 下田隼人 主任	
	R4.3.1～3.14		MRI 安全講習	放射線課 大川夏樹 レジデント	
	R4.3.15～3.28		医療ガスに係る安全管理のための職員研修	医療ガス安全管理委員会	
看護部	R3.7.12/7.16	経腸栄養システム取り扱い(JMS)			
	R4.2.25	KYT 危険予知訓練・取り組み報告			

3. 医療事故及びヒヤリ・ハット事例調査集計

1) 医療事故及びヒヤリ・ハット報告数

911 件。R2 年度比較 104 件減少 (10.2%) 3b: 4 件 レベル 4 以上の発生なし。
件数は減少し、全体の 83.9%はレベル 1 以下であった。

2) 項目別発生割合

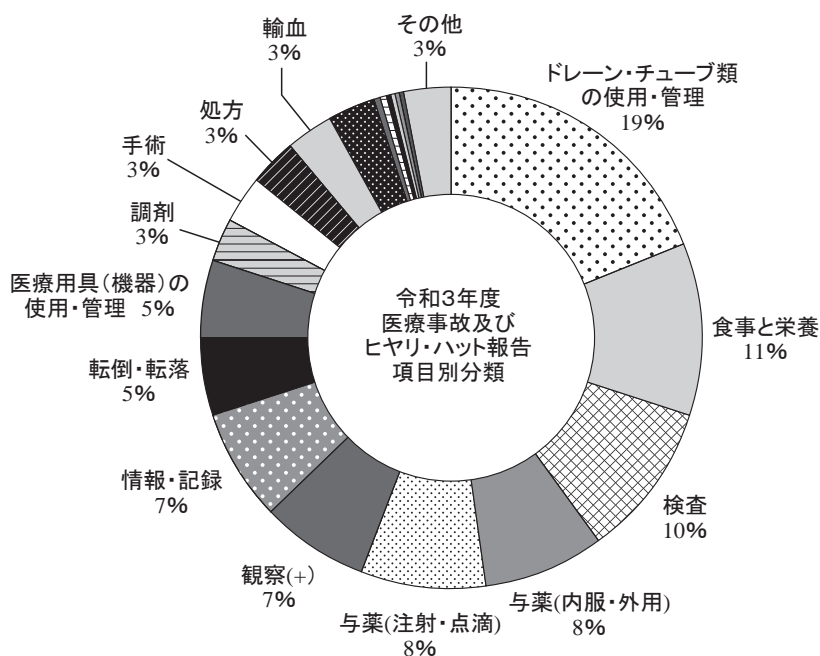
①ドレーン・チューブの使用管理 19% ②食事と栄養 11% ③検査 10%の順。

3) 事故発生日時

平日日勤 10 時～11 時台の発生ピークに変化はなく、夜勤 20 時～1 時での発生は減少した。

4) 患者誤認

23 件発生 (5 件減少)。すべて 0～1 レベルであった。医師が関係したもの 7 件 (31%)、看護部 12 件 (52%)。一人あたりの発生状況では①薬剤部、②医療局、③リハビリの順で、内容は、①情報と記録、②検査、③食事と栄養であった。



	レベル 件数	レベル							
		0	1	2	3a	3b	4a	4b	
ドレーン・チューブ類の使用・管理	174	21	78	44	29	2	0	0	
食事と栄養	99	54	43	2	0	0	0	0	
検査	94	46	31	17	0	0	0	0	
与薬(内服・外用)	77	32	41	3	0	1	0	0	
与薬(注射・点滴)	71	23	45	3	0	0	0	0	
観察(+)	63	6	38	17	2	0	0	0	
情報・記録	61	52	9	0	0	0	0	0	
転倒・転落	50	8	40	2	0	0	0	0	

	レベル	0	1	2	3a	3b	4a	4b
	件数							
医療用具(機器)の使用・管理	46	23	22	1	0	0	0	0
調剤	25	24	1	0	0	0	0	0
手術	24	6	9	5	3	1	0	0
処方	23	14	9	0	0	0	0	0
輸血	23	17	5	1	0	0	0	0
処置	23	2	11	7	3	0	0	0
感染防止	8	4	2	1	1	0	0	0
説明	6	5	1	0	0	0	0	0
環境整備	5	4	1	0	0	0	0	0
事務	5	4	1	0	0	0	0	0
リハビリテーション	3	0	2	1	0	0	0	0
移送	3	0	3	0	0	0	0	0
清拭・入浴介助等	2	0	2	0	0	0	0	0
麻酔	1	0	1	0	0	0	0	0
分娩	1	0	0	1	0	0	0	0
排泄の介助	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科医療用具(機器)・材料の使用	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	24	7	17	0	0	0	0	0
合 計	911	352	412	105	38	4	0	0

4. 患者・家族相談件数

相 談 内 容	件数
医師に関する事	2件
看護に関する事	2件
	計4件

5. 医療安全地域連携加算に係る相互評価

日 程	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和3年 11月18日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅰ 群馬県立心臓血管センター
令和3年 12月9日	加算Ⅰ 群馬県立心臓血管医療センター	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター
令和4年 2月22日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅱ 北関東循環器病院

6. リスクマネジメント委員会活動

委員長: 大平典子

副院長: 小林志のぶ

委員: 五十嵐部長 (外科)、市之宮部長 (新生児)、石北レジデント (血腫)、道和部長 (内科)、森田部長 (内科)、廣木部長 (麻酔)、内山医長 (産科)、新井部長 (循環器)、殿木副主幹 (第一)、亀井主幹 (第二)、柴田主幹 (第三)、飯田主幹 (NICU)、後藤主幹 (GCU)、小池副主幹 (産科)、小林主幹 (OPE)、藤井主幹 (PICU)、瀬谷主幹 (外来)、佐藤主幹 (薬剤部)、桐生レジデント (検査)、宮下レジデント (検査)、吉田技師 (放射線)、河野主任 (栄養)、松下主任 (リハビリ)、下田主任 (CE)、船山主事 (総務課)、若井レジデント (歯科)

1) 活動内容

- (1) 事故及びヒヤリ・ハット報告の周知、問題の共有、対策検討、知識の修得
- (2) WG 活動

フィッシュ活動	TeamSTEPPS の理解を深め講演会開催、THANKS カードの運用
患者誤認	患者誤認ポスター掲示、指差し唱和、院内ラウンド
災害対応	院内防災の手引き作成、院内ラウンド、災害時炊き出し訓練
5S 活動	院内ラウンドによる日頃の評価と 5S 取り組みを 1 月ポスター発表、表彰

7. 今後の課題

- 1) フィジカルアセスメント強化とBLS講習の継続
- 2) 患者誤認事故の削減
- 3) 確認行動監査の継続 (与薬: 内服・輸液注射)
- 4) 各部署の取り組み支援の強化
- 5) TeamSTEPPSのコミュニケーションツールの活用

(大平典子)

20. 感染対策室

1. 令和3年度感染対策体制

感染対策室長 清水彰彦 (ICD) (兼任)

感染対策医師 小泉亜矢 (ICD) (兼任)

専従感染対策担当看護師 (感染管理認定看護師: ICN) 北爪幸子
宮下千代 (令和4年3月～)

感染対策担当検査技師 佐藤敦子 (兼任)

感染対策担当薬剤師 高橋大輔 (兼任)

2. 委員会活動報告

委員会等	開催日	構成員
院内感染対策委員会 ＜感染対策体制の方針決定機関＞ 委員長: 清水彰彦 副委員長: 小泉亜矢	毎月第4水曜日	46名
ICT委員会 ＜感染対策の実働＞ 委員長: 清水彰彦 副委員長: 小泉亜矢	毎月第1火曜日	25名
リンクナース会 委員長: 北爪幸子	毎月第3月曜日	11名

1) 院内感染対策委員会活動

委員会は毎月開催で年12回開催された。委員会では細菌ウイルス検出状況・抗菌薬使用状況報告・血流感染/SSIサーベイランス報告・AST活動・ICT活動の報告が実施された。

2) ICT委員会活動

今年度より委員会開催を第1週の火曜日に変更となった。年11回開催された。委員会では院内の感染状況報告・細菌・ウイルス検出状況・抗菌薬使用状況の報告・ICTラウンド報告・研修内容の検討、清掃満足度調査、手指衛生強化月間活動、相互チェック対応・改善活動等実施した。

3) リンクナース会活動

活動目標として「各部署における感染対策活動が実施できる」とし、活動を実施した。

個人防護具着脱他者評価年2回実施、ICTラウンド結果・自部署の感染管理上の問題点を抽出、改善計画を立案し、改善を実践した。手指消毒薬使用量調査結果を部署ごとへ報告した。来年度の課題として、手指衛生の強化の継続と、環境整備の定着を実施する。

3. 感染対策室活動報告

1) 感染防止対策カンファレンス

開催日	主	催	備考
7月16日	群馬県感染症対策連絡協議会	令和3年度群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会	WEB開催・共催
9月29日	北関東病院感染対策懇話会	第39回北関東病院感染対策懇話会	WEB開催・共催
12月3日	小児医療センター	令和3年度第1回感染防止対策カンファレンス	WEB開催
1月7日	群馬県感染症対策連絡協議会	令和3年度群馬県感染症対策連絡協議会 合同カンファレンス	WEB開催・共催
2月25日	小児医療センター	令和3年度第2回感染防止対策カンファレンス	WEB開催

2) 相互チェック

開催日	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和3年7月7日(金)	美原記念病院	小児医療センター
令和3年7月16日(金)	小児医療センター	沼田病院

3) ICTラウンド

毎週木曜日に病棟(第一・第二・第三・産科・NICU・GCU・PICU)は毎週、技術部(検査課・リハ課・放射線課・CE課)・薬剤部・外来・手術室は月1回ラウンドを実施した。標準予防策実施状況・環境清掃状況・感染対策物品管理状況などを確認した。毎回報告書を作成し、ラウンドを実施した部門へ配布し改善を求めた。相互チェックで指摘された項目もラウンド項目に追加し、改善できた。

4) AST活動

令和3年度のAST活動について、広域抗菌薬・抗MRSA薬使用患者や、医師からコンサルトがあった症例等に随時介入し、週1回の特定抗菌薬ラウンドを実施した。ラウンド対象患者は延べ133名、うち95名において抗菌薬変更や投与期間の推奨等何らかの介入を実施した。対象者では、疑いを含めた菌血症が45名と多くみられ、培養結果から適切な抗菌薬・投与量の選択に繋げることができた。

特筆すべきは、カルバペネム系抗菌薬の入院患者1000人あたりの使用頻度の低下である。平成29年には23.93であったが、令和1年: 5.72、令和2年: 1.58、令和3年: 2.83と低い状況を維持し、平成30年には21%迄上昇した緑膿菌のカルバペネム耐性率が10%迄低下した。

COVID-19治療における薬物投与については、特にオミクロン株の流行以後基礎疾患があり酸素投与を要する入院患者が増加し、4名の患者にレムデシビルを投与を実施した。その他治療薬としてモノクローナル抗体や抗ウイルス薬も備蓄し使用の準備を整えた。

5) 研修開催状況

(1) 全職種対象

開催日	内 容	講 師	参加人数	備 考
6月8日から 7月17日	手指衛生研修	ICT / ICT リンク委員	406名	参加率 96.7%
10月27・28・29日 (10/25～11/5 動画 視聴)	新型コロナウイルス感染症の 個人防護具について	北爪看護師	381名	参加率 94.7%

(2) AST研修

開催日	内 容	講 師	参加人数	備 考
10月27・28・29日 (10/25～11/5 動画視聴)	TDM (薬物血中モニタリ ング) について	高橋大薬剤師	381名	
2022年2月18日	COVID-19の感染対策と 抗菌薬適正使用	清水彰彦医師	163名	

(3) 任意研修

開催日	内 容	講 師	参加人数	備 考
8月5日	Texas 小児病院における 新型コロナウイルス感染症の 経験と小児のワクチン 接種について	ベイラー医科大学 テキサ ス小児病院感染症科 池田早希先生	183名	動画視聴含む
2月18日	新型コロナウイルス感染症 の臨床とエビデンス	清水彰彦医師	163名	AST研修と 同時開催

(4) 部門別研修

年月日	内 容	講 師	参加人数	対 象
4月1日	異動職員研修	北爪看護師	9名	
11月8・16日	個人防護具他者評価	北爪看護師	19名	看護助手

6) 新型コロナウイルス関連

- (1) 新型コロナウイルス受け入れ対応病棟準備・マニュアル作成・指導
- (2) 新型コロナウイルス患者入院時受け入れ対応
陽性患者: 141名、疑似症患者: 25名
- (3) 病院間調整センター・保健福祉事務所・保健予防課等との調整・報告
- (4) 発熱外来 143名・陽性者外来 25名対応
- (5) 新型コロナウイルスワクチン接種対応(職員・小児)
- (6) 診療材料・個人防護具等の備蓄物品管理
- (7) 新型コロナウイルス定例会議開催(毎週水曜日)

7) その他

- (1) 感染対策マニュアル改訂 新型コロナウイルス (COVID-19) 追加
- (2) 乳幼児感染予防策加算取得準備・実施
- (3) 広報活動: コロナ通信 12回発行、ICTだより 3回発行
- (4) 病院局感染対策担当者会議出席
- (5) 外来患者インフルエンザワクチン接種調整
- (6) 職員抗体価検査結果管理・ワクチン接種対応
- (7) 外部施設への感染対策実施指導
- (8) 感染対策相談対応
- (9) 院外講師

開催日	主 催	内 容	担 当 者
9月3日	埼玉県小児外科研究会	小児 COVID-19 の臨床的特徴と感染対策	清水彰彦医師
11月9日	県立赤城養護学校小児センター校	学校の先生に知ってほしい感染症と感染対策の知識	清水彰彦医師
1月5日	群馬県 HIV 事例検討会	「大変です！この妊婦さん HIV 陽性です！」 HIV 母子感染予防について当院の準備	清水彰彦医師
2月18日	群馬県病院局講習会	新型コロナウイルス感染症の臨床とエビデンス	清水彰彦医師

(北爪幸子)

研究研修編

1. 学会報告

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 渡辺美緒, 清水有紀, 鈴木江里子, 道和百合, 森田孝次, 椎原 隆, 臼田由美子. 運動発達遅滞と斜頸を認めた片側性小脳低形成の一例. 第 63 回日本小児神経学会学術集会. 脳と発達 2021; 53 (suppl): P-152.

<循環器科>

- 1) 川崎達也, 志馬伸朗, 井手健太郎, 伊藤雄介, 稲田 雄, 川口 敦, 古藺弘隆, 谷 昌憲, 松石雄二郎, 近藤 豊, 三浦慎也, 板倉隆太, 旗智武志, 富田健太郎, 芳賀大樹, 菊地 齊, 榎本有希, 其田健司, 林 拓也, 石原唯史, 木村 翔, 鉄原健一, 高島光平, 下山伸哉, 伊藤健太, 江木盛時, 小倉裕司, 西田 修, 田中 裕. 日本版敗血症ガイドライン 2020; 小児敗血症診療を知る. 小児敗血症診療 Questions & Answers. 第 48 回日本集中治療医学会, 2021. 2. 12-14.
- 2) 池田健太郎, 中島 忠, 佐々木孝志, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 小林富男. SCN5A A735E 変異を有し複数の不整脈および心筋症の表現型を示した 2 家系. 第 57 回日本小児循環器学会学術集会, 奈良, 2021. 7. 9-11.
- 3) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 岡 徳彦, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後患者における無気肺の発症状況とその関連因子の検討. 第 57 回日本小児循環器学会学術集会, 奈良, 2021. 7. 9-11.
- 4) 下山伸哉, 稲田雅弘, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 小林富男. カテーテル関連血流感染時における起因菌のカテーテル検出部位についての検討. 第 57 回日本小児循環器学会学術集会, 奈良, 2021. 7. 9-11.
- 5) 浅見雄司, 新井修平, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. 母体抗 SS-A 抗体陽性の先天性完全房室ブロックに上行大動脈拡張と肺動脈拡張を合併した一例の長期報告. 第 57 回小児循環器学会, 奈良, 2021. 7. 9-11.
- 6) 中島公子, 新井修平, 浅見雄司, 池田健太郎, 下山伸哉, 岡 徳彦, 小林富男. フォンタンルート狭窄解除後に造影 MRI 検査の肝臓所見は改善するか? . 第 57 回日本小児循環器学会, 奈良 (Web 開催), 2021. 7. 9-11.
- 7) 新井修平, 丸山裕子, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. Mitral annulus disjunction を認め突然死を来した Marfan 症候群の 1 例. 第 57 回日本小児循環器学会・学術集会, 奈良 (Web 開催), 2021. 7. 9-11.
- 8) 池田健太郎, 内藤滋人, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 小林富男. 冠静脈洞内での通電により焼灼に成功した LV-CS musculature 間副伝導路の小児例. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2021, 横浜, 2021. 9. 23-25.
- 9) Asami Y, Arai S, Nakajima K, Ikeda K, Shimoyama S, Kobayashi T. Long term follow-up cases of Kawasaki disease complicated by giant coronary aneurysms. The 13th International Kawasaki Disease Symposium, virtual, 2021. 10. 29-31.
- 10) 池田健太郎, 内藤滋人, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 小林富男. 冠静脈洞内での通電により焼灼に成功した LV-CS musculature 間副伝導路の 1 例. 第 25 回日本小児心電学会学術集会, 新潟, 2021. 11. 26-27.
- 11) 新井修平, 池田健太郎, 浅見雄司, 中島公子, 下山伸哉, 小林富男. 肺静脈狭窄に対するバルーン拡

張術後に血管閉塞を来した総肺静脈還流異常症術後の1例. 第8回 InformalJCIC 関東甲信越研究会, 栃木県 (Web 開催), 2021. 12. 5.

- 12) 池田健太郎, 浅見雄司, 新井修平, 中島公子, 下山伸哉, 小林富男. TAPVC 術後 PVO に対するバルーン拡張術の有用性と限界. 第32回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会, 倉敷, 2022. 1. 21.
- 13) 浅見雄司, 田中健佑, 京谷琢治, 新井修平, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. 母体への塩酸リトドリン投与により増悪したと考えられた, 胎児心室頻拍の一例. 第28回胎児心臓病学会, 松本, 2022. 2. 18.
- 14) 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. SARS-CoV-2 ワクチン接種後に急性心筋炎を発症した1例. 第218回日本小児科学会群馬地方会講話会, 前橋, 2022. 3. 13.
- 15) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 池田健太郎, 岡村 達, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後患者と ICU-acquired weakness. 第49回日本集中治療医学会, 仙台, 2022. 3. 18.
- 16) 下山伸哉, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 小林富男, 滝沢琢己. 輸液ルート内に肉眼的結晶形成を認めなくとも不可視の結晶は形成されている. 第49回日本集中治療医学会, 仙台, 2022. 3. 18-20.
- 17) 中島公子. Visual liver assessment using Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging of patients in the early post-Fontan period. 小児循環器学会 Young Investigator's Award (英文の部), 2021.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 群馬県内における母乳育児の地域間格差に関連する地域特性に関する検討. 第124回日本小児科学会学術集会, 京都 (Web 開催), 2021. 4. 16-18.
- 2) 鎚木浩太, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優. 胎児期より急激な転帰を辿った頸部原発悪性ラブドイド腫瘍の新生児例. 第124回日本小児科学会学術集会, 京都 (Web 開催), 2021. 4. 16-18.
- 3) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鎚木浩太, 本間春奈. 群馬県内における母体搬送集約化前後での当科における極低出生体重児の短期予後に関する検討. 第65回日本新生児成育医学会学術集会, 札幌 (Web 開催), 2021. 5. 7-19.
- 4) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鎚木浩太. 極低出生体重児における出生前および出生後の臨床像と短期予後との関連に関する検討. 第57回日本周産期・新生児医学会学術集会, 宮崎 (Web 開催), 2021. 7. 11-13.
- 5) 小泉亜矢, 西 明, 福田一代, 市之宮健二, 鎚木浩太, 丸山憲一. 胎児期に腸管拡張と羊水過多を呈した新生児好酸球形胃腸炎の一例. 第57回日本周産期・新生児医学会学術集会, 宮崎 (Web 開催), 2021. 7. 11-13.
- 6) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 山崎 優, 鎚木浩太, 宮川陽一, 山口 有, 山田菜未子, 鈴木寿人, 武内俊樹, 小崎健次郎. 胎児期より高度な脳萎縮を認めたミトコンドリア病の1例. 第216回日本小児科学会群馬地方会講和会, 前橋 (Web 開催), 2021. 7. 18.
- 7) 宮川陽一, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鎚木浩太, 西 明, 山口 有. 右半身優位に所見を認めた多発形態異常の1例. 第217回日本小児科学会群馬地方会講和会, 前橋 (Web 開催), 2021. 12. 12.
- 8) 福田一代, 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 鎚木浩太, 宮川陽一. 新生児型非ケトーシス型高グリシン血症の1例. 第218回日本小児科学会群馬地方会講話会, 前橋 (Web 開催), 2022. 3. 13.

<アレルギー・リウマチ科／感染症科>

- 1) 清水彰彦, 清水真理子, 山口 有, 野村 滋. BCG 菌による皮膚結核の 1 例. 第 216 回日本小児科学会群馬地方会, 前橋, 2021. 7. 18.

<遺伝科>

- 1) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 鍋木浩太, 宮川陽一, 山口 有, 山田菜未子, 鈴木寿人, 武内俊樹, 小崎健次郎. 胎児期より高度な脳萎縮を認めたミトコンドリア病の 1 例. 第 216 回日本小児科学会群馬地方会, 前橋 (Web 開催), 2021. 7. 18.
- 2) 宮川陽一, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鍋木浩太, 西 明, 山口 有. 右半身優位に所見を認めた多発奇形の 1 例. 第 217 回日本小児科学会群馬地方会, 前橋 (Web 開催), 2021. 12. 12.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) Takazawa Shinya, Koyama Ryota, Takamoto Naohiro, et. al, 小児内視鏡外科の標準化とエビデンス創出 単切開腹腔鏡による経皮的腹膜外閉鎖術の熟練度向上 (Developing proficiency in single incision laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure) (英語), 第 33 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2021. 3. 12.
- 2) 高澤慎也, 西 明, 則内友博, 他. 合併症を減らしたい! 超低出生体重児の腸管吻合トレーニングモデルの開発. 第 121 回日本外科学会学術集会, 幕張, 2021. 4. 8.
- 3) 高澤慎也 (群馬県立小児医療センター 小児外科), 石丸哲也, 高橋正貴, 他. 医工連携: テクノロジーと医療の連携 低出生体重児の腸管吻合トレーニングモデルの表面的および構成概念妥当性評価. 第 58 回日本小児外科学会学術集会, 横浜, 2021. 4. 28.
- 4) 菊地健太, 高澤慎也, 小山亮太, 他. DICER1 遺伝子変異を伴った胸膜肺芽腫および Cystic Nephroma の一例. 第 58 回日本小児外科学会学術集会, 横浜, 2021. 4. 28. 5) 高澤慎也, 西 明. 毛髪ミネラル検査による腸管切除後の微量元素欠乏スクリーニングの研究, 第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 JSPEN 2021, 神戸, 2021. 7. 21.
- 6) 高澤慎也, 磯田有香, 則内友博, 他. 慢性便秘症児と健常児における食事内容と腸内細菌叢の比較. 第 48 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 松本, 2021. 10. 3.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人, 佐々木淑恵, 荒木夏枝. 胸骨正中切開による開心術と同時に施行した Nuss 法の長期経過. 第 64 回日本形成外科学会学術集会, 東京. 2021. 4. 14.
- 2) 浜島昭人, 斎藤 景, 江崎聖美, 荒木夏枝. 胸骨正中切開による開心術と Nuss 法同時施行例の長期経過. 第 20 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 東京. 2021. 10. 9.
- 3) 浜島昭人, 斎藤 景, 江崎聖美, 佐々木淑恵, 荒木夏枝. Nuss 法における術中胸骨挙上の有用性. ビデオシンポジウム 第 27 回日本形成外科手術手技学会, 千葉, 2022. 2. 19.

<整形外科>

- 1) 浅井伸治, 富沢仙一. 穿孔性虫垂炎術後に発症した下腿コンパートメント症候群の一例. 第 32 回関東小児整形外科研究会, 東京, 2022. 2. 19.

◆産科

- 1) 内山陽介, 諏訪裕人, 京谷琢治. 妊娠経過中に複数の要因による羊水過多の呈した MD twin の 1 例. 第 37 回群馬周産期研究会, 前橋 (ハイブリッド), 2021. 10. 16.

◆歯科

- 1) 大嶋 瑛, 木下 樹, 斉藤 崇, 石田圭吾, 千葉真子, 瀬下愛子, 布施亜由美, 楠 幸代, 若井美佳, 三坂 亜矢子, 大澤房代, 栗原杏奈, 稲田 穰. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) による歯科受診制限中にエプーリスを生じた一例. 第 38 回日本障害者歯科学会, Web 開催, 2021. 9. 25.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 松井重憲, 神宮大輝, 桐生拓哉, 神山晴美, 富岡千鶴子. 小児全血検体を用いた血糖測定におけるヘマトクリット値の影響. 日本医療科学会第 53 回大会, 横浜 (Web 開催), 2021. 10. 9.
- 2) 神宮大輝, 松井重憲, 桐生拓哉, 神山晴美, 富岡千鶴子. UB Analyzer (UA-2) でのビリルビン測定における溶血・乳糜の影響. 日本医療科学会第 53 回大会, 横浜 (Web 開催), 2021. 10. 9.
- 3) 神宮大輝, 松井重憲, 桐生拓哉, 神山晴美, 富岡千鶴子. 小児における Martin 式を用いた LDL-コレステロール換算値の検討. 第 66 回群馬県医学検査学会, 前橋 (Web 開催), 2021. 11. 28.
- 4) 桐生拓哉, 松井重憲, 神宮大輝, 神山晴美, 富岡千鶴子. 当院検査課職員の Anti-SARS-CoV- II IgG 抗体の経時的変化. 第 40 回群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会, 前橋 (Web 開催), 2022. 2. 12~23.

◆放射線課

- 1) 大川夏輝, 佐々木保, 清水宏史, 茂木彰子, 吉田有希, 下田寛貴, 戸塚綾美, 萩原祐輔. 新生児頭部 MRI 検査における専用固定具作成と使用経験. 第 37 回日本放射線技師学術大会, Web 開催, 2021. 11. 13.
- 2) 佐々木保. Ai における小児専門病院での取り組み. 日本オートプシーイメージング技術研究会 2021 年度学術大会, Web 開催, 2022. 1. 20.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ, 鳥越和哉, 六本木温子, 下山伸哉, 小林富男. 体外式膜型人工肺 (ECMO) を装着した小児例に対するリハビリテーションを振り返って. 第 27 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, Web 開催, 2021. 6. 19-20.
- 2) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 新井修平, 浅見雄司, 中島公子, 池田健太郎, 岡 徳彦, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後患者における無気肺の発症状況とその関連因子の検討. 第 57 回日本小児循環器学会総会・学術集会, Web 開催, 2021. 7. 9-11.
- 3) 六本木温子, 窪田莉那, 臼田由美子, 渡辺美緒. 脊髄性筋萎縮症 1 型のヌシネルセン投与後のスイッチ子操作における客観的評価. 第 55 回日本作業療法学会, Web 開催, 2021. 9. 10-11.
- 4) 臼田由美子, 秋山友香, 清水真理子, 河崎裕英, 山田佳之. 慢性 GVHD 呼吸不全にたいし在宅人工呼吸器 (HMV) 療法を導入した児の呼吸リハ実施と生活支援. 第 53 回日本小児呼吸器学会, Web 開催, 2021. 10. 22-23.
- 5) 秋山友香, 熊丸めぐみ, 臼田由美子, 清水真理子, 山田佳之. 移植後の慢性移植片対宿主病により慢性呼吸不全を呈した児が一般高校受験を実現した症例. 第 8 回日本小児理学療法学会学術大会,

Web 開催, 2021. 11. 27-28.

- 6) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 池田健太郎, 岡村 達, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後患者とICU-acquired weakness. 第49回日本集中治療医学会学術集会, Web 開催, 2022. 3. 18.

◆看護部

- 1) 宮川祐子ら. 新人看護師の問題解決に対する考え方や行動の変化—ノンテクにかかるスキル研修受講後の継続的な支援をして—. 第25回群馬県看護学会, 前橋, 2021. 11. 10~12. 1.
- 2) 都丸八重子ら. ノンテクニカルスキル【基礎編】研修6か月後の受講者の実践状況と部署の現状. 第59回全国自治体病院学会, 奈良, 2021. 11. 4~11. 5.

2. 誌上発表

◆小児内科

<神経内科>

- 1) Morita K, Shiihara T, Suzuki E, Shimizu Y, Dowa Y, Watanabe M. Acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion; posterior frontal hyperperfusion before late seizures revealed by arterial spin labeling: A case report. *Brain Dev.* 43: 714-718, 2021.

<循環器科>

- 1) Ikebe R, Kawaguchi A, Kawasaki T, Miura N, Matsuishi Y, Takeuchi M, Nittsu T, Fujiwara N, Shimoyama S, Nakayama Y, Akita C, Munekawa I, Kajinishi Y, Sasaki E, Sakamoto K, Matsuoka W. Physical Restraints in Critically Ill Children: A Multicenter Longitudinal Point Prevalence Study. *Crit Care Med.* 2021; 49(11): 1955.
- 3) Egi M, et al. The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2020 (J-SSCG 2020). *Acute Med Surg.* 2021 Aug 26; 8(1): e659.
- 3) Egi M, et al. The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2020 (J-SSCG 2020). *J Intensive Care.* 2021 Aug 25; 9(1): 53.
- 4) Shimoyama S, Takahashi D, Arai S, Asami Y, Nakajima K, Ikeda K, Takizawa T, Kobayashi T. A large amount of microscopic precipitates are inevitably injected during infusion therapy without an in-line filter. *Oxf Med Case Reports.* 2022; 2022(2): omab134.
- 5) 池田健太郎. CPVTに対するICD植え込み *Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery* 37(2): 151-152 (2021).
- 6) 江木盛時ら. 日本版敗血症診療ガイドライン 2020. *日本集中治療医学会雑誌.* 2021; 28 巻Suppl. Page S1.
- 7) 江木盛時ら. 日本版敗血症診療ガイドライン 2020. *日本救急医学会雑誌.* 2021; 32 巻S1 Page S1.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 胎児水腫. *周産期医学増刊.* 51: 560-562, 2021.
- 2) 丸山憲一. 離脱症候群. *周産期医学増刊.* 51: 895-898, 2021.
- 3) 丸山憲一. 母乳・栄養. *with Neo.* 35: 20-25, 2022.

<アレルギー・リウマチ科／感染症科>

- 1) Shimizu A. Pyomyositis as a manifestation of late-onset group B streptococcus disease. *Pediatr Int.* 63(11): 1400-2, 2021.
- 2) Shimizu A, Nomura S, Nishi A, Yamada Y. *Oxf Med Case Reports.* Mallory-Weiss syndrome complicated by severe aspiration pneumonitis in an infant. Ebara Y. 2021(10): omab094, 2021.
- 3) Shimizu A. Croup as a manifestation of coronavirus disease 2019. *Pediatr Int.* 64(1): e14952, 2022.

<血液腫瘍科>

- 1) Yamato G, Park MJ, Sotomatsu M, Kaburagi T, Maruyama K, Kobayashi T, Nishi A, Sameshima K, Ohki K, Hayashi Y. Clinical features of 35 Down syndrome patients with transient abnormal myelopoiesis at a single institution. *Int J Hematol.* 2021 May; 113(5): 662-667.
- 2) Yamato G, Deguchi T, Terui K, Toki T, Watanabe T, Imaizumi T, Hama A, Iwamoto S, Hasegawa D, Ueda T, Yokosuka T, Tanaka S, Yanagisawa R, Koh K, Saito AM, Horibe K, Hayashi Y, Adachi S, Mizutani S, Taga T, Ito E, Watanabe K, Muramatsu H. Predictive factors for the development of leukemia in patients with transient abnormal myelopoiesis and Down syndrome. *Leukemia.* 2021 May; 35(5): 1480-1484.
- 3) Morota K, Shimizu M, Sugitate R, Ide M, Yamato G, Tomizawa D, Muramatsu K, Matsui A. Sudden unexpected death caused by infantile acute lymphoblastic leukaemia. *Oxf Med Case Reports.* 2021 Aug 13; 2021(8): omab073.
- 4) Sasaki K, Tsujimoto S, Miyake M, Uchiyama Y, Ikeda J, Yoshitomi M, Shimosato Y, Tokumasu M, Matsuo H, Yoshida K, Ohki K, Kaburagi T, Yamato G, Hara Y, Takeuchi M, Kinoshita A, Tomizawa D, Taga T, Adachi S, Tawa A, Horibe K, Hayashi Y, Matsumoto N, Ito S, Shiba N. Droplet digital polymerase chain reaction assay for the detection of the minor clone of KIT D816V in paediatric acute myeloid leukaemia especially showing RUNX1-RUNX1T1 transcripts. *Br J Haematol.* 2021 Jul; 194(2): 414-422.

<遺伝科>

- 1) Suzuki H, Nozaki M, Yoshihashi H, Imagawa K, Kajikawa D, Yamada M, Yamaguchi Y, Morisada N, Eguchi M, Ohashi S, Ninomiya S, Seto T, Tokutomi T, Hida M, Toyoshima K, Kondo M, Inui A, Kurosawa K, Kosaki R, Ito Y, Okamoto N, Kosaki K, Takenouchi T. Genome Analysis in Sick Neonates and Infants: High-yield Phenotypes and Contribution of Small Copy Number Variations. *J Pediatr.* 2022 May; 244: 38-48.e1. doi: 10.1016/j.jpeds.2022.01.033. Epub 2022 Feb 4.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 高澤慎也.【小児外科医が学ぶ人工知能 (AI)・情報伝達技術 (ICT)】手術枠ネット予約の導入. *小児外科.* 53: 445-449, 2021.
- 2) 山口岳史, 西 明, 鈴木 完, 他. 新生児期の手術が極低出生体重児の長期神経学的予後に及ぼす影響. *日本小児外科学会雑誌.* 57: 613-617, 2021.
- 3) 高本尚弘, 高澤慎也, 小山亮太, 他. 胆道閉鎖症手術の肝門部瘢痕組織からの出血に対して止血剤アリスタ AH を使用した 1 例. *日本小児外科学会雑誌.* 57: 652-655, 2021.

- 4) 小山亮太, 高澤慎也, 内田康幸, 他. 初回手術時に胆管癌を合併していた先天性胆道拡張症の小児例. 日本小児外科学会雑誌. 57: 850-854, 2021.
- 5) 西 明, 五十嵐昭宏, 則内友博, 他. 【短腸症候群の診療における問題点】週 2 回の皮下輸液での電解質補正を 10 年以上続けている Hirschsprung 類縁疾患術後短腸症候群の 1 例. 小児外科. 54: 271-273, 2022.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人. 副乳, 乳房疾患. 小児外科. 54(1): 44-47, 2022.

◆歯 科

- 1) 千葉真子, 木下 樹, 大嶋 瑛, 瀬下愛子, 脇田 亮. MEF2C 遺伝子異常症を伴う患者への全身麻酔経験. 日本歯科麻酔学会雑誌. 49 巻 2 号: 58-60, 2021.
- 2) 木下 樹. 乳児期の歯科に関する諸問題. 群馬県小児科医会便り. 71: 17-18, 2021.

3. 単行本・その他

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 森田孝次, 椎原 隆. 小児で重要なてんかん症候群 若年ミオクロニーてんかん. 小児内科. 53巻10号. 10, 2021, p1716-1720.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 当院が行なっている NCPR 普及への取り組み. NCPR News Letter. 12: 15-16, 2022.

<アレルギー・リウマチ科／感染症科>

- 1) 清水彰彦. カテーテル関連血流感染症と感染防止対策. 小児内科 第 53 巻, 東京, 東京医学社, 2021, pp.687-691.
- 2) 清水彰彦. BCG ワクチンの副作用について. J-IDEO 第 5 巻, 東京, 中外医学社, 2021, pp.27-29.
- 3) 清水彰彦. 胆道閉鎖症術後の胆管炎の予防はどうするべきか? . J-IDEO 第 5 巻, 東京, 中外医学社, 2021, pp.935-937.
- 4) 清水彰彦. ESBLs 産生菌保菌者に対して接触予防策は必要か? . J-IDEO 第 6 巻, 東京, 中外医学社, 2021, pp.368-369.

◆臨床工学課

- 1) 深町直之. 新生児・小児呼吸管理における CAV 加温加湿器 VHB200 および CAV-Infinity 呼吸回路の有用性. PROFESSIONAL QUEST VOL.41.

4. 班会議等報告書

- 1) 実施なし

5. 講演

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 池田健太郎. S-ICD 小児の有用性. JSPEC ウェビナー, 2021. 5. 13.
- 2) 池田健太郎. 学校心臓検診 2 次検診対象者抽出のガイドライン 2019 年改訂版のポイント. 令和 3 年度学校心臓検診講習会, 前橋, 2021. 7. 20.
- 3) 富樫鉄雄, 下山伸哉. 「輸液ポータス及び循環」. 2021 PICU Awareness Week in Japan, 2021. 5. 10.

<アレルギー・リウマチ科／感染症科>

- 1) 清水彰彦. 小児 COVID-19 の臨床的特徴と感染対策. 埼玉県小児外科研究会, 2021. 9. 3.
- 2) 清水彰彦. 新型コロナウイルス感染症の臨床とエビデンス. 群馬県病院局講習会, 2022. 2. 18.

<遺伝科>

- 1) 山口 有. Dysmorphology 総論. 第 37 回 Dysmorphology の夕べ, 東京 (Web 開催), 2021. 11. 12.

◆歯科

- 1) 木下 樹. OHAT を用いた口腔アセスメント. 渋川摂食嚥下研究会, 渋川, 2021. 12. 7.
- 2) 木下 樹. 発達障害児の口腔ケア. 恩賜財団母子愛育会地域母子保健研修会, 東京, 2021. 12. 9.
- 3) 木下 樹. 障害児(者)の口腔衛生管理. 令和三年度群馬県障害者歯科疾患予防研修会, Web 開催, 2022. 2. 16.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 富岡千鶴子. 検査技師の業務はこんな風に変化してきました. 第 40 回群馬県庁臨床検査技師会学術研修発表会, 前橋 (Web 開催), 2021. 2. 12～23.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ. 小児心疾患. 第 8 回日本小児理学療法学会学術大会, Web 開催, 2021. 11. 28

6. 講習会・研修会

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 渡辺美緒. 当院における脊髄性筋萎縮症患者の臨床経過. SMA Forum in 北関東, Web 開催, 2021. 9. 21

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 支援者はどうして母乳に“こだわる”必要があるのか～母乳育児とその支援が必要な理由～. 第 16 回医師のための母乳育児支援セミナー, 東京 (Web 開催), 2021. 11. 27.
- 2) 市之宮健二. NICU・GCU から退院する子どもの疾患とケアについて. 令和 3 年度群馬県小児等在宅医療連携拠点事業研修会, 前橋, 2021. 10. 17.
- 3) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一, 斎藤織恵, 小林理恵, 狩野英美. 施設外で生まれた赤ちゃんを助けよう～ NCPR のアルゴリズムは難しくない～. 第 30 回全国救急隊

員シンポジウム, 高崎 (web 開催), 2022. 1. 27.

- 4) 丸山憲一. 支援者はどうして母乳に“こだわる”必要があるのか～母乳育児とその支援が必要な理由～. 第 2 回 JALC 会員限定セミナー, 東京 (Web 開催), 2022. 2. 19.

< 遺伝科 >

- 1) 山口 有. 新生児・乳児期から成長の異常をきたす先天異常症候群. 第 6 回群馬で子どもの成長を考えるフォーラム, 前橋 (Web 開催), 2022. 2. 9.

◆ 歯 科

- 1) 木下 樹. 新型コロナワクチン接種のための実技研修会 (歯科医師). 群馬県健康福祉部, 東毛ワクチンセンター, 2021. 5. 30.
- 2) 木下 樹. 新型コロナワクチン接種のための実技研修会 (歯科医師). 群馬県健康福祉部, 中毛ワクチンセンター, 2021. 6. 20.

◆ 放射線課

- 1) 清水宏史. 小児医療センターにおける MRI 検査紹介. 第 14 回 群馬 Gyro Users Meeting, Web 開催, 2021. 7. 8.
- 2) 吉田有希. 周産期におけるチーム医療. 2021 県民健康科学大学 保健医療チーム連携論実習. Web 開催, 2021. 7. 19.
- 3) 佐々木保. Ai (死亡時画像診断) について. 子どもと家族のサポートチーム研修会, 群馬県立小児医療センター, 2021. 12. 4.
- 4) 佐々木保. 医療被ばくの基本的な考え方・放射線診療の防護の最適化・過剰被ばくその他の事例発生時の対応・放射線診療を受ける者への情報提供. 令和 3 年度診療用放射線の安全利用のための研修, 群馬県立小児医療センター, Web 開催, 2021. 11. 1-12. 31.
- 5) 大川夏輝. 令和 3 年度 MRI 安全講習. 医療安全研修, 群馬県立小児医療センター, Web 開催, 2022. 3. 1-14.

◆ リハビリテーション課

- 1) 鳥越和哉, 秋山友香. 児童生徒の歩行見守りと介助方法について. 県立赤城特別支援学校医学研修, Web 開催, 2021. 5. 24.
- 2) 六本木温子. 外部専門家派遣事業における作業療法士の支援について. 群馬県教育委員会特別支援教育課主催沼田特別支援学校機能強化事業研修会, Web 開催, 2021. 11. 26.
- 3) 熊丸めぐみ. 内部障害系理学療法士の基礎 安全かつ効果的なアプローチのために循環器疾患 (病態・検査所見・評価・フィジカルアセスメント). 令和 3 年度理学療法士講習会 (基礎編), Web 開催, 2021. 11. 28.
- 4) 六本木温子. 姿勢保持と作業活動. 群馬県特別支援学校医療的ケア支援事業沼田特別支援学校教員研修, Web 開催, 2021. 12. 14.

◆ 薬 剤 部

- 1) 高橋大輔. AST (Antimicrobial Stewardship Team) 研修. 院内勉強会, 渋川, 2021. 10.
- 2) 高橋大輔. AST (Antimicrobial Stewardship Team) 活動報告. 感染対策防止加算合同カンファレンス,

渋川, 2022. 2. 25.

◆看護部

- 1) 清水奈保. 2021 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル「組織管理論 I・組織マネジメント概要」. 群馬県看護協会, Web 開催, 2021. 9. 30.
- 2) 宮嶋佑紀. 令和 3 年度新人看護職員研修事業実地指導者研修. 群馬県看護教育センター, 2021. 10. 4, 12, 18, 25, 26.
- 3) 木島久仁子. 小児の退院支援と在宅療養支援. 群馬県看護協会, 前橋, 2021. 11. 15.

7. 学会長・座長・その他

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 池田健太郎. 第 25 回日本小児心電学会学術集会 (座長), 一般演題「カテーテルアブレーション 2」, 新潟, 2021. 11. 26.
- 2) 池田健太郎. 第 8 回 Informal JCIC 関東甲信越研究会 (座長), 一般演題「塞栓術」, Web 開催, 2021. 12. 5.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 第 35 回日本母乳哺育学会学術集会 (座長), 特別講演 2「これから母乳育児支援を始める医療者への提言」, 高崎 (Web 開催), 2021. 9. 19.

<アレルギー・リウマチ科/感染症科>

- 1) 清水彰彦. 第 217 回日本小児科学会群馬地方会講話会 (座長), 2021. 12. 12.

◆産科

- 1) 京谷琢治. 第 28 回日本胎児心臓病学会学術集会 (座長), 一般演題 11, 松本 (ハイブリッド), 2022. 2. 19.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 神山晴美. 第 66 回群馬県医学検査学会 (座長), 学会長講演「仕事人生を“らく”に生き抜く心の持ち方」, 前橋 (Web 開催), 2021. 11. 28.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ. 第 27 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, Web 開催, 2021. 6. 19-6. 20.

◆看護部

- 1) 大谷ゆう子. 第 35 回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会「ストーマ管理」, 長野県松本市 (Web 開催), 2021. 6. 26.
- 2) 清水奈保. 認定看護管理者研修 (フォローアップ研修). 群馬県看護協会, 前橋, 2021. 11. 11.
- 3) 富樫哲雄. PICU Awareness Week In Japan (パネリスト). Web 開催. 2021. 5. 10.

8. 学生講義

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生「臨床医学 4」神経・精神系疾患①発作性神経疾患, 重症心身障害者(児), 群馬, 2021. 8. 24.
- 2) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生「臨床医学 4」神経・精神系疾患③神経筋疾患と神経免疫疾患, 群馬, 2021. 8. 31.

<循環器科>

- 1) 下山伸哉. 小児期に特有な心疾患Ⅰ. 群馬大学大学院医学系研究科臨床医学Ⅰ, 前橋, 2022. 1. 6.
- 2) 下山伸哉. 小児期に特有な心疾患Ⅱ. 群馬大学大学院医学系研究科臨床医学Ⅰ, 前橋, 2022. 1. 19.
- 3) 下山伸哉. 小児期に特有な心疾患Ⅲ. 群馬大学大学院医学系研究科臨床医学Ⅰ, 前橋, 2022. 2. 3.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 健康障害と回復過程各論Ⅶ. 渋川看護専門学校, 渋川, 2021. 4. 14, 21, 28, 5. 12, 19, 26, 6. 2, 9, 16, 23.
- 2) 丸山憲一. 新生児学, 周産期ハイリスク論Ⅱ, 国家試験対策講座. 高崎健康福祉大学大学院, 高崎, 2021. 4. 21, 28, 5. 12, 19, 26, 6. 2, 9, 16, 23, 30, 7. 7, 14, 21, 28, 8. 4, 11. 17, 24, 12. 1, 8, 21.
- 3) 丸山憲一. 子どもの保健. 新島学園短期大学, 高崎, 2021. 4. 9, 16, 23, 30, 5. 7, 14, 28, 6. 4, 11, 18, 25, 7. 2, 9, 16, 23, 30.
- 4) 丸山憲一. 小児・新生児. 群馬県消防学校, 前橋, 2021. 12. 17.

<アレルギー・リウマチ科/感染症科>

- 1) 野村 滋. 小児の救急. 群馬県消防学校, 前橋, 2022. 11.

◆歯 科

- 1) 木下 樹. 人体の構造と機能Ⅳ. 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2021. 5. 6, 5. 13.
- 2) 木下 樹. 老年看護学各論Ⅰ. 渋川看護専門学校看護学生講義, 渋川看護専門学校, 2021. 6. 24, 7. 1.
- 3) 木下 樹. 健康障害と回復過程各論Ⅱ. 渋川看護専門学校看護学生講義・実習, 渋川看護専門学校, 2021. 10. 5, 10. 12.
- 4) 木下 樹. 障害児, 有病児の歯科保健. 東京工科大学看護学生実習講義, 東京工科大学蒲田キャンパス, 2021. 11. 19.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 発達障害系理学療法. 高崎健康福祉大学保健医療学部, Web 開催, 2021. 5. 20, 5. 27, 6. 17.
- 2) 六本木温子. 発達過程作業療法学Ⅱ. 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻, Web 開催, 2021. 6. 29. 7. 6.
- 3) 熊丸めぐみ. 呼吸・循環系理学療法学. 国立大学法人秋田大学, Web 開催, 2021. 11. 1.

4) 熊丸めぐみ. 重度発達障害理学療法学. 国立大学法人秋田大学, Web 開催, 2021. 11. 1.

◆臨床工学課

- 1) 深町直之. 「生体機能代行装置学Ⅰ 人工心肺システムの構成, 生体機能代行装置学Ⅱ 体外循環の実際と安全対策」. 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2021. 4. 9～2021. 7. 30, 毎週金曜日.
- 2) 深町直之. 「循環代行技術学Ⅱ: PCPS, IABP」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2021. 7. 10.
- 3) 深町直之. 「生体機能代行装置実習Ⅰ」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2021. 7. 31, 2021. 8. 20.
- 4) 深町直之. 「生体機能代行装置実習Ⅱ」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2021. 09. 3, 2021. 09. 17.
- 5) 深町直之. 「臨床医学総論, 生体機能代行装置学国家試験対策」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2021. 10. 22, 2020. 11. 12.
- 6) 深町直之. 「外科学 体外循環技術」. 麻布大学 獣医学部 獣医学科, 神奈川, 2021. 6. 3, 2021. 7. 28, 2021. 10. 20, 2021. 12. 1, 2022. 1. 19, 2022. 2. 16, 2022. 3. 2.

◆看護部

- 1) 石坂泰子. 母子と家族の心理・社会学. パース大学, 渋川, 2021. 4. 27.
- 2) 清水奈保. 小児看護の魅力. 渋川看護専門学校, 渋川, 2021. 5. 11.
- 3) 星山友絵. 小児看護学方法「子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2021. 6. 2.
- 4) 都丸八重子. 小児看護学概論, 渋川看護専門学校, 渋川, 2021. 6. 7, 6. 14.
- 5) 殿木裕美. 小児看護学方法「病気・障害を持つ子どもと家族の看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2021. 6. 9.
- 6) 本間美樹恵. 小児看護学方法「子どもにおける疾病の経過と看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2021. 6. 9.
- 7) 金子友香. 小児看護学方法子どものアセスメント「系統看護学講座 小児看護学概論小児臨床看護総論」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2021. 6. 16.
- 8) 堤万希子. 小児看護学方法「症状を示す子どもの看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2021. 6. 23.
- 9) 柴田夕貴子. 小児看護学方法「検査・処置を受ける子どもの看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2021. 6. 30, 7. 7.
- 10) 富澤はるみ. 小児看護学方法「障害のある子どもと家族の看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2021. 7. 7.
- 11) 小林理恵. 小児看護学方法「新生児の看護」, 「染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2021. 7. 14, 7. 21.
- 12) 黒田佐織. 小児看護学各論Ⅰ「病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2021. 7. 21, 8. 4.
- 13) 和田千穂. ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援. 高崎市医師会看護専門学校, 高崎, 2021. 8. 30, 9. 2.

- 14) 齊藤織恵.「ハイリスク 新生児のケア」.高崎医師会立看護専門学校,高崎,2021.9.3.
- 15) 村上容子.小児看護学各論Ⅰ「さまざまな状況にあるこどもと家族の看護」.渋川看護専門学校,渋川,2021.9.16,9.30.
- 16) 石関梨華.「苦痛や疼痛のある子どもの看護」,「死に逝く子どもとその家族の看護」,「小児がんの子どもとその家族の看護」.渋川看護専門学校,渋川,2021.9.17,9.24.
- 17) 齋藤織恵.小児看護学各論Ⅰ「未熟児の特徴とハイリスク新生児の看護」.渋川看護専門学校,渋川,2021.9.27,10.4.
- 18) 宮川祐子.小児看護学各論「様々な状況にある子どもと家族の看護」.渋川看護専門学校,渋川,2021.10.4.
- 19) 浅野 香.「急性期・救急処置が必要なこどもと家族の看護」.渋川看護専門学校,渋川,2021.9.29,10.6.
- 20) 北爪幸子.小児看護学各論「様々な状況にある子どもと家族の看護」.渋川看護専門学校,渋川,2021.10.8.
- 21) 福田 円.小児看護学各論Ⅱ「検査や処置を受ける子どもと家族への看護」,「検査や処置に必要な看護技術」.渋川看護専門学校,渋川,2021.11.2,11.9,11.16.
- 22) 木島久仁子.小児看護学各論Ⅱ(小児看護技術:検査処置,救急救命).渋川看護専門学校,渋川,2021.11.12,11.19.

◆母子保健室

- 1) 阿久澤直子.医療機関における保健師活動.群馬大学医学部保健学科地域看護学方法論Ⅰ,群馬大学医学部保健学科,2021.12.6.

9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス

<循環器科>

定期的研究

- ・単心室循環患者における Gd-EOB-DTPA (EOB・プリモビスト®) を用いた MRI 検査による非侵襲的肝臓病変評価法の検討
- ・先天性心疾患児の発達と支援について考える
- ・小児循環器領域の移行支援プログラムの確立とフォンタン術後患者および患者家族のニーズ共有
- ・超音波 Shear wave Elastography を用いたフォンタン術後患者の肝硬度の検討

月曜日	8:00~8:30	PICU カンファレンス
	16:45~	産科病棟カンファレンス
	17:00~17:30	PICU カンファレンス
	17:00~	内科系合同カンファレンス
	17:00~	新生児科カンファレンス
	17:00~	小児外科合同カンファレンス
	17:00~	第一病棟カンファレンス
	17:30~	血液腫瘍科カンファレンス
	18:00~	血液腫瘍科抄読会

	18:00～19:00	循環器カンファレンス
	18:00～	第一病棟・新生児科カンファレンス(適時)
火曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	13:30～	産科・新生児科合同カンファレンス
		産科・新生児科合同カンファレンス終了後～ 産科・新生児科抄読会
	15:00～16:00	麻酔科抄読会
	16:30～17:00	心臓カテーテルカンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
水曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	16:00～16:30	出生前合同カンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
木曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	10:30～12:00	全科症例検討会・総回診
	13:00～15:00	外科病棟症例カンファレンス
	14:00～16:00	群大小児科教授回診(第3木曜)
	16:30～	出生前診断カンファレンス(適時)
	16:45～	産科病棟カンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
金曜日	7:45～8:30	循環器科・心臓血管外科合同カンファレンス
	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	9:00～9:30	抄読会
	12:30～	アレルギー・リウマチ科/感染症科勉強会
	16:00～17:0	心臓外科症例カンファレンス
	17:00～	産科・新生児科合同カンファレンス
	17:00～17:30	第三病棟会
	17:00～17:30	PICU カンファレンス

月一回 神経内科・遺伝科症例検討会

10. 小児医療センター講話会

1) 実施なし

11. クルズス(臨床講義)

1) 実施なし

12. CPC

1) 第109回 2021.5.12

No306 産科:村上,京谷

0日男(臨床診断:21trisomy,一過性骨髄異常増殖症疑い)

2) 第110回 2021.10.13

No307 新生児科:小泉

1 歳女 (臨床診断: 超低出生体重児, 壊死性腸炎, 短腸症候群, 腸管不全関連肝障害)

13. その他

(1) 研究会・セミナー等

◆小児内科

<新生児科>

- 1) 令和3年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第1回), 2021. 9. 11.
- 2) 令和3年度群馬県新生児蘇生法研修会 A コース (第2回), 2021. 9. 11.
- 3) 第20回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) 講習会 (B コース), 2021. 11. 2.
- 4) 第3回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) スキルアップ講習会 (B コース), 2021. 11. 15.
- 5) 令和3年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第2回), 2021. 11. 20.
- 6) 令和3年度群馬県救急救命士向け新生児蘇生法研修会 (第1回), 2021. 11. 20.
- 7) 群馬県消防学校 新生児蘇生法実習 (NCPR P コース), 2021. 12. 17, 20.

14. 公的資金による研究

1 院内研究費による研究

(1) 自主研究事業

■推奨テーマ

No.	研究テーマ	氏名
1	遺伝子解析技術の円滑な臨床応用に向けたシステム構築	山口 有
		椎原 隆
		道和 百合
		森田 孝次

■一般テーマ

No.	研究テーマ	氏名
1	院内臨床感染症マニュアルの作成	清水 彰彦
		高橋 大輔
		北爪 幸子
2	小児科専門研修医・シニアレジデント採用を促進するための応募者の意識調査	江原 由佳子
		清水 彰彦
3	外科外来で、診察・処置中の患者の恐怖心や不安を和らげる	瀬谷 由美
		宮川 裕子
4	先天性疾患患児の発達と支援について考える	川崎 陽子
		森田 孝次
		中島 公子
		阿久澤 直子
小林 富男		
5	救急隊関係者に対する病院前新生児蘇生法講習会プログラムを用いた新生児蘇生法研修会に関する検討	丸山 憲一
6	プレパレーション、ディストラクションに使用するツールの検討 —子ども達の力を引き出し頑張りを認める支援—	矢島 美季
7	血液製剤発注システムの導入へ向けた検討	新井 菜津子
8	レーザー治療中の乳児血管腫症例で慣瘍形成した症例の検討	斉藤 景
		浜島 昭人
		江崎 聖美
9	当院における乳児血管腫レーザー治療の検討	江崎 聖美
		浜島 昭人
		斉藤 景
10	摂食嚥下機能獲得支援に向けた、保護者支援に関する調査	木下 樹
11	外来の環境を整え、子供の恐怖心を和らげる	佐川 有子
		宮川 裕子

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
12	ガラスバッジおよびDOSIRISを用いた眼の水晶体被ばく線量比較	清 水 宏 史
13	麻酔中の経食道エコーの挿入と換気量の変化の関連性を調べる	坂 本 崇
14	麻酔経験年数が小児の気道確保デバイスのサイズ選択に及ぼす影響	廣 木 茜
15	患者満足度向上のためのアロマセラピーの導入	佐 藤 直 美
16	当院における漏斗胸に対するNuss法手術の術後管理の検討	浜 島 昭 人
		斉 藤 景
		江 崎 聖 美
17	イベント参加時の写真を残すことによる、患者と家族の愛着形成の促進	藤 井 勇 気
		荒 川 実 穂
18	小児医療センター看護部の看護研究支援体制の充実	金 子 友 香
19	ファイザー社コロナワクチン接種後における抗体力価定量	桐 生 拓 哉
20	検査科におけるインシデントの検討	田 中 伸 久
21	死産、新生児死亡、胎児疾患などに伴う妊娠中絶など産科でグリーフケアが必要な症例に対して看護の充実を図る	坪 井 杏 菜
		田 島 伴 美
22	生活歯髄切断法の術式の検討	大 嶋 瑛
23	歯科外来の環境整備	瀬 下 愛 子
		楠 幸 代
		若 井 美 佳
24	災害看護：災害時の屋外避難シミュレーション	亀 井 和 宏
		森 田 孝 次
		船 山 晋
25	乳幼児の座位姿勢と活動参加について	窪 田 莉 那
		六 本 木 温 子
		林 香 織
26	小児期の歩行における機能評価と練習プログラムの検討	臼 田 由 実 子
		鳥 越 和 哉
		秋 山 友 香
27	手術室の装飾～窓にアートを～	高 橋 健 一
28	Abbott社ARCHITECT抗SARS-CoV2 抗体検査における試薬検討	星 野 知 栄 子
29	小児全血検体を用いた血糖測定におけるHct値の影響	松 井 重 憲
		神 宮 大 輝
		桐 生 拓 哉
30	整形外科術後患者の筋力低下にゲーム機による自主トレを導入して	真 下 茂 美
		七 五 三 木 大 樹
		鳥 越 和 哉
		浅 井 伸 治

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
31	歯科DAY患者の転倒転落防止への介入	青 木 郁 子
		鳥 山 和 久
		近 藤 龍 平
		青 木 優 弥
		佐 藤 和 美
32	神経筋疾患児の視線入力操作でのIT機器操作が身体運動やコミュニケーションへ及ぼす影響について	六本木 温 子
		窪 田 莉 那
		林 香 織
33	小児のメンタルヘルス領域における医療と教育の連携調査	森 田 孝 次
		川 崎 陽 子
34	離乳食献立の改定	萩 原 勝 代
		島 田 純 子
		瀬 間 裕 子
		狩 野 知 子
		原 田 明 菜
河 野 美 咲		
35	災害時備蓄用品の見直し	河 野 美 咲
		島 田 純 子
		原 田 明 菜
36	新旧アンギオ装置での被ばく線量測定と比較	下 田 寛 貴
37	社会に適応した検査室環境の整備	茂 木 彰 子
38	群馬県内における小児の抗SARS-CoV2 抗体保有率	神 宮 大 輝
39	当院におけるAABR検査の現状	宮 下 新 菜
40	先天性心疾患患者に対する心臓外科手術中における肺静脈血流量の評価	松 本 直 樹
41	院内迅速対応チームの導入の可能性の検討	下 山 伸 哉
		木 島 久 仁 子
		富 樫 哲 男
42	血中BNPの保存安定性の検討	田 原 貴 子
43	脊髄くも膜下麻酔における穿刺針の変更による麻酔レベルへの影響の検討	山 崎 聡 子

15. 受賞歴

中島公子. Visual liver assessment using Gd- EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging of patients in the early post-Fontan period. 小児循環器学会 Young Investigator's Award (英文の部). 2021.

統計編

1 管理業務

(1) 会 計

①経営分析

区 分		単位	令和3年度	2年度		
病 床	利 用 率	%	73.4	72.0		
患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	入 院	人	110.2	108.0	
		外 来	人	183.9	181.3	
	外 来 入 院 比 率		%	110.7	111.8	
	職 員 1 人 1 日 当 り 患 者 数	医 師	入 院	人	2.4	2.3
			外 来	人	4.0	3.9
		看 護 師	入 院	人	0.5	0.5
外 来			人	0.9	0.8	
収 入	患 者 1 人 1 日 当 り 診 療 収 入	入 院 診 療 収 入		円	84,236	84,094
		う ち	薬 品 収 入	円	4,769	4,319
			検 査 収 入	円	1,196	848
			放 射 線 収 入	円	116	151
		外 来 診 療 収 入		円	18,326	18,792
		う ち	薬 品 収 入	円	4,780	4,582
			検 査 収 入	円	3,351	2,955
			放 射 線 収 入	円	889	931
費 用	患 者 1 人 1 日 当 り 材 料 費	材 料 費		円	51,965	13,276
		う ち	薬 品 費	円	7,494	7,750
			診 療 材 料 費	円	5,185	5,200
診 療 収 入 に 対 する 割 合	投 薬 ・ 注 射 収 入		%	9.6	9.0	
	検 査 収 入		%	4.7	3.9	
	放 射 線 収 入		%	1.1	1.1	
対 医 業 収 益 比	医 療 材 料 費	薬 品 費		%	14.4	15.0
		そ の 他 の 医 療 材 料 費		%	14.4	10.1
		計		%	24.4	25.2
	職 員 給 与 費		%	80.4	84.6	
検 査 の 状 況	患 者 100 人 当 り	検 査 件 数		件	522	506
		放 射 線 件 数		件	39	40
	検 査 技 師 1 人 当 り	検 査 件 数		件	49,085	35,193
		検 査 収 入		千円	21,910	13,636
	X 線 技 師 1 人 当 り	放 射 線 件 数		件	6,564	5,604
		放 射 線 収 入		千円	8,845	7,824

元年度	平成 30 年度	29 年度	28 年度	27 年度	26 年度
71.9	76.2	70.9	71.4	73.5	69.2
107.8	114.2	106.3	107.1	110.3	103.8
198.5	197.7	189.9	190.7	193.9	191.2
120.7	115.7	119.4	118.5	116.7	123.1
2.3	2.6	2.6	2.4	2.5	2.4
4.3	4.5	4.6	4.3	4.3	4.4
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
0.9	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8
86,660	85,762	84,584	81,467	80,675	87,441
4,895	6,197	3,366	1,861	1,917	2,002
950	729	736	945	762	684
151	130	141	157	108	124
17,285	16,019	16,557	16,854	16,636	15,614
4,587	3,746	4,648	4,781	5,140	4,393
2,748	2,702	2,706	2,574	2,407	2,262
932	911	973	952	830	842
12,984	12,538	12,815	11,940	11,885	12,412
7,680	7,391	7,365	6,683	6,528	6,490
5,004	4,855	5,113	4,939	5,040	5,624
9.7	10.1	8.5	7.4	7.9	6.9
4.0	3.7	3.8	3.9	3.6	3.3
1.2	1.1	1.2	1.3	1.1	1.1
15.3	14.8	15.0	13.9	13.6	13.1
10.0	9.8	10.5	10.4	11.2	11.9
25.3	24.7	25.5	24.3	24.8	25.0
81.5	77.2	81.4	85.1	81.0	78.7
527	522	552	548	509	519
40	40	42	39	47	45
41,763	46,990	42,742	42,528	37,115	39,911
15,307	16,071	13,992	14,204	12,013	11,951
5,998	5,998	5,896	5,614	6,793	6,393
8,393	8,226	8,428	8,381	7,244	7,333

②収益的收入及び支出

科 目	年 度	令和3年度		2 年 度		元 年 度	
		決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
病 院 事 業 収 益		6,669,940	100.0	6,381,194	100.0	6,319,790	100.0
医 業 収 益		4,401,491	66.0	4,308,666	67.5	4,383,884	69.4
入 院 収 益		3,386,956	50.8	3,315,995	52.0	3,420,381	54.1
外 来 収 益		815,383	12.2	828,131	13.0	823,283	13.0
そ の 他 医 業 収 益		199,152	3.0	164,540	2.6	140,220	2.2
医 業 外 収 益		2,268,449	34.0	2,015,516	31.6	1,920,837	30.4
受 取 利 息 配 当 金		23	0.0	47	0.0	108	0.0
補 助 金		192,073	2.9	116,443	1.8	18,508	0.3
負 担 金 ・ 交 付 金		1,605,499	24.1	1,484,109	23.3	1,471,043	23.3
長 期 前 受 金 戻 入		290,467	4.4	290,441	4.6	275,018	4.4
そ の 他 医 業 外 収 益		180,387	2.7	124,476	2.0	156,160	2.5
特 別 利 益		0	0.0	57,011	0.9	15,069	0.2
病 院 事 業 費 用		6,546,815	100.0	6,591,783	100.0	6,509,005	100.0
医 業 費 用		6,434,519	98.3	6,443,706	97.8	6,384,197	98.1
給 与 費		3,538,301	54.0	3,643,097	55.3	3,573,702	54.9
材 料 費		1,099,585	16.8	1,108,538	16.8	1,130,922	17.4
経 費		1,238,977	18.9	1,130,995	17.2	1,138,901	17.5
減 価 償 却 費		520,697	8.0	534,469	8.1	490,824	7.5
資 産 減 耗 費		11,588	0.2	2,008	0.0	12,413	0.2
研 究 研 修 費		25,371	0.4	24,598	0.4	37,437	0.6
医 業 外 費 用		112,296	1.7	90,752	1.4	108,471	1.7
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費		6,023	0.1	6,844	0.1	10,022	0.2
母 子 保 健 指 導 費		360	0.0	160	0.0	403	0.0
雑 損 失		105,913	1.6	83,748	1.3	98,045	1.5
特 別 損 失		0	0.0	57,325	0.9	16,337	0.3
収 支 差		123,125		▲ 210,589		▲ 189,215	

(単位：千円・%)

平成 30 年度		29 年 度		28 年 度		27 年 度		26 年 度	
決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
6,402,746	100.0	5,961,445	100.0	5,839,593	100.0	5,894,218	100.0	5,966,108	100.0
4,482,505	70.0	4,182,516	70.2	4,102,408	70.3	4,192,060	71.1	4,200,095	70.4
3,576,199	55.9	3,281,682	55.0	3,185,180	54.5	3,256,138	55.2	3,313,567	55.5
772,753	12.1	767,134	12.9	781,018	13.4	783,789	13.3	728,444	12.2
133,553	2.1	133,700	2.2	136,210	2.3	152,133	2.6	158,083	2.6
1,920,241	30.0	1,778,930	29.8	1,736,409	29.7	1,702,141	28.9	1,765,729	29.6
99	0.0	100	0.0	171	0.0	541	0.0	524	0.0
19,650	0.3	19,486	0.3	19,751	0.3	19,597	0.3	20,106	0.3
1,460,339	22.8	1,331,884	22.3	1,309,745	22.4	1,327,036	22.5	1,361,337	22.8
251,611	3.9	256,644	4.3	249,955	4.3	237,182	4.0	235,035	3.9
188,541	2.9	170,815	2.9	156,786	2.7	117,785	2.0	148,727	2.5
0	0.0	0	0.0	777	0.0	17	0.0	284	0.0
6,342,390	100.0	6,132,370	100.0	6,103,576	100.0	5,988,480	100.0	7,186,361	100.0
6,208,675	97.9	6,024,962	98.2	5,980,166	98.0	5,847,341	97.6	5,777,535	80.4
3,462,612	54.6	3,404,643	55.5	3,491,030	57.2	3,394,094	56.7	3,305,522	46.0
1,127,676	17.8	1,090,952	17.8	1,020,160	16.7	1,039,635	17.4	1,049,436	14.6
1,125,771	17.7	1,031,407	16.8	982,641	16.1	955,823	16.0	970,270	13.5
445,725	7.0	453,151	7.4	416,370	6.8	405,399	6.8	404,954	5.6
11,320	0.2	5,113	0.1	24,189	0.4	9,531	0.2	5,730	0.1
35,572	0.6	39,695	0.6	45,775	0.7	42,859	0.7	41,623	0.6
103,383	1.6	107,408	1.8	92,321	1.5	110,000	1.8	102,502	1.4
13,849	0.2	15,155	0.2	15,945	0.3	17,154	0.3	17,203	0.2
193	0.0	201	0.0	116	0.0	363	0.0	339	0.0
89,341	1.4	92,053	1.5	76,260	1.2	92,482	1.5	84,960	1.2
30,332	0.5	0	0.0	31,089	0.5	31,139	0.5	1,306,324	18.2
60,356		▲ 170,925		▲ 263,984		▲ 94,261		▲ 1,220,252	

③月別医業収益内訳

区分		月別						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入院 収益	入院料	106,123,101	183,826,996	225,973,472	236,935,022	231,052,560	192,809,072	241,108,283
	給食料	3,186,580	4,262,736	5,173,228	5,643,617	5,201,855	4,358,766	6,102,070
	投薬	1,078,690	1,077,410	928,769	1,125,852	1,379,895	1,422,472	2,290,581
	注射	16,912,050	35,723,060	11,386,220	10,817,159	23,193,889	23,749,837	5,418,693
	処置及び手術	44,001,070	64,238,240	54,169,929	55,364,899	52,259,058	45,412,878	68,888,533
	検査	2,848,970	6,044,100	4,718,176	2,473,032	5,773,044	5,057,239	4,021,566
	X線	490,340	892,610	461,890	-26,435	393,661	463,846	354,545
	その他	7,258,130	6,355,790	7,751,937	9,043,113	7,744,845	8,622,698	6,588,535
	計	181,898,931	302,420,942	310,563,621	321,376,259	326,998,807	281,896,808	334,772,806
外来 収益	初診料	1,456,190	1,312,460	1,778,462	1,720,015	1,860,948	1,632,304	1,460,847
	再診料	5,768,540	5,440,000	5,968,951	6,297,022	6,181,129	6,165,945	5,244,195
	投薬	81,660	220,720	150,826	142,455	101,675	421,344	50,386
	注射	8,681,980	4,195,400	11,458,516	20,348,683	20,344,535	25,451,859	21,472,722
	処置及び手術	3,573,000	4,688,000	3,868,232	3,347,231	4,640,058	3,241,683	4,449,779
	検査	11,524,570	10,325,910	12,892,537	13,966,043	14,538,016	13,421,435	11,938,817
	X線	3,040,960	2,826,770	2,997,689	3,882,644	3,939,163	3,422,626	3,325,057
	その他	22,398,188	31,500,390	25,831,618	25,512,455	21,365,109	20,496,551	17,803,822
	計	56,525,088	60,509,650	64,946,831	75,216,548	72,970,633	74,253,747	65,745,625
その他	12,246,080	9,025,628	16,054,535	11,676,790	13,016,394	12,519,728	11,001,878	
合計	250,670,099	371,956,220	391,564,987	408,269,597	412,985,834	368,670,283	411,520,309	

(単位：円・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和3年度計	2年度計	対前年比
221,941,487	213,963,371	189,419,103	159,200,863	139,102,783	2,341,456,113	2,321,508,727	100.9
4,356,732	4,643,261	3,691,829	3,804,191	3,955,013	54,379,878	49,222,086	110.5
1,892,252	1,242,095	756,401	874,575	1,821,041	15,890,033	15,526,228	102.3
5,578,705	8,863,002	24,327,233	4,534,248	5,354,993	175,859,089	154,787,852	113.6
67,769,089	56,448,183	52,066,856	36,263,910	61,599,167	658,481,812	661,669,981	99.5
3,861,477	4,717,247	1,658,144	2,293,631	4,617,003	48,083,629	33,424,049	143.9
202,431	520,987	188,044	405,136	334,310	4,681,365	5,939,317	78.8
7,973,289	8,037,767	6,507,250	5,888,179	6,352,282	88,123,815	73,916,869	119.2
313,575,462	298,435,913	278,614,860	213,264,733	223,136,592	3,386,955,734	3,315,995,109	102.1
1,417,354	1,459,342	1,474,143	1,152,155	1,466,518	18,190,738	16,539,994	110.0
5,633,791	5,078,152	4,578,082	4,144,697	5,215,855	65,716,359	57,945,048	113.4
1,631,830	51,403	109,652	55,049	97,914	3,114,914	2,627,737	118.5
30,161,908	37,110,217	16,457,045	3,654,287	10,239,179	209,576,331	199,298,906	105.2
3,294,531	5,090,301	3,447,053	3,385,901	4,187,076	47,212,845	48,121,302	98.1
12,558,965	11,837,482	12,366,873	10,204,037	13,528,817	149,103,502	130,212,569	114.5
2,889,138	3,493,698	2,906,383	2,838,501	3,978,662	39,541,291	41,005,332	96.4
14,182,629	26,816,049	21,612,585	21,498,029	33,910,023	282,927,448	332,380,452	85.1
71,770,146	90,936,644	62,951,816	46,932,656	72,624,044	815,383,428	828,131,340	98.5
10,882,246	9,940,324	9,047,798	8,421,223	75,319,714	199,152,338	164,539,725	121.0
396,227,854	399,312,881	350,614,474	268,618,612	371,080,350	4,401,491,500	4,308,666,174	102.2

2 診療業務

(1) 総括表

区 分		令和3年度	2年度	元年度		
外 来	診 療 日 数	A	242 日	243 日	240 日	
	新 患 者 数	B	3,286 人	2,909 人	3,301 人	
	延 患 者 数	C	44,493 人	44,068 人	47,630 人	
	平 均 通 院 日 数	D	C/B	13.5 日	15.1 日	14.4 日
	日 平 均 新 患 者 数	E	B/A	13.6 人	12.0 人	13.8 人
	日 平 均 患 者 数	F	C/A	183.9 人	181.3 人	198.5 人
入 院	診 療 日 数	G	365 日	365 日	366 日	
	病 床 数	H	150 床	150 床	150 床	
	新 入 院 患 者 数	I	3,214 人	3,096 人	3,294 人	
	退 院 患 者 数	J	3,225 人	3,088 人	3,307 人	
	延 入 院 患 者 数	K	40,208 人	39,432 人	39,469 人	
	病 床 利 用 率	L	$K/G \times 100$	73.4%	72.0%	71.9%
	病 床 回 転 率	M	$\{(I+J) \times 1/2\} / H / L$	29.2 回	28.6 回	30.6 回
	平 均 在 院 日 数	N	$K / \{(I+J) / 2\}$	12.5 日	12.8 日	12.0 日
	外 来 入 院 比 率	O	$C / K \times 100$	110.7%	111.8%	120.7%
	入 院 率	P	$I / B \times 100$	97.8%	106.4%	99.8%
	日 平 均 新 入 院 数	Q	I/G	8.8 人	8.5 人	9.0 人
	日 平 均 患 者 数	R	K/G	110.2 人	108.0 人	107.8 人

平成 30 年度	29 年度	28 年度	27 年度	26 年度	25 年度
244 日	244 日	243 日	243 日	244 日	244 日
3,284 人	3,007 人	3,141 人	3,333 人	3,143 人	3,145 人
48,239 人	46,334 人	46,340 人	47,114 人	46,654 人	46,558 人
14.7 日	15.4 日	14.8 日	14.1 日	14.8 日	14.8 日
13.5 人	12.3 人	12.9 人	13.7 人	12.9 人	12.9 人
197.7 人	189.9 人	190.7 人	193.9 人	191.2 人	190.8 人
365 日	365 日	365 日	366 日	365 日	365 日
150 床	150 床	150 床	150 床	150 床	150 床
3,311 人	3,021 人	3,026 人	3,084 人	2,954 人	2,778 人
3,297 人	3,033 人	3,025 人	3,075 人	2,948 人	2,788 人
41,699 人	38,798 人	39,098 人	40,361 人	37,895 人	40,230 人
76.2%	70.9%	71.4%	73.5%	69.2%	73.5%
28.9 回	28.5 回	28.2 回	27.9 回	28.4 回	25.2 回
12.6 日	12.8 日	12.9 日	13.1 日	12.8 日	14.5 日
115.7%	119.4%	118.5%	116.7%	123.1%	115.7%
100.8%	100.5%	96.3%	92.5%	94.0%	88.3%
9.1 人	8.3 人	8.3 人	8.4 人	8.1 人	7.6 人
114.2 人	106.3 人	107.1 人	110.3 人	103.8 人	110.2 人

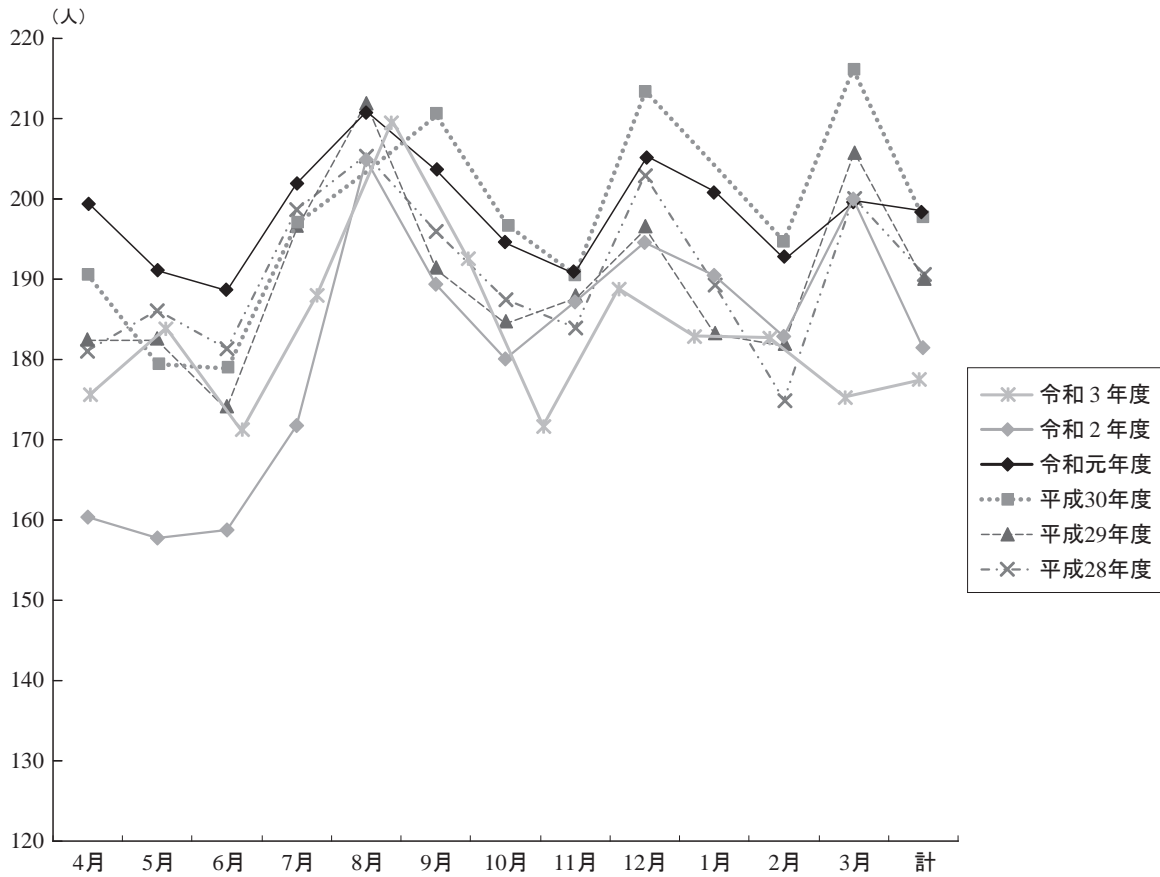
(2) 月別・科別外来患者受診の状況（人）

区分		月別						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
一般内科	初診	23	39	60	61	92	42	29
	再診	162	152	186	210	232	191	169
	延数	185	191	246	271	324	233	198
内分泌代謝科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	26	28	35	36	46	37	27
	延数	26	28	35	36	46	37	27
腎臓内科	初診	2	2	2	0	3	2	2
	再診	44	35	56	50	85	43	43
	延数	46	37	58	50	88	45	45
アレルギー 感染免疫科	初診	4	4	3	5	0	5	4
	再診	193	190	231	207	203	214	194
	延数	197	194	234	212	203	219	198
血液腫瘍科	初診	2	2	4	2	1	1	3
	再診	61	53	59	78	103	75	70
	延数	63	55	63	80	104	76	73
リハビリ	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	395	354	391	415	417	390	378
	延数	395	354	391	415	417	390	378
小児精神科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	16	12	19	16	16	15	25
	延数	16	12	19	16	16	15	25
遺伝科	初診	1	2	1	2	1	2	0
	再診	43	22	29	43	57	34	28
	延数	44	24	30	45	58	36	28
眼科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	8	6	11	7	7	13	10
	延数	8	6	11	7	7	13	10
耳鼻咽喉科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	27	15	26	28	18	29	17
	延数	27	15	26	28	18	29	17
循環器科	初診	13	19	47	45	32	36	27
	再診	346	326	420	450	553	487	470
	延数	359	345	467	495	585	523	497
神経内科	初診	15	12	5	10	10	14	9
	再診	334	263	328	320	304	303	281
	延数	349	275	333	330	314	317	290
一般外科	初診	36	22	39	31	33	34	35
	再診	367	259	321	337	370	351	325
	延数	403	281	360	368	403	385	360
形成外科	初診	43	45	37	42	47	38	47
	再診	312	346	308	323	354	288	355
	延数	355	391	345	365	401	326	402
整形外科	初診	15	17	19	8	11	10	11
	再診	238	179	215	258	292	241	249
	延数	253	196	234	266	303	251	260
脳神経外科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	1	3	2	1	0	1	0
	延数	1	3	2	1	0	1	0
新生児科	初診	32	41	25	40	28	33	27
	再診	236	228	223	251	269	254	282
	延数	268	269	248	291	297	287	309
産科	初診	45	38	37	38	45	40	41
	再診	297	279	256	236	204	253	230
	延数	342	317	293	274	249	293	271
歯科	初診	25	19	25	21	22	20	23
	再診	328	299	345	377	339	356	367
	延数	353	318	370	398	361	376	390
合計	初診	256	262	304	305	325	277	258
	再診	3,434	3,049	3,461	3,643	3,869	3,575	3,520
	延数	3,690	3,311	3,765	3,948	4,194	3,852	3,778
診療実日数		21	18	22	21	20	20	22
日平均患者数		175.7	183.9	171.1	188.0	209.7	192.6	171.7

(単位：人・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和3年度計	2年度計	対前年比
38	28	83	57	56	608	364	167.0
190	181	153	136	180	2,142	1,815	118.0
228	209	236	193	236	2,750	2,179	126.2
0	0	0	0	0	0	0	-
28	34	22	25	42	386	440	87.7
28	34	22	25	42	386	440	87.7
0	0	1	0	1	15	18	83.3
44	43	45	38	63	589	733	80.4
44	43	46	38	64	604	751	80.4
6	3	4	8	5	51	58	87.9
195	183	185	211	251	2,457	2,447	100.4
201	186	189	219	256	2,508	2,505	100.1
4	1	5	2	0	27	22	122.7
57	84	67	58	114	879	731	120.2
61	85	72	60	114	906	753	120.3
0	0	0	0	0	0	0	-
384	383	347	378	420	4,652	4,745	98.0
384	383	347	378	420	4,652	4,745	98.0
0	0	0	0	0	0	0	-
32	41	38	23	36	289	177	163.3
32	41	38	23	36	289	177	163.3
0	2	0	1	2	14	14	100.0
69	62	82	60	100	629	356	176.7
69	64	82	61	102	643	370	173.8
0	0	0	0	0	0	0	-
9	10	13	2	0	96	85	112.9
9	10	13	2	0	96	85	112.9
0	0	0	0	0	0	0	-
23	23	23	13	20	262	270	97.0
23	23	23	13	20	262	270	97.0
28	24	15	15	17	318	331	96.1
396	431	378	324	395	4,976	5,083	97.9
424	455	393	339	412	5,294	5,414	97.8
3	8	6	11	9	112	126	88.9
281	280	270	223	293	3,480	3,828	90.9
284	288	276	234	302	3,592	3,954	90.8
30	39	25	26	30	380	368	103.3
294	296	307	231	369	3,827	4,131	92.6
324	335	332	257	399	4,207	4,499	93.5
43	49	38	41	43	513	453	113.2
326	346	293	325	355	3,931	3,530	111.4
369	395	331	366	398	4,444	3,983	111.6
11	15	17	13	17	164	147	111.6
196	169	205	165	299	2,706	2,877	94.1
207	184	222	178	316	2,870	3,024	94.9
0	0	0	0	0	0	0	-
0	0	0	1	1	10	8	125.0
0	0	0	1	1	10	8	125.0
26	29	24	18	28	351	286	122.7
243	257	234	218	258	2,953	3,044	97.0
269	286	258	236	286	3,304	3,330	99.2
38	36	30	27	39	454	470	96.6
238	217	218	197	242	2,867	2,874	99.8
276	253	248	224	281	3,321	3,344	99.3
22	27	22	15	38	279	252	110.7
334	357	322	294	358	4,076	3,985	102.3
356	384	344	309	396	4,355	4,237	102.8
249	261	270	234	285	3,286	2,909	113.0
3,339	3,397	3,202	2,922	3,796	41,207	41,159	100.1
3,588	3,658	3,472	3,156	4,081	44,493	44,068	101.0
19	20	19	18	23	243	243	100.0
188.8	182.9	182.7	175.3	177.4	183.1	181.3	101.0

◆1日平均外来患者の状況



(単位：人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和3年度	175.7	183.9	171.1	188.0	209.7	192.6	171.7	188.8	182.9	182.7	175.3	177.4	183.1
2年度	160.2	157.6	158.6	171.6	204.7	189.2	179.9	187.0	194.4	190.3	182.7	199.8	181.3
元年度	199.5	191.3	188.5	202.0	211.0	203.6	194.7	190.7	205.4	201.0	192.6	199.9	198.5
平成30年度	190.7	179.4	179.0	197.0	203.5	210.4	196.9	190.4	213.5	204.2	194.9	216.3	197.7
29年度	182.3	182.4	173.7	196.3	212.0	191.2	184.4	187.7	196.3	181.7	181.7	205.8	189.6
28年度	181.1	186.1	181.3	198.7	205.4	196.0	187.5	184.0	202.9	189.3	174.9	200.1	190.7

(3) 月別入退院患者数

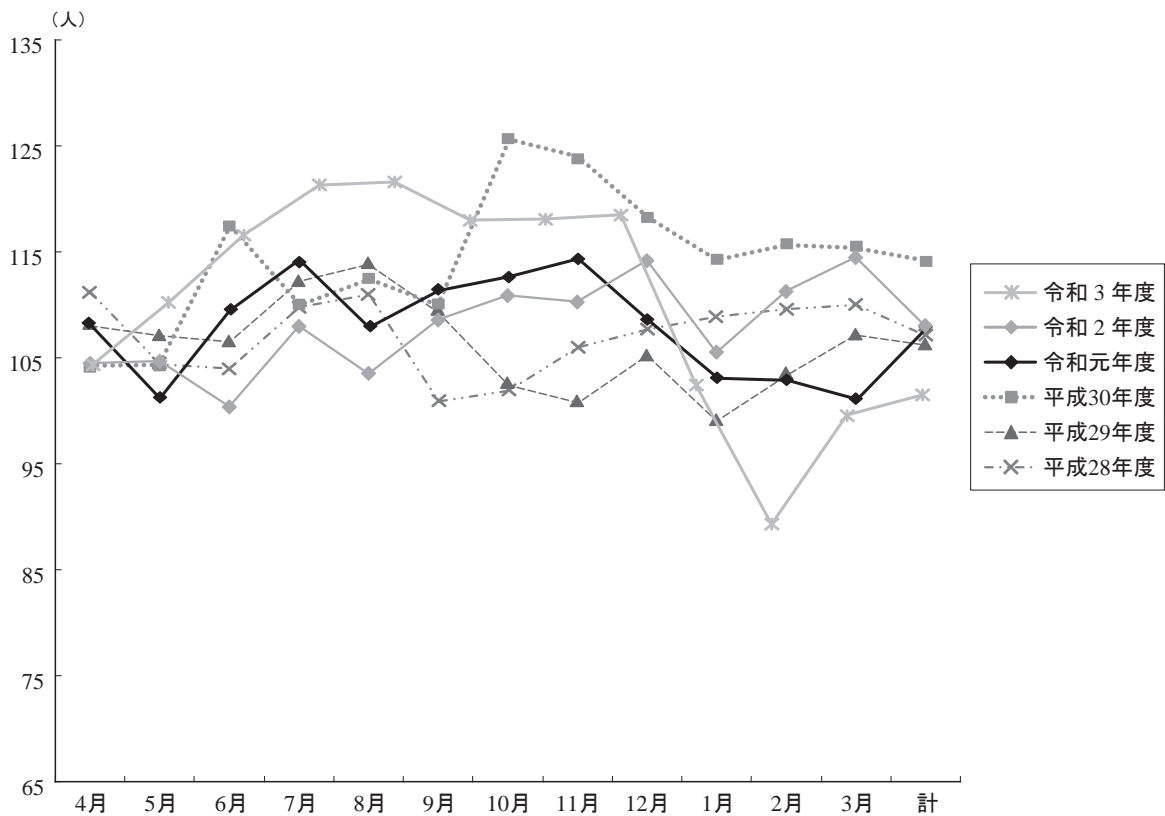
(単位：人・%)

病棟	月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和3 年度計	2年度 計	対前年 比
		第	入院	(1) 65	(3) 88	(8) 72	(8) 79	(5) 112	(1) 86	(1) 80	(3) 74	(6) 76	(2) 84	(3) 86	(8) 96	(49) 998
一	退院	(1) 64	(4) 90	(2) 75	(2) 82	(1) 112	(1) 96	(1) 84		(1) 82		(5) 83	(8) 96	(26) 1,021	(24) 914	104.8
	月末在院者数	20	17	20	23	27	17	13	14	13	18	19	19			
	延患者数	649	701	636	721	847	695	607	549	599	612	613	640	7,869	7,214	90.8
	1日平均	21.6	22.6	21.2	23.3	27.3	23.2	19.6	18.3	19.3	19.7	21.9	20.6	21.6	19.8	91.1
第	入院	(6) 95	(9) 79	(7) 80	(13) 110	(8) 116	(7) 86	(7) 83	(8) 87	(3) 74	(8) 78	(7) 79	(7) 99	(90) 1,066	(106) 1,091	91.9
二	退院	(4) 102	(7) 81	(10) 74	(9) 117	(9) 111	(6) 86	(5) 90	(9) 80	(4) 88	(9) 71	(8) 81	(6) 98	(86) 1,079	(101) 1,089	93.7
	月末在院者数	16	16	19	16	20	21	16	22	7	13	10	12			
	延患者数	613	601	599	740	652	655	667	666	667	531	516	588	7,495	7,082	107.8
	1日平均	20.4	19.4	20.0	23.9	21.0	21.8	21.5	22.2	21.5	17.1	18.4	19.0	20.5	19.4	108.1
第	入院	(6) 34	(12) 36	(9) 45	(17) 56	(16) 42	(12) 48	(16) 50	(14) 30	(10) 30	(6) 41	(15) 36	(18) 50	(151) 498	(146) 463	88.6
三	退院	(5) 36	(8) 38	(12) 39	(18) 57	(6) 50	(8) 52	(12) 52	(10) 34	(9) 46	(7) 32	(10) 38	(14) 57	(119) 531	(120) 491	88.5
	月末在院者数	18	20	23	21	23	23	25	25	10	18	21	18			
	延患者数	529	638	676	772	745	644	767	722	588	429	489	665	7,664	7,552	93.8
	1日平均	17.6	20.6	22.5	24.9	24.0	21.5	24.7	24.1	19.0	13.8	17.5	21.5	21.0	20.7	94.1
P	入院	(9) 3	(15) 4	(13) 1	(23) 7	(12) 7	(15) 6	(17) 3	(17) 3	(11) 4	(15) 2	(16) 4	(20) 4	(183) 44	(207) 28	107.3
I	退院	(11) 1	(18) 1	(12)	(29) 2	(20)	(19) 1	(20)	(22)	(14) 1	(13)	(18) 1	(24) 1	(220) 7	(232) 5	70.0
C	月末在院者数	6	6	8	7	6	7	7	5	5	7	6	5			
U	延患者数	185	196	188	205	181	205	222	201	173	171	172	160	2,259	2,425	95.9
	1日平均	6.2	6.3	6.3	6.6	5.8	6.8	7.2	6.7	5.6	5.5	6.1	5.2	6.2	6.6	96.2
新生児・未熟児	入院	24	28	20	28	21	25	20	12	17	16	17	23	251	(2) 245	87.8
	退院	(1) 26	(2) 19	(1) 18	(3) 25	(5) 19	(1) 22	(3) 19	(1) 12	(2) 20	(2) 18		(1) 16	(22) 229	(23) 216	85.1
	月末在院者数	25	32	33	33	30	32	30	29	24	20	22	28			
	延患者数	817	928	941	974	948	946	940	935	863	790	681	746	10,509	10,955	107.4
	1日平均	27.2	29.9	31.4	31.4	30.6	31.5	30.3	31.2	27.8	25.5	24.3	24.1	28.8	30.0	107.7
産科	入院	33	37	36	(1) 28	27	34	34	33	22	23	25	25	(1) 357	(3) 367	116.3
	退院	32	33	34	(1) 29	32	30	30	40	25	23	20	30	(1) 358	(2) 373	118.2
	月末在院者数	8	12	14	13	8	12	16	9	6	6	11	6			
	延患者数	339	352	458	348	396	394	457	483	285	235	317	348	4,412	4,204	124.7
	1日平均	11.3	11.4	15.3	11.2	12.8	13.1	14.7	16.1	9.2	7.6	11.3	11.2	12.1	11.5	125.0
合計	入院	(22) 254	(39) 272	(37) 254	(62) 308	(41) 325	(35) 285	(41) 270	(42) 239	(30) 223	(31) 242	(41) 245	(53) 297	(474) 3,214	(502) 3,096	97.6
	退院	(22) 260	(39) 262	(37) 240	(62) 312	(41) 324	(35) 287	(41) 275	(42) 242	(30) 262	(31) 225	(41) 238	(53) 298	(474) 3,225	(502) 3,088	97.5
	月末在院者数	93	103	117	113	114	112	107	104	65	82	89	88			
	延患者数	3,132	3,416	3,498	3,760	3,769	3,539	3,660	3,556	3,175	2,768	2,788	3,147	40,208	39,432	101.9
	1日平均	104.4	110.2	116.6	121.3	121.6	118.0	118.1	118.5	102.4	89.3	99.6	101.5	110.2	108.0	102.2
	病床利用率	69.6	73.5	77.7	80.9	81.1	78.6	78.7	79.0	68.3	59.5	66.4	67.7	73.4	72.0	102.2

(注) 入院・退院欄の上段は転棟患者数

病床利用率は、運用病床数150床で算出

◆1日平均入院患者の状況



(単位: 人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和3年度	104.4	110.2	116.6	121.3	121.6	118.0	118.1	118.5	102.4	89.3	99.6	101.5	110.2
2年度	104.5	104.7	100.4	108.0	103.5	108.6	110.9	110.3	114.2	105.5	111.3	114.5	108.0
元年度	108.1	101.1	109.4	114.2	107.8	111.3	112.6	114.3	108.5	103.0	102.8	101.0	107.8
平成30年度	104.2	104.2	117.6	109.9	112.5	109.9	125.5	124.1	118.2	114.2	115.6	115.2	106.3
29年度	108.1	107.1	106.5	112.2	113.9	109.4	102.4	100.8	105.3	99.1	103.3	107.2	107.1
28年度	111.2	104.4	104.0	109.8	111.0	100.9	101.9	106.0	107.7	108.9	109.6	110.0	110.3

(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数

(単位：人・%)

月別 管内別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和 3 年度計	構 成 比	2 年 度 計	対 前 年 比
前橋市	57	57	74	60	70	60	49	67	50	54	50	71	719	21.9	624	115.2
高崎市	53	55	58	54	64	61	65	48	73	44	55	49	679	20.7	616	110.2
安中	3	7	3	7	4	5	7	3	4	3	4	7	57	1.7	35	162.9
渋川	32	40	44	62	69	29	39	37	27	59	45	40	523	15.9	433	120.8
藤岡	6	3	2	3	3	4	1	4	6	2	4	9	47	1.4	57	82.5
富岡	5	1	4	4	1	0	2	3	0	3	5	6	34	1.0	48	70.8
吾妻	13	10	11	12	5	7	7	7	13	2	6	7	100	3.0	143	69.9
利根沼田	10	10	17	16	11	12	5	10	9	14	4	14	132	4.0	157	84.1
伊勢崎	31	28	30	25	37	36	24	32	37	33	28	44	385	11.7	321	119.9
桐生	9	14	15	13	10	7	13	6	8	7	12	6	120	3.7	91	131.9
太田	8	12	16	15	15	19	15	8	12	16	0	12	148	4.5	113	131.0
館林	8	7	7	2	12	12	5	9	7	7	4	3	83	2.5	50	166.0
県外	21	18	23	32	24	25	26	15	15	26	17	17	259	7.9	221	117.2
令和 3 年度計	256	262	304	305	325	277	258	249	261	270	234	285	3,286	100.0	2,909	99.5
2 年 度 計	281	266	278	332	333	287	286	271	268	257	209	233	—	—	3,301	—

(注) この表は、当センターに初診で登録された患者の集計である。したがって、即入院患者数が含まれたものである。

◆地域別新規登録患者数

区 分	令和3年度	2年度	対前年比
総 計	3,286	2,909	113.0
市 計	2,527	2,228	113.4
町 村 計	500	460	108.7
県 外 計	259	221	117.2
前橋市保健所	719	624	115.2
前 橋 市	719	624	115.2
高崎市保健所	679	616	110.2
高 崎 市	679	616	110.2
安中保健福祉事務所	57	35	162.9
安 中 市	57	35	162.9
渋川保健福祉事務所	523	433	120.8
渋 川 市	305	271	112.5
榛 東 村	82	59	139.0
吉 岡 町	136	103	132.0
藤岡保健福祉事務所	47	57	82.5
藤 岡 市	47	55	85.5
神 流 町			—
上 野 村		2	—

区 分	令和3年度	2年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	34	48	70.8
富 岡 市	25	37	67.6
下 仁 田 町	2	2	100.0
南 牧 村			—
甘 楽 町	7	9	77.8
吾妻保健福祉事務所	100	143	69.9
中 之 条 町	41	50	82.0
東 吾 妻 町	27	37	73.0
長 野 原 町	6	15	40.0
嬭 恋 村	7	21	33.3
草 津 町	13	9	144.4
高 山 村	6	11	54.5
利根沼田保健福祉事務所	132	157	84.1
沼 田 市	75	95	78.9
片 品 村	1	6	16.7
川 場 村	5	2	250.0
み な か み 町	29	32	90.6
昭 和 村	22	22	100.0

(単位：人・%)

区 分	令和3年度	2年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	385	321	119.9
伊勢崎市	330	277	119.1
玉村町	55	44	125.0
桐生保健福祉事務所	120	91	131.9
桐生市	67	48	139.6
みどり市	53	43	123.3
太田保健福祉事務所	148	113	131.0
太田市	148	113	131.0
館林保健福祉事務所	83	50	166.0
館林市	22	14	157.1
板倉町	4	1	400.0
明和町	1	4	25.0
千代田町	6	2	300.0
大泉町	38	21	181.0
邑楽町	12	8	150.0

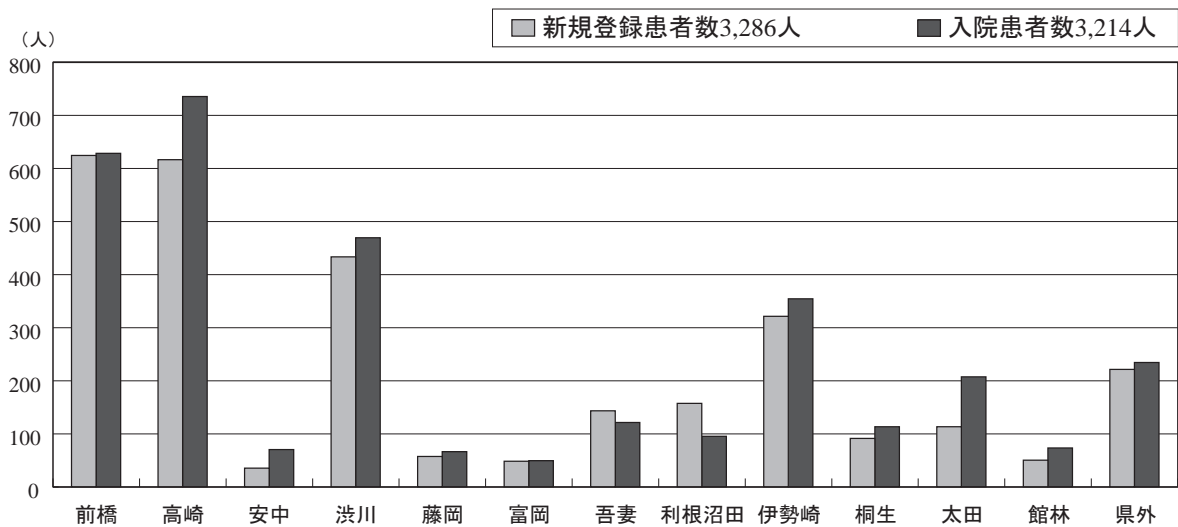
区 分	令和3年度	2年度	対前年比
県外計	259	221	117.2
北海道		3	—
岩手県	1	1	100.0
宮城県	2	2	100.0
秋田県	2		—
山形県		1	—
福島県	1		—
茨城県	2	4	50.0
栃木県	15	16	93.8
埼玉県	138	118	116.9
千葉県	13	5	260.0
東京都	45	35	128.6
神奈川県	24	13	184.6
新潟県	4	2	200.0
石川県		1	—
山梨県		1	—
長野県	3	1	300.0
静岡県	2	3	66.7
愛知県	2	7	28.6
三重県	1	1	100.0
京都府	1	2	50.0
大阪府	1	4	25.0
和歌山県	1		—
香川県	1		—
福岡県		1	—
国内計	259	221	117
国 外			

◆地域別入院患者の状況（再入院を含む）

区 分	令和3年度	2年度	対前年比
総 計	3,214	3,096	103.8
市 計	2,537	2,423	104.7
町 村 計	443	462	95.9
県 外 計	234	211	110.9
前橋市保健所	628	580	108.3
前 橋 市	628	580	108.3
高崎市保健所	735	680	108.1
高 崎 市	735	680	108.1
安中保健福祉事務所	70	72	97.2
安 中 市	70	72	97.2
渋川保健福祉事務所	469	439	106.8
渋 川 市	296	275	107.6
榛 東 村	70	63	111.1
吉 岡 町	103	101	102.0
藤岡保健福祉事務所	66	80	82.5
藤 岡 市	66	79	83.5
神 流 町			—
上 野 村		1	—

区 分	令和3年度	2年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	49	77	63.6
富 岡 市	25	45	55.6
下 仁 田 町	5	8	62.5
南 牧 村		1	—
甘 楽 町	19	23	82.6
吾妻保健福祉事務所	121	131	92.4
中 之 条 町	47	50	94.0
東 吾 妻 町	38	43	88.4
長 野 原 町	4	9	44.4
嬭 恋 村	8	12	66.7
草 津 町	19	11	172.7
高 山 村	5	6	83.3
利根沼田保健福祉事務所	95	136	69.9
沼 田 市	64	82	78.0
片 品 村	1	10	10.0
川 場 村	7	1	700.0
み な か み 町	12	25	48.0
昭 和 村	11	18	61.1

◆地域別利用状況（市保健所・保健福祉事務所管内別の状況 令和3年度）



(単位：人・%)

区 分	令和3年度	2年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	354	353	100.3
伊勢崎市	319	317	100.6
玉村町	35	36	97.2
桐生保健福祉事務所	113	111	101.8
桐生市	84	74	113.5
みどり市	29	37	78.4
太田保健福祉事務所	207	169	122.5
太田市	207	169	122.5
館林保健福祉事務所	73	57	128.1
館林市	14	13	107.7
板倉町	3		—
明和町		4	—
千代田町	6	1	600.0
大泉町	40	30	133.3
邑楽町	10	9	111.1

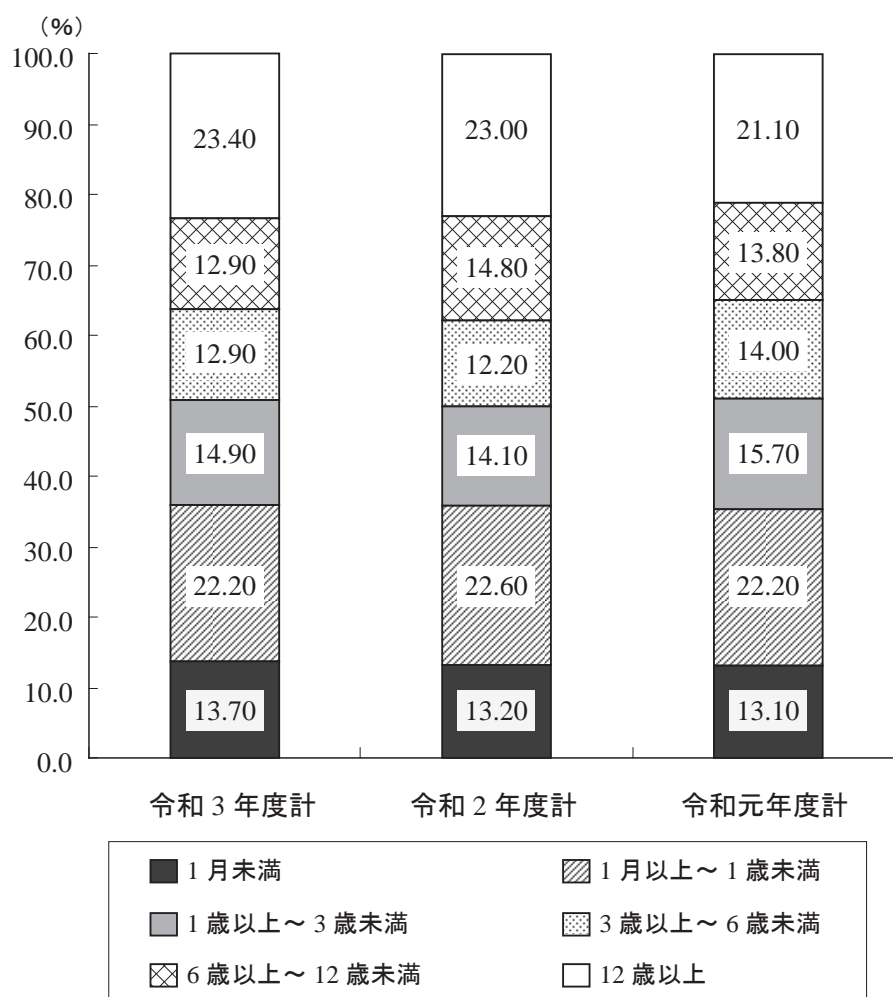
区 分	令和3年度	2年度	対前年比
県外計	234	211	110.9
岩手道		2	—
宮城県	1		—
秋田県	3		—
山形県		2	—
福島県	1		—
茨城県	2	2	100.0
栃木県	19	24	79.2
埼玉県	143	135	105.9
千葉県	4	2	200.0
東京都	21	22	95.5
神奈川県	19	10	190.0
新潟県	4		—
山梨県	4	1	400.0
長野県	4	2	200.0
静岡県		2	—
愛知県	1	4	25.0
三重県	2		—
京都府	5	2	250.0
大阪府	1		—
福岡県		1	—
国内計	234	211	110.9
国外			—

(5) 年齢階層別状況（新規登録患者）

（単位：人・％）

年齢	区分	男	女	令和3年度計	2年度計	対前年比
1月未満		241	210	451	385	117.1
1月以上～1歳未満		369	361	730	658	110.9
1歳以上～3歳未満		286	203	489	411	119.0
小計		896	774	1,670	1,454	114.9
3歳以上～6歳未満		246	178	424	355	119.4
6歳以上～12歳未満		232	191	423	431	98.1
12歳以上		124	645	769	669	114.9
令和3年度計		1,498	1,788	3,286		113.0
令和2年度計		1,320	1,589		2,909	
対前年比		113.5	112.5	113.0	88.1	

◆年齢階層別状況（新規登録患者）令和元年度～令和3年度



(6) 救急医療

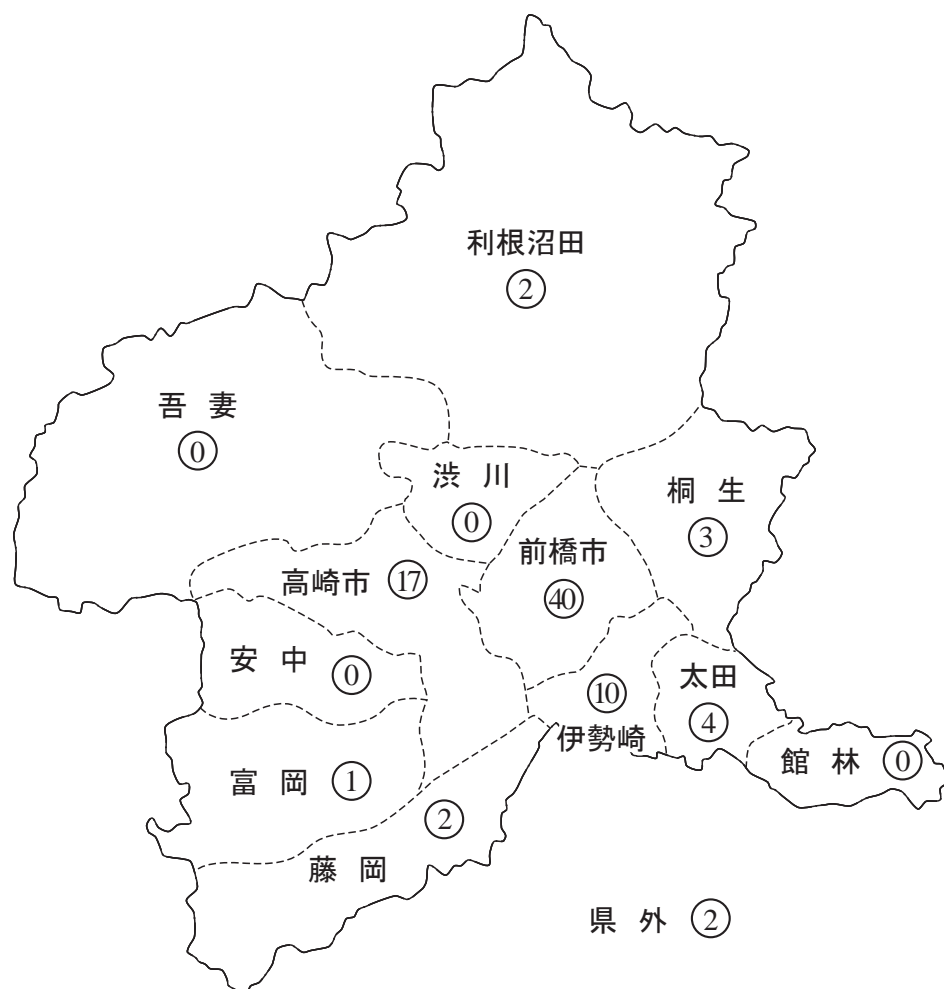
①救急医療の状況（診療状況より）

（単位：人・％）

区分		月別												令和 3年 度計	2年 度計	対前 年比
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
NICU車	時間外	3	3	3	4	4	7	3	2	3	3	2	2	39	25	156.0
	時間内	4	2	1	3	1	7	4	1	1	3	2	3	32	26	123.1
	休日	1	1	1	4	0	0	0	0	2	1	0	0	10	4	250.0
	計	8	6	5	11	5	14	7	3	6	7	4	5	81	55	147.3
救急車・その他	時間外	64	55	68	92	92	72	84	61	58	44	43	52	785	617	127.2
	時間内	2	5	12	23	12	10	13	4	12	3	15	15	126	99	127.3
	休日	18	57	17	37	54	25	21	40	38	50	18	20	395	313	126.2
	計	84	117	97	152	158	107	118	105	108	97	76	87	1,306	1,029	126.9
合計		92	123	102	163	163	121	125	108	114	104	80	92	1,387	1,084	128.0

（注）「時間内」とは、平日の8：30～17：15である。それ以外の時間を「時間外」に区分した。
土曜は「時間外」とした。

② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況（搬入元医療機関等）



年度 出動区分		令和3年度		2年度 出動件数	元年度 出動件数	平成 30年度 出動件数	29年度 出動件数	28年度 出動件数	27年度 出動件数	26年度 出動件数	25年度 出動件数	24年度 出動件数
		出動件数	対前年比									
救急患者		81	85.3%	55	95	99	95	90	99	55	87	57
内 訳	休日及 び外 時間	49	90.7%	29	54	48	39	40	58	31	40	32
	時間 内	32	78.0%	26	41	51	56	50	41	24	47	25
その他		17	100.0%	28	17	20	49	43	31	48	45	32
合計		98	87.5%	83	112	119	144	133	130	103	132	89

(注) 「その他」は、当センター入院中の患者を他の医療機関へ搬出したもの、及び他の医療機関の要請により当センター以外の他の医療機関へ搬送を行ったもの等である。

(7) 予防接種実施状況

①月別実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
B C G			3	1			2			1	2		9
ポリオ													
四種混合	2	6	5	2	5	6	4	2	5	5	2	4	48
三種混合													
二種混合					2								2
麻しん・風しん	2	2	1	3	2	2					1		13
麻しん													
風しん													
日本脳炎	2		2	1	3	4	1		3	1	3	3	23
ヒブ	3	4	7	4	4	7	2	2	2	3	2	2	42
肺炎球菌	4	5	7	4	5	4	1	2	2	1	3	2	40
子宮頸がん予防	1		1						1				3
水痘	2	3	1	3	2	4		2	1	2	1	2	23
B型肝炎	3	3	5	3	5	1	2	3	2	3	3	1	34
ロタウイルス								1	1		1		3
計	19	23	32	21	28	28	12	12	17	16	18	14	240

②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況

	前橋市	高崎市	安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	利根沼田	伊勢崎	桐生	太田	館林	県外	計
B C G		4	1	1					1		1		1	9
ポリオ														
四種混合	10	18	3	6	3				3	2	2		1	48
三種混合														
二種混合	1			1										2
麻しん・風しん	3	1		4		2					1		2	13
麻しん														
風しん														
日本脳炎	4	8	2	6		1		1	1					23
ヒブ	10	13	3	7	3				3	1	1		1	42
肺炎球菌	8	14	3	6	3				3	1	1		1	40
子宮頸がん予防				3										3
水痘	6	2		8						1	4		2	23
B型肝炎	7	14	2	4	2				3		1		1	34
ロタウイルス	1		2											3
計	50	74	16	46	11	3		1	14	5	11		9	240

③推 移

年 度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
実施件数	269	235	233	231	154	157	95	82	56	50	109	213	241	240

(8) 疾病分類別入院患者数

① 第一病棟

第一病棟科別入院患者数

アレルギー・リウマチ科/感染症科	636 人	60.5%
神経内科	288 人	27.4%
歯科	55 人	5.2%
循環器科	41 人	3.9%
一般内科 (小児科)	14 人	1.3%
外科 (小児外科)	13 人	1.2%
整形外科	3 人	0.3%
血液腫瘍科	1 人	0.1%
合 計	1,051 人	100.0%

②第二病棟

令和3年度 入院症例（他科入院で外科手術した症例も含む、重複含む）

<u>頸部</u>		<u>イレウス</u>	
正中頸嚢胞、側頸瘻	1	腸重積症	7
気管切開（喉頭気管分離）目的	9	イレウス（保存治療）	3
<u>肺・気管支</u>		イレウス（手術治療）	4
気胸	0	<u>胆道、脾臓</u>	
肺分画症	0	胆道閉鎖症	21
肺嚢胞性疾患	1	胆道拡張症	1
<u>横隔膜</u>		脾臓摘出目的	0
横隔膜ヘルニア	3	<u>腫瘍</u>	
<u>食道</u>		神経芽腫	0
先天性食道狭窄	2	肝芽腫	0
先天性食道閉鎖症	4	腎芽腫	0
食道アカラシア	0	その他の悪性腫瘍	4
胃食道逆流症	7	良性腫瘍	10
<u>腹壁</u>		<u>生殖泌尿器</u>	
腹壁破裂	0	水腎症	8
白線ヘルニア	0	膀胱尿管逆流症	0
鼠径ヘルニア		停留精巣（萎縮含む）	23
鼠径ヘルニア（精索水腫含む）	111	<u>皮膚、筋、骨格</u>	
<u>胃</u>		リンパ節腫大	0
肥厚性幽門狭窄症	4	リンパ管腫	7
胃軸捻転	0	血管腫	1
胃瘻造設目的	7	<u>その他</u>	
<u>十二指腸・小腸、結腸、腸間膜</u>		便秘	6
小腸閉鎖・狭窄	3	内視鏡（治療含む）	30
腸回転異常	0	CVカテーテル敗血症	5
Hirschsprung病	5	CVカテーテル挿入目的	18
Hirschsprung病類縁疾患	8	腸炎	11
短腸症候群	13	その他	61
消化管穿孔	9		
人工肛門閉鎖目的	8	合計	456
<u>虫垂</u>			
急性虫垂炎	25		
<u>直腸、肛門</u>			
直腸肛門奇形	15		
肛門疾患	1		

形成外科

(うちカッコ内は日帰り全身麻酔の入院患者数)

口唇裂	2	多指症・合指症	16
口唇顎裂	7	多趾症・合趾症	2
口唇口蓋裂	12	多合趾症	7
口蓋裂	7	欠指症	1
副耳	16(3)	母斑	21(6)
耳瘻孔	5(2)	皮膚腫瘍	32(13)
睫毛内反症	16(7)	血管腫・血管奇形	11(7)
舌小帯短縮症	10(2)		
漏斗胸	19	癍痕	4(2)
臍ヘルニア	25(14)		
白線ヘルニア	1		
腋臭症	2		

整形外科

【手術件数】88 件

手術	件数	偽関節手術(足)	1
骨内挿入物除去術(大腿)	8	骨折観血的手術(大腿)＜内固定を行なう＞	2
骨内挿入物除去術(下腿)	14	関節内骨折観血的手術(足)＜内固定を行なう[足]＞	1
骨内挿入物除去術(足)	5	断端形成術(骨形成を要する)(その他)	1
骨盤内異物除去術	1		
筋性斜頸手術	5	骨延長術[大腿骨]	2
先天性股関節脱臼観血的整復術	2	骨延長術[脛骨および腓骨]	2
腱鞘切開術(指)	4	Evans 手術	2
自己血貯血	4	計 造影検査(42 件)で除く	88
内反骨切り[大腿骨]	3		
外反骨切り[大腿骨]	1		
寛骨臼移動術	1		
骨切り(右下腿)	1		
観血的関節授動(膝)	1		
観血的関節授動(足)＜足関節＞	6		
内反足(アキレス腱切腱)手術	3		
骨端軟骨発育抑制術[大腿骨]	9		
骨端軟骨発育抑制術[脛骨]	7		
非観血的整復術(右大腿骨)	1		
偽関節手術(下腿)	1		

③第三病棟

血液腫瘍科

「業務編 3. 第三病棟 (3) 血液腫瘍科」内、業務内容参照。

④新生児未熟児病棟

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総 数
500g 未満	2	0	2
500～ 999g	20	7	27
1,000～1,499g	19	6	25
1,500～1,999g	23	5	28
2,000～2,499g	31	17	48
2,500g 以上	39	76	115
計	134	111	245

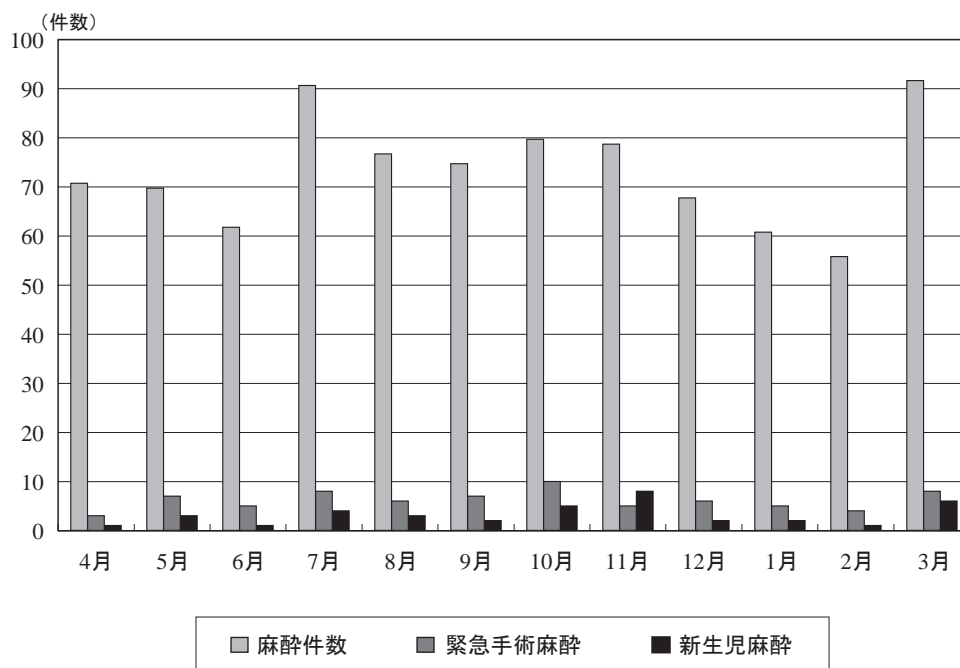
◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	1	0	1
23 週	3	0	3
24 週	2	2	4
25 週	5	4	9
26 週	4	1	5
27 週	5	0	5
28 週	4	2	6
29 週	4	3	7
30 週	4	0	4
31 週	0	1	1
32 週	7	1	8
33 週	10	3	13
34 週	13	2	15
35 週	8	4	12
36 週	10	9	19
37 週	17	16	33
38 週	16	26	42
39 週	12	16	28
40 週	6	15	21
41 週	3	6	9
42 週	0	0	0
計	134	111	245

(9) 麻 酔

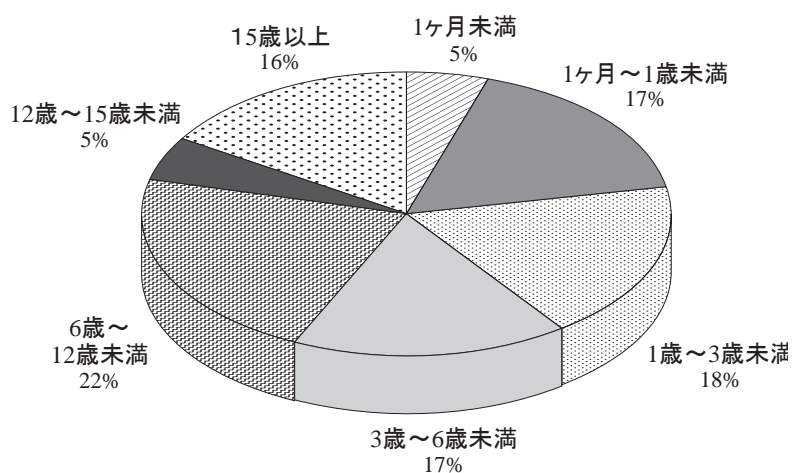
① 2021 年度 月別麻酔件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
麻酔件数	71	70	62	91	77	75	80	79	68	61	56	92
緊急手術麻酔	3	7	5	8	6	7	10	5	6	5	4	8
新生児麻酔	1	3	1	4	3	2	5	8	2	2	1	6



② 2021 年度 年齢階層別状況

1ヶ月未満	45
1ヶ月～1歳未満	147
1歳～3歳未満	161
3歳～6歳未満	153
6歳～12歳未満	190
12歳～15歳未満	45
15歳以上	141



(10) 放射線

① 依頼科別件数

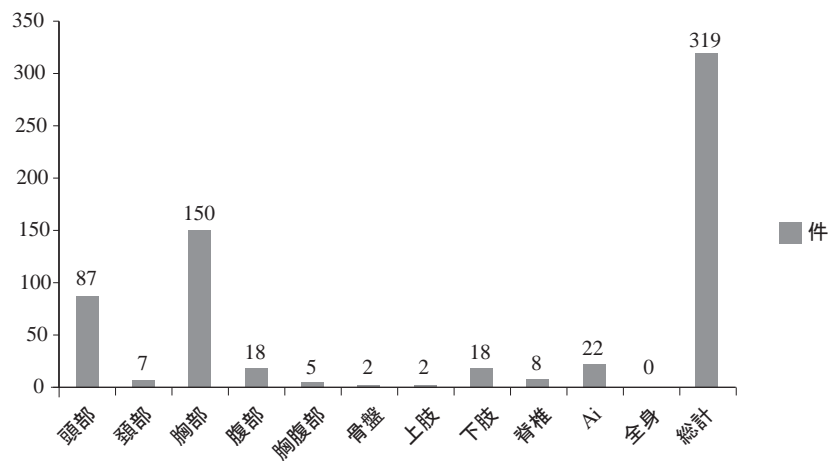
検査 依頼科	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル 撮 影	フィルム コピー	総計 (件)
アレルギー科	7	35	4	14	79	0	181	183	68	571
リハビリ科	0	0	0	0		0	110	0	0	110
遺 伝 科	1	2	0	0	10	0	60	0	19	92
一 般 内 科	12	42	0	5	82	0	356	40	57	594
外 科	17	157	92	287	860	0	861	575	284	3,133
形 成 外 科	59	16	56	0	115	0	802	54	50	1,152
血液腫瘍科	22	119	4	4	130	0	225	249	78	831
産 科	12	51	0	0	0	0	135	134	24	356
歯 科	27	0	0	1	2	0	319	10	12	371
耳 鼻 科	1	1		0	0	0	0	1	3	6
循環器内科	100	138	46	18	42	1,019	3,290	3,691	447	8,791
小児精神科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	8	189	0	197
新 生 児 科	17	214	20	49	173	0	257	2,945	147	3,822
神 経 内 科	16	107	0	35	27	1	113	176	290	765
腎 臓 内 科	0	6	0	2	66	0	19	0	7	100
整 形 外 科	27	82	0	21	67	0	10,969	442	181	11,789
正常新生児科	0	7	0	0	7	0	52	6	2	74
内分泌代謝科	0	6	0	0	5	0	38	0	7	56
脳 外 科		1	0	0	0	0	0	0	1	2
放 射 線 科		0	0	0	2	0	0	0	5	7
総 計	319	984	222	436	1,667	1,020	17,795	8,695	1,682	32,820

② 月別件数

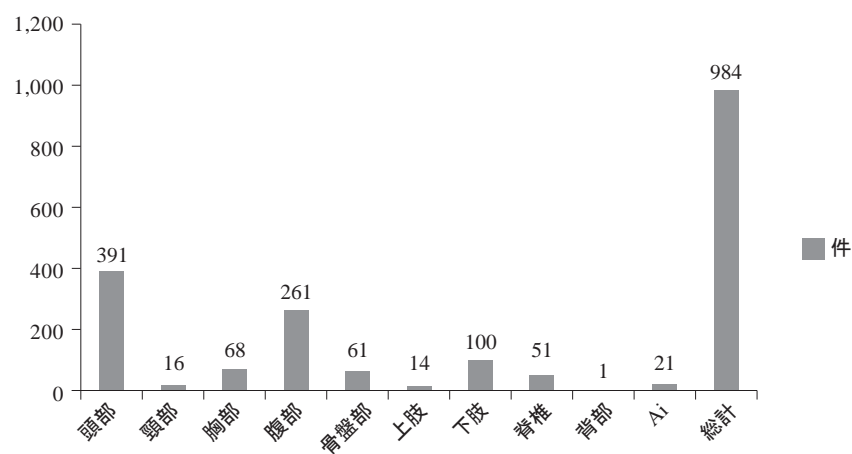
検査 検査月	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル 撮 影	フィルム コピー	総計 (件)
4月	22	78	16	52	157	65	1,379	752	121	2,642
5月	25	62	0	30	106	74	1,192	665	110	2,264
6月	15	78	20	34	137	98	1,388	697	108	2,575
7月	31	94	33	36	155	74	1,795	618	168	3,004
8月	27	95	36	26	162	128	1,749	737	151	3,111
9月	21	87	16	33	131	87	1,586	738	144	2,843
10月	35	83	20	46	141	96	1,542	882	152	2,997
11月	19	68	21	48	146	76	1,338	825	139	2,680
12月	27	84	24	36	125	93	1,398	707	172	2,666
1月	21	70	16	25	138	20	1,394	722	156	2,562
2月	35	74	12	23	119	39	1,209	633	116	2,260
3月	41	111	8	47	150	170	1,825	719	145	3,216
総計	319	984	222	436	1,667	1,020	17,795	8,695	1,682	32,820

③検査種別件数

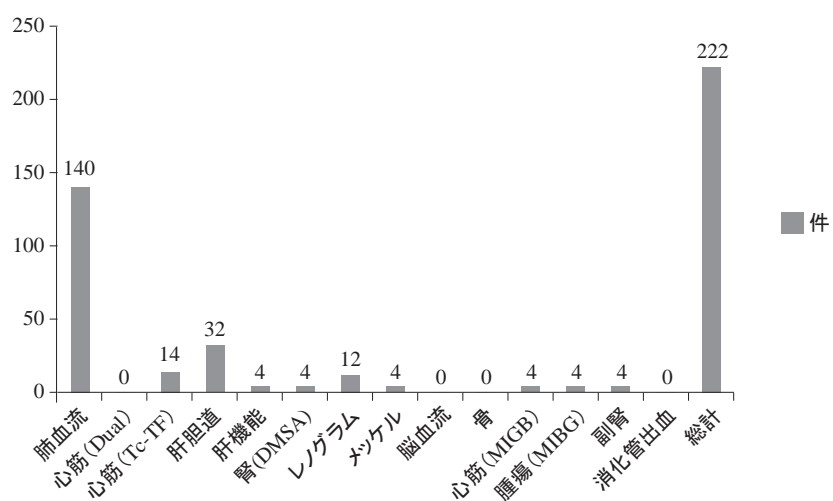
ア CT



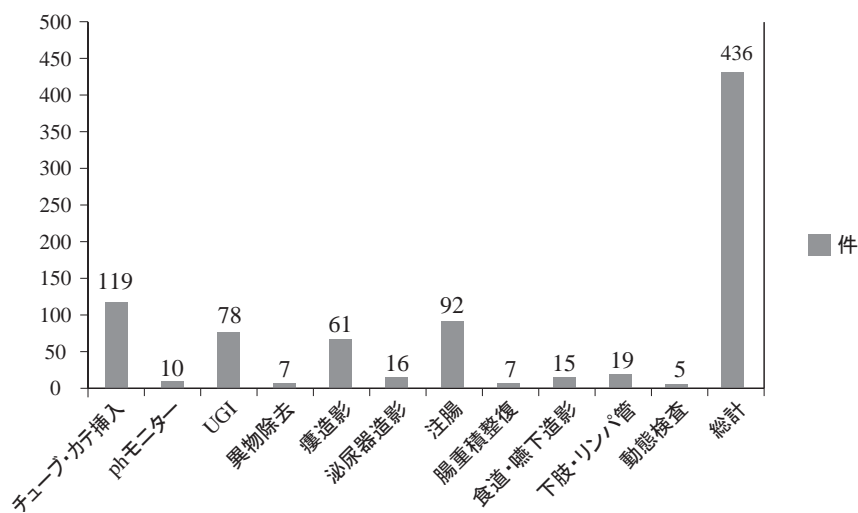
イ MRI



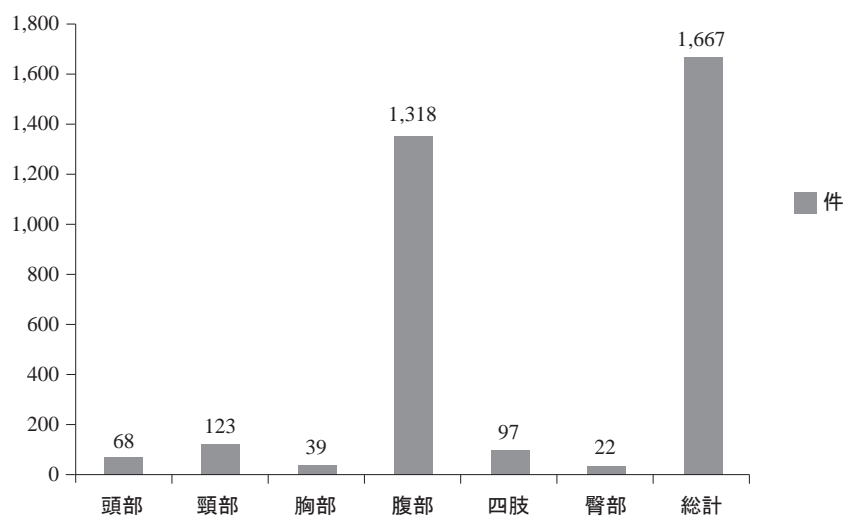
ウ RI



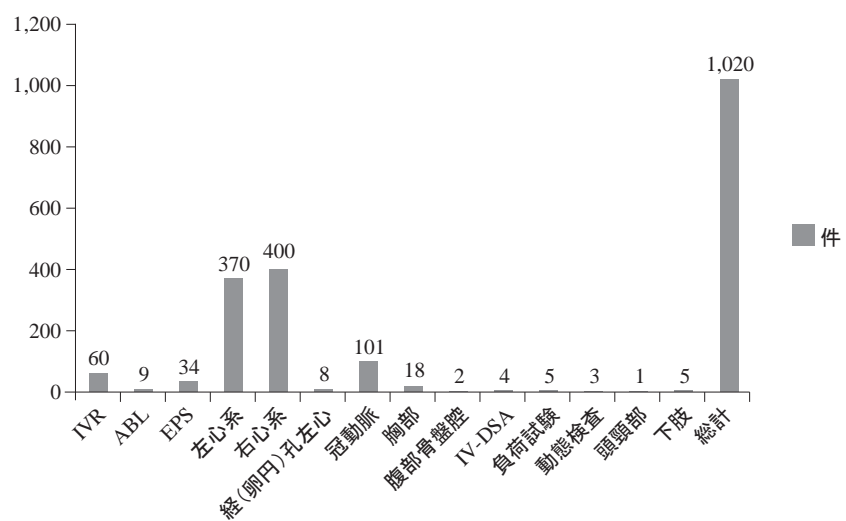
エ X-TV



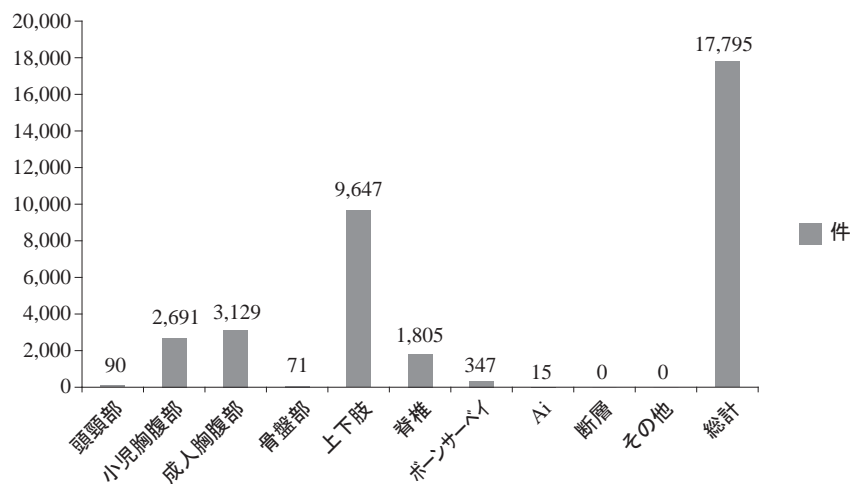
オ US



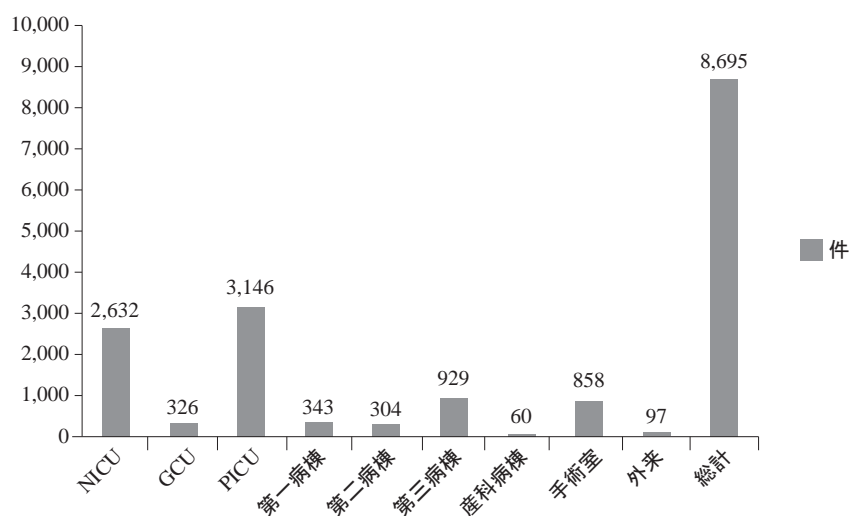
カ 心臓カテーテル



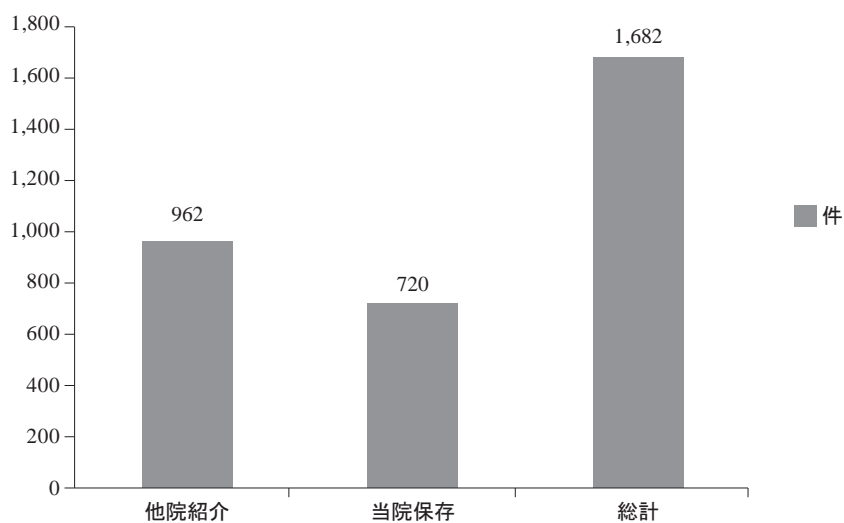
キ 一般撮影



ク ポータブル撮影



ケ 画像データコピー



(1) 臨床検査

①検査の状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生 化 学	24,211	23,627	24,815	25,883	26,856	24,290	25,930	25,891	23,545
血 液	5,385	5,124	5,485	5,378	5,799	5,235	5,750	6,010	5,109
免疫血清	2,391	2,376	2,376	2,722	2,762	2,468	2,602	2,514	2,378
一 般	973	876	1,126	1,147	1,181	980	961	1,041	879
生 理	873	802	998	1,180	1,366	1,011	1,221	1,065	1,046
細 菌	1,297	1,095	1,570	1,224	1,383	1,590	1,344	1,413	1,154
病 理	165	150	126	156	131	114	216	146	113
輸 血	366	300	268	331	280	288	321	285	231
薬物(再掲)	53	63	79	77	55	54	74	36	63
アレルギー(再掲)	405	281	382	248	219	315	167	200	211
特殊検査(再掲)	6	8	16	4	4	17	12	28	16
外部委託	1,007	661	887	861	1,041	832	756	733	754
総合計(再掲除く)	36,668	35,011	37,651	38,882	40,799	36,808	39,101	39,098	35,209

②血液製剤取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
赤 血 球 液	1 単位	11	3	4	0	5
	2 単位	44	28	30	28	33
洗 浄 赤 血 球 液	1 単位	0	0	0	0	0
	2 単位	0	0	0	0	0
小 計	55	31	34	28	32	38
新 鮮 凍 結 血 漿	120	23	39	17	2	0
	240	18	7	14	17	20
	480	0	0	0	0	0
小 計	41	46	31	14	17	20
濃 厚 血 小 板	2 単位	0	0	0	0	0
	5 単位	0	0	0	0	0
	10 単位	51	27	32	25	16
	15 単位	0	0	0	0	0
	20 単位	3	3	6	5	4
濃厚血小板HLA	10 単位	0	0	0	0	0
洗 浄 血 小 板	10 単位	0	0	0	2	0
洗 浄 血 小 板 HLA	10 単位	0	0	0	0	0
小 計	54	30	38	32	24	16
合 成 血	0	0	0	0	0	0
自 己 血	0	0	0	0	1	2
顆 粒 球 輸 血	0	0	0	0	0	0
合 計	150	107	103	74	74	76

③分割取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
赤血球液	1 単位	26	9	5	0	15
	2 単位	76	25	41	25	48
小 計	102	34	46	25	52	63
濃厚血小板	5 単位	0	0	0	0	0
	10 単位	73	35	39	4	16
	15 単位	0	0	0	0	0
	20 単位	0	0	0	0	0
小 計	73	35	39	4	6	16
合 計	175	69	85	29	58	79

④幹細胞保存

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
幹細胞保存	1	0	0	0	0	0	0	0	0

(単位：件、%)

1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
21,888	20,388	25,004	292,328	298,439	98.0
4,829	4,633	5,739	64,476	64,125	100.5
2,162	2,070	2,579	29,400	31,290	94.0
908	790	1,080	11,942	13,243	90.2
929	784	1,023	12,634	12,366	102.2
1,334	1,142	1,339	15,885	14,792	107.4
125	118	231	1,791	2,124	84.3
243	251	266	3,430	3,603	95.2
71	68	69	762	976	78.1
294	335	375	3,432	4,551	75.4
12	20	16	159	155	102.6
757	607	920	9,816	8,845	111.0
33,175	30,783	38,181	446,055	454,509	98.1

(単位：件、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	対前年度比
4	3	1	1	2	6	42	79	53.2
37	49	39	31	32	23	404	549	73.6
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	1	0	1	0	
41	52	40	32	35	29	447	628	71.2
7	20	4	4	2	1	119	121	98.3
19	28	24	16	8	17	200	633	31.6
0	0	0	0	0	0	0	0	
26	48	28	20	10	18	319	754	42.3
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	1	0	0	0	1	2	2	100.0
41	54	37	26	15	19	362	336	107.7
0	0	0	0	0	8	8	0	
0	1	0	6	13	0	41	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	3	4	75.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
41	56	37	32	28	28	416	342	121.6
0	0	0	0	0	0	0	0	
1	1	0	0	0	0	5	5	100.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
109	157	105	84	73	75	1,187	1,729	68.7

(単位：bag数、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	対前年度比
11	9	3	3	5	17	109	199	54.8
68	65	34	46	19	9	502	495	101.4
79	74	37	49	24	26	611	694	88.0
0	2	0	0	0	0	2	4	
35	77	43	26	2	0	356	270	131.9
0	0	0	0	0	6	6	0	
0	0	0	0	0	2	2	2	
35	79	43	26	2	8	366	274	133.6
114	153	80	75	26	34	977	968	100.9

(単位：件)

1月	2月	3月	合計
0	0	0	1

(12) 薬 剤

① 調剤等の状況

ア 処方箋の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
外 来	枚 数	116	111	123	136	154	113	
	件 数	180	161	178	201	250	178	
	剤 数	1,037	747	1,438	773	1,485	1,342	
入 院	枚 数	1,127	1,165	1,347	1,342	1,366	1,238	
	件 数	2,586	2,483	3,060	3,022	3,057	2,942	
	剤 数	15,975	11,825	16,702	17,116	16,447	15,930	
	麻薬 (内数)	枚 数	31	43	27	29	15	23
		件 数	31	43	27	29	15	23
		剤 数	31	43	27	29	15	23
	合 計	枚 数	1,243	1,276	1,470	1,478	1,520	1,351
件 数		2,766	2,644	3,238	3,223	3,307	3,120	
剤 数		17,012	12,572	18,140	17,889	17,932	17,272	
院外処方箋	枚 数	1,135	1,056	1,193	1,191	1,172	1,154	
	発行率(%)	90.7	90.5	90.7	89.8	88.4	91.1	

イ 調剤件数内訳

区 分	錠 剤	散 剤	水 剤	外 用	注射薬	計
外 来	635	319	71	1,043	140	2,208
入 院	7,503	15,392	4,539	5,634	165	33,233
割 合(%)	23.0%	44.3%	13.0%	18.8%	0.9%	35,441

② 注射剤の状況

ア 注射箋等の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
個人セット	枚数	1,865	1,995	2,017	2,213	2,113	1,727	
	本数	21,350	19,588	18,149	18,566	17,704	15,045	
	HIS (内数)	枚数	1,698	1,810	1,832	2,029	1,945	1,551
		本数	17,207	15,464	14,555	16,149	15,517	12,493
	PICU (内数)	枚数	167	185	185	184	168	176
		本数	4,143	4,124	3,594	2,417	2,187	2,552
血液製剤 (外用剤を含む)	枚数	158	189	132	103	94	85	
	外用剤 (内数)	(本数)	4	4	3	2	5	6
麻 薬	枚数	223	234	200	182	191	182	
	本数	982	1,015	847	763	662	731	
毒 薬	枚数	117	126	112	139	130	122	
	本数	325	278	283	307	300	317	
輸液 (高カロリー)	本数	184	173	223	136	142	127	
薬品請求伝票	枚数	275	270	283	246	284	245	
	本数	3,366	2,579	2,372	2,518	2,683	2,528	
ビドマー	本数	7,466	7,403	6,844	6,462	6,592	6,267	
合 計	枚数	2,480	2,625	2,612	2,780	2,718	2,276	
	本数	33,831	31,225	28,850	28,855	28,177	25,100	

(※) IVH- 枚数 : 1 日 1 枚として集計。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
108	122	106	128	93	118	1,428
158	197	154	207	135	209	2,208
1,117	843	736	1,098	711	1,018	12,345
1,194	1,279	1,117	1,029	1,070	1,244	14,518
2,790	2,990	2,669	2,262	2,458	2,914	33,233
15,020	16,623	15,456	11,437	12,721	15,637	180,889
25	21	18	19	20	39	310
25	21	18	19	20	39	310
25	21	18	19	20	57	328
1,302	1,401	1,223	1,157	1,163	1,362	15,946
2,948	3,187	2,823	2,469	2,593	3,123	35,441
16,137	17,466	16,192	12,535	13,432	16,655	193,234
1,117	1,142	1,190	1,111	1,040	1,237	13,738
91.2	90.3	91.8	89.7	91.8	91.3	90.6

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,772	1,837	1,750	1,406	1,436	1,907	22,038
15,814	16,412	15,712	16,451	18,375	25,403	218,569
1,580	1,643	1,589	1,247	1,274	1,771	19,969
13,261	12,944	12,572	11,563	13,085	22,452	177,262
192	194	161	159	162	136	2,069
2,553	3,468	3,140	4,888	5,290	2,951	41,307
136	140	141	175	157	146	1,656
3	8	9	7	3	1	55
192	265	249	260	175	86	2,439
651	847	1,040	1,305	1,584	120	10,547
137	155	142	136	78	104	1,498
294	370	422	406	145	160	3,607
105	142	200	145	120	115	1,812
268	354	282	274	228	273	3,282
2,762	3,322	2,953	2,259	2,119	2,094	31,555
7,229	8,127	7,371	7,022	5,811	6,667	83,261
2,369	2,611	2,423	2,076	1,917	2,370	29,257
26,991	29,360	27,839	27,763	28,311	34,705	351,007

イ 抗がん薬調製数

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
抗がん薬調製数	本数	75	62	79	99	54	59

③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
薬品請求伝票	枚 数	120	135	130	101	134	128
	本 数	1,126	1,233	1,392	1,141	1,228	1,065
ビドマー支給	本 数	639	709	537	550	695	510
合 計	枚 数	120	135	130	101	134	128
	本 数	1,765	1,942	1,929	1,691	1,923	1,575

④薬剤情報件数等

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
薬剤情報提供件数		27	27	30	46	71	32
服薬指導件数(退院時)		5	7	14	7	12	8
薬剤管理指導(保険請求分)		29	33	30	28	44	38
薬剤管理指導(退院時加算分)		3	3	0	1	5	0
D I 情 報		21	19	22	10	19	6
薬剤鑑別	患者数	4	7	4	8	8	5
	延べ剤数	21	19	8	28	20	8
医薬品安全性情報報告件数		0	0	0	0	0	0

⑤製剤等の状況(種類別、製剤件数及び量)

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
散 剤	件 数	41	55	81	70	60	74
内 用 液 剤	件 数	12	8	7	7	5	11
軟 膏	件 数	2	4	3	3	2	2
坐 剤	件 数	0	0	0	1	0	1
	数量(本)	0	0	0	90	0	90
外 用 液 剤	件 数	1	1	1	0	0	2
外用液剤(無菌調製)	件 数	28	21	22	19	25	26
注射剤(無菌調製)	件 数	56	37	41	80	33	33
合 計	件 数	140	126	155	180	125	149

<主な製剤内訳>

液剤(内用)	ミダゾラムシロップ	1.3 L
	検査用トリクロールシロップ	48 本
散剤(内服)	HMS-1	568 件
	トロミ剤	121 件
軟 膏	30%カラヤ入り亜鉛華単軟膏	20.9 Kg
坐 剤	ワコビタール坐剤 10mg	360 個
無菌製剤	フラッシュ用生食(5mL)	438 本
	エタノールロック注(1mL)	210 本
	MK注腸液(2.6mL)	300 本

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
60	65	38	31	55	55	732

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
119	148	137	123	118	112	1,505
1,072	1,302	1,197	1,089	1,050	1,195	14,090
576	766	683	576	278	462	6,981
119	148	137	123	118	112	1,505
1,648	2,068	1,880	1,665	1,328	1,657	21,071

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
31	44	30	45	31	29	443
14	13	12	6	4	14	116
31	25	46	25	32	53	414
0	1	5	1	5	1	25
65	51	42	41	37	46	379
7	2	5	6	4	13	73
9	15	7	11	14	31	191
0	0	0	0	0	0	0

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
62	80	48	38	44	36	689
7	1	0	2	1	1	62
4	2	2	3	4	3	34
0	1	1	0	0	0	4
0	90	90	0	0	0	360
1	1	0	1	2	0	10
25	26	25	21	15	22	275
41	39	35	23	23	36	477
140	150	111	88	89	98	1,551

⑥薬効別薬品購入額

(単位：円・%)

薬効分類	令和2年度	3年度	構成比率
中枢神経系用薬	109,070,983	90,433,218	17.78%
末梢神経系用薬	5,211,349	3,684,781	0.72%
感覚器官用薬	2,853,773	1,732,518	0.34%
循環器官用薬	20,195,018	18,906,871	3.72%
呼吸器官用薬	5,352,518	6,227,006	1.22%
消化器官用薬	2,682,159	6,667,339	1.31%
ホルモン剤	60,299,635	48,934,504	9.62%
泌尿生殖器官及び肛門用薬	256,954	348,518	0.07%
外皮用薬	1,346,922	1,252,337	0.25%
ビタミン剤	756,708	780,394	0.15%
滋養強壯剤	10,842,984	9,866,148	1.94%
血液及び体液用剤	14,894,447	13,502,662	2.65%
その他の代謝性医薬品	67,983,271	69,473,204	13.66%
腫瘍用剤	7,833,234	25,233,935	4.96%
アレルギー用薬	360,514	463,150	0.09%
抗生物質製剤	12,387,274	9,806,552	1.93%
化学療法剤	142,543,582	117,590,140	23.12%
生物学的製剤	59,314,092	48,190,770	9.47%
調剤用薬	4,976,599	5,174,422	1.02%
診断用薬	1,564,646	1,572,494	0.31%
麻薬	2,768,923	2,290,834	0.45%
その他	6,719,948	26,576,570	5.22%
計	540,215,533	508,708,367	100.00%

(13) リハビリテーション

①診療点数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	1,260,089	365,508	26,090	1,651,687
外 来	1,045,092	656,705	458,035	2,159,832
合 計	2,305,181	1,022,213	484,125	3,811,519

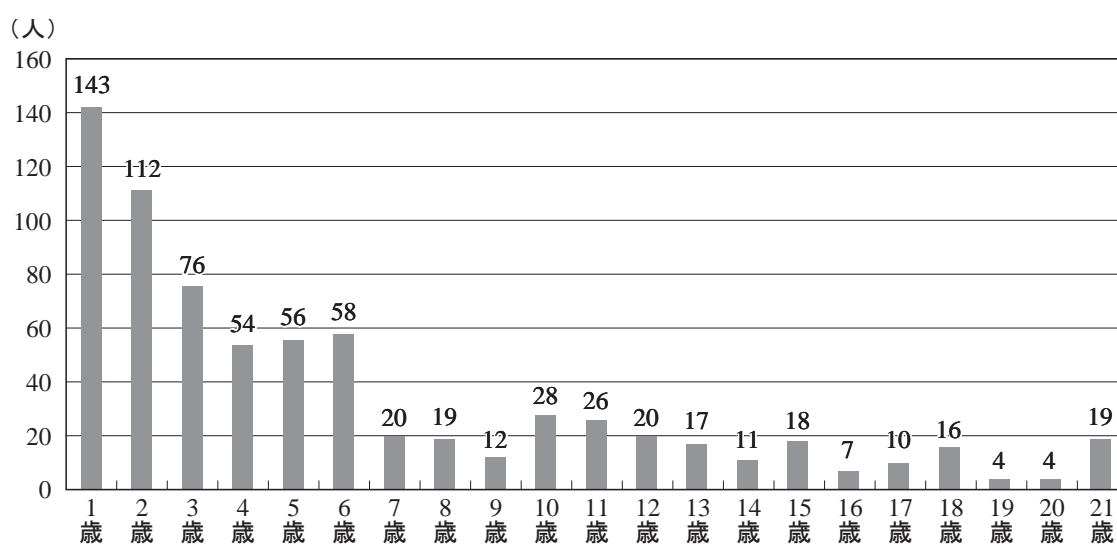
②延べ治療件数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	3,479	938	71	4,488
外 来	2,469	1,615	975	5,059
合 計	5,948	2,553	1,046	9,547

③延べ単位数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	5,360	1,676	109	7,145
外 来	4,950	3,061	2,134	10,145
合 計	10,310	4,737	2,243	17,290

④年齢別患者実数



⑤リハビリテーション算定区分別実績

理学療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	1,560	288,600	176	32,560
早期リハ加算(運動Ⅰ)	536	16,080	3	90
初期加算(運動Ⅰ)	265	11,925	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	537	93,975	25	4,375
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)	488	14,640	0	0
初期加算(呼吸Ⅰ)	390	17,550	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	1,790	366,950	12	2,460
早期リハ加算(心リⅠ)	1,084	32,520	0	0
初期加算(心大Ⅰ)	786	35,370	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	196	39,200	52	10,400
早期リハ加算(脳血Ⅱ)	48	1,440	0	0
初期加算(脳血Ⅱ)	2	90	0	0
がん患者リハビリテーション料	117	23,985	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	9	1,314	2	292
早期リハ加算(廃用リハⅡ)	9	270	0	0
初期加算(廃用リハⅡ)	9	405	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	577	129,825	2,931	659,475
障害者リハビリ(6歳～18歳)	542	105,690	1,597	311,415
障害者リハビリ(18歳以上)	32	4,960	155	24,025
退院時リハビリ指導	143件	42,900		
リハ総合計画評価(医療)	108件	32,400	0	0
合 計	5,360	1,260,089	4,950	1,045,092

作業療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	112	20,720	16	2,960
早期リハ加算(運動Ⅰ)	23	690	0	0
初期加算(運動Ⅰ)	3	135	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	81	13,770	2	340
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)	50	2,250	0	0
初期加算(呼吸Ⅰ)	31	1,395	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	1	205	4	820
早期リハ加算(心リⅠ)	0	0	0	0
初期加算(心大Ⅰ)	0	0	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	205	41,000	44	8,800
早期リハ加算(脳血Ⅱ)	79	2,370	0	0
初期加算(脳血Ⅱ)	37	1,665	0	0
がん患者リハビリテーション料	42	8,610	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	63	9,198	0	0
早期リハ加算(廃用リハⅡ)	45	1,350	0	0
初期加算(廃用リハⅡ)	24	1,080	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	931	209,475	1,996	449,100
障害者リハビリ(6歳～18歳)	146	28,470	996	194,220
障害者リハビリ(18歳以上)	95	14,725	3	465
退院時リハビリ指導	23件	6,900		
リハ総合計画評価(医療)	5件	1,500	0	0
合 計	1,676	365,508	3,061	656,705

言語療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ				
早期リハ加算(運動Ⅰ)				
初期加算(運動Ⅰ)				
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ				
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)				
初期加算(呼吸Ⅰ)				
心大血管疾患リハビリテーションⅠ				
早期リハ加算(心Ⅰ)				
初期加算(心大Ⅰ)				
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	89	17,800	73	14,600
早期リハ加算(脳血Ⅱ)	15	450	0	0
初期加算(脳血Ⅱ)	9	405	0	0
がん患者リハビリテーション料	0			
廃用症候群リハビリテーションⅡ	0			
早期リハ加算(廃用リハⅡ)				
初期加算(廃用リハⅡ)				
障害者リハビリ(6歳未満)	20	4,500	1,364	306,900
障害者リハビリ(6歳～18歳)	0	0	694	135,330
障害者リハビリ(18歳以上)	0	0	3	465
摂食機能療法(3ヶ月以内)	11件	2,035	0件	0
摂食機能療法(3ヶ月以上)	0件	0	4件	740
退院時リハビリ指導	3件	900		
リハ総合計画評価(医療)	0件	0	0	0
合 計	109	26,090	2,134	458,035

(14) 栄 養

①一般食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼児食	1	177	354	476	467	312	112	162	101	157	208	247	300	3,073
	2	470	534	580	749	530	439	365	432	430	320	196	247	5,292
学 童 食	1	277	263	276	250	194	143	301	280	198	263	423	236	3,104
	2	125	35	35	204	444	379	229	256	292	240	173	336	2,748
	3	315	314	306	309	320	210	253	236	417	198	213	269	3,360
	4	137	72	91	175	387	164	145	189	60	70	117	187	1,794
妊産婦食		969	1,017	1,100	942	1,182	1,090	1,077	1,114	669	720	1,012	1,082	11,974
全 粥 食		396	389	312	440	451	427	420	339	327	251	143	147	4,042
七 分 粥 食		8	7	3	20	6	30	19	8		4	2	6	113
五 分 粥 食		10	19	16	24	31	93	15	56	61	93	38	52	508
三 分 粥 食		3	3	9	24	16	15	10	9		6		6	101
流 動 食		35	48	43	71	64	56	44	41	47	29	51	50	579
心 カ テ 食		13	22	27	24	46	22	34	17	18	4	6	39	272
術 前 食						2								2
D A Y 食		10	6	3	5	4	7	6	6	8	8	5	7	75
歯 科 DAY 食		28	29	27	28	31	25	29	33	30	28	31	29	348
食 物 負 荷 DAY 食		7	20	20	23	23	21	26	18	17	21	20	13	229
遅 延 食		65	51	50	78	97	64	68	48	48	43	39	79	730
計		3,045	3,183	3,374	3,833	4,140	3,297	3,203	3,183	2,779	2,506	2,716	3,085	38,344

(注) 幼児食 1 (1歳～2歳)

幼児食 2 (3歳～5歳)

学童食 1 (6歳～7歳)

学童食 2 (8歳～9歳)

学童食 3 (10歳～11歳)

学童食 4 (12歳以上)

②離乳食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
離 乳 食	初 期	29	28	38	8	24	15	51	5	25	8	34	133	398
	中 期	186	201	181	192	63	119	59	48	49	62	22	47	1,229
	後 期	149	124	218	253	82	124	88	138	19	59	66	155	1,475
	完了期	211	239	200	258	410	435	460	369	171	90	189	175	3,207
計		575	592	637	711	579	693	658	560	264	219	311	510	6,309

③特別食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
腎臓食	幼児													0
	学童								6					6
	妊産婦		8											8
肝臓食	幼児													0
	学童	5	64	65	79	11	17						4	245
糖尿病食	幼児													0
	学童	52	7		56	18	11	56	1		47	112	165	525
	妊産婦	19	15	135	22	2	58	183	124	97	52	70	44	821
高脂血症食	幼児													0
	学童				9	5								14
膵炎食	幼児													0
	学童									6	4	10		20
潰瘍食	幼児													0
	学童	2			102	47			3	8			6	168
貧血食	幼児													0
	学童													0
	妊産婦			6										6
低残渣食	幼児				5		9						10	24
	学童					4		9						13
計		78	94	206	273	87	95	248	134	111	103	192	229	1,850

④調乳の種類及び人数・本数

<ミルク>

種 類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
普通ミルク	人数	578	647	544	645	631	709	695	624	519	533	672	679	7,476
	本数	3,772	4,160	3,463	3,959	4,068	4,571	4,651	4,035	3,623	3,584	4,359	4,101	48,346
L B W	人数	171	277	385	271	218	272	279	245	269	174	107	176	2,844
	本数	1,321	2,445	3,494	2,309	1,821	2,251	2,213	2,272	2,504	1,640	897	1,704	24,871
ニューMA-1	人数	36	31	26	49	49	54	61	32	37	31	28	48	482
	本数	198	155	145	308	299	342	395	156	189	193	140	322	2,842
M C T	人数	20	32	30				23	37	1	32	2		177
	本数	160	284	256				174	296	8	256	16		1,450
エレメンタル フォーミュラ	人数	29	59	60	88	71	62	86	52	16	25	12	43	603
	本数	228	304	300	516	450	316	514	216	43	75	38	188	3,188
ARミル ク	人数	12	5	37	16		23	12	25	19	59	52	31	291
	本数	48	25	248	114		180	96	179	95	402	391	248	2,026
中たんぱく低ナトリウム フォーミュラ	人数					4	11							15
	本数					32	88							120
計	人数	846	1,051	1,082	1,069	973	1,131	1,156	1,015	861	854	873	977	11,888
	本数	5,727	7,373	7,906	7,206	6,670	7,748	8,043	7,154	6,462	6,150	5,841	6,563	82,843

⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数

<濃厚流動食・成分栄養剤>

種 類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
エンシュア	人数	8	35	7	17	16	18	20	4	5	8	4	27	169
	本数	35	176	45	86	72	93	67	26	20	30	14	131	795
エンシュアH	人数	13		31	31	31	17						27	150
	本数	23		104	186	186	102						76	677
エネーボ	人数	94	87	49	51	38	87	24	51	68	34	18	36	637
	本数	305	414	194	259	154	411	80	125	262	120	72	94	2,490
ラコー ル	人数	56	57	23	35	19	35	42	50	38	83	66	82	586
	本数	253	207	82	136	86	141	144	258	189	454	369	449	2,768
ラコー ル (半固形)	人数	11	17	29	18	15	21	63	49	30	13	35	17	318
	本数	20	40	97	51	30	69	176	144	75	29	108	57	896
エレンタールP	人数	119	78	87	138	104	100	179	219	235	195	167	170	1,791
	本数	962	637	600	994	770	726	1,367	1,778	1,956	1,502	1,056	1,077	13,425
エレンタール	人数	85	65	63	58	54	47	40	65	60	37	30	21	625
	本数	290	214	213	174	142	156	111	193	178	131	90	64	1,956
イノラス	人数	43	96	130	72	82	33	36	8	47	20	29	3	599
	本数	234	423	525	312	392	80	136	20	109	51	137	14	2,433
C Z - H i	人数	60	73	89	70	70	105	143	82	31	31	28	40	822
	本数	240	278	405	300	280	370	492	336	186	186	168	225	3,466
ブイアクセル	人数	36	60	38	34	31	34	41	62	73	89	95	63	656
	本数	38	144	62	40	31	34	68	233	219	188	196	156	1,409
テゾ ン	人数	30	62	60	77	55	65	68	32	7	2	2		460
	本数	30	62	60	77	55	65	68	32	7	2	2		460
糖 水	人数	11		1	2		1				1	1	2	19
	本数	65		2	10		8				8	1	8	102
ポカリスエット	人数	31	49	41	48	19	84	141	103	90	57	47	50	760
	本数	65	108	135	135	56	160	273	172	200	117	120	135	1,676
G F O 水	人数	21	50	57	68	76	48	43	96	89	49	51	96	744
	本数	126	152	117	159	203	104	78	224	407	276	287	482	2,615
MCT オイル	人数	200	256	216	157	175	179	211	189	212	65	72	71	2,003
	本数	584	680	411	390	591	659	701	957	1,123	329	352	320	7,097
計	人数	818	985	921	876	785	874	1,051	1,010	985	684	645	705	10,395
	本数	3,270	3,535	3,052	3,309	3,048	3,178	3,761	4,498	4,931	3,423	2,972	3,288	42,265

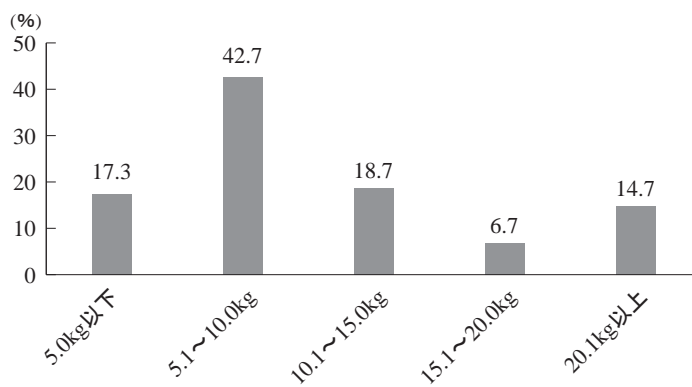
(15) 臨床工学課

①臨床業務症例数

	体外循環	心臓カテ テル検査	血液浄化 療法	補助循環	内 視 鏡 手 術	NO 吸入 療 法	ペースメーカ チェック	低 酸 素 療 法	脳 低 温 療 法	低温 療法	骨髄 濃縮
4月	3	11			10	1	5	1			1
5月	6	14			13	3	6				
6月	7	13			5	1	4				
7月	9	12			12		8	1			
8月	5	21			6	1	6		1		
9月	5	15			10		7		1		
10月	6	19			12		11	3			
11月	7	14	2		12	4	7	1			
12月	8	18	1	1	7		2	2			
1月	5	3			13	1	7				
2月	7	5			9	2	3				
3月	7	25			11	3	10	1			
合計	75	170	3	1	120	16	76	9	2		1
前年比	104%	106%	60%	33%	87%	49%	106%	225%	67%		—

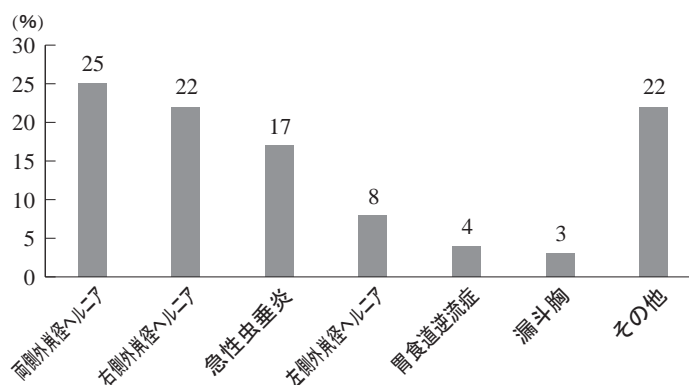
ア 体重別体外循環症例数

体 重	症例数
5.0kg 以下	13 (17.3%)
5.1～10.0kg	32 (42.7%)
10.1～15.0kg	14 (18.7%)
15.1～20.0kg	5 (6.7%)
20.1kg 以上	11 (14.7%)
計	75



イ 疾患別内視鏡手術症例数

疾患	症例数
両側単径ヘルニア	30 (25%)
右側単径ヘルニア	26 (22%)
急性虫垂炎	20 (17%)
左側単径ヘルニア	10 (8%)
胃食道逆流症	5 (4%)
漏斗胸	3 (3%)
その他	26 (22%)
計	120



②月別始業点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器													
アバンス	21	15	21	19	21	19	21	19	20	19	18	15	228
エスティバ	21	19	21	20	21	20	21	18	21	18	18	12	230
アコマ	3	1	2	1	3	3	1					2	16
ケアステーション	62	53	62	59	62	59	62	59	61	56	53	79	727
人工呼吸器													
Trilogy		3		1		1	1	3		1			10
BiPAP V60	4	1		1	1		1	1	2		1	1	13
ハミング X		3	2	3	4	3	5	6	3	5	2	5	41
Avea	2		2		1		2	2					9
Babylog VN800			1									3	4
ハミング ビュー	11	5	8	4	2	5	8	5	6	6	6	9	75
プレジジョンフロー			1										1
ベネット 980		1					2	5					8
Vivo 45						1							1
Trilogy EVO					1								1
セクリスト IV-100B		1											1
ベネット 840	1		1		2	4	6	2	1	1	1		19
ハミング V	3		1		4		2		1	2			13
サイパップ	10	8	18	7	19	13	23	10	20	10	12	16	166
ネーザルハイフロー	14	15	18	9	12	12	25	19	6	14	11	15	170
RTX レスピロレーター	2												2
シリンジポンプ	130	109	241	252	293	287	268	177	268	217	184	243	2,669
輸液ポンプ	110	89	124	143	115	131	120	125	127	70	86	129	1,369
経腸栄養注入ポンプ	3	4	1	3		4	3	4	4	2	2	3	33
開放型保育器	11	6	10	9	15	10	12	7	7	7	10	8	112
光線治療器		1	2	2	4	4	3	2	3	4		1	26
除細動器 (AED)	13	9	12	10	10	12	17	10	10	11	11	11	136
人工心肺装置	3	6	7	9	5	5	6	7	8	5	7	7	75
補助循環装置									10				10
血液浄化装置								10	6				16
低圧持続吸引器	13	9	19	16	10	12	18	28	19	18	12	20	194
体温調節装置				1	2		1						4
加温加湿器							1		1	1	1	1	5
パルスオキシメータ			1		2	2							5
搬送用モニター											1		1
合計	437	358	575	569	609	607	629	511	590	467	436	580	6,390

③月別人工呼吸器使用中点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Trilogy	77	82	99	94	86	89	89	52	42	17	17	9	753
BiPAP V60	6	8						5	5		9	2	35
ハミング X	49	28	19	18	30	22	35	37	27	29	33	24	351
Avea	28	3			4	6	6						47
BiPAP A40		1					2	6	1				10
Babylog VN800			3									21	24
ASTRAL	40	29	39	53	37	37	33	40	33	31	40	42	454
ハミング ビュー	50	30	15	17	55	47	38	46	41	43	6	19	407
プレジジョンフロー				2									2
ベネット 980		18	24	19	17	21	24	21	12	19	15	17	207
VOCSN	12	6									1		19
Vivo 45	28	26	35	25	20	32	36	40	40	45	38	49	414
Trilogy Evo	6	12	14	3	2	17	33	33	36	27	22	7	212
セクリストIV-100B	12	13	18	15	17	17	17	12					121
ベネット 840	82	81	78	65	65	73	71	85	71	88	55	44	858
ハミング V	4	2	2		1		4	5					18
インファントフローサイパップ	69	92	93	63	79	73	98	64	82	47	42	29	831
ネーザル ハイフロー	63	69	155	154	125	159	157	109	52	90	78	76	1,287
合計	526	500	594	528	538	593	643	555	442	436	356	339	6,050

④月別人工呼吸器回路交換件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Trilogy	3	2	2	2	4	1	3			1	1		19
ハミング X		1				1	1	1	1	1	1	2	9
Avea		1											1
ASTRAL	3	2	2	2	1	2	1	1	2	1	2	1	20
ハミング ビュー	2	1	1		1	1	2						8
ベネット 980			1		1		1		1		1	1	6
Vivo 45		1	2	1	1	1	2	1	1	4	2		16
Trilogy Evo		1					1		1	1			4
セクリスト IV-100B	2	1		1		1							5
ベネット 840	4	1	2	1	2	2		1	2	1			16
インファントフローサイパップ	1	1			2				2	1	1	1	9
ネーザル ハイフロー					2		2		1	1		1	7
合計	15	12	10	7	14	9	13	4	11	11	8	6	120

⑤月別定期点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器	3					2					1		6
シリンジポンプ										192	13		205
輸液ポンプ										93	9	1	103
経腸栄養注入ポンプ								6					6
人工呼吸器													
Trilogy	8	15	9	8	12		7	8	5	5	7	5	89
BiPAP V60									2				2
パーカッションベンチレータ		1						1					2
ハミング X							1		1	1			3
Avea			1	1	1								3
BiPAP A40		2	1		2	1		2	1		3	1	13
ASTRAL	3	3	5	3	3	5	2	2	4	3	2	4	39
vivo45	2	1		2	2								7
Trilogy EVO	3		3	2	2	1	3	4	10	4	6	9	47
ベネット 840	2						7						9
インファントフロー SiPAP					2	2	2	1	2	2			11
ネーザル ハイフロー	1	1	1		1	1							5
新生児用保育器				5	4	7		2	1				19
開放型保育器						4			3	4			11
搬送用保育器									3				3
除細動器	9			7		6	8	2		8			40
人工心肺装置				1									1
補助循環装置				2									2
血液浄化装置										1	1	2	4
体外式ペースメーカー								1	2	1	2		6
分娩監視装置												11	11
ハミング ピストン			1				1			1		1	4
合計	31	23	21	31	29	29	31	29	33	315	45	34	651

⑥月別院内修理件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
シリンジポンプ		1		1		2	4				1		9
輸液ポンプ			1	2	1	2	1		1	1	3	3	15
経腸栄養注入ポンプ		1											1
人工呼吸器										2			2
合計		2	1	3	1	4	5		1	3	4	3	27

(16) 母子保健室

①精密健康診査

ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況

管 轄		前 橋	高 崎	安 中	渋 川	藤 岡	富 岡	吾 妻	沼 田	伊 勢 崎	桐 生	太 田	館 林	県 外	計
受 診 者 数	R3年	4	19	0	30	0	2	8	12	11	2	1	0	1	90
	R2年	0	29	0	18	0	0	15	14	4	2	1	0	1	84

イ 科別・年齢別受診状況

科 名	受診者数	年 齢 別 受 診 者 数					R2年度 受診者数
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	
一 般 小 児 内 科	16	6	2		7	1	6
神 経 内 科	10	4	4	1	1		19
循 環 器 科	1				1		5
外 科	17	1	5	4	7		19
整 形 外 科	25	16	3	1	5		20
形 成 外 科	18	8	6		4		13
歯 科	2				1	1	0
そ の 他	1				1		2
合 計	90	35	20	6	27	2	84

ウ 3歳児健康診査・精密検診実施状況（再掲）

結果 科名	実施者数	異常なし	要観察	要治療	R2年度 実施者数
一般小児内科	6	4	2		2
神経内科	1			1	2
循環器内科	1	1			2
外科	7	3	2	2	4
形成外科	2		1	1	0
整形外科	5		4	1	3
歯科					0
その他	1		1		2
計	23	8	10	5	15

エ 1歳6か月児健康診査・精密検診実施状況（再掲）

結果 科名	実施者数	異常なし	要観察	要治療	R2年度 実施者数
一般小児科	3		2		0
神経内科	1		1		2
循環器内科					0
外科	3		1	2	2
形成外科	4	1	2	1	2
整形外科	2	1	1		5
歯科					0
計	12	2	7	3	11

オ 科別受診状況及びその結果

区分 科別疾患名	受診者数	受 診 結 果					R2 年度 受診者数
		異常なし	要観察	要治療	要訓練 (重複あり)	その他 (重複あり紹介等)	
一般小児内科総数	16						6
3歳児健診再検尿	7	5	2				2
体重増加不良・低身長	1		1				0
その他	8		7	1			4
神経内科総数	10						19
精神運動発達遅滞	8		8		4		15
その他	2		1	1	1		4
循環器内科総数	1						5
心雑音							5
その他	1		1				0
外科総数	17						19
ソケイヘルニア	3			3			2
停留・移動精巣	9	3	5	1			11
陰嚢水腫	3		1	2			2
その他	2	1		1			4
整形外科総数	25						20
先天性股関節脱臼	13	6	7				8
O脚・X脚	6	1	5				7
その他	6		4	2			5
形成外科総数	18						13
血管腫・母斑	8	1	3	4			4
蒙古斑	1					1	2
耳介異常・副耳	2			2			4
ヘルニア	2		1	1			1
その他	5		2	3			2
歯科総数	2						0
舌小帯	0						0
その他	2		2				0
その他	1						2
視力検査異常	0						2
その他	1		1				0
総 数	90	17	51	21	5	1	84

②子どものこころの発達相談

ア 来院経路及び年齢別実施状況（実人員）

経路	実施者数	年 齢 別						R2年度 実施者数
		1歳未満	1～3	4～6	7～9	10～12	13～15	
センター内	17		5	3	6	1	2	29
電話相談	3				1	2		0
その他	1				1			0
前年度からの継続	2			1	1			10
計	23		5	4	9	3		39

イ 相談件数及び相談後の対応状況

相談内容	実数（延べ数）	相談後の経過			R2年度実数 （延べ数）
		継 続	他機関紹介	終 了	
発達の問題	17(21)	2	5	10	32(65)
行動の問題	1(1)			1	4(5)
神経性習慣					2(6)
心身症	1(2)				0(0)
疾病に伴う母の心理支援				1	1(1)
その他	4(6)			4	0(0)
合 計	23(29)	2	5	16	39(77)

発達の問題：広汎性発達障害、自閉症、精神発達遅滞など
 行動の問題：多動、不登校、いじめ、社会不適応など
 心身症：心因性腹痛、頭痛、めまい、過呼吸、摂食の問題など
 その他：育児不安、養育支援、学校・家庭環境の調整等、他

③新生児・未熟児病棟および他病棟入院患児の退院連絡

ア 退院連絡後の状況

	退院連絡依頼数	返 信 数	R2年度依頼数
新生児・未熟児病棟	157	147	169
他 病 棟	39	31	35
計	196	178	204

返信数にはR2年度に依頼し、R3年度に返信が来たものも含まれる。

イ 体重別退院連絡実施状況

	退院連絡票 依頼数	体 重 別 実 施 状 況				R2年度 依頼数
		999g以下	1,000～1,499g	1,500～1,999g	2,000g以上	
新生児・未熟児病棟	157	28	16	22	91	169
他 病 棟	39	0	0	3	36	35
計	196	28	16	25	127	204

④関係機関との連携状況

①から③の事業以外の相談・問合せの数

区 分	家 族	院 内	県保 福児 関相 以外 係の	保健 福祉 事務 所	児 童 相 談 所	市 町 村	医 療 機 関	幼 学 校 ・ 稚 育 所 ・ 園	ス 訪 テ ー 問 シ 看 ヨ ン 護	施 設	そ の 他	計 内 訳 (電話/面接)
養育支援	544	328	5	4	48	428	8	11	25	31	3	1,435(781/654)
療育支援	32	18	4		4	19	1	1		16		92(51/41)
成長発達	108	28			1	58	1			10		207(89/118)
病 気												0
受診支援	3	3				2						8(5/3)
予防接種						1						1(1/0)
医療福祉	1	1										2(1/1)
保健医療		2										2(0/2)
患者家族会	4	2				1						7(1/6)
マス・ スクリーニング	8	7	2	2		11	63				12	105(95/10)
遺伝相談												0
妊娠・出産 相 談	45	27			3	45	1					121(66/55)
研修・調査												0
そ の 他	2	10		1		10					7	30(21/9)
計	747	426	9	7	56	575	74	12	25	57	22	2,010 件
電話計	70	244	7	7	39	570	70	7	25	54	18	電話：1,111
面接計	677	182	2	0	17	5	4	5	0	3	4	面接：899

⑤関係機関との連携会議

検 討 内 容	実 数	延べ数	関係機関及び()内は連携をとった延べ数	センター職員
教育機関・地 域との調整	29	34	家族(27) 市町村(17) 児童相談所(9) 学校関連(9) 訪問看護(15)	

⑥子ども虐待防止対策事業

地域医療連携室と協働して実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症蔓延のため実施していない。地域医療連携室（相談部門）のページ参照してください。

⑦心理判定・心理カウンセリング

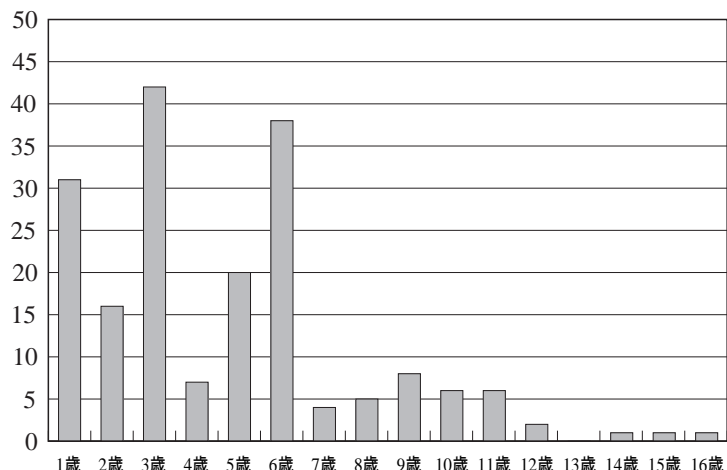
<心理判定>

ア 心理判定（実施検査数）

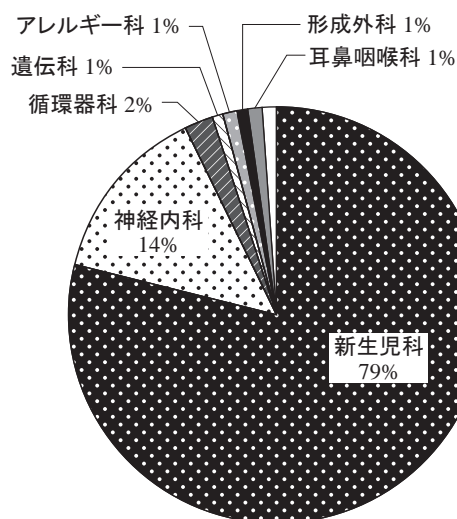
新版 K 式発達検査	104
WISC- IV 知能検査	73
M-CHAT	54
PARS-TR	11
田中ビネー知能検査 V	2
Conners3	2
ADHD-RS-IV	2
DSRS-C(抑うつ性尺度)	2
DES(解離性体験尺度)	2
Vineland-II	1
計	250

イ アの年齢別被検査者数 (n=188)

件数



ウ 依頼科 (n=188)



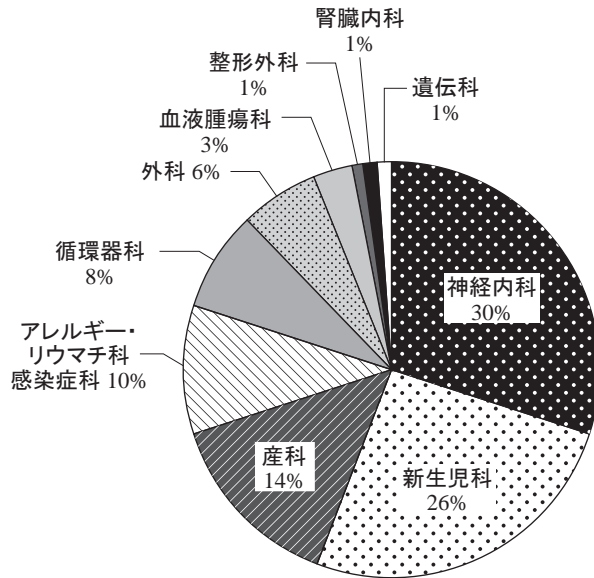
※一被検者に複数の検査を実施している場合、イならびにウでは1集計としている。

<心理カウンセリング>

ア 心理カウンセリング（実施内容及び件数）

心理カウンセリングの主訴	対象家族数	対象者数	延べ実施回数
周産期からの心理支援	14	17	48
育児に関する内容	12	21	39
心理的発達障害（自閉症を含む）	12	25	52
生理的・身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害を含む）	10	25	111
身体表現性障害（心身症を含む）	10	23	120
コンサルテーション・関係者会議	7	14	14
登校の問題	5	10	58
ストレス関連障害	4	8	29
神経症性障害	2	4	22
行動・情緒の問題（多動症を含む）	1	3	6
気分障害	1	2	17
計	78	152	516

イ 初回心理カウンセリング実施時受診科 (n=78)



<精神科コンサルト>

8回実施 (実人数 13人、延人数 25人)

⑧ 研修会等

○ 県主催の保健関係研修会 (難病関係・母子保健関係) ……企画及び運営に協力

○ 学生実習等

- ・ 群馬大学保健学科、群馬パース大学の学生等を病院実習の一環として講義を行った。
- ・ 群馬大学医学部保健学科にて専門教育科目における授業のゲスト講師を行った。

日程：令和3年12月6日

内容：地域看護学方法論 I 「医療機関における保健師活動」

- ・ その他 新規看護職員研修、看護職員キャリアアップ研修・群馬大学チームワーク実習等、講義を実施した。

○ 群馬県医療的ケア児等コーディネーター養成研修実行委員会及び研修講師

⑨ 学会・研修会参加状況

日時	学会・研修会名	開催場所等	出席者
R3.5.1	ホログラフィートークアクションからの回復	高崎市総合福祉センター	川崎心理士
R3.9.2	群馬県立小児保健会総会・研究集会	Web 開催	阿久澤 安達 生方 川崎心理士
R3.10.23~24	第17回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会	Web 開催	川崎心理士
R3.12.4~5	日本子ども虐待防止学会 第27回学術集会かながわ大会	Web 開催	阿久澤
R4.2.4	第5回新生児スクリーニング全国ネットワーク	Web 開催	阿久澤 安達
R4.3.22	第9回群馬県地域保健研究発表会	Web 開催	阿久澤 安達

⑩群馬県先天性代謝異常等検査事業

事務局として患者情報の管理（精密検査対象児及び継続治療児達のフォローアップ）、予防治療及び管理体制の検討を行い、適切な療育環境を整えることを目的に、検査基準値、検査体制、支援体制の見直しを行うために、毎年、先天性代謝異常等検診対策委員会を開催している。

令和3年度は、郵便配達縮小に伴うろ紙検体の採取日及び郵送方法について対面で協議した。

<令和3年度患者発見状況報告>

・一時検査実施実人数	12,480 人	
・再検査実施実人数	342 人	
・タンDEMマスメールカンファレンス	5 件	
・精密検査対象者実人数	35 人	
・患者確定人数	先天性甲状腺機能低下症	9 人（治療中）
	先天性副腎過形成症	2 人（治療中）
	高フェニルアラニン血症	2 人（経過観察中）
	MAT欠損症	1 人（経過観察中）

⑪親の会への支援

新型コロナウイルス感染症の流行により、本院を会場とした講演会や交流会の開催は見合わせ、オンラインによる開催や会報発行を行った。

- ・ダウン症親の会（あさがお）の運営支援 オンライン開催による講演会と交流会 2回
(R3.6.22、R3.11.15)
- ・13、18トリソミー親の会（スマイル）の運営支援 会報発行 2回
- ・口唇口蓋裂患者・家族交流会（にこちゃんカフェ）の運営 会報 1回

(17) 地域医療連携室

①医療相談件数（令和3年度）

ア 相談内容及び件数（地域医療連携室）

	第一病棟	第二病棟	第三病棟	新生児病棟	産科病棟	P I C U	外来	その他	合 計		
									総計	内 訳 面接/電話/ カンファレンス	内 訳 新規/継続
転院・退院・入所	412	65	55	690	0	12	382	58	1,674	(760/863/51)	(260/1414)
ショートケア	12	0	4	1	0	0	140	4	161	(52/103/6)	(13/148)
指導管理料関係	6	1	0	1	0	0	12	3	23	(3/20/0)	(6/17)
訪問看護	92	50	50	59	4	9	255	8	527	(83/439/5)	(50/477)
多職種連携	16	9	2	70	73	0	32	58	260	(12/33/215)	(197/63)
退院後フォロー	14	2	0	11	0	2	913	10	952	(802/145/5)	(14/938)
医療費・経済	1	1	6	9	32	6	29	1	85	(40/42/3)	(31/54)
医療給付制度	10	73	117	83	18	56	512	4	873	(415/453/5)	(340/533)
福祉サービス	91	29	67	44	1	15	598	38	883	(250/616/17)	(229/654)
心理的	1	0	0	0	0	0	0	0	1	(1/0/0)	(0/1)
新生児入院面接	1	3	20	300	3	34	9	4	374	(286/86/2)	(232/142)
その他	85	24	47	38	76	34	732	108	1,144	(231/823/90)	(204/940)
合 計	741	257	368	1,306	207	168	3,614	296	6,957	(2935/3623/399)	(1576/5381)

イ 公費負担医療費申請等事務取扱件数

区 分	件 数
未 熟 児 養 育 医 療	170
育 成 医 療	172
小児慢性特定疾病医療給付	659 (576)
指定難病医療給付	19 (13)
通院医療費公費負担制度	8 (3)
合 計	1,028 (592)

()内は継続数

ウ 身体障害者手帳

特別児童扶養手当等事務取扱件数

区 分	件 数
身体障害者手帳	※158
特別児童扶養手当	※186
障害児福祉手当	※131
その他の診断書等	1,007
合 計	1,482

※再認定を含む

②子ども虐待防止対策事業

イ 要支援事例検討会状況：通常年6回（奇数月、院内研修を含む）開催

月齢及び年齢	男		女		計	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
1ヶ月未満	0	0	0	0	0	0
1～6ヶ月	3	4	1	2	4	6
7～12ヶ月未満	1(1)	1	0	1	1(1)	2
1～2歳	4(4)	7	0	0	4(4)	7
3歳～学齢前児童	3(1)	4	2	1	5(2)	8
小学生	2	0	1(1)	1	3(1)	5
中学生	2	4	1	1	1	1
高校生・その他	0	0	0	0	0	0
計	13(6)	20	5(2)	9	18(8)	29
(令和2年度)	16(3)	33	6(3)	19	22(6)	52

() 内は前年度からの継続人数

総括編

1. 沿革

小児医療センターは、こどもたちが心身ともに健やかに生まれ、育成されることを目的として、高度専門的な総合的小児医療、保健活動を目指す施設として構想され、まず本県における小児保健医療の現状から緊急に必要な未熟児・新生児・乳児低年齢層の幼児を中心として専門的な診断治療を行うほか、母子保健活動、小児保健医療の調査研究研修を行う施設として、昭和57年4月1日に開設し、同年7月1日から全面的に診療活動を開始した。

- 昭和47年9月 建設調査検討開始
- 48年5月 群馬県小児病院調査委員会発足(会長 吉野文郁、委員17名)
- 50年1月 調査委員会「群馬県小児医療センター基本構想」を答申(規模:病床数200床程度)
- 50年6月 群馬県小児医療センター建設委員会発足(委員長 知事、委員22名)
- 52年3月 県議会「県立小児病院建設促進についての意見書」を採択
- 52年8月 小児医療センター建設促進懇談会、建設構想を作成し知事に提示
提案者: 県医師会長鶴谷孔明ほかメンバー9名
内容: 病床数60床(新生児科30、小児内科20、小児外科10)
- 53年3月 53年度当初予算7億9千万円議決(用地取得費290百万円、建設基金積立500百万円)
- 53年10月 小児医療センター建設準備室設置
- 53年12月 小児医療センター建設専門会議発足(議長 衛生環境部長、委員10名)
- 54年2月 小児医療センター建設基本方針及び基本計画決定(病床規模60床)
- 54年3月 54年度当初予算8億9千万円議決(設計委託料、基本積立等)
- 54年9月 建設基本方針及び基本計画の一部変更決定(病床規模80床)
- 54年11月 設計委託契約の締結(株式会社アルコム)
- 55年3月 55年度当初予算7億6千万円議決(本館建設費等)
- 55年10月 小児医療センター起工式
- 56年3月 56年度当初予算34億1千万円議決(建設費、医療機器購入等)
- 56年4月 小児医療センター看護要員県外研修派遣(1年間、19名)
- 57年3月 小児医療センター建設完工
- 57年3月 小児医療センターを県立病院として設置する「群馬県病院事業の設置等に関する条例」の一部改正議決
- 57年3月 医療法7条に基づく病院開設許可(80床)
- 57年4月 小児医療センター開設
- 57年5月 小児医療センター落成式
- 57年7月 診療活動を開始(川崎病患者については6月より診療開始)

◆開院後の歩み

- 昭和57年 4. 1 群馬県立小児医療センター設置、院長として神邊 譲 就任
5. 1 保険医療機関の指定(勢医 1014. 5010042)
- 〃 療養取扱機関の申出の受理(勢国医 1014. 205145)
5. 27 日本麻酔科学会麻酔指導病院認定
6. 9 結核予防法による医療機関の指定(指定番号 1572)
6. 30 母子保健法による未熟児養育医療担当機関の指定(群馬県指令保福第6号)(未熟児収容定員 20人)
7. 1 生活保護法による医療機関の指定(勢医 68号)
10. 1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される(認定期間 1982年7月1日より 1987年6月30日)
10. 12 身体障害者福祉法指定医(障第 141号) 松山四郎、小泉武宣、清水信三
12. 1 基準給食承認(食第 104号)
- 58年 1. 1 基準看護(特2類)(看護 47号)、基準寝具(寝第 127号)承認
2. 1 児童福祉法による育成医療機関(心臓血管外科)指定
5. 12 身体障害者福祉法による厚生医療担当医療機関(心臓血管外科)指定
3. 23 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令(医)第 206号)病床数及び従業員数の変更
3. 30 病院施設使用許可(医第 213号)病床増に伴うもの(98床)
5. 1 基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認(群馬県指令保第 51号)基準看護(特2類)、給食、寝具(98床)
7. 1 重症者の看護及び重症者の収容基準実施承認(群馬県指令保第 55号)看護 3床
8. 1 同 上(群馬県指令保第 62号)看護 7床、収容 2床
- 59年 3. 29 群馬県小児医療センター建設事業基金条例の廃止
4. 1 群馬大学医学部小児科学生臨床実習指定病院
4. 11 県立福祉大学校看護学科看護婦養成所の実習施設に指定
- 60年 5. 1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
- 61年 3. 1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
認定期間 1986年3月1日～1991年2月28日(認定番号 105号)
4. 1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として神邊 譲 就任
5. 1 紹介型病院承認(許可番号(紹)第 1号)
8. 1 在宅酸素療法指導管理届出の受理(保第 810号)
9. 10 昭和 61年度全国自治体病院協議会関東地方会議主催(支部長 神邊 譲)
- 62年 3. 1 児童福祉法による育成医療機関(小腸に関する医療)指定
6. 1 在宅中心静脈栄養法指導管理届出の受理(保第 659号)
- 63年 4. 1 在宅経管栄養法指導管理実施届出の受理(保第 393号)
- 〃 基準看護(外科特3類)の承認(棟看第 1号)
5. 1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
7. 1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間 1987年7月1日～1992年6月30日
8. 1 基準看護(外科特3類→特2類)の承認
- 平成元年 2. 1 臨床修練(小児疾患)指定病院(厚生省収健政第20号)(外国医師又は外国歯科医師)
3. 1 基準看護(外科特3類)の承認(棟看第 1号)
- 2年 2. 1 在宅自己導尿指導管理実施届出の受理
7. 1 紹介外来型病院の指定(厚生省収保第 1006号)
- 3年 3. 1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定

- 認定期間平成3年3月1日～平成8年2月29日(認定番号105号)
- 5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
 - 4年7.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間1993年7月1日～1998年6月30日
 - 5年4.1 2代目院長として松山四郎 就任
〃 無菌調剤処理施設基準承認(菌)第7号
 - 10.1 基準看護内科外科特3類(棟看第1号)、未熟児・新生児特2類(棟看第47号)の承認
〃 在宅人工呼吸指導管理実施届出の受理(保第1762号)
 - 6年5.1 保険医療機関指定(勢医1014)
 - 8.1 基準看護承認特3類3病棟98床(看)第1号(特3)
 - 9.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(内科、外科各2床)
 - 10.1 新看護等の基準に係る届出、一般病棟3病棟98床(看第5号(2対1A))
 - 7年7.20 身体障害者福祉法指定医(障第110号)鈴木則夫・丸山健一・重田 誠
 - 8.1 更生医療担当医療機関指定(障第111号)
 - 11.1 夜間勤務等看護に係る届出(保第1926号)(夜看I・II)
 - 8年3.1 入院時食事療養等届(特別管理・適時適温)(保第416号)
 - 4.1 3代目院長として土田嘉昭 就任
〃 新看護等(夜間勤務等看護)に係る届出(夜看)第24号(I a-3)
〃 画像診断管理の施設基準に係る届出
〃 手術前医学管理料に係る届出(手前管)第32号
 - 11.1 院内感染防止対策に係る届出(感防)第89号
 - 9年5.1 麻酔管理料に係る届出(麻管)第18号
 - 5.2 日本形成外科学会認定医制度教育関連施設として認定(登録番号97-321U)
 - 5.26 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保第45号)
病床数の変更(内科病棟40床、外科病棟28床)
 - 9.17 身体障害者福祉法指定医(障第151号)設楽利二・小林富夫
 - 12.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(重第38号)内科2床増
 - 10年4.1 無菌治療室管理の施設基準に係る届出
 - 7.1 新生児特定集中治療室管理の施設基準に係る届出(新)第3号
 - 11年3.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第230号)外来棟増築
 - 6.1 経皮的冠動脈形成術の施設基準に係る届出(経形)第26号
 - 11.1 ペースメーカー移植術の施設基準に係る届出(ペ)第47号
〃 大動脈バルーンパンピング法の施設基準に係る届出(大)第28号
 - 11.15 病院開設許可事項の一部変更許可(群馬県指令医第217号)
病棟間の病床数の変更(外科病棟28床→30床 未熟児・新生児病棟30床→28床)
〃 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)篠原 真
 - 12.1 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出(理Ⅱ)第72号
 - 12年1.1 経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準に係る届出(経ス)第25号
〃 経皮的冠動脈血栓切除術の施設基準に係る届出(経切)第24号
 - 3.1 夜間勤務等看護に係る届出(平成12年3月1日における病棟間の病床数移動による届出)(夜看)第75号
 - 4.1 検体検査管理加算(I)の施設基準に係る届出(検I)第7号
 - 5.1 保険医療機関の指定(勢医1014)
 - 11.22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)丸山憲一
 - 13年1.21 日本小児科学会認定制度施設として認定される

- 認定機関 2001 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日 (認定番号 105 号)
- 3. 23 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 145 号) 前田昇三
 - 14年 4. 1 1 歳未満の乳児に対する手術に係る届出 (乳外) 第 1 号
 - 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
 - 7. 19 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
 - 病床数の変更 (内科病棟 40 床→45 床)
 - 7. 26 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 西村秀子
 - 10. 1 医療安全管理体制及び褥瘡対策の基準に係る届出 (群社局文発第 1579 号)
 - 11. 22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-15) 平形恭子
 - 11. 27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-108 号)
 - 病棟間の病床数の変更 (内科病棟 45 床→44 床、外科病棟 27 床→28 床)
 - 15年 1. 14 開設許可事項一部変更届 (標榜科目の変更)
 - 4. 1 診療科目 (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科に循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科を加える)・病床数 (98 床→103 床) の変更
 - 8. 1 児童福祉法による育成医療機関 (中枢神経に関する医療) 指定
 - 16年 2. 26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-169 号)
 - 新病棟の建設、旧病棟の用途変更、一般病床の増加 (103 床→150 床)
 - 4. 1 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る届出 (褥) 第 20 号
 - 〃 尿道形成手術等に関する施設基準に係る届出 (2 エ) 第 17 号
 - 〃 肝切除術等に関する施設基準に係る届出 (2 カ) 第 28 号
 - 〃 食堂切除再建術等に関する施設基準に係る届出 (3 カ) 第 22 号
 - 〃 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換を含む。)に関する施設基準に係る届出 (ペース) 第 56 号
 - 〃 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術に関する施設基準に係る届出 (冠動) 第 3 号
 - 〃 1 歳未満の乳児に対する手術に関する施設基準の届出 (加乳外) 第 1 号、(乳外) 第 2 号
 - 5. 1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入 1) 第 5 号
 - 5. 27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-34 号) 本館の一部構造等変更
 - 6. 1 言語聴覚療法Ⅲの施設基準に係る届出 (言語Ⅲ) 第 2 号
 - 7. 20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 渡辺美緒
 - 8. 9 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号) 本館の一部構造等変更
 - 11. 20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-16) 村松礼子
 - 11. 1 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 (小入 2) 第 16 号
 - 12. 2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-121 号) 本館の一部構造等変更
 - 17年 3. 1 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-160 号)
 - 4. 1 4 代目院長として林 泰秀 就任
 - 〃 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 増床 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (小入 1) 第 5 号
 - 〃 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 増床 (小入 2) 第 16 号
 - 〃 夜間勤務等看護加算 1 の辞退 (夜勤看) 第 127 号
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 増床 (新) 第 3 号

- 5. 1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科の9科に、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の5科を加え14科とする)
 - // 保険医療機関指定申請 (歯科)
 - // 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出産科 (一般入院) 第 102 号
 - // 総合周産期特定集中治療室管理料施設基準に係る届出 (周) 第 2 号 (新生児特定集中治療室管理料の辞退を含む)
- 5. 2 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出 (医師・PT の変更) (理Ⅱ) 第 72 号
- 6. 1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の14科に、精神科を加え15科とする)
 - // 保険医療機関記載事項変更届 (精神科)
 - // 一般病棟 I 群入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 7. 14 褥瘡患者管理加算届出 (専任看護職員変更) (褥) 第 20 号
- 7. 27 身体障害者福祉法指定医 (群馬県指令障第 501-5 号) 鈴木尊裕、戸所誠
 - // 更生医療機関届出 (整形外科) 群馬県指令障第 501-6 号
- 8. 22 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-46 号) 外来診療室、病室名等の変更
- 10. 1 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (集) 第 13 号
- 18年 1. 1 療養環境加算の施設基準に係る届出 (療) 第 58 号
- 1. 24 無菌製剤処理加算の施設基準に係る届出クリーンベンチ増設 (菌) 第 7 号
- 2. 1 重症者療養環境特別加算に係る届出 変更 (重) 第 38 号
 - // 自立支援医療に係る指定自立支援医療機関の指定
- 3. 2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-139 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の設置)
- 3. 31 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-164 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の撤去)
- 3. 29 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-171 号)
病院施設の一部構造等変更 (言語聴覚室)
- 4. 1 補綴物維持管理料 (補維) 第 1033 号
 - // 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (4 → 6) (集) 第 13 号
 - // 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準届出 (通手) 第 54 号
 - // 小児入院医療管理料 1 の施設基準届出 (小入 1) 第 5 号
 - // 小児入院医療管理料Ⅱ (第 1 病棟・新生児未熟児病棟) の施設基準届出 (小入 2) 第 16 号
 - // 一般病棟 7 対 1 入院基本料に係る施設基準届出 (一般入院) 第 102 号
 - // 栄養管理実施加算に係る施設基準の届出 (栄養管理) 第 116 号
 - // 単純 CT 撮影及び単純 MRI の施設基準の届出 (単) 第 56 号
 - // 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (運Ⅰ) 第 59 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準の届出 (脳Ⅱ) 第 70 号
 - // 呼吸器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (呼) 第 29 号
 - // 歯科疾患総合指導料Ⅰの施設基準の届出 (歯総指) 第 614 号
- 5. 1 保険医療機関及び保険薬局の更新について (群社局文発 815 号)

- 7.20 身体障害者福祉法指定医指定願(群馬県指令障第 30057-2 号)
- 7.21 医療安全対策加算に係る施設基準の届出(医療安全)第 17 号
- 8.23 指定自立支援医療機関(精神通院医療)の指定手続き(保予第 30023-12 号)
- 9.29 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準に係る医師及び作業療法士の追加届出(運Ⅰ)第 59 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準に係る作業療法士の追加届出(脳Ⅱ)第 70 号
- 10.2 診療録管理体制加算に係る施設基準の届出(診療録)第 38 号
- 11.20 ハイリスク分娩管理加算に係る施設基準の届出(ハイ分娩)第 10 号
- 19年 2.28 指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)の指定通知について(障第 30052-13 号)
 - 4.1 病院開設届出事項一部変更届(標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科、精神科の 15 科に、整形外科を加え 16 科とする)
 - 〃 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の受理(通手)第 54 号
 - 4.9 呼吸器リハビリテーション科(Ⅰ)及び医学管理料(Ⅰ)の施設基準に係る届出(医師の変更)(呼Ⅰ)第 29 号
 - 4.17 特定疾患医療給付等に関する群馬県知事との契約書について(保予第 708-2 号)
 - 〃 保険医療機関記載事項変更の届出
 - 4.23 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保福第 551-2 号)
病院施設の一部構造等変更(言語聴覚室)
 - 4.27 障害者自立支援法第 59 条第 1 項の規定による指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)指定の変更(医師の変更)障第 30052-3 号
 - 5.31 臨床研修病院入院診療加算の届出(臨床研修)第 21 号
 - 6.19 輸血管理料Ⅰの届出(輸血Ⅰ)第 8 号
 - 7.18 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る専任看護師の変更届出(褥)第 20 号
 - 7.27 栄養管理加算の施設基準に係る管理栄養士の変更届出(栄養管理)第 116 号
 - 8.10 麻酔管理料の施設基準に係る常勤の麻酔科標榜医の変更届出(麻管)第 18 号
 - 〃 診療録管理体制加算の施設基準に係る診療記録管理者変更の届出(診療録)第 38 号
 - 〃 大動脈バルーンパンピング法(IABP)の施設基準に係る医師の変更届出(大)第 28 号
 - 〃 ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術の施設基準に係る医師の変更届(ペ)第 47 号
 - 10.31 生活保護法指定医療機関指定申請書(歯科)健福第 839-31 号
 - 11.20 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第 166-77 号)
病院施設の一部用途等変更(医薬品情報管理室)
 - 11.30 薬剤管理指導料の届出(薬)第 118 号
- 20年 1.22 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第 166-96 号)
病院施設の一部名称及び用途等変更(無菌製剤室ほか 39 室)
 - 4.1 電子化加算の施設基準に係る届出(電子化)第 1362 号
 - 〃 妊産婦緊急搬送入院加算の施設基準に係る届出(妊産婦)第 21 号
 - 〃 医療安全対策加算の施設基準に係る(医療安全)第 17 号
 - 〃 ハイリスク妊娠加算の施設基準に係る届出(ハイ妊娠)第 26 号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出(ハイ分娩)第 19 号

- 4. 1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入) 第 20 号
- 〃 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る届出 (機安 1) 第 32 号
- 〃 検体検査管理加算 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (検Ⅱ) 第 70 号
- 〃 検体検査管理加算 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (検Ⅰ) 第 7 号
- 〃 遺伝カウンセリング加算の施設基準に係る届出 (遺伝カ) 第 1 号
- 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
- 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る届出 (菌) 第 51 号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 31 号
- 〃 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 20年 5. 12 障害児 (者) リハビリテーションの施設基準に係る届出 (障) 第 7 号
- 6. 16 医療機能評価 (Ver.5.0) 認定 認定番号: 第 JC1509 (2008/6/16~2013/6/15)
- 6. 27 障害者自立支援法第 59 条第 1 号の規程による指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) の指定の変更届出 (障第 30052-4 号)
- 6. 30 一般病棟入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 〃 小児入院医療管理料 1 の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
- 〃 小児入院医療管理料 3 の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
- 7. 29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく医師の指定について (障第 30057-1 号)
- 8. 1 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 8. 15 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
病院施設の一部構造及び用途等変更 (歯科外来の拡張)
- 9. 1 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (保育士設置) (小入 3) 第 16 号
- 9. 12 診療用エックス線装置に係る届出事項の変更の届出
エックス線装置 (透視・直接撮影 (診断用)) の更新
- 10. 1 心臓 MRI 撮影加算の施設基準に係る届出 (心臓 M) 第 7 号
- 11. 26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-91 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 2、第二病棟授乳室)
- 21年 1. 1 小児食物アレルギー負荷検査の施設基準に係る届出 (小検) 第 11 号
- 〃 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
- 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
- 3. 26 指定自立支援医療機関の主として担当する医師の変更について (障第 30052-16 号)
- 4. 1 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
- 7. 29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 10. 1 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る届出 (外来環) 第 97 号
- 12. 7 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-3 号)
- 22年 4. 1 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出 (病初診) 第 14 号
- 〃 障害者歯科医療連携加算の施設基準に係る届出 (障連) 第 3 号
- 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る届出 (医管) 第 155 号
- 〃 一酸化窒素吸入療法の施設基準に係る届出 (NO) 第 3 号
- 〃 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
- 5. 1 神経学的検査の施設基準に係る届出 (神経) 第 26 号
- 6. 30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-39 号)

- 病院施設の一部構造等変更 (第三病棟)
10. 1 胎児心エコー法の施設基準に係る届出 (胎心エコー) 第 6 号
10. 20 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号)
病院施設の一部構造等変更 (新生児未熟児病棟)
11. 1 医師事務作業補助体制加算の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 27 号
11. 24 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 23年 4. 1 HPV 核酸同定検査の施設基準に係る届出 (HPV) 第 72 号
 // がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る届出 (がん疼) 第 50 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (新 1) 第 3 号
5. 23 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-17 号)
病院施設の一部構造等変更 (本館 2 階・3 階増築)
6. 1 心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
10. 13 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-79 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 3)
11. 1 冠動脈 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (冠動 C) 第 12 号
 // 感染防止対策加算の施設基準に係る届出 (感染防止) 第 14 号
12. 12 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 24年 2. 1 新生児治療回復室入院医療管理料の施設基準に係る届出 (新回復) 第 3 号
4. 1 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る届出 (C・M) 第 230 号
 // 大腸 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (大腸 C) 第 10 号
 // 心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) 初期加算の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
 // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
 // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 // 救急搬送患者地域連携紹介加算の施設基準に係る届出 (救急紹介) 第 33 号
 // 救急搬送患者地域連携受入加算の施設基準に係る届出 (救急受入) 第 57 号
 // 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
5. 1 保険医療機関の指定 (勢医 1014)
6. 1 輸血管理料Ⅰの施設基準に係る届出 (輸血Ⅰ) 第 17 号
9. 1 先進医療に係る届出 (急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微小残存病変 (MRD) 量の測定) (先-195) 第 1 号
 // データ提出加算 1 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
10. 1 登録医制度開始
 // データ提出加算 2 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
 // 先進医療に係る届出 (胸腔鏡下動脈管開存症手術) (先 166) 第 1 号
11. 1 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 66 号
11. 12 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-71 号)
病院施設の一部用途変更 (PICU 説明室等)
11. 26 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-5 号)
- 25年 1. 1 造血器腫瘍遺伝子検査の施設基準に係る届出 (血) 第 13 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 138 号

- 2.24 電子カルテ稼働開始
- 4.1 保険医療機関届出事項変更届(開設者の変更)
 - 〃 医師事務作業補助体制加算(40対1)の施設基準に係る届出(事務補助)第42号
 - 〃 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第18号
- 5.14 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出(感染防止)第15号
- 6.7 病院機能評価(Ver.6.0)認定 認定番号: 第JC1509-2号(2013/6/16~2018/6/15)
- 8.5 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について(障第501-2号)
- 9.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-49号)
 - 本館第二病棟(外科)の増改築工事に伴う病棟各施設の変更
- 10.1 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第18号
- 11.11 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について(障第501-4号)
- 11.22 診療用エックス線装置等変更届出
- 26年 1.1 麻酔管理料(II)の施設基準に係る届出(麻管II)第6号
- 2.17 第二病棟(外科)改修及び増築工事着工
- 3.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-114号)
 - 本館地下1階及び地上1階の用途変更
- 4.1 5代目院長として丸山健一 就任
 - 〃 病院開設届出事項等一部変更届(管理者の変更)
 - 〃 DPC対象病院に参加
 - 〃 医師事務作業補助体制加算1(40対1)の施設基準に係る届出(事補1)第8号
 - 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る届出(脈動開)第1号
 - 〃 輸血管理料IIの施設基準に係る届出(輸血II)第48号
 - 〃 輸血管理料Iの施設基準に係る辞退届(輸血I)第17号
- 4.28 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者変更の届出(外来環)第97号
 - 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者変更の届出(歯特連)第3号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(医管)第155号
- 5.9 医療安全対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出(医療安全1)第17号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
 - 〃 薬剤指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(薬)第118号
 - 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出(菌)第51号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
 - 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
 - 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 7.28 身体障害者福祉法第15条第1項に基づく医師の指定について(障第501-2号)
- 8.1 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
 - 〃 感染防止対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出(感染防止1)第15号
- 10.1 新生児特定集中治療管理料1の施設基準に係る届出(新1)第3号

- 10. 1 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 10. 22 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-5 号)
第二病棟 (外科) の増築部分等
- 11. 25 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
- 11. 26 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留
邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (医科) の
指定 (群医 276) (健福第 30236-15 号)
 - 〃 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留
邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (歯科) の
指定 (群歯 185) (健福第 30236-15 号)
- 11. 28 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 6 号
- 12. 10 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保
予第 30149-2 号)
- 12. 11 診療用エックス線装置等変更届出
- 12. 24 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
 - 〃 難病の患者に対する医療等に関する法律第 14 条第 1 項に規定する指定医療機関
の指定 (保予第 30327-1 号)
 - 〃 児童福祉法第 19 条の 9 第 1 項の規定に基づく指定小児慢性特定疾病医療機関 (医
科) の指定 (保予 30018-1 号)
 - 〃 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医の指定 (医
科) の指定 (保予第 300019-1 号)
- 27 年 1. 1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 6 号
- 1. 20 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心
I) 第 7 号
- 1. 23 第二病棟 (外科) 改修及び増築工事完成
- 1. 30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-117 号)
本館 1 階の用途変更
- 4. 1 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - 〃 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
- 5. 1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 7 号
- 5. 15 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
 - 〃 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (機安 1) 第 32 号
 - 〃 胎児心エコー法の施設基準に係る従事者変更の届出 (胎心エコー) 第 6 号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心
I) 第 7 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳
II) 第 138 号
 - 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第
20 号

- 5.15 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - 〃 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
 - 〃 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 7.30 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく指定医の指定 (障第 501-3 号)
- 10.9 診療用エックス線装置等変更届出
- 11.18 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-80 号)
本館外来棟の増改築工事に伴う施設の変更
- 12.4 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 7 号
- 28年 1.1 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る届出 (がんリハ) 第 33 号
 - 〃 CAD / CAM 冠の施設基準に係る届出 (歯 CAD) 第 540 号
- 1.25 診療用エックス線装置等変更届出
- 2.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 7 号
- 3.1 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
- 3.29 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医 (医科) の指定 (保予第 30334-25 号)
- 3.31 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30326-72 号)
- 4.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 8 号
- 6.2 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - 〃 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
 - 〃 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - 〃 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 7.1 遺伝学的検査の施設基準に係る届出 (遺伝検) 第 2 号
- 7.8 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - 〃 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
 - 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
 - 〃 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - 〃 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 10.1 医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1 補助体制加算) の辞退届 (事補 1) 第 8 号
 - 〃 医師事務作業補助体制加算 2 (40 対 1 補助体制加算) の施設基準に係る届出 (事補 2) 第 58 号

- 11. 4 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(集3)第13号
- 11. 7 一般病棟入院基本料(7対1)の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(一般入院)第102号
- 12. 7 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-65号)
本館外来棟増築工事
- 12. 27 病院施設使用許可(群馬県指令医保福第551-14号)
歯科レントゲン室
- 29年 3. 27 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-111号)
建物構造等の一部変更(用途変更)
- 3. 28 本館外来棟増改築工事完成
- 6. 1 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る届出(造設前)第36号
- 7. 3 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ妊娠)第26号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 医療安全対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出(医療安全I)第17号
- 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(新1)第3号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
- 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
- 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 〃 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第18号
- 〃 麻酔管理料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管II)第8号
- 〃 感染防止対策加算1の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 7. 31 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(外来環)第97号
- 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(歯特連)第3号
- 〃 歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)の施設基準に係る従事者等変更の届出(医管)第155号
- 8. 1 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(30対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
- 8. 29 胎児心エコーの施設基準に係る従事者変更の届出(胎心エコ)第6号
- 11. 15 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(新1)第3号
- 12. 25 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 30年 1. 4 診療用エックス線装置等変更届出
- 1. 10 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号

- 1.24 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳Ⅱ)第138号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
 - 〃 麻酔管理料(Ⅰ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅰ)第18号
 - 〃 麻酔管理料(Ⅱ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅱ)第8号
 - 〃 小児入院管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(小入1)第20号
 - 〃 入院時生活療養(Ⅰ)の施設基準に係る一部業務委託の導入・従事者変更の届出(食)第104号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(心Ⅰ)第7号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(脳Ⅱ)第138号
 - 〃 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(運Ⅰ)第20号
 - 〃 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(呼Ⅰ)第29号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(障)第7号
 - 〃 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(がんリハ)第33号
- 3.1 重症者等療養環境特別加算の施設基準の辞退届(重)第38号
- 3.14 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る区分変更(64列以上→16列以上64列未満)の届出(C・M)第230号
- 4.1 6代目院長として外松学 就任
 - 〃 病院開設届出事項等一部変更届(管理者の変更)
 - 〃 医療安全対策地域連携加算Ⅰの施設基準に係る届出(医療安全1)第17号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出(感染防止1)第15号
- 4.26 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者、専用施設面積、機材変更の届出(集3)第13号
 - 〃 診療録管理体制加算2の施設基準に係る従事者変更の届出(診療録)第38号
- 5.1 麻酔管理料(Ⅱ)の辞退届
 - 〃 保険医療機関の指定(関厚発)第77号
- 5.11 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(40対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
 - 〃 感染防止対策加算Ⅰの施設基準に係る従事者及び連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 5.31 麻酔管理料(Ⅰ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅰ)第80号
- 7.1 後発医薬品使用体制加算1の施設基準に係る届出(後発使1)第47号
 - 〃 乳腺炎重症化予防ケア・指導料に係る施設基準に係る届出(乳腺ケア)第14号
- 8.3 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(30対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
 - 〃 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 9.1 骨髄微小残存病変量測定の施設基準に係る届出(骨残測)第2号
 - 〃 医師事務作業補助体制加算1に係る施設基準に係る届出(事補1)第35号(加算2からの区分替え)

- 9.1 レーザー機器加算の施設基準に係る届出(手光機)第165号
- 〃 口腔粘膜措置の施設基準に係る届出(口腔粘膜)第184号
- 10.1 歯科外来診療環境体制加算2の施設基準に係る届出(外来環2)第97号
- 〃 急性期一般入院基本料1の施設基準に係る届出(一般入院)第102号
- 〃 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出(病初診)第14号
- 11.1 患者サポート体制充実加算の施設基準に係る届出(患サポ)第71号
- 〃 ヘッドアップティルト試験の施設基準に係る届出(ヘッド)第19号
- 12.5 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
- 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ妊娠)第26号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 12.28 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出(造設前)第36号
- 31年1.3 ペースメーカー及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出(ペ)第47号
- 〃 大動脈バルーンパンピング(IABP法)の施設基準に係る従事者変更の届出(大)第28号
- 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 3.11 遺伝学的検査の施設基準に係る一部検査委託機関の追加の届出(遺伝検)第2号
- 4.24 病院開設許可事項一部変更許可(2階産科病棟多目的室室名変更)
- 令和元年6.3 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
- 7.5 大動脈バルーンパンピング(IABP法)の施設基準に係る従事者変更の届出(大)第28号
- 〃 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出(造設前)第36号
- 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 〃 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出(ペ)第47号
- 〃 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出(薬)第118号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
- 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
- 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 〃 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(がんリハ)第33号
- 8.29 骨髄微小残存病変量測定 of 施設基準に係る従事者及び当該検査を委託する施設の変更の届出(骨残測)第2号
- 10.30 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る撮影機器及び安全管理責任者の変更の届出(C・M)第230号
- 〃 心臓MRI撮影加算の施設基準に係る撮影機器変更の届出(心臓M)第7号
- 12.1 後発医薬品使用体制加算1の辞退届

- 12.26 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る区分変更の届出(C・M)第230号
- 2年2.28 病院開設許可事項一部変更許可(地下1階 薬剤部事務室、医薬品情報管理室及び薬剤部倉庫 室名変更)
 - 3.11 診療用エックス線装置等変更届出
 - 4.1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として外松 学 就任
 - 〃 歯科麻酔管理料の施設基準に係る届出(歯麻管)第1号
 - 〃 小児運動器疾患指導管理料の施設基準に係る届出(小運指管)第6号
 - 〃 先天性代謝異常症検査の施設基準に係る届出(先代異)第6号
 - 〃 ウイルス・細菌核酸多項目同時検出の施設基準に係る届出(ウ細多同)第1号
 - 5.18 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
 - 〃 医療安全対策地域連携加算Iの施設基準に係る連携医療機関変更の届出(医療安全1)第17号
 - 7.31 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
- 3年1.1 入退院支援加算3の施設基準に係る届出(入退支)第105号
 - 3.1 植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)の施設基準に係る届出(除心)第3号
 - 〃 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)(両除心)第3号
 - 〃 両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)の施設基準に係る届出(両ぺ心)第1号
 - 4.1 胎児輸血術の施設基準に係る届出(胎輸)第1号
胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る辞退の届出
 - 5.6 歯科麻酔管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(歯麻管)第1号
 - 7.30 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
 - 10.1 遺伝カウンセリングの施設基準に係る届出(遺伝カ)第5号
 - 11.1 医師事務作業補助体制加算1の施設基準に係る配置基準の変更の届出
- 4年1.1 医師事務作業補助体制加算1の施設基準に係る配置基準の変更の届出(事補1)第35号 40対1→30対1
 - 2.1 医師事務作業補助体制加算1の施設基準に係る配置基準の変更の届出(事補1)第35号 30対1→40対1

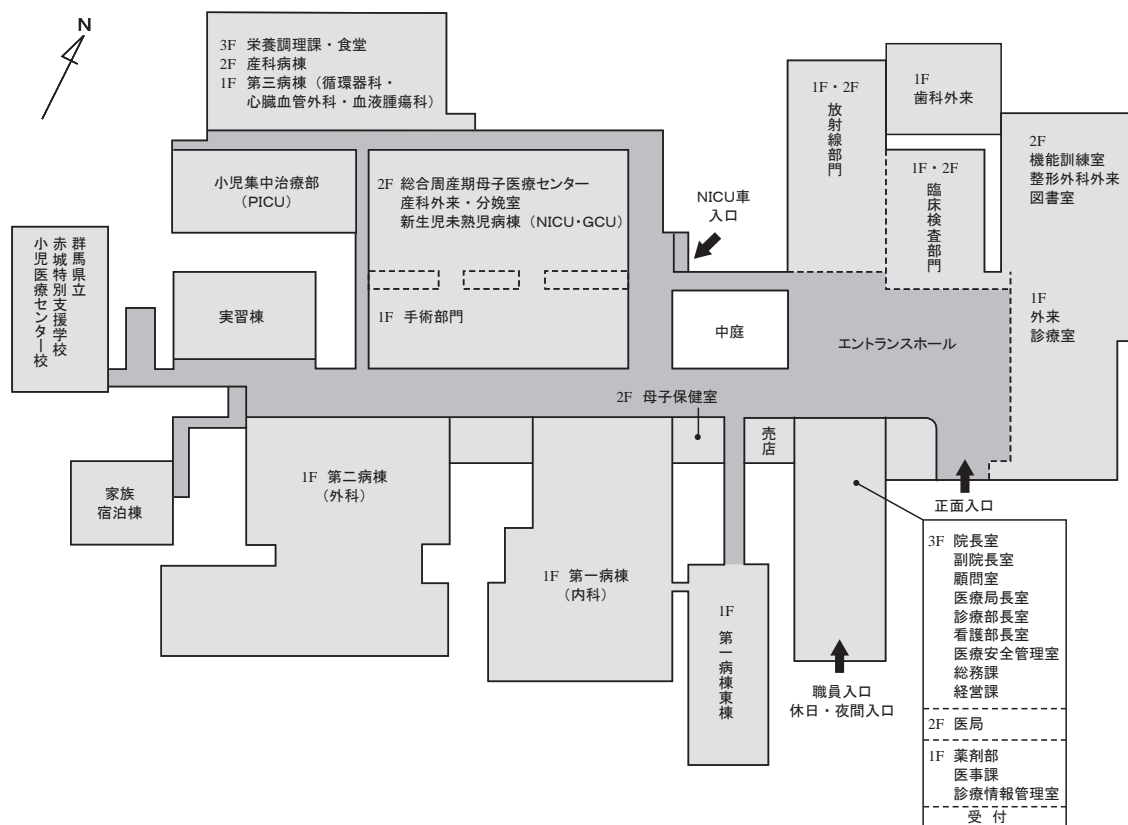
2. 施設

(1) 敷地・建物の面積

敷地		53,031.42㎡
本館	鉄筋コンクリート地下1階地上3階建	18,441.17㎡
看護師宿舎	鉄筋コンクリート地上4階建	1,170.28㎡
職員宿舎	鉄筋コンクリート地上2階建	379.61㎡
実習棟	鉄筋コンクリート地上2階建	485.00㎡
家族宿泊棟	鉄筋プレハブ平屋建	200.00㎡

(2) 病棟構成並びに建物配置図

階	病棟名	設置病床数(令和3年4月1日現在)
2階	新生児未熟児病棟	33床
2階	産科病棟	18床
1階	第一病棟	32床
1階	第二病棟	29床
1階	第三病棟	30床
1階	小児集中治療部	8床
	合計	150床



(3) 施設・設備の設置状況

(単位：千円)

区 分	事業費	年 次 別 内 訳					
		54	55	56	57	58	59
本 館	8,119,522		911,600	1,914,690		追加工事 医療ガス 配管工事等 2,857	純水製造 装置 13,525
看護師宿舎	375,519			18,653		上水槽配管 保温工事 697	
職員宿舎	120,948			73,180		273	
実 習 棟	192,044						
家族宿泊棟	43,575						
設 計	280,322	本館 64,850	本館 8,646	本館 17,354			
			宿舎 6,150				
外構工事等	627,845			494,829	追加工事 駐車場等 1,659	追加工事 植栽等 2,118	フェンス 180
敷 地	625,643	290,000		67,328		191,228	
医 療 機 器	9,912,525			502,748	760,940	2,732	18,309
備 品	399,937			27,948	31,147		
電話設置等	22,591			債権 870	ポケットベル 加入保証金 200		
				架設加入料 482			
工事事務費	5,202		1,394	3,536			
合 計	20,725,673	354,850	927,790	3,121,618	793,946	199,905	32,014

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	60	61	62	63	元	2	3
本 館	照明工事等 1,605	11,923		塩酸等貯留 槽 4,001			
看護師宿舎			クーラー 10,093				
職員宿舎			クーラー 2,883				
実 習 棟							
家族宿泊棟							
設 計		390	クーラー 700				
外構工事等	定着液保留 槽 362	駐車場舗装 等 2,331	植栽工事等 3,496	フェンス 570			
敷 地							
医 療 機 器	24,160	11,983	12,000	52,400	213,936	211,120	100,094
備 品	2,839	2,924	3,000		4,619	9,995	6,660
電話設置等							
工事事務費							
合 計	28,966	29,551	32,172	56,971	218,555	221,115	106,754

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	4	5	6	7	8	9	10
本 館	放射線棟 増築等 385,667	調理室冷房 増設等 49,247	冷凍機 更新工事等 42,035	屋上防水 工事等 12,087	冷凍機 更新工事等 75,767	中央監視 装置更新等 83,192	外来棟増設 353,619
看護師宿舎	田口住宅 124,364	改築 204,479					
職 員 宿 舎		一部改築 44,338					
実 習 棟					192,044		
家族宿泊棟							
設 計		職員宿舎等 14,420		実習棟 4,900		外来棟 15,120	
外構工事等	駐車場舗装 等 8,918	外構舗装 927		駐車場舗装 等 24,291			
敷 地	77,087						
医 療 機 器	106,149	733,654	87,173	113,753	190,495	186,144	121,241
備 品					43,394		6,369
	8,817	5,995	9,973	8,000	実習棟分 3,986	7,780	外来棟分 2,051
電話設置等	電話加入権 975	電話加入権 3,195	電話加入権 900	院内ポケベル システム更新 10,155	コードレス増設 3,018 電話加入権 450		
工事事務費	272						
合 計	712,249	1,056,255	140,081	173,186	509,154	292,236	483,280

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	11	12	13	14	15	16	17
本 館	ボイラー 純水装置 28,350	受水槽 更新工事等 20,822	R-2 冷却塔 更新工事等 14,049	内科病棟 増築工事等 24,885	新病棟建築 工事等 18,726 非常用自家 発電機整備 11,000	新病棟建築 工事等 2,417,398	
看護師宿舎							
職員宿舎							
実 習 棟							
家族宿泊棟	43,575						
設 計			内科病棟増 築 5,775	内科外科病 棟等改修 745	新病棟建築工 事実施設計 54,600		外構工事 (電気工事を 含む) 1,659
外構工事等							駐車場舗装等 55,293 駐車場電気 4,809
敷 地							
医 療 機 器	104,808	114,158	129,964	109,703	87,716	1,048,076	328,243
備 品	4,996	9,000	5,390	3,271	2,715	82,548	4,968
電話設置等					コードレス交 換機更新 2,346		
工事事務費							
合 計	181,729	143,980	155,178	138,604	177,103	3,548,022	394,972

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	18	19	20	21	22	23	24
本 館	集塵配管更新工事 5,985	PICUトランス増設工事 3,780	歯科改修工事 10,133		新生児病棟改修 150,433	管理棟増築建築工事 22,827	冷凍機更新工事 22,869
		新システムLAN配線 10,448			薬剤クリーンルーム空調 3,360	管理棟増築機械設備工事 4,641	電源設備改修・電気供給設備工事 58,992
看護師宿舎							
職員宿舎							
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計		歯科改修 735			新生児病棟改修 9,229		電気・空調設備改修 2,310
					管理棟改修 1,785		
外構工事等							
敷 地							
医 療 機 器	53,102	233,517	336,857	175,807	358,277	301,860	289,256
備 品	4,613	4,851	5,241	4,934	4,971	6,423	5,000
電話設置等							
工事事務費							
合 計	63,700	253,331	352,231	180,741	528,055	335,751	378,427

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	25	26	27	28	29	30	元
本 館	冷凍機(R-1)更新工事 50,400	外科病棟改修及び増築工事 302,357	変電設備更新工事 5,378	外来棟増築及び改修等工事 547,408	エントランスホール屋上防水改修 5,368	放射線棟ほか屋上防水改修工事 14,861	新生児未熟児棟ほか屋上防水改修工事 34,804
	外科病棟改修及び増築工事 32,000	変電設備更新工事 11,146	ピット配管等改修工事 29,117		第二病棟ピット配管工事 20,044	B棟受水槽全目地補修工事 7,560	非常用放送設備アンプ更新工事 35,167
	NICU バックアップ空調設置 12,285		第一病棟東棟空調改修工事 7,398		B棟漏電警報器設置工事 9,537	第一病棟病室ほか床張り替え工事 2,106	第1変電室制御用整流器交換工事 18,837
					中央滅菌材料室機器配線等工事 2,043		排煙用トップライト改修工事 15,785
看護師宿舎			エアコン設置工事 2,783		熱源等改修工事 14,450		
職員宿舎			エアコン設置工事 274				
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計	冷凍機(R-1)更新工事 1,029		外来棟増築及び改修等工事 34,744			設備改修工事 2,700	第1変電室トランス更新工事 3,672
	外科病棟改修及び増築工事 21,384						
外構工事等					駐車場舗装等 28,062		
敷 地							
医療機器	169,184	227,313	301,794	353,450	199,226	501,696	404,903
備 品	4,987	5,000	4,939	10,654	20,276	7,130	6,953
電話設置等							
工事事務費							
合 計	291,269	545,816	386,427	911,512	299,006	536,053	520,121

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	2	3	4	5	6	7	8
本 館	第一変電室トランス開閉器盤更新工事 3,200	第一変電室トランス開閉器更新工事(繰越分香) 209,199					
	B棟加湿器更新工事 8,250	重油タンク改修機械設備工事 11,319					
		令和3年度外壁等改修工事(繰越、前私室のみ) 11,880					
		ナースコール更新工事 21,560					
看護師宿舎							
職員宿舎							
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計	ナースコール更新工事 2,420	外科外来トイレ改修工事 1,485					
	外壁等改修工事 3,520						
外構工事等							
敷 地							
医療機器	252,986	381,598					
備 品	4,126	1,454					
電話設置等							
工事事務費							
合 計	274,502	638,495					

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(4) 付属設備

主なる付属設備一覧

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
熱源設備	ボイラー	2	炉筒煙管式ボイラー 蒸発量 3.6t/h 伝熱面積 32.9m ² 最大使用蒸気圧 1MPa 燃料 A 重油
	危険物地下タンク	1	コロッケ式 A 重油 容量 36,000L
	純水製造装置	1	MASP-100 型 処理水量 6 m ³ /h × 100 m ³ /cycle
	冷凍機	1	蒸気炊二重効用吸収式冷凍機 冷凍能力 1,407kw (400RT) 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 4,032L/min 11kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 6,670L/min 45kw
		1	チリングユニット 冷凍能力 450kw 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,290L/min 3.7kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,541L/min 11kw
	冷温水発生機	2	重油炊吸収式冷温水発生機 冷凍能力 703kw (200RT) 暖房能力 588kw 冷水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 2,016L/min 30kw 温水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 1,686L/min 30kw 冷却水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 3,340L/min 37kw
	冷却塔	4	角型開放超低騒音型 ①冷却能力 2,558kw × 1 送風機 5.5kw 口径 1,800mm × 3 ②冷却能力 537kw × 1 送風機 3.7kw 口径 1,600mm × 1 ③冷却能力 1,279kw × 2 送風機 3.7kw × 4 口径 1,600mm × 4
	冷水二次ポンプ	4	片吸込渦巻型 1,100L/min × 27m × 11kw
熱交換器	2	温水暖房系統シェルアンドチューブ型 加熱能力 128kw × 2 温水ポンプ × 2 渦巻型 500L/min 5.5kw	
空調設備	エアハンドリングユニット	19	水平型 × 11 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込 垂直型 × 8 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込
	バックアップ用エアコン	1	パッケージエアコン 冷房能力 80kw 暖房能 90kw 送風機 シロッコファン 255m ³ /min 1.5kw 押込ファン シロッコファン 255m ³ /min 3.7kw

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
空調設備	全熱交換機	1	床置型給排気ファン 5.5kw × 2
	外調機	13	別置き電気式 蒸気加湿器付き × 10 別置き電気式 蒸気加湿器なし × 4 水気化式 加湿器付き × 1
	ファンコイル	463	
	給気・排気ファン	59	片吸込多翼型 (うち 24 時間運転 16 台)
	エアコン等	143	冷房能力合計 1,461kw、暖房能力合計 1,547kw
	恒温庫ユニット	1	冷却能力 1.9kw
電気設備等	高圧受変電設備	1	本線、予備線による二系統受電 受電電圧 6.6kv 受電変圧器 × 15 4,525kVA 契約電力 1,240kW
	副高圧変電設備	2	高圧変圧器 × 5 1,750KVA + 高圧変圧器 × 2 700KVA
	非常用自家発電設備	2	水冷ディーゼルエンジン 923PS 1,500rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 750KVA ガスタービンエンジン 600PS 53,000rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 500KVA
	無停電電源装置	1	容量 100KVA × 2 3相3線式 105V-210V 鉛蓄電池 200Ah
	電気時計設備	1	パネル型水晶発信式 8 回線 子時計 30 個/1 回線
	電話交換機	1	デジタル電子交換機 最大内線 512 回線方式
	コードレス 電話交換機	1	沖デジタルコードレスシステム 120
	放送設備	1	一般放送及び非常放送 40 系統 非常電源ユニット付き
昇降設備	低速エレベーター	9	寝台用 × 4 750kg 45m/min 荷物用 × 2 750~900kg 45m/min 乗用 × 2 480~900kg 45~60m/min 乗用 850kg 45m/min
	ダムウェーター	3	B1F~2F 用 B1F~1F 用 100~400kg 15~30m/min
防災設備	スプリンクラー	1	900L/min × 65~75m × 18.5kw ヘッド × 1,920 流水作動弁 × 11
	屋内消火栓	1	750L/min × 50m × 15kw 放水口 × 17 補助散水栓 × 26 60L/min

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
防災設備	自働火災報知器	843	GR型アナログ式受信機(蓄積式、自動試験機能付)255回線 煙感知式×234熱作動式×486定温式×87
	排煙機	1	29,400 m ³ /min 120mmAg 15kw 排煙口×19
	ハロゲン化物消火設備	1	ハロゲン 1301 ポンベ×6本
	二酸化炭素消火設備	1	CO ₂ ポンベ 55kg×22本
	フード消火設備	2	栄養調理課厨房及び食堂厨房強化液 3L×各1
	火災通報装置	4	表示盤機能付 一般加入電話回線による押しボタン式
	防火水槽	1	40ton
衛生設備	上水受水槽	3	42t×2 FRP製保温型 加圧給水装置 600L/min×0.38MPa×7.5kw×2 71t×1 FRP製保温型2槽式 加圧給水装置 640L/min×0.48MPa×3.7kw×4
	井水受水槽	1	320t×1 鉄筋コンクリート製 給水ポンプ 750L/min×45m×11kw×2 加圧給水装置 1,200L/min×0.34MPa×11kw×2 925L/min×0.40MPa×3.7kw×4
	深井戸ポンプ	1	800L/min×0.83MPa×18.5kw
	貯湯槽	4	蒸気加熱式 4,000L×2 60°C 温水ボイラー加熱式 6,000L×2 60°C
	温水ボイラー	2	真空式2回路式ボイラー 465kw (暖房 150kw、給湯 315kw) 伝熱面積 9.9m ² 最高使用圧力 0.49MPa
	液酸タンク	1	4,942L 供給圧力 0.43MPa
	医療用ガスポンベ	16	笑気×4本 窒素×8本
	医療用圧空・吸引機	9	コンプレッサー 630L/min×5.5kw×3台 コンプレッサー 605L/min×5.5Kw×2台 吸引ポンプ 2,333L/min×5.5Kw×4台
	合併処理浄化槽	2	長時間ばっき+接触酸化方式 汚水量 145 m ³ /日 679人槽 流量調整担体流動浮上ろ過式 汚水量 52 m ³ /日 743人槽
	薬液処理槽	1	酸及びアルカリによる連続中和+接触ばっき方式 日平均排水量 10 m ³ /日

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
衛生設備	RI 処理槽	1	BDO 分離接触ばつき+接触ばつき方式 RI 貯留法+希釈法 排水量 20 人 A 系統 600L/日 B 系統 2,000L/日
	薬液処理槽	1	湿式 処理風量 19.9 m ³ -27KPa 30kw 乾式 処理風量 10.5 m ³ -38KPa 15kw

(5) 重要物品

主なる医療機器一覧

(購入価格 500 万円以上のもの)

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
薬局	散薬分包機(全自動)	Ai-8080(トーショー)	1	2016
検査	誘発電位筋電図検査装置	MEB-9204(日本光電)	1	2005
	全自動血液培養検査装置	VersaTREK240(コージンバイオ)	1	2011
	フローサイトメーター(自動細胞解析装置)	FACS Canto II(日本BD)	1	2012
	凍結切片作成装置	クリオスター NX70(サーモフィッシャーサイエンティフィック)	1	2012
	超音波診断装置	Vivid E9(GEヘルスケアジャパン)	1	2012
	X線照射装置	MBR-1520A-3(日立メディコ)	1	2015
	密閉式自動固定包埋装置	ティシュー・テック VIP6(サクラファインテックジャパン)	1	2015
	全自動輸血検査装置	WADiana Compact(カインス)	1	2015
	脳波計	EEG-1218(日本光電)	1	2017
	超音波診断装置	TUS-AI900(キャノンメディカルシステムズ)	1	2017
	生化学自動分析装置	JCA-ZS050(日本電子)	1	2018
	脳波計	EEG-1214(日本光電)	1	2018
	多項目自動血球分析装置	XN-1000 XN-350(シスメックス)	1	2020
	総合臨床検査システム	CLINILAN Series(エイアンドティー)	1	2020
感染管理システム	CLINILAN IC3(エイアンドティー)	1	2020	
全自動微生物検査システム 一式	Waikway DxM1040(ベックマン・コールター)	1	2021	
放射線	超音波診断装置	Aplio80(東芝)	1	2004
	CRシステム	REGIUS170(コニカミノルタ)	2	2004
	循環器画像解析装置	CCIP-310/W(カテックス)	1	2005
	循環器診断・治療システム	循環器診断システム INFX-8000V/JB 他(東芝メディカル)	1	2008
	一般撮影装置	Discovery XR650(GEヘルスケア)	1	2009
	外科用X線TV装置	OEC 9900 Elite(GEヘルスケア)	1	2009
	デジタルX線透視診断装置	CUREVISTA(日立メディコ)	1	2010
	全身用コンピュータ断層装置・PACS	SOMATOM Definition AS+(シーメンス)	1	2011
	2検出器型ガンマカメラ	Symbia Evo(シーメンス)	1	2015
	医用画像管理システム更新に伴う周辺機器	「テクマトリックス製 NOBORI サービス」導入に伴うもの	1	2017
	超伝導磁気共鳴画像診断装置(MRI)	SmartPath to dStream for 1.5T	1	2019
	動画ネットワークシステム	Kada-Serve(フォトロン)	1	2019
循環器用X線透視診断装置 一式	Alphenix INFX-8000V 一式(キャノンメディカルシステムズ)	1	2021	
栄養調理	オートクレーブ	NSS-009W(サクラ機械)	1	2004
	ユニット式調乳水製造装置	CMIFSC-501E-WA-230MC2HC1V(三田理化学工業)	1	2017
CE(集中管理)	人工呼吸器(新生児用)	ハミングV(メラン)	1	2003
	人工呼吸器(新生児用)	ハミングV(メラン)	1	2004

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
CE (集中管理)	人工呼吸器 (小児用)	ハミング V (メラン)	4	2004
	人工呼吸器 (小児用)	ハミング V (メラン)	1	2007
	酸素モニタ (非侵襲頭部)	NIRO-500 (浜松ホトニクス)	1	1997
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科)	1	1998
	血液浄化用装置	JUN-505 (ウベ循環研)	1	2003
	人工呼吸器 (小児用)	ハミング X (メラン)	3	2010
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2011
	人工呼吸器	AVEA (米国ケアフュージュン 207)	2	2012
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2014
	人工心肺装置システム	メラ人工心肺装置 HAS II (泉工医科工業)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2016
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2018
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2019
	体外循環用血液学的パラメータモニタ	CDI550 システム (テルモ)	1	2021
	汎用人工呼吸器	サーボベンチレータシステム (フクダ電子)	1	2021
外 来	超音波診断装置 (4D)	730Expert (GEBOLUSON)	1	2004
	超音波診断装置	Volson E8 (GE ヘルスケアジャパン)	1	2011
	皮膚良性血管病変治療用レーザー装置	Vbeam 一式 (キャンデラ)	1	2012
	X 線撮影装置	X-era Smart3D F+ セファロ (ヨシダ)	1	2016
	歯科用キャビネット一式	(ヨシダ)	1	2016
	耳鼻科診察台一式	永島医科製	1	2019
	簡易診察室一式	陰圧式エアータント一式 (ノルメカエイシア)	1	2020
	全身麻酔器 (歯科)	PRO-NEXT II +s (アコマ医科)	1	2020
病 棟	心電図監視システム	CNS8200 8床用 (日本光電)	1	1993
	血液成分分離装置	AS-104 (フレゼニウス)	1	1997
	エンドスコープカメラ	MC-800E (日本光電)	1	1999
	セントラルモニタ (外科)	M3150B (フィリップス)	1	2004
	EOG 殺菌乾燥薫蒸装置	EO リメーカー (日本リメイク)	1	2004
	インファントウォーマ	V-505HL (アトム)	1	2005
	生体情報管理システム	CAP2420 (日本光電)	1	2004
	超音波診断装置	Nemio (東芝)	1	2004
	患者監視用モニタ	(フィリップス)	1	2004
	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	1	2005
	生体情報管理システム ハードウェア更新	CAP2420 (日本光電)	1	2010
	赤外線酸素モニタ装置	NIRO-200NX (IMI)	1	2010
	超音波診断装置	HD11EX (フィリップス)	1	2010
	脳波計	EEG-1200 (日本光電)	1	2010
	生体情報モニタリングシステム	MP50 外 (フィリップス)	1	2011
	セントラルモニタアップグレード、テレメータ更新	PIMS (フィリップス)	1	2012
	遠心型血液成分分離装置	コムテック 9008021 (アムコ)	1	2013
	超音波診断装置	iE33 (フィリップス)	1	2013
	母体胎児集中監視システム	(アトムメディカル)	1	2014
	超音波診断装置	Voluson E10 (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	超音波診断装置	LOGIQ e Premium (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	シーリングペンダント (4 台)	TruPort5000-1465 ICU Solo (セントラルユニ)	1	2014
	患者情報管理システム	PIMS 機能改修 (フィリップス)	1	2014
	イエロー・レーザー光凝固装置	IQ577 (トーマコーポレーション)	1	2014
	NICU 車	シベリアン (ベース車、日産自動車)	1	2014
	新生児用ファイバースコープ	Mシリーズ (町田製作所)	1	2015
	分娩監視装置	FM-20 (アトムメディカル)	1	2016

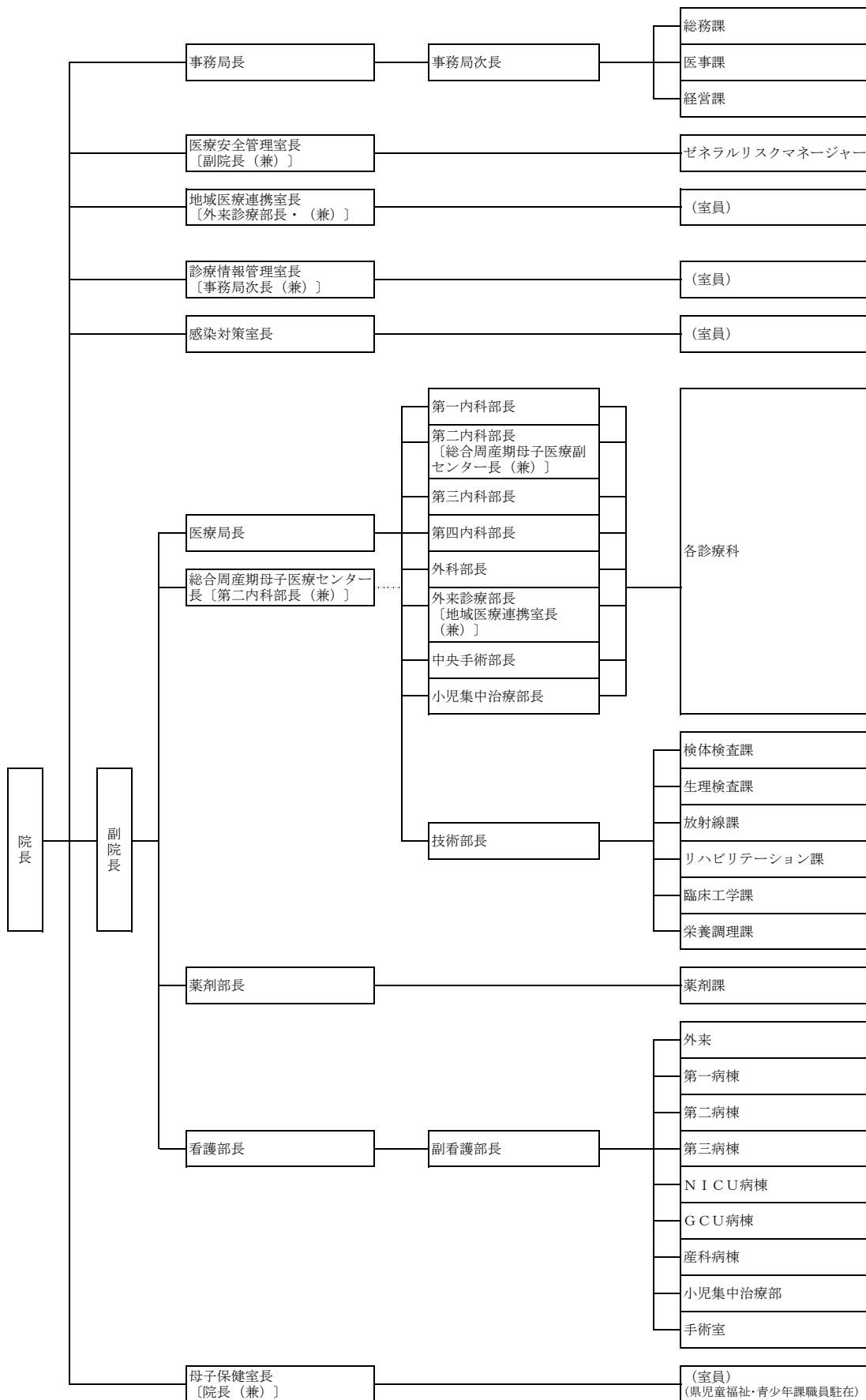
分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
病棟	超音波診断装置	Voluson P8 (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	産科病棟セントラルモニタ	PU-621R (日本光電)	1	2017
	NICU/GCU 生体情報モニタリングシステム	(フィリップス・ジャパン)	1	2017
	超音波診断装置	Voluson S8 (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	WEP-1450-Z02 外 (日本光電)	1	2020
	生体情報モニタリングシステム 一式	日本光電製	1	2021
I C U	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	4	2004
	PICU モニタリングシステム	(フィリップス)	1	2004
	血液ガス分析装置 (全自動)	スタットプロファイル CCX (ノババイオメディカル)	1	2004
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (ピューリタンベネット)	1	2009
	超音波診断装置	Vivid S6 (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	生体情報モニタリングシステム (1階)	(フィリップス・ジャパン)	1	2018
	超音波診断装置	Vivid S60N (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2020
	体外式膜型人工肺	UNIMO (泉工医科工業)	1	2020
	人工呼吸器	ベンチレータ 980 (コヴィディエンジャパン)	2	2020
	気管支ビデオシステム 一式	BF-XP290 N4506610 (オリンパス)	1	2021
手術室	全身麻酔器	エスティパ7900ST PVSPPro (GE 横川メディカルシステム)	1	2007
	超音波メス	スミソニック ME-2400 キューサー (住友ベーク)	1	1997
	腹腔鏡手術器具	OTV-SX2 外 (オリンパス)	1	1998
	手術台 (電動油圧)	小児型特注 (ミズホ)	1	2000
	無影燈	Sola700+500 (ドレーゲル)	2	2004
	関節鏡システム	A70940A 外 (オリンパス)	1	2004
	手術台 (整形外科用)	MOS-1300B (瑞穂医科)	1	2004
	気管支ファイバービデオスコープ一式	BF-XP260F (オリンパス)	1	2005
	体外循環用血液パラメータモニターシステム	CDI500 (テルモ)	1	2007
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科工業)	1	2007
	人工心肺装置データ記録システム	ORSYS (フィリップス)	1	2004
	術中経食道エコー検査装置	プロサウンド α 7 (アロカ製)	1	2008
	遠心型血液ポンプ	HAS-CFP (泉工医科工業)	1	2009
	全身麻酔装置	アバンスケアステーション (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2012
	腹腔鏡手術システム	1288-010-001 外 (日本ストライカー)	1	2014
	過酸化水素低温プラズマ滅菌器	ステラッド 100S (ジョンソン・エンド・ジョンソン)	1	2015
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2017
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2018
	サージカルナイフ	Domain (ガデリウス・メディカル)	1	2018
	電動式骨手術装置	日本ストライカー製	1	2019
	超音波診断装置	Affiniti 70G (フィリップス・ジャパン)	1	2020
腹腔鏡カメラシステム	1688AIM (日本ストライカー)	1	2020	
高周波手術装置 一式	VIO3 5 ソケットモデル 10160-000 (アムコ)	1	2021	
手術台 一式	18-600-10 MOT-VS600Dj (ミズホ)	1	2021	
中央滅菌材料室	ウォッシャーディスインフェクター	WD8668EW (GETINGE)	1	2017
	小型高圧蒸気滅菌器	HS33 (GETINGE)	1	2017
	高圧蒸気滅菌器	VSCH-G12WNR (サクラ精機)	1	2018
臨床研究室	DNA シーケンサ	ジェネティックアナライザ (アプライドバイオシステム社)	1	2005
	光分析測定装置マルチプレートリーダー	1420ARVO MX-flad (パーキンエルマー・ジャパン)	1	2005
情報システム	カルテ管理検索システム装置	システムトリーブ (イトーキ)	1	2004
	カルテ管理検索システム装置 制御機器更新	(イトーキ)	1	2012

分 類	資 産 名 称	構 造 規 格	数量	取得 年度
情報システム	総合医療情報システム(電子カルテ導入)	(富士通)	1	2012
	電子カルテデータ統合分析システム	データウェアハウス(富士通)	1	2013
	臨床検査システム	Hi-LABO-S, Hi-LABO-EM, HD-TRANS(ニューコン)	1	2014
	診断書作成支援システム	MEDI-Papyrus(ニッセイ情報テクノロジー)	1	2015
	医事会計システム	HOPE SX-R(富士通)	1	2016
	監視モニターシステム	(カリーナシステム)	1	2016
	NICU 患者情報管理システム	PIMS(フィリップスエレクトロニクスジャパン)	1	2016
	PICU 患者情報管理システム	PIMS(フィリップスエレクトロニクスジャパン)	1	2016
	放射線情報システム	Dr.View/RIS(インフォコム)	1	2016
	電子カルテシステム	HOPE EGMAIN-GX(富士通)	1	2018
	手術部門患者情報システム	Fortec ORSYS(フィリップス)	1	2018
	栄養管理システム	栄養管理システム Ver.6(SFC 新潟)	1	2019
	歯科電子カルテシステム	オプテック製	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2019
	ネットワーク機器群	Cisco 社製	1	2019

3. 組 織

(1) 機 構

(令和4年3月31日現在)



(2) 人事

① 役職者名簿

職名	R4.3.31	R3.3.31	R2.3.31	H31.3.31	H30.3.31	H29.3.31
院長	外松 学	外松 学	外松 学	外松 学	丸山 健一	丸山 健一
副院長	小林 富男	小林 富男	小林 富男	小林 富男	外松 学	外松 学
事務局長	今井 正浩	今井 正浩	今井 正浩	今井 正浩	原澤 隆	原澤 隆
事務局長次	和田 裕幸	吉澤 隆雄	吉澤 隆雄	井田 浩	井田 浩	古沢 実知也
総務課長	田村 英昭	篠澤 雅之	篠澤 雅之	篠澤 雅之	篠澤 雅之	六本木 則和
医事課長	福島 義明	岡島 正樹	岡島 正樹	猪岡 忠仁	猪岡 忠仁	能勢 光祐
経営課長	園田 宏	園田 宏	岡崎 正弘	岡崎 正弘	岡崎 正弘	関江 康宏
総合周産期母子医療センター長	丸山 憲一	丸山 憲一	(院長兼務)	(院長兼務)	高木 剛	高木 剛
医療局長	浜島 昭人	浜島 昭人	浜島 昭人	浜島 昭人	小林 富男	小林 富男
第一内科部長	椎原 隆	椎原 隆	椎原 隆	椎原 隆	椎原 隆	—
第二内科部長	(総合周産期母子医療センター長兼務)	(総合周産期母子医療センター長兼務)	丸山 憲一	丸山 憲一	丸山 憲一	丸山 憲一
総合周産期母子医療副センター長	—	—	(第二内科部長兼務)	(第二内科部長兼務)	—	—
第三内科部長	河崎 裕英	河崎 裕英	河崎 裕英	朴 明子	朴 明子	朴 明子
第四内科部長	渡辺 美緒	渡辺 美緒	渡辺 美緒	—	—	—
外科部長	—	—	富沢 仙一	富沢 仙一	富沢 仙一	富沢 仙一
産科部長	—	—	—	—	(周産期センター長兼務)	(周産期センター長兼務)
外来診療部長	野村 滋	山田 佳之	山田 佳之	山田 佳之	山田 佳之	山田 佳之
中央手術部長	浅井 伸治	(医療局長兼務)	(医療局長兼務)	(医療局長兼務)	浜島 昭人	浜島 昭人
中央診療部長	—	—	—	—	—	島山 信逸
小児集中治療部長	下山 伸哉	下山 伸哉	下山 伸哉	下山 伸哉	下山 伸哉	下山 伸哉
感染対策室長	清水 彰彦	—	—	—	—	—
部部長	西 明	西 明	西 明	西 明	宮本 隆司	宮本 隆司
部部長	木下 樹	木下 樹	木下 樹	木下 樹	西 明	椎原 隆
部部長	岡村 達	浅井 伸治	浅井 伸治	浅井 伸治	木下 樹	西 明
部部長	池田 健太郎	岡 徳彦	岡 徳彦	渡辺 美緒	浅井 伸治	木下 樹
部部長	道和 百合	池田 健太郎	池田 健太郎	岡 徳彦	渡辺 美緒	浅井 伸治
部部長	小泉 亜矢	道和 百合	道和 百合	池田 健太郎	岡 徳彦	渡辺 美緒
部部長	京谷 琢治	小泉 亜矢	小泉 亜矢	道和 百合	友保 貴博	山本 英輝
部部長	森田 孝次	京谷 琢治	松本 直樹	小泉 亜矢	京谷 琢治	大久保 淳
部部長	松本 直樹	森田 孝次	山崎 聡子	松本 直樹	池田 健太郎	友保 貴博
部部長	福田 一代	松本 直樹	市之宮 健二	山崎 聡子	道和 百合	京谷 琢治
部部長	山崎 聡子	山崎 聡子	木暮 さやか	市之宮 健二	小泉 亜矢	道和 百合
部部長	市之宮 健二	野村 滋	友保 貴博	木暮 さやか	松本 直樹	池田 健太郎
部部長	木暮 さやか	福田 一代	福田 一代	友保 貴博	井上文 孝	小泉 亜矢
部部長	廣木 茜	市之宮 健二	田中 健佑	福田 一代	山崎 聡子	松本 直樹
部部長	諏訪 裕人	木暮 さやか	廣木 茜	田中 健佑	福田 一代	井上文 孝
部部長	中島 公子	廣木 茜	高澤 慎也	廣木 茜	市之宮 健二	山内 聡子
部部長	山口 有	高澤 慎也	清水 彰彦	高澤 慎也	木暮 さやか	福田 一代
部部長	鏑木 浩太	清水 彰彦	山崎 優	清水 彰彦	高澤 慎也	—
部部長	清水 真理子	中島 公子	山口 有	山崎 優	廣木 茜	—
部部長	大和 玄季	山崎 優	野村 滋	山口 有	—	—
部部長	浅見 雄司	鏑木 浩太	佐藤 達也	—	—	—
部部長	新井 修平	山口 有	森田 孝次	—	—	—
部部長	五十嵐 昭宏	浅見 雄司	—	—	—	—
部部長	宮川 陽一	—	—	—	—	—
部部長	井上 崇道	—	—	—	—	—
医部長	大嶋 瑛	新井 修平	鏑木 浩太	佐藤 達也	佐藤 達也	市之宮 健二
医部長	鏑木 多映子	林 秀憲	新井 修平	鏑木 浩太	山崎 優	田中 健佑
医部長	内山 陽介	清水 真理子	浅見 雄司	宮川 陽一	川島 淳	木暮 さやか
医部長	清水 有紀	大和 玄季	黒岩 陽介	黒岩 陽介	浅見 雄司	廣木 茜
医部長	坂本 崇	井上 崇道	林 秀憲	清水 真理子	鏑木 浩太	高澤 慎也
医部長	松永 慶廉	大嶋 瑛	清水 真理子	大和 玄季	林 秀憲	佐藤 達也
医部長	佐々木 淑恵	鏑木 多映子	大和 玄季	新井 修平	黒岩 陽介	田口 雅基
医部長	則内 友博	清水 有紀	大嶋 瑛	松田 知子	宮川 陽一	笹原 聡豊
医部長	星野 智	坂本 崇	鏑木 多映子	林 秀憲	鎌 裕一	山崎 優
医部長	齋藤 景	—	高本 尚弘	大嶋 瑛	新井 修平	川島 淳

職名	R4.3.31	R3.3.31	R2.3.31	H31.3.31	H30.3.31	H29.3.31
医 長	千葉真子	—	清水有紀	高本尚弘	—	浅見雄司
医 長	—	—	—	楠木多映子	—	岡庭隼
医 長	—	—	—	南雲一洋	—	—
技 師	村上麻耶	飯野彩奈	飯野彩奈	飯野彩奈	大嶋瑛	宮川陽一
技 師	—	佐々木淑恵	田中亜由子	—	—	鎌裕一
技 師	—	則内友博	道崎護	—	—	新井修平
技 師	—	星野智	—	—	—	寺川勝也
技 師	—	菊地健太	—	—	—	—
技 師	—	村上麻耶	—	—	—	—
技 術 部 長	富岡千鶴子	富岡千鶴子	富岡千鶴子	竹内浩司	竹内浩司	竹内浩司
検 体 検 査 課 長	神山晴美	神山晴美	神山晴美	富岡千鶴子	富岡千鶴子	長井綾子
生 理 検 査 課 長	田中伸久	田中伸久	田中伸久	田中伸久	田中伸久	田中伸久
放 射 線 課 長	佐々木保	佐々木保	佐々木保	都丸健一	都丸健一	都丸健一
リハビリテーション課長	白田由美子	白田由美子	白田由美子	白田由美子	白田由美子	白田由美子
栄 養 調 理 課 長	島田純子	島田純子	島田純子	神保裕子	神保裕子	神保裕子
臨 床 工 学 課 長	関明彦	関明彦	関明彦	関明彦	関明彦	—
薬 剂 部 長	藤波洋征	藤波洋征	橋場尚子	橋場尚子	橋場尚子	橋場尚子
薬 剂 課 長	伊藤理恵	伊藤理恵	藤波洋征	藤波洋征	藤波洋征	藤波洋征
看 護 部 長	清水奈保	清水奈保	清水奈保	清水奈保	清水奈保	下田あい子
副 看 護 部 長	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	都丸八重子	清水奈保
G R M	大平典子	福田円	福田円	福田円	福田円	亘啓子
補 佐 (看 護 師 長)	福田円	丸山美幸	丸山美幸	丸山美幸	丸山美幸	都丸八重子
補 佐 (看 護 師 長)	—	—	—	武井貴代美	武井貴代美	丸山美幸
看 護 師 長	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	宮川祐子	武井貴代美
看 護 師 長	浅野香	浅野香	高橋敦子	高橋敦子	高橋敦子	高橋敦子
看 護 師 長	村上容子	村上容子	片貝まさみ	片貝まさみ	片貝まさみ	片貝まさみ
看 護 師 長	石坂泰子	石坂泰子	浅野香	金井みち子	金井みち子	宮川祐子
看 護 師 長	福島富美子	福島富美子	村上容子	浅野香	浅野香	金井みち子
看 護 師 長	黒田佐織	大平典子	石坂泰子	村上容子	村上容子	福田円
看 護 師 長	北爪幸子	黒田佐織	福島富美子	石坂泰子	石坂泰子	石坂泰子
看 護 師 長	齊藤織恵	北爪幸子	大平典子	福島富美子	福島富美子	福島富美子
看 護 師 長	角田愉香里	齊藤織恵	黒田佐織	大平典子	大平典子	村上容子
看 護 師 長	小林志のぶ	角田愉香里	齊藤織恵	—	—	—
母 子 保 健 課 長	阿久澤直子	高橋雪子	高橋雪子	高橋雪子	高橋雪子	増田さゆり

4. 運営

(1) 診療制度

当センターは、県内唯一の県立小児医療専門病院であるとともに総合周産期母子医療センターに認定されている。診療は、二次・三次救急を原則とし、未熟児・新生児・乳児、幼児、学童並びに胎児に異常が疑われる母胎を主な対象として、医療機関・保健福祉事務所等からの紹介予約制を基本としている。

ア 紹介予約制

患者の紹介予約は、医療機関・保健福祉事務所等から FAX 等を利用して行われる他、紹介状をもらった患者家族からの電話申込みによる。

当センターでは、紹介内容から患者の症状等を判断し、急を要する場合を除いて患者の都合のよい日時に予約日を指定する方法を採っている。なお、紹介医療機関等に対しては、診療後必ず診療結果を報告することとしている。

イ 外来診療

診療科及び診療時間は、次のとおりである。(令和4年3月1日現在)

◎内科系

- 総合内科 月～金曜(9時～17時)
- 神経内科 月～金曜(9時～17時)
- 循環器科 月・水曜(9時～15時30分)、火曜(13時～17時)、金曜(9時～15時)
- 血液腫瘍科 月～水曜(14時～17時)
- 腎臓内科 第1・3・5火曜(13時30分～16時)、第2・4木曜(13時～17時)、第2・4金曜(13時～16時)
- アレルギー・リウマチ科 月・火・木・金曜(13時～17時、14時～14時30分:初診)、
／感染症科 水曜(13時～17時、13時30分～:再診、14時～14時30分:初診)
第2・4金曜(9時～12時)

◎外科系

- 小児外科 火曜(9時～17時)、木曜(9時～12時)、金曜(13時～17時、13時～15時30分:初診)、第1・3水曜(9時～12時)
- 心臓血管外科 水・金曜(10時～17時)
- 形成外科 月・木曜(9時～17時:初診、9時～10時)
- 整形外科 月・水曜(9時～17時:午前再診、午後初診)、金曜(9時～12時)
- 脳神経外科 第2火曜(13時30分～16時)

◎総合周産期母子医療センター

- 新生児科 月・水・木・金曜(13時～17時) 第3火曜(9時～12時)
- 産科 月～金曜(9時～17時、14時～16時:初診)
- 胎児心臓外来 木曜(9時～12時)
- 胎児超音波
スクリーニング外来 月～金曜(9時～12時)
- 母乳外来 月～金曜(9時～17時)

◎特殊専門外来

○麻酔科	月曜(13時～17時)、火・木・金曜(9時～17時)
○放射線科	月曜～金曜(9時～17時)
○遺伝科	月曜(9時～12時)、金曜(9時～17時)
○歯科・障害児歯科	月曜～金曜(9時～17時)
○耳鼻咽喉科	月曜(15時～17時)、第1・3・5水曜(9時～11時)
○眼科	第2・4水曜(9時～12時)
○内分泌代謝科	水曜(14時～17時)

ウ 救急対応

当センターは、救急告示病院の指定を受けていないが、医療機関からの紹介に基づく第2次・第3次救急対策を行っている。

緊急対応としては、診療時間外における管理当直として医師1名、看護師1名があたり、さらに必要な場合は電話によるオンコールで医療従事者の確保を図り、昼夜いつでも診療が可能な体制を整えている。

また、未熟児・新生児を治療しながら搬送するNICU車(新生児救急車)は、主に産科から病棟へ直接電話の依頼により出動し、24時間体制で対応している。

平成13年度、休日及び夜間における子供の救急医療体制を整備するため、小児科医及び病床等の確保を図る小児救急支援事業がスタート、北毛地区では同年9月から、当院、利根中央病院、原町赤十字病院の3病院が交代で協力することでスタートしたが、現在は当院と利根中央病院の2病院が交代で行っている。

エ 診療録管理等

診療録は外来・入院それぞれ別冊で管理するが、登録番号はともに共通の永久番号制で、保存方法は患者番号の下2桁が同じファイルを同一グループとして順次配架するターミナル・デジット方式を採用している。

また、病院内の組織横断的な診療情報管理を担うため、平成18年度から診療情報管理室を設置するとともに、同年末に入院診療情報管理システムを導入し、診療録管理・各種診療統計業務等の効率化を図った。

オ 院内総合医療情報システム

平成19年度、総合医療情報システムの入替更新に取り組み、11月医事会計システム先行稼働、平成20年2月23日(外来診療初日は25日)にオーダーリングシステムの第1次の運用を開始した。

平成20年度は5月1日に第二稼働として、放射線、生理・病理検査オーダが稼働した。6月3日、第三次稼働として注射オーダ稼働、12月には手術予約が稼働し、当初計画したオーダーリングシステムの全てが無事稼働した。

平成22年度は、PICU棟のPIMSシステム及び産科の患者情報管理システムのシステム機器更新を実施した。

平成24年度は、平成25年2月24日、総合医療情報システム(電子カルテ)及び看護支援システムが稼働し、カルテの判読性・検索性の向上を図った。

平成25年度は、歯科電子カルテシステムの整備を行い、平成25年9月2日から運用を開始した。

平成26年度は、臨床検査システムの更新を行い、平成26年12月1日から、順次、運用を開始した。
平成28年度は、NICU及びPICUの患者情報管理システム、放射線情報システムを更新した。
平成29年度は、医用画像管理システム(PACS)の更新を行い、クラウド型システムを導入した。
平成30年度は、総合医療情報システム(電子カルテ)を更新し、手術部門患者情報システムを導入した。

令和元年度は、歯科電子カルテシステムの更新を行った。

令和2年度は、臨床検査システムを更新し、感染管理システムを導入した。

カ 院内ボランティア

複数のボランティア団体の活動により、患者や家族の快適な環境と楽しい時間を提供している。
令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、多くの活動が休止を余儀なくされている。

○「おもちゃ図書館どんぐり」(平成9年10月～)

月2回(第2・4金曜日)、エントランスホールにおいて、診察待ちの子ども達におもちゃを貸し出し遊び相手となる活動。

○「ひまわり会」(平成12年4月～)

毎週火曜日、慢性疾患児家族宿泊施設の管理として、宿泊棟の清掃やノート等を利用したの相談活動。

○小児医療センターアメニティー研究会「楓の実」(平成13年3月～)

院内チャリティバザーやクリスマス会の開催による入院患者・家族の交流活動。

○「日本クリニクラウン協会」(平成17年10月～)

月1回(第4水曜日)、長期入院患者を励ますためのクリニクラウン(臨床道化師)による病棟訪問。

○「お話し風」(平成20年10月～)

月に2日、病棟、外科外来での絵本の読み聞かせ等の活動。

○「花壇ボランティアひまわり」(平成22年4月～)

月1回程度、院内の花壇、中庭の花弁、植栽の管理。

○音楽ボランティア(平成24年1月～)

月1回(水曜午後)、音楽療法士による病棟やエントランスホール(平成25年度～)等での楽器演奏、入院患者との音楽交流。

キ 臨床研修

当院は新臨床研修制度の協力型病院として平成17年度から小児科の研修を行う初期臨床研修医を受け入れている。当院は内科系だけでも三つの病棟を擁しているため、研修方法は研修医の希望に基づいて各病棟をローテートする方法で行っている。なお、希望者には一定期間、小児外科、形成外科、整形外科、心臓血管外科、産科の研修も許可している。

令和3年度 職員のメディアへの出演実績

年 月 日	番 組 名	出 演 者 氏 名	テ ー マ
令和3年10月29日	毎日新聞	歯科部長 木下 樹	第43回母子保健奨励賞 毎日新聞社賞受賞

(2) 院内会議の状況

会議の名称	会議の目的	開催状況
管理職会議	病院の基本方針等の協議・決定	月 1 回
管理診療会議	病院管理運営事項の協議・検討、各部門業務の連絡調整	月 1 回
予算委員会	予算に関する協議・決定	随 時
医療機器等購入審査委員会	医療機器等購入の選考・審査	随 時
経営検討会議	病院経営に関する協議・決定	月 1 回
地域医療連携室運営委員会	地域の医療機関との連絡調整	随 時
在宅療養支援委員会	在宅療養に関する支援策の検討	月 1 回
臨床試験審査委員会	臨床試験の妥当性の審査	随 時
倫理委員会	医療行為に係る倫理的検討	随 時
利益相反委員会	臨床研究に係る利益相反マネジメントの審議	随 時
医療安全管理委員会	医療安全管理対策を総合的に企画、実施	月 1 回
BLS 推進委員会	BLS の推進を計画・実施	月 1 回
リスクマネジメント委員会	医療安全管理に関する小委員会	月 1 回
救急カートWG	救急カートに関する検討	随 時
診療関連死原因検討委員会	死亡原因が医療事故又は合併症のいずれかを判定	月 1 回
診療情報管理委員会	診療情報提供に関する検討	随 時
DPC コーディング委員会	適切なコーディングに関する討議	年 2 回
薬事委員会	新薬・同種同効薬品の採用・選択等の検討	月 1 回
労働安全衛生委員会	職員の労働安全衛生に関する協議・予防接種の実施	月 1 回
学術委員会	臨床研究を含めた学術活動の活性化	随 時
臨床研究室運営委員会	臨床研究室の運営・管理	随 時
自主研究事業委員会	自主研究事業の審査	随 時
海外学会等出席者選考委員会	海外学会等出席者の選考	随 時
年報編集委員会	病院年報編集の協議	随 時
図書委員会	図書の購入検討・管理	随 時
臨床検査委員会	精度管理報告、検査項目・院内検査の機器・試薬等検討	年 2 回
輸血療法委員会	輸血業務の適正化に関する検討事項、各部門の連絡調整	年 6 回
院内感染対策委員会	院内感染防止対策の協議	月 1 回
ICT	院内感染防止対策マニュアルの検討	月 1 回
総合医療情報システム委員会	総合医療情報システムの課題検討	随 時
サービス向上委員会	患者サービス向上に係る取り組みの検討	年 4 回
外来診療委員会	外来診療各科の連絡調整	随 時
総合周産期母子医療センター運営委員会	総合周産期母子医療センターの運営に関する検討	随 時
中央手術部運営委員会	施設・設備に関する事項及び診療各科との連絡調整	隔月 1 回
医局診療会議	診療各科の連絡調整	月 1 回
子ども虐待防止チーム委員会	子ども虐待の緊急対応に関する対応方針の決定	随 時
要支援事例検討等委員会	要支援事例の情報共有と具体的支援策を検討	隔月 1 回
褥瘡対策委員会	褥瘡の発症予防、処置等の対策を検討	年 4 回
栄養委員会	栄養業務の改善等の検討	年 4 回
NST	NST 実施にかかる協議・検討	随 時
診療材料検討委員会	診療材料購入等に関する検討	随 時
臨床研修委員会	研修医師の指導等に関する検討	随 時
保険診療委員会	診療報酬審査減の再審査の検討	随 時
クリニカルパス委員会	クリニカルパス導入に関する検討	随 時
ホームページ委員会	ホームページの編集	随 時
防災対策委員会	防災対策・訓練計画等の検討	年 2 回
医療機器安全管理委員会	ME 機器の維持管理、購入の検討及び操作法の教育	随 時
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全確保、良質な患者サービスの提供	年 1 回
小児集中治療部運営委員会	PICU の運営に関する方針等の協議・調整・決定	年 4 回
セキュリティ対策委員会	院内防犯体制、情報セキュリティ等の検討	随 時
ドクタークラーク委員会	医師事務作業補助者の配置・業務内容等の検討	随 時
省エネ・節電対策委員会	省エネ対策等の検討	随 時
緩和ケア委員会	緩和ケアの計画策定・教育・情報収集等の検討	年 2 回
緩和ケアWG	緩和ケアの症例検討	月 1 回
母子保健室運営委員会	母子保健室の運営に関する検討	随 時
治験管理委員会	IRB が審査する事項以外の治験の検討	随 時
臓器提供対応委員会	臓器移植提供体制の検討	随 時
うりやまだより編集委員会	うりやまだよりの編集	随 時
医療放射線管理委員会	医療放射線管理に関する検討	随 時

令和3年度のあゆみ

令和3年	4月1日	新規採用者辞令交付式
	13日	管理職会議
	28日	管理診療会議
	5月11日	管理職会議
	26日	管理診療会議
	6月8日	医療安全研修会(～8/31 DVD研修)
	15日	管理職会議
	23日	管理診療会議
	7月13日	管理職会議
	28日	管理診療会議
	30日	本監査・例月現金出納検査
	8月27日	臓器移植机上シミュレーション
	9月14日	管理職会議
	22日	管理診療会議
	10月12日	管理職会議
	7日	消防訓練(第1回)
	25日	管理診療会議
	11月9日	管理職会議
	16日	例月現金出納検査
	24日	管理診療会議
12月1日	医療安全研修会(～12/20 DVD研修)	
14日	管理職会議	
21日	監査委員会事務局事務監査	
22日	管理診療会議	
令和4年	1月11日	管理職会議
	18日	医療安全研修会(～1か月 DVD研修)
	20日	監査委員定期監査
	26日	管理診療会議(書面)
	2月8日	管理職会議(書面)
	22日	管理診療会議(書面)
	3月23日	管理診療会議
31日	退職者辞令交付・転出者発令通知伝達式	

職員名簿

令和4年4月1日現在

職名	氏名	職名	氏名
院長	外松 学	部長	西明 樹
副院長	浜島 昭	部長	木下 達
顧問	林山 健一	部長	岡村 垂
		部長	小泉 琢
		部長	京谷 治
		部長	道和 百合
		部長	森田 孝次
		部長	山崎 聡子
		部長	福田 一代
		部長	市之宮 健二
		部長	廣木 茜
		部長	諏訪 裕人
		部長	木暮 さやか
		部長	中島 公子
		部長	山口 浩太
		部長	鏑 見雄
		部長	清水 真理子
		部長	新井 修平
		部長	宮川 陽一
		部長	大嶋 瑛
		部長	清水 有紀
		部長	鏑 多映子
		技師	坂本 崇
		技師	松永 慶廉
		技師	則内 友博
		技師	佐々木 淑恵
		技師	齊藤 景
		技師	稲田 雅弘
		技師	上原理 紗
		技師	石北 悦子
		技師	村上 麻耶
		技師	小川 公代
		技師	神山 晴美
		技師	田原 貴子
		技師	松井 重憲
		技師	服部 沙耶
		技師	新井 菜津子
		技師	丸山 裕子
		技師	佐藤 敦子
		技師	松村 雅寛
		技師	諸岡 望
		技師	堀川 菜里
		技師	齋木 美穂
		技師	佐々木 保
		技師	清水 宏史
		技師	木村 壮平
		技師	茂木 彰子
		技師	吉田 有希
		技師	下田 寛貴
		技師	白田 由美子
		技師	熊丸 めぐみ
		技師	代美 穂
		技師	六本 木温子
		技師	松下 郁江
		技師	高柳 豊史
		技師	小野 寺奈央
		技師	瀬下 愛子
		技師	楠 幸代
		技師	島田 純子
		技師	瀬間 祐子
		技師	坂本 佐知代
		技師	萩原 勝代
		技師	原田 明菜
		技師	河野 美咲
		技師	砂川 恵美
		技師	関 明彦
		技師	深町 直之
		技師	下田 隼人
		技師	高橋 祐樹
		技師	藤波 洋征
		技師	佐藤 真理子
		技師	高橋 和子
		技師	高橋 大輔
		技師	高山 広志
		技師	新井 咲紀
		技師	南雲 美奈代
		技師	高木 身和
		技師	清水 奈保
		技師	都丸 八重子
		技師	浅野 香
		技師	佐藤 宏美
		技師	石川 さやか
		技師	勝山 ゆかり
		技師	塩谷 愛織
		技師	高橋 沙菜
		技師	星野 麗
		技師	長島 あゆみ
		技師	齋藤 理沙
		技師	齊藤 麻由美
		技師	新谷 夢菜
		技師	楯 聖美
		技師	伊東 修子
		技師	阿部 栞
		技師	高橋 夏姫
		技師	田中 瑞季
		技師	金子 紗也加
		技師	戸川 里紗
		技師	屋島 越子
		技師	原田 みさき
		技師	角田 沙弥佳
		技師	和田 早紀
		技師	亀井 愛理菜
		技師	石井 妃那
		技師	樺沢 瑞穂
		技師	梅田 璃子
		技師	高橋 亜優
		技師	吉野 萌花
		技師	宮川 祐子
		技師	瀬谷 由美
		技師	本間 美樹恵
		技師	高野 朝乃
		技師	松本 直子
		技師	本多 喜代美
		技師	佐川 有子

職員異動状況

転入・採用			転出・退職		
所属	氏名	年月日・区分	所属	氏名	年月日・区分
看護部	石 関 綾 大 谷 真樹子 細 野 さくら 飯 塚 卓也 水 落 宏彰 田 村 芳子	R3.4.1 転入	看護部	萩 原 利 香 狩 野 愛 美 萩 野 健 太 美 才 治 祐也	R3.4.1 転出
技術部	原 田 明 菜 木 村 壮 平		技術部	磯 田 有 香 南 雲 佐 智代 木 暮 義 法	
薬剤部	新 井 咲 紀		薬剤部	石 田 拓 也	
事務局	和 田 裕 幸 福 島 義 明 佐 藤 隆 亮		事務局	吉 澤 隆 雄 篠 澤 雅 之 岡 島 正 樹 田 口 小 百合 近 藤 愛 子	
医療局	齊 藤 景 岡 村 達 松 永 慶 五 十 嵐 昭 宮 川 陽 諏 訪 裕 内 山 陽 千 葉 真 粂 山 兼 大	R3.4.1 採用	医療局	山 田 佳 之 岡 澤 徳 彦 高 山 優 山 林 秀 憲 飯 野 彩 奈 菊 地 健 太 丸 山 美 幸 宮 崎 映 子 野 村 幸 枝 小 林 洋 子 田 子 尚 代 井 坂 保 希 兵 藤 有 希 金 子 優 子 横 山 亜 希 武 井 桃 子 竹 内 葵 香 熊 野 悠 美子	R3.3.31 退職
事務局			看護部	丸 山 美 幸 宮 崎 映 子 野 村 幸 枝 小 林 洋 子 田 子 尚 代 井 坂 保 希 兵 藤 有 希 金 子 優 子 横 山 亜 希 武 井 桃 子 竹 内 葵 香 熊 野 悠 美子	
			技術部	熊 野 悠 美子	
			医療局	星 野 智	R3.6.30 退職
			看護部	大 崎 育 子 細 野 さくら	R3.7.28 退職 R3.7.31 退職
			医療局	井 上 崇 道	R3.9.30 退職
			看護部	山 本 由 記 馬 場 南々 石 田 芽 海 生	R3.12.31 退職
			医療局	小 林 富 男 大 五 十 嵐 昭 内 山 陽 介 千 葉 真 子	R4.3.31 退職
			看護部	眞 下 茂 美 角 田 晃 子 佐 川 有 子 品 川 時 子 青 木 明 子 粂 山 由 美 大 山 朋 美 富 岡 千 鶴 田 中 伸 久 今 井 正 浩	

◇ 編集後記 ◇

令和3年度の年報をお届けします。

COVID-19の流行が始まってから丸2年が経過しました。いくつもの波を超えて、流行はやや落ち着いた印象はありますが、まだ終息したとはいえない状況が続いています。当院では、COVID-19患者の入院対応に加え、発熱外来、陽性者外来、予防接種などを行ってきました。県の警戒レベルに合わせて面会や入院を制限する時期もありました。患者家族の皆様にはご協力いただきありがとうございました。当院の取り組みについて、この年報でぜひご確認ください。

2021年9月に医療的ケア児支援法が施行されました。当院の患者様にも医療的ケアを行いながらお家で暮らしている子どもたちが多くいます。当院ではこれまでも医療的ケアだけでなく何らかの支援の必要な子どもたちとご家族への支援を行ってまいりました。今後は更に行政や地域との連携も深めながら、患者家族の皆様のニーズに合った医療と支援を提供できるよう取り組んでいければと思います。

最後になりましたが、年報作成にあたりご協力いただいた多くのスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。

年報編集委員長 渡辺 美緒

○年報編集委員

渡辺 美緒	清水 奈保	河崎 裕英	浜島 昭人
丸山 憲一	椎原 隆	池田 健太郎	下山 伸哉
浅井 伸治	野村 滋	清水 彰彦	松本 直樹
西 明	木下 樹	岡村 達	京谷 琢治
山口 有	小川 公代	神山 晴美	佐々木 保
臼田 由美子	島田 純子	佐藤 真理子	吉野 日茄乃
外松 学 (オブザーバー)		(担当事務局 総務課)	

群馬県立小児医療センター

〒377-8577 渋川市北橘町下箱田 779 番地
電 話 0279-52-3551 (代表)
0279-52-4600 (産科病棟直通)
0279-52-7171 (地域医療連携室)
0279-52-4000 (予約専用)
F A X 0279-52-2045 (事務局)
0279-52-4216 (図書室)
0279-52-3539 (検査課)
0279-52-7333 (地域医療連携室)
0279-52-4800 (栄養調理課)
0279-52-2100 (産科病棟直通)